

— 令和3年度日常生活圏域ニーズ調査 —

結果報告書

令和4年2月

逗子市

<目次>

I	調査概要	1
1	調査対象	1
2	調査方法	1
3	調査期間	1
4	調査項目	1
5	回収結果	1
II	調査結果	2
1	回答者の属性	2
1)	年齢構成	2
2)	認定・該当状況	2
3)	住宅の所有関係	2
4)	世帯構成	3
5)	世帯構成別年齢構成	3
6)	圏域	3
7)	圏域別年齢構成	4
2	生活機能	5
(1)	運動	5
(2)	閉じこもり	13
(3)	転倒	22
(4)	栄養	25
(5)	口腔	32
(6)	認知機能	40
(7)	うつ予防	53
(8)	虚弱	67
(9)	基本チェックリスト該当者	76
3	日常生活	82
(1)	手段的自立度（IADL）	82
4	社会参加	86
(1)	知的能動性	86
(2)	社会的役割	90
(3)	老研式活動能力指標総合評価	100
(4)	生きがい	103
(5)	趣味	104
5	疾病	105
(1)	病気全体	105
(2)	高血圧	106
(3)	高脂血症（脂質異常）	107

(4) 筋骨格の病気.....	108
(5) 目の病気.....	109
(6) 糖尿病.....	110
(7) 心臓病.....	111
(8) 脳卒中.....	112
(9) 通院.....	114
6 健康・生活習慣.....	116
(1) 主観的健康感.....	116
(2) 肥満度.....	119
(3) 聞こえ.....	120
(4) 飲酒.....	124
(5) 喫煙.....	126
(6) インターネットの利用.....	127
(7) 就労.....	129
7 介護の状況.....	130
(1) 介護・介助の必要性.....	130
(2) 要介護・介助の原因.....	131
(3) 介護者.....	132
(4) 介護が必要な状態になった後の暮らし.....	133
8 保健福祉サービス.....	134
(1) 運動や栄養改善への関心度.....	134
(2) 介護を必要とする状態にならないためのサービス.....	134
(3) 利用しているサービス.....	135
(4) 介護予防教室への参加意向.....	136
9 住宅・暮らし.....	137
(1) 住宅の所有関係.....	137
(2) 現在の暮らしの状況.....	138
(3) 終の住み家、エンディング.....	139
10 圏域別の概況.....	140
(1) 生活機能等リスク該当者.....	140
(2) 疾病.....	141
(3) 健康に関する事項.....	142
参考資料（調査票）.....	143

I 調査概要

1 調査対象

- ・令和3年6月1日現在、逗子市内に住所を持つ65歳以上の方です。
(要介護認定を受けている方及び施設に入所している方を除く)

2 調査方法

- ・郵送による配布・回収

3 調査期間

- ・令和3年9月1日～9月15日
(その後未回収者に対しては調査票を再送付して11月1日まで回収)

4 調査項目

- ①家族や生活状況について
- ②からだを動かすことについて
- ③食えることについて
- ④毎日の生活について
- ⑤地域での活動について
- ⑥健康について
- ⑦認知症にかかる相談窓口の把握について
- ⑧運動・栄養改善プログラムや保健福祉サービスについて

5 回収結果

	調査対象者数	有効回答数	有効回答率
全体	5,549人	4,202人	75.7%
男性	2,429人	1,831人	75.4%
女性	3,120人	2,371人	76.0%

1 回答者の属性

II 調査結果

1 回答者の属性

1) 年齢構成

上段：人数、下段：%

	前期高齢者			後期高齢者					合 計
	65～69 歳	70～74 歳	前期計	75～79 歳	80～84 歳	85～89 歳	90 歳以上	後期計	
市全体	864 20.6	1,194 28.4	2,058 49.0	644 15.3	995 23.7	395 9.4	110 2.6	2,144 51.0	4,202 100.0
男性	392 21.4	528 28.8	920 50.2	277 15.1	426 23.3	168 9.2	40 2.2	911 49.8	1,831 100.0
女性	472 19.9	666 28.1	1,138 48.0	367 15.5	569 24.0	227 9.6	70 3.0	1,233 52.0	2,371 100.0

※下段の構成比は、四捨五入の関係で合計が 100%にならない場合がある(以下同じ)。

2) 認定・該当状況

上段：人数、下段：%

	非該当	基本チェックリスト リスク該当者	要支援者	不明	合 計
市全体	2,627 62.5	1,010 24.0	398 9.5	167 4.0	4,202 100.0
男性	1,238 67.6	428 23.4	105 5.7	60 3.3	1,831 100.0
女性	1,389 58.6	582 24.5	293 12.4	107 4.5	2,371 100.0

※基本チェックリスト該当者とは、本調査での基本チェックリスト判定項目(「生活機能」「運動」「閉じこもり」「栄養」「口腔」「認知機能」「うつ予防」)のうち、1項目以上に該当する者

3) 住宅の所有関係

上段：人数、下段：%

	持家 (一戸建て)	持家 (集合住宅)	公営賃貸 住宅	民間 賃貸住宅 (一戸建て)	民間 賃貸住宅 (集合住宅)	借家	その他	無回答	合 計
市全体	3,112 74.1	579 13.8	101 2.4	40 1.0	178 4.2	59 1.4	47 1.1	86 2.0	4,202 100.0
男性	1,362 74.4	254 13.9	38 2.1	17 0.9	81 4.4	19 1.0	17 0.9	43 2.3	1,831 100.0
女性	1,750 73.8	325 13.7	63 2.7	23 1.0	97 4.1	40 1.7	30 1.3	43 1.8	2,371 100.0

1 回答者の属性

4) 世帯構成

上段：人数、下段：%

	1人暮らし	夫婦2人暮らし (配偶者 65 歳 以上)	夫婦2人暮らし (配偶者 64 歳 以下)	息子・娘との2 世帯	その他	無回答	合 計
市全体	808 19.2	1,811 43.1	154 3.7	734 17.5	594 14.1	101 2.4	4,202 100.0
男性	238 13.0	913 49.9	125 6.8	275 15.0	236 12.9	44 2.4	1,831 100.0
女性	570 24.0	898 37.9	29 1.2	459 19.4	358 15.1	57 2.4	2,371 100.0

5) 世帯構成別年齢構成

上段：人数、下段：%

	前期高齢者			後期高齢者					合 計
	65～69 歳	70～74 歳	前期計	75～79 歳	80～84 歳	85～89 歳	90 歳以上	後期計	
市全体	864 20.6	1,194 28.4	2,058 49.0	644 15.3	995 23.7	395 9.4	110 2.6	2,144 51.0	4,202 100.0
1人暮らし	142 16.4	183 15.3	325 40.2	108 16.8	245 24.6	96 24.3	34 30.9	483 59.8	808 100.0
夫婦2人暮らし (配偶者 65 歳 以上)	326 37.7	590 49.4	916 50.6	324 50.3	420 42.2	129 32.7	22 20.0	895 49.4	1,811 100.0
夫婦2人暮らし (配偶者 64 歳 以下)	96 11.1	42 3.5	138 89.6	7 1.1	7 0.7	2 0.5	0 0.0	16 10.4	154 100.0
息子・娘との 2世帯	120 13.9	188 15.7	308 42.0	110 17.1	180 18.1	102 25.8	34 30.9	426 58.0	734 100.0
その他	170 19.7	175 14.7	345 58.1	76 11.8	115 11.6	45 11.4	13 11.8	249 41.9	594 100.0
無回答	10 1.2	16 1.3	26 25.7	19 3.0	28 2.8	21 5.3	7 6.4	75 74.3	101 100.0

6) 圏域

上段：人数、下段：%

	東部	中部	西部	合 計
市全体	1,511 36.0	1,307 31.1	1,384 32.9	4,202 100.0
男性	676 36.9	531 29.0	624 34.1	1,831 100.0
女性	835 35.2	776 32.7	760 32.1	2,371 100.0

- 東部・・・桜山3・4・5丁目(35～37番、葉桜団地を除く)、沼間、池子
- 中部・・・逗子、桜山1・2・5丁目(35～37番、葉桜団地のみ)・6～9丁目、山の根、新宿1～3・4丁目1～5番(2番 29～59号を除く)・6番 38～42号・5丁目
- 西部・・・久木、小坪、新宿4丁目2番 29～59号・6～16番(6番 38～42号除く)

1 回答者の属性

7) 圏域別年齢構成

上段：人数、下段：%

	前期高齢者			後期高齢者					合 計
	65～69 歳	70～74 歳	前期計	75～79 歳	80～84 歳	85～89 歳	90 歳以上	後期計	
市全体	864 20.6	1,194 28.4	2,058 49.0	644 15.3	995 23.7	395 9.4	110 2.6	2,144 51.0	4,202 100.0
東部	323 37.4	462 38.7	785 52.0	228 35.4	339 34.1	126 31.9	33 30.0	726 48.0	1,511 100.0
西部	267 30.9	365 30.6	632 48.4	203 31.5	315 31.7	126 31.9	31 28.2	675 51.6	1,307 100.0
中部	274 31.7	367 30.7	641 46.3	213 33.1	341 34.3	143 36.2	46 41.8	743 53.7	1,384 100.0

2 生活機能

(1) 運動

ア 設問と評価

介護予防・日常生活支援総合事業の対象者選定のための国の基本チェックリスト（以下「基本チェックリスト」と表記）では、下の5つの設問に対する回答から、高齢者の運動機能に関してリスク判定をしています。

具体的には、設問5問中3問以上に該当した場合に運動器の機能低下と判定されます。

図表 運動器に関する設問（基本チェックリスト）

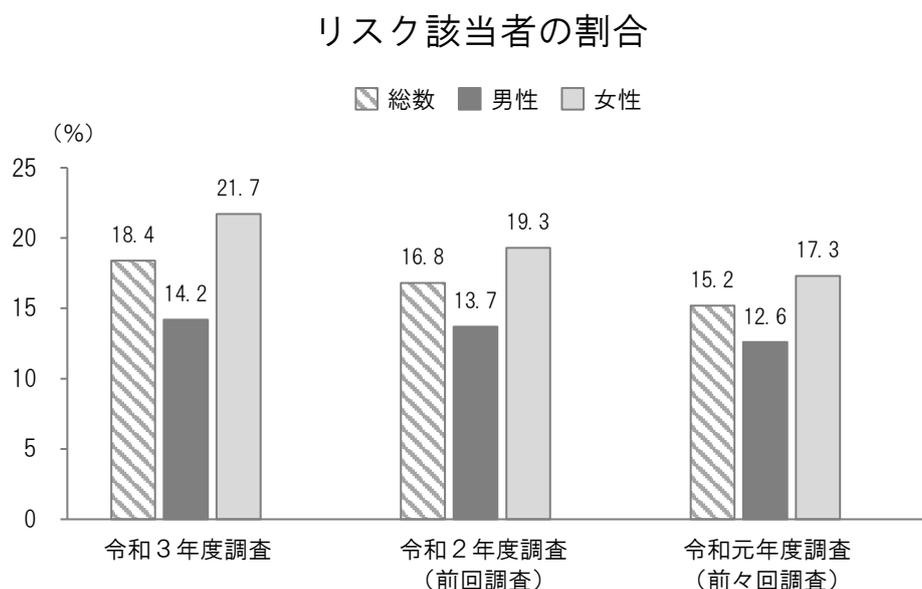
問番号	設 問	該当する選択肢
問2・Q1	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	「2. できるけどしていない」または「3. できない」
問2・Q2	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	「2. できるけどしていない」または「3. できない」
問2・Q3	15分位続けて歩いていますか	「2. できるけどしていない」または「3. できない」
問2・Q4	過去1年間に転んだことがありますか	「1. 何度もある」または「2. 1度ある」
問2・Q5	転倒に対する不安は大きいですか	「1. とても不安である」または「2. やや不安である」

イ 評価結果

評価結果をみると、回答のあった高齢者全体で18.4%：775人、男性14.2%：260人、女性21.7%：515人が運動器の機能低下のリスク該当者となっています。男性より女性でリスク該当者の割合が高くなっています。

過去の調査と比べると令和元年度（前々回調査）から増加傾向となっており、全体では令和元年度調査（前々回調査）よりリスク該当者割合が3.2ポイント高くなっています。

図表 リスク該当状況－運動器の機能低下



2 生活機能

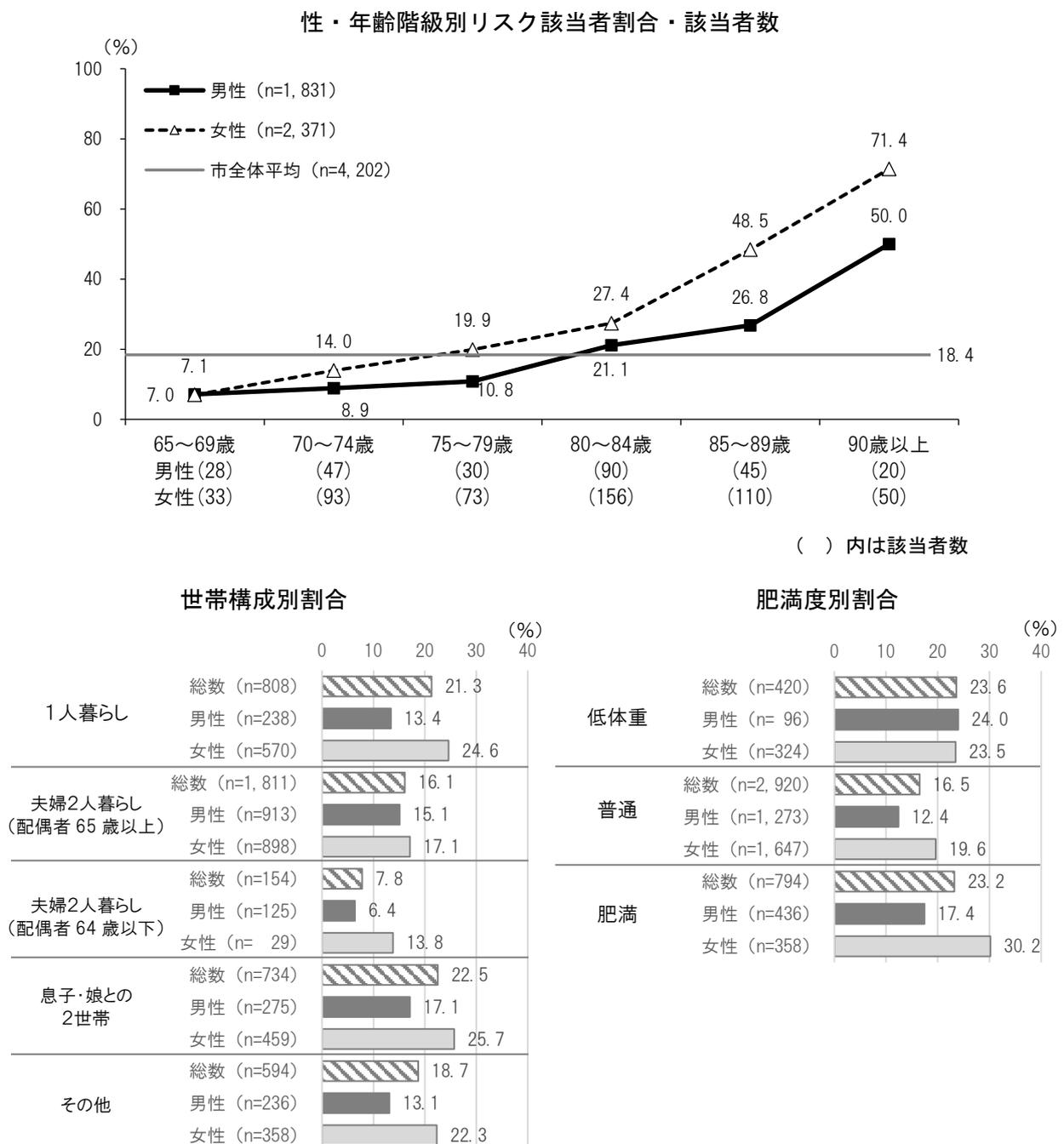
性・年齢階級別にみると、年齢とともにリスク該当者割合が高くなっています。男性は80～84歳より上、女性は75～79歳より上の年齢で市全体平均（18.4%）を超えています。

世帯構成別にみると、男性・女性ともに息子・娘との2世帯で、割合が比較的高くなっています。

これを世帯構成別にみると、男性・女性ともに息子・娘との2世帯で、割合が比較的高くなっています。

さらに肥満度別にみると、男性では低体重（BMI18.5未満）のリスク該当者で24.0%と普通体重の男性に比べ11.6ポイント高く、女性では肥満者（BMI25以上）のリスク該当割合が30.2%と、普通体重の女性に比べて10.6ポイント高くなっています。男性では低体重が、女性では肥満が運動器の機能に影響を及ぼしていることがうかがえます。

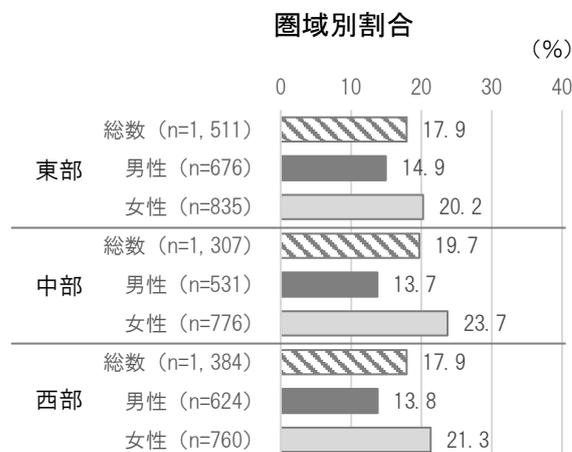
図表 運動器の機能低下 リスク該当状況一性・年齢階級別、世帯構成別、肥満度別



(1) 運動

圏域別にみると、男性は東部圏域が14.9%で最も高く、女性は中部圏域が23.7%で最も高くなっています。ただ、圏域ごとに年齢構成も異なるため、それが影響していることも考えられます。

図表 運動器の機能低下 リスク該当状況—圏域別割合



そこで、こうした圏域別の年齢構成の差を取り除いた形でリスク該当者数を比較するため、標準化死亡比（SMR）の考え方に準じて、年齢調整済みの指数を算出しました。

この指数は、今回の調査結果全体の性・年齢階級別のリスク該当者割合を各圏域に当てはめた場合に、各圏域の期待されるリスク該当者数に対する実際のリスク該当者数の比率となります。全体の平均が100となり、この指数が100を超える場合は全体の平均よりリスク該当者が多く、逆に100未満の場合はリスク該当者が少ないと判断できます。

具体的にこの指数を運動器の機能低下のリスク該当者について各圏域別に算出すると下の図表のとおりとなります。次のページ一番下の図表をみると、リスク該当者割合が高い中部圏域は、年齢構成を加味した指数でも104.9と最も高くなっています。

図表 圏域別の性・年齢階級別回答者数

単位：人

年齢階級	男性			女性		
	東部	中部	西部	東部	中部	西部
65～69 歳	156	113	123	167	154	151
70～74 歳	202	158	168	260	207	199
75～79 歳	98	85	94	130	118	119
80～84 歳	155	123	148	184	192	193
85～89 歳	52	42	74	74	84	69
90 歳以上	13	10	17	20	21	29

2 生活機能

図表 圏域別の実際のリスク該当者数：運動器の機能低下

単位：人

年齢階級	男性			女性		
	東部	中部	西部	東部	中部	西部
65～69 歳	13	8	7	15	8	10
70～74 歳	24	14	9	35	29	29
75～79 歳	8	9	13	26	32	15
80～84 歳	32	29	29	45	59	52
85～89 歳	17	8	20	34	39	37
90 歳以上	7	5	8	14	17	19

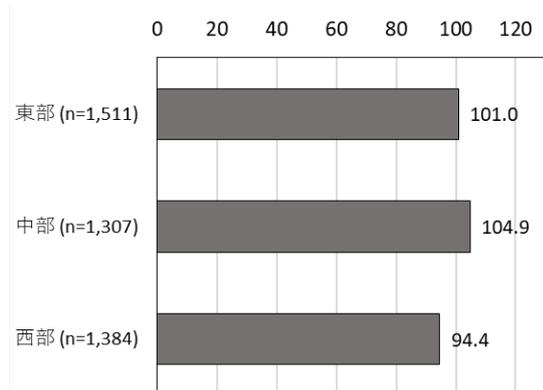
図表 圏域別の期待リスク該当者数：運動器の機能低下

単位：人

年齢階級	男性			女性		
	東部	中部	西部	東部	中部	西部
65～69 歳	11.1	8.1	8.8	11.7	10.8	10.6
70～74 歳	18.0	14.1	15.0	36.3	28.9	27.8
75～79 歳	10.6	9.2	10.2	25.9	23.5	23.7
80～84 歳	32.7	26.0	31.3	50.4	52.6	52.9
85～89 歳	13.9	11.3	19.8	35.9	40.7	33.4
90 歳以上	6.5	5.0	8.5	14.3	15.0	20.7

図表 圏域別の指数：運動器の機能低下

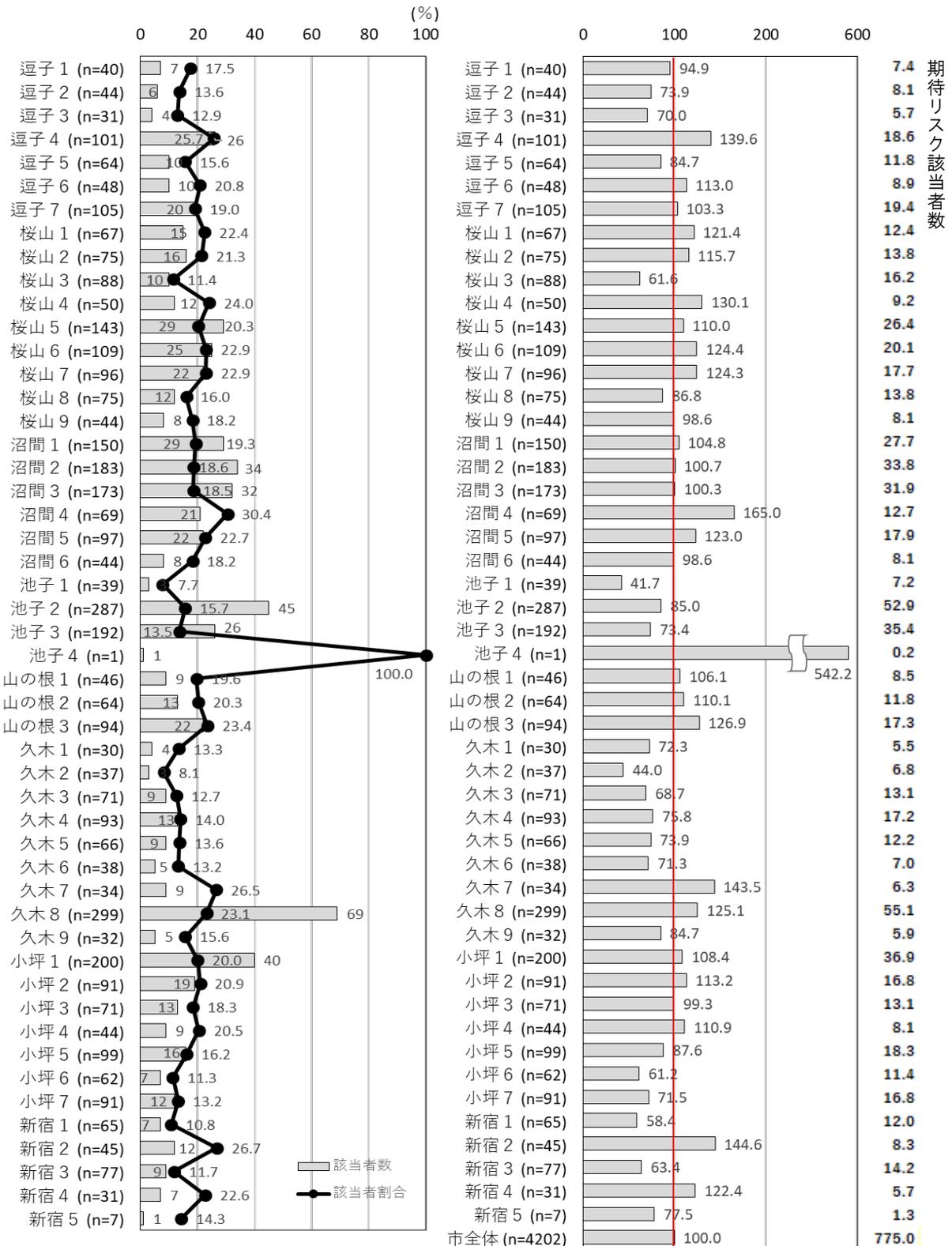
	東部	中部	西部
実際の該当者数 (a)	270	257	248
期待該当者数 (b)	267.3	245.1	262.6
指数 (a/b*100)	101.0	104.9	94.4



(1) 運動

さらに、町丁別リスク該当者数をみると、沼間4丁目、新宿2丁目、久木7丁目の順に該当者割合が高くなっています。町丁別指数をみると、沼間4丁目、新宿2丁目、久木7丁目の順に高くなっています（該当者数・指数ともに池子4丁目は除く）。

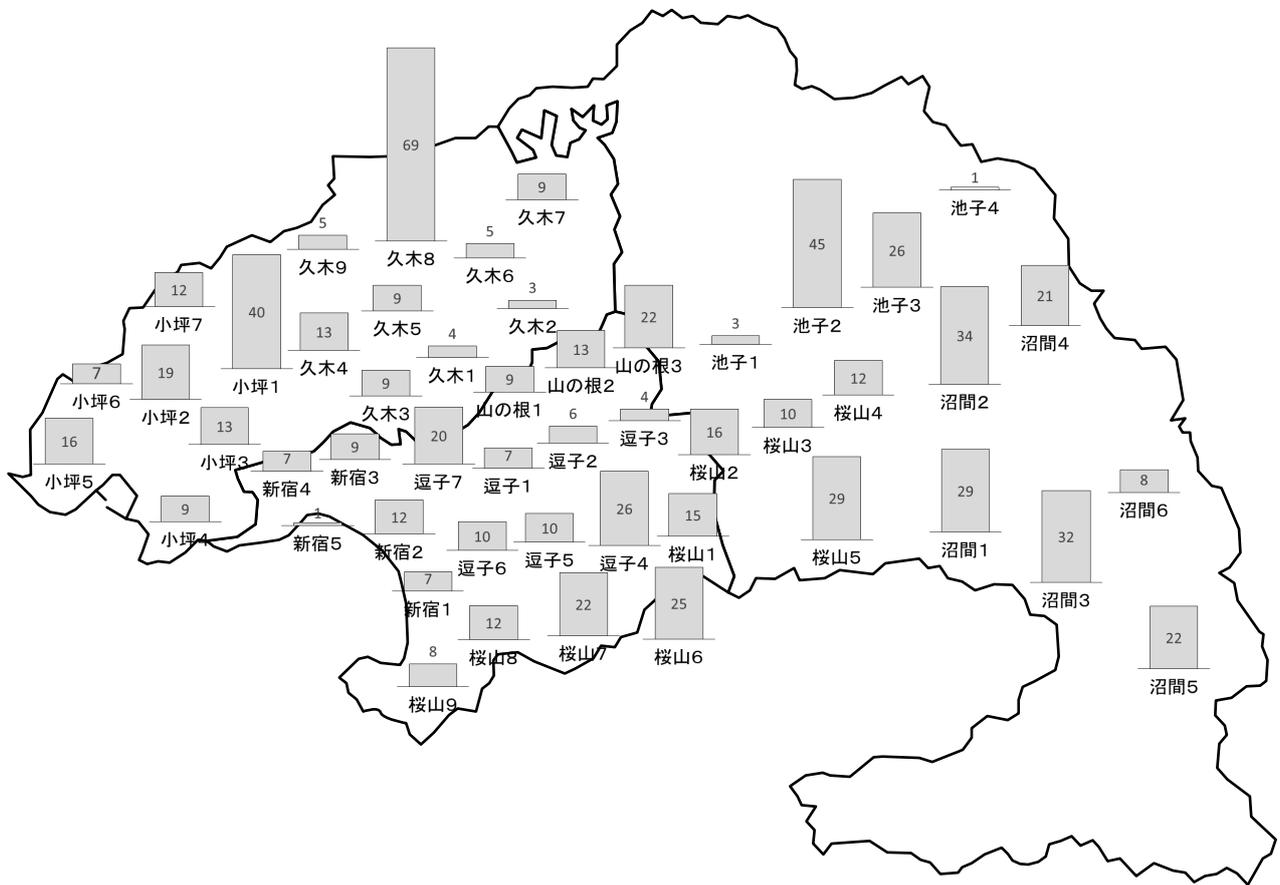
図表 運動器の機能低下（左：町丁別リスク該当者数・割合 右：町丁別指数



指数は、市全体の年齢別リスク該当者割合に各町丁別の年齢別回答者数を乗じることによって求められる各町丁別期待リスク該当者数に対する実際のリスク該当者数の割合を示したものです。100が市全体の平均となり、それを上回る場合は、年齢構成からすると市全体の平均よりリスク該当者が多いことを示す（以下同じ）。

2 生活機能

図表 圏域別リスク該当者数の分布：運動器の機能低下

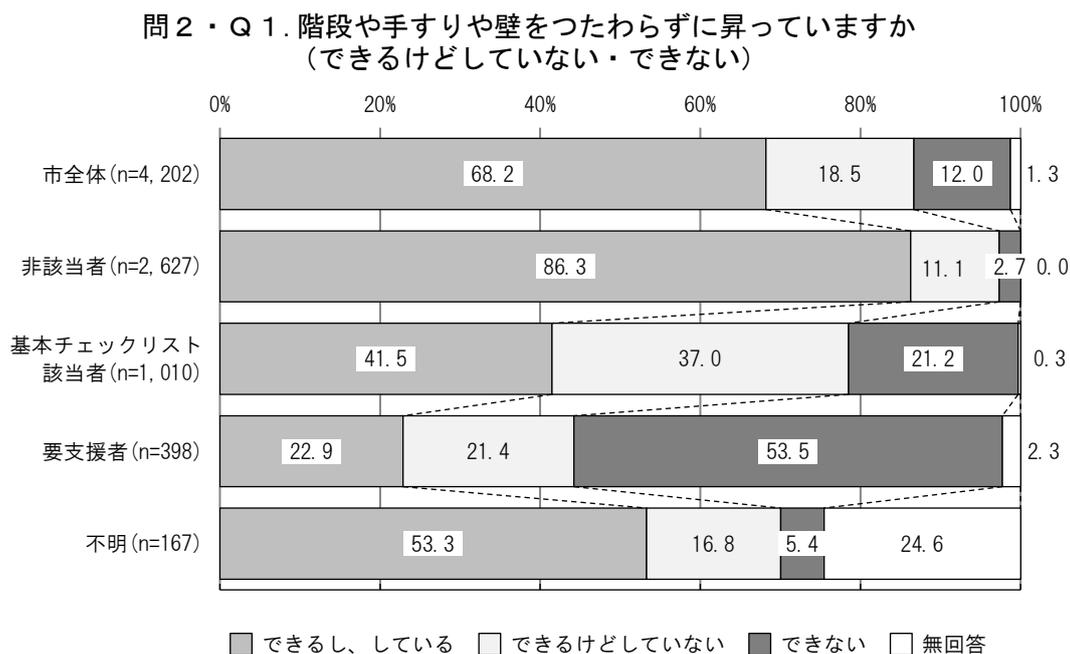


ウ 回答結果

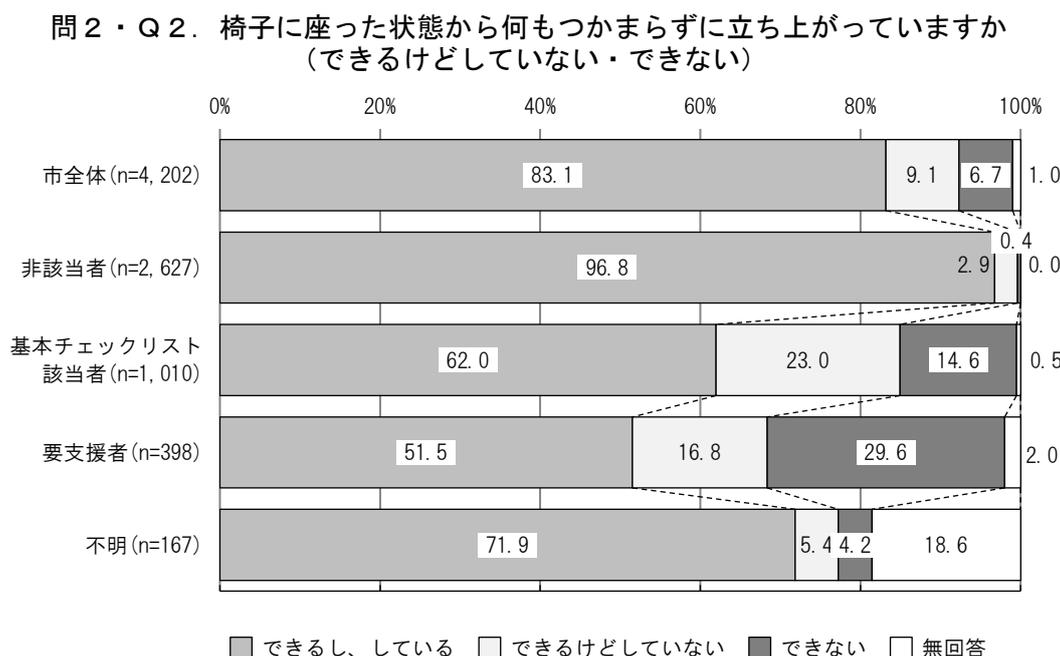
評価の基礎となった設問に対する回答結果を認定該当状況別にみると、下の図表のとおりとなっています。

個々の設問でリスクの該当に係る回答をした割合（該当率）が高いのは、基本チェックリスト該当者と要支援者で、ともに「転倒に対する不安は大きいですか」（問2・Q5）に対して、「不安である（とても不安である+やや不安である）」と答えた割合が7割を超えています。

図表 回答結果-1



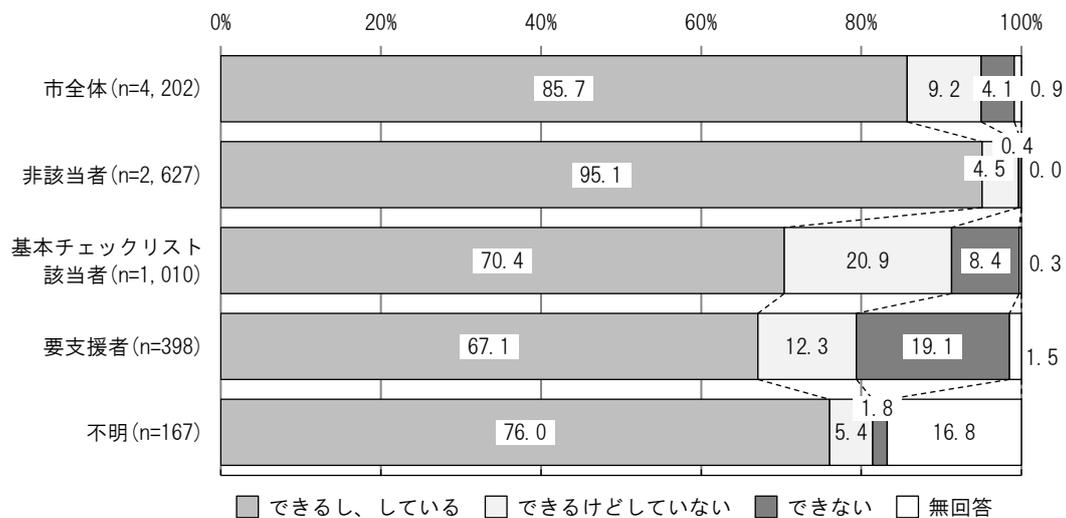
※設問文末尾の()内は、該当する回答(以下同じ)



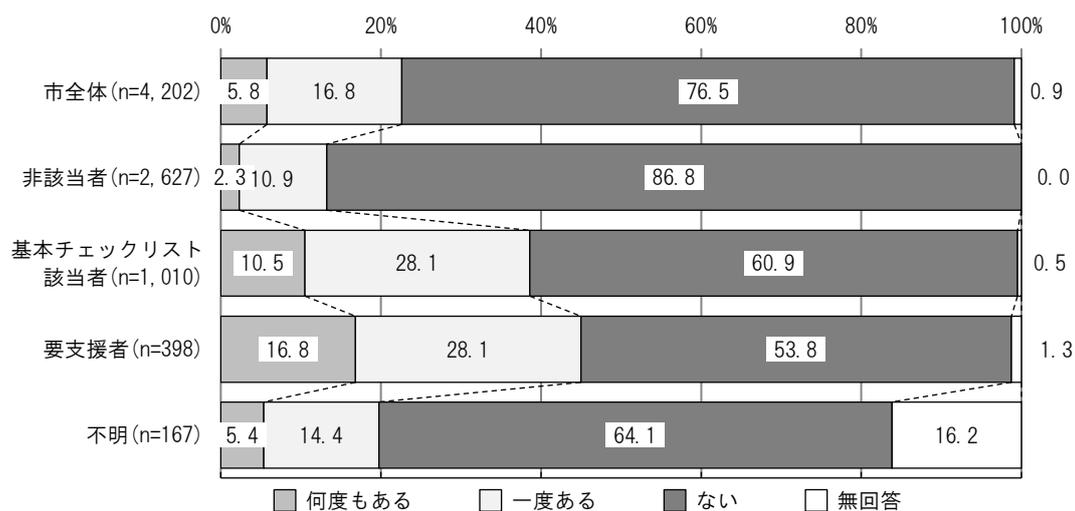
2 生活機能

図表 回答結果-2

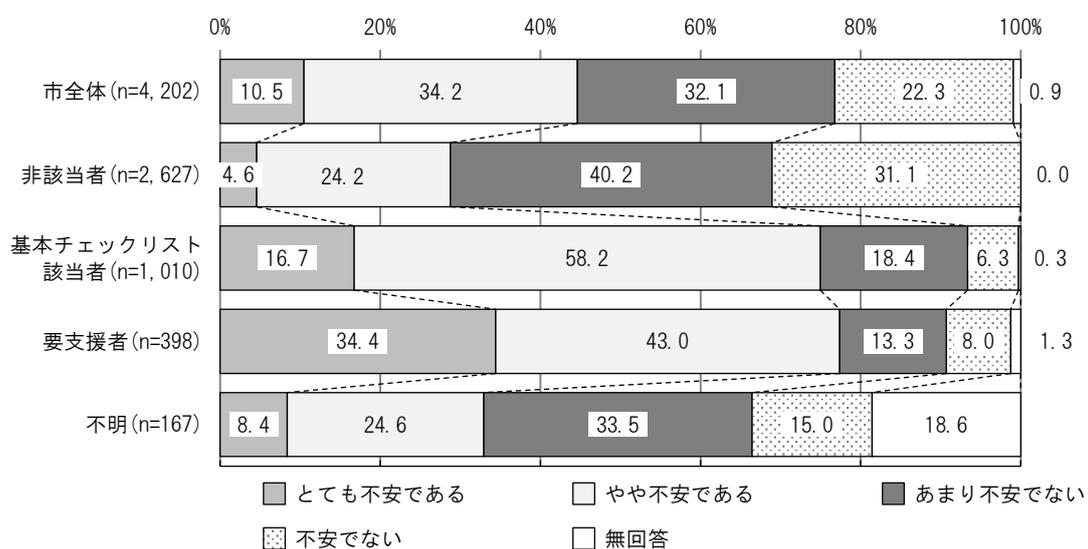
問2・Q3. 15分位続けて歩いていますか（できるけどしていない・できない）



問2・Q4. 過去1年間に転んだ経験がありますか（何度もある・1度ある）



問2・Q5. 転倒に対する不安は大きいですか（とても不安である・やや不安である）



(2) 閉じこもり

ア 設問と評価

基本チェックリストには、運動に関連する指標として、閉じこもりのリスクに関する設問が2問含まれています（下表参照）。

具体的には、問2・Q6に該当した場合、閉じこもりに該当し、介護予防・生活支援サービスの対象者になります。問2・Q7にも該当している場合は、より注意が必要という評価になります。

外出回数が週1回以下の場合には、寝たきりの要因の一つといわれる閉じこもりリスクがあると考えられるため、リスク該当者として評価しています。

図表 閉じこもりに関する設問（基本チェックリスト）

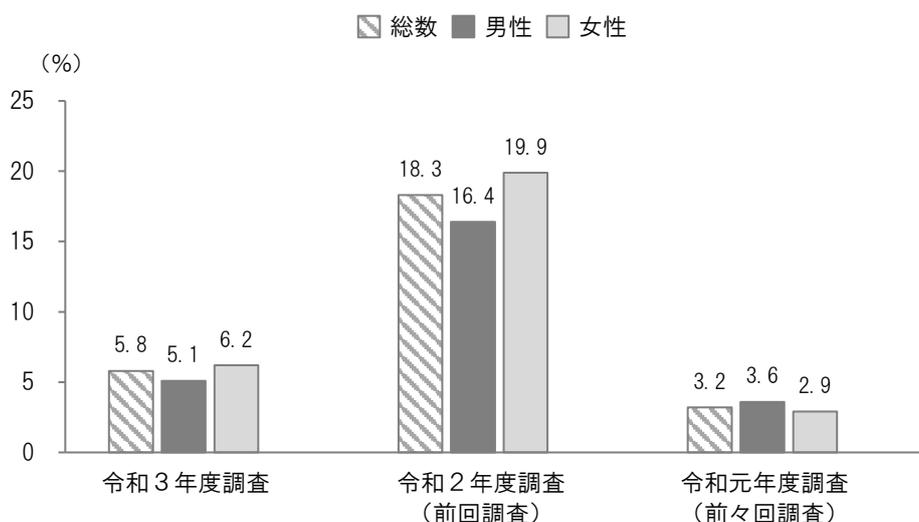
問番号	設 問	該当する選択肢
問2・Q6	週に1回以上は外出していますか	「1. ほとんど外出しない」 「2. 週1回」
問2・Q7	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	「1. とても減っている」または 「2. 減っている」

イ 評価結果

評価結果をみると、回答のあった高齢者全体で 5.8%：242 人、男性 5.1%：94 人、女性 6.2%：148 人がリスク該当者となっています。令和2年度（前回調査）と比較すると約3分の1に減少していますが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症による外出自粛が大きな要因であったと考えられます。いまだ収束したとは言えない状況ですが、今回の調査結果はウィズコロナ・アフターコロナの生活様式が浸透してきたものとみられます。

図表 リスク該当状況－閉じこもり

リスク該当者の割合

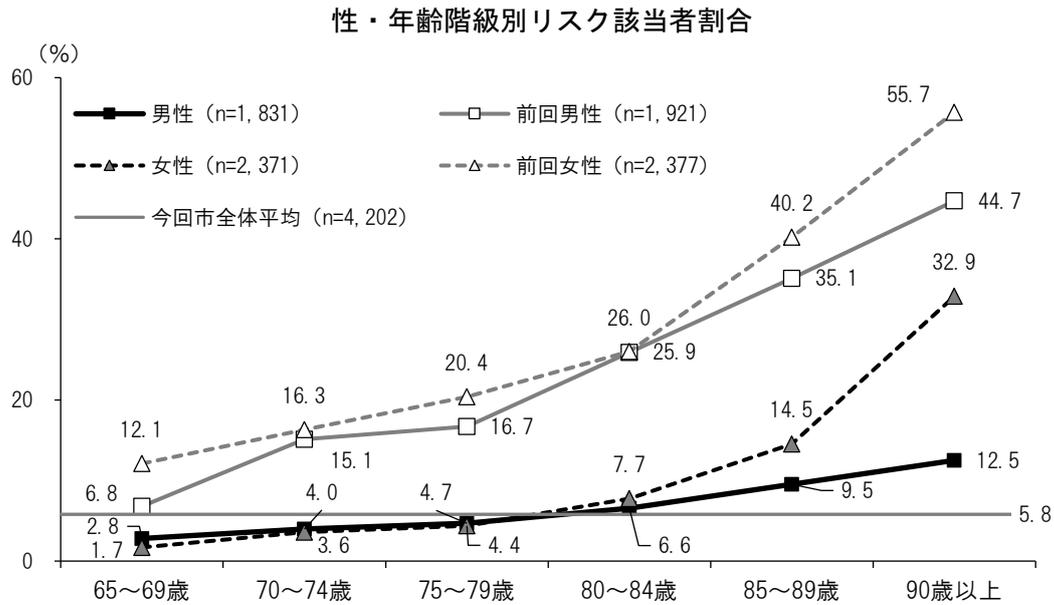


2 生活機能

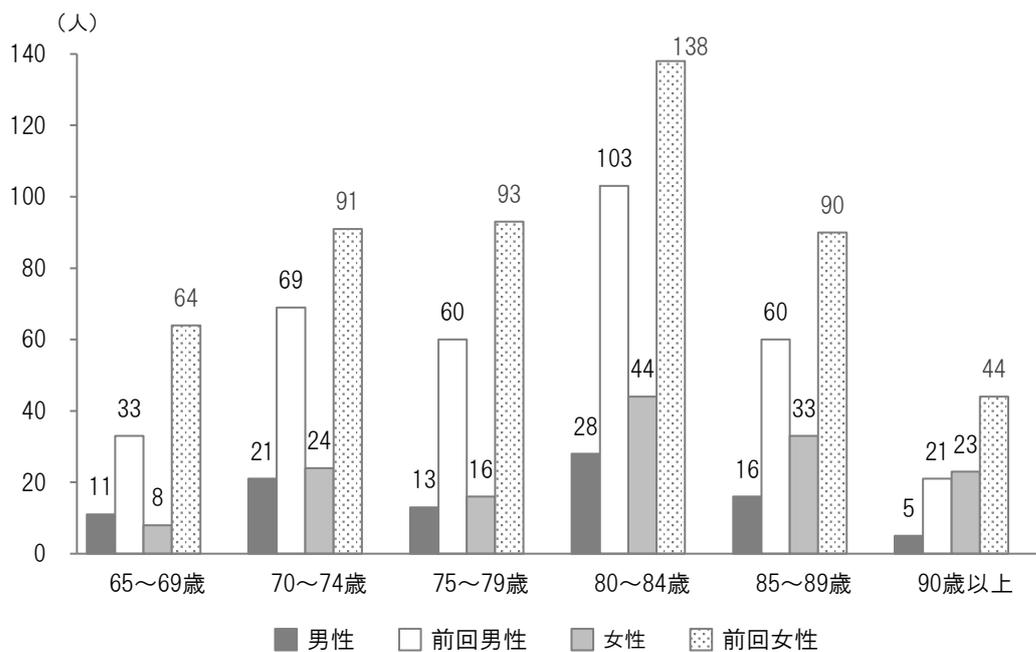
性・年齢階級別にみると、男女ともに年齢とともに閉じこもりリスクの該当者割合が高くなっています。令和2年度調査（前回調査）の結果との比較でみると、今回は大幅に低下しています。これは前項の「リスク該当者の割合」での評価と同様に、前回の結果は新型コロナウイルス感染症の影響によるものと考えられ、今回の結果はその反動で、従来の生活様式に戻りつつある状態が現れたものとみられます。

図表 閉じこもり リスク該当状況－性・年齢階級別

（令和3年度調査と令和2年度調査（前回調査））

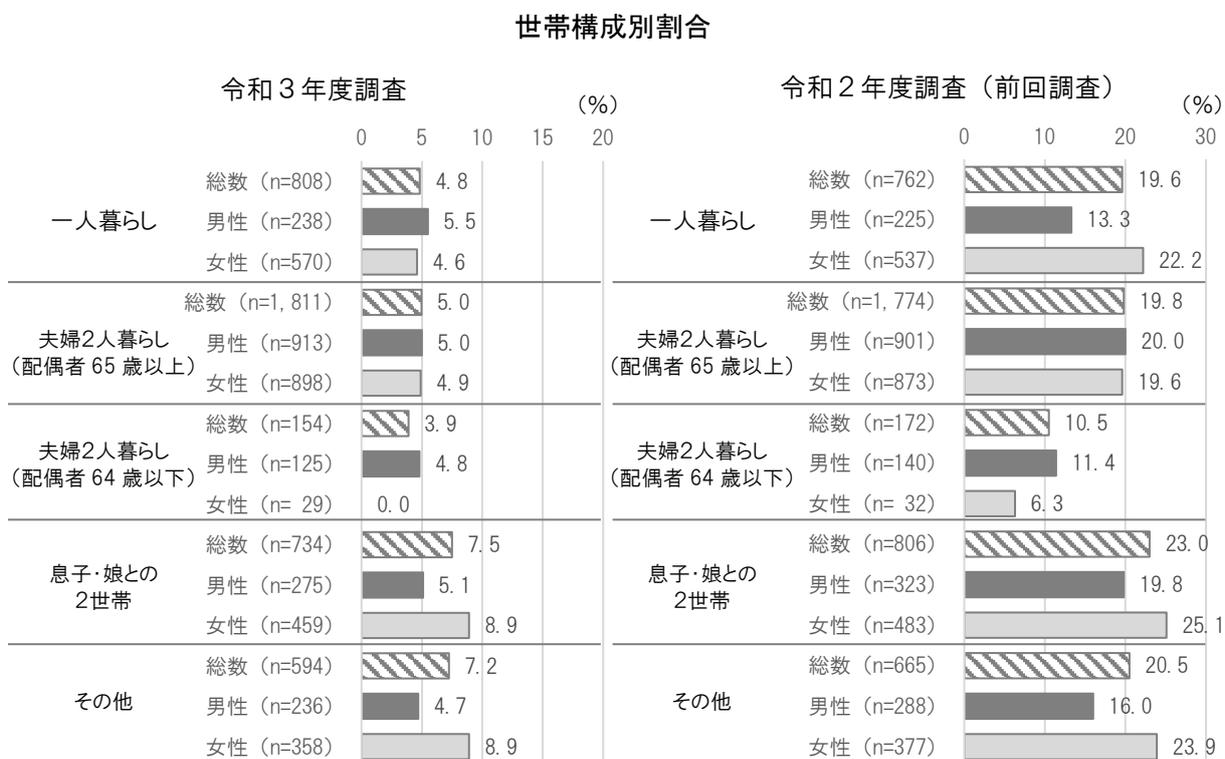
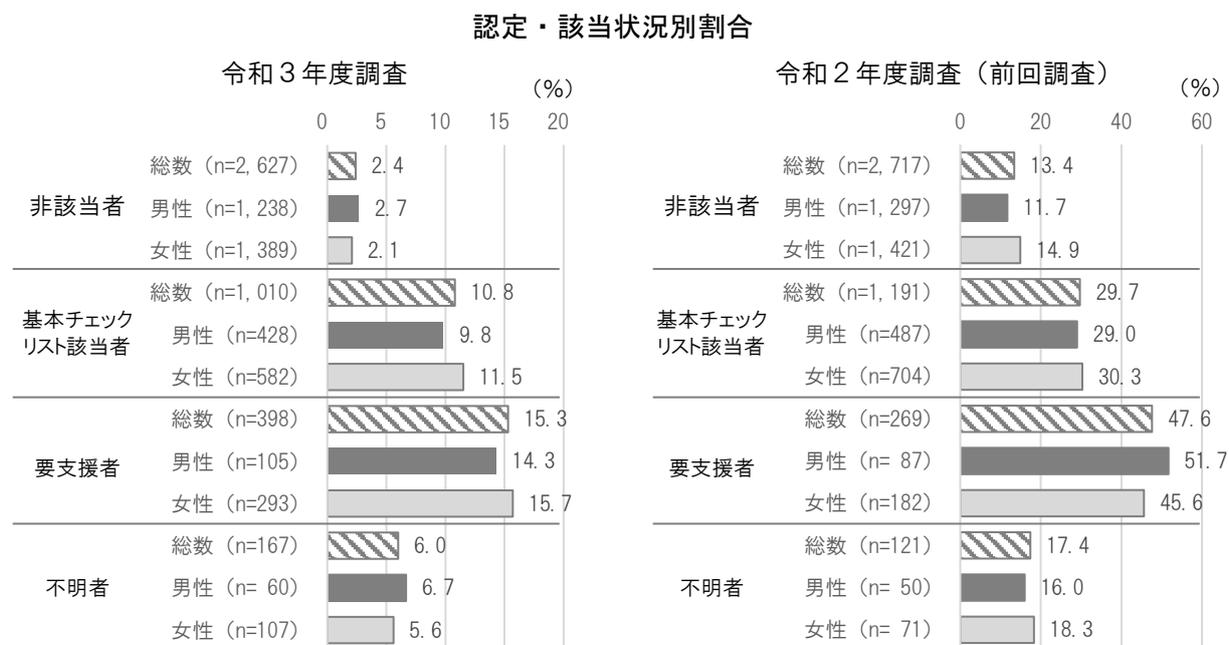


性・年齢階級別リスク該当者数



認定・該当状況別にみると、男女ともに要支援者のリスク該当者割合が最も高くなっています。また、世帯構成別にみると、女性の息子・娘との2世帯でリスク該当者割合が高くなっています。右側の前回調査との比較でみると、いずれも今回は大きく低下しています。前回調査時は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、生活が制限されていた影響が現れていましたが、今年度は対策が進み、元の生活に戻りつつある状況を反映したとみられます。

図表 閉じこもり リスク該当状況—認定・該当状況別、世帯構成別（前回調査との比較）



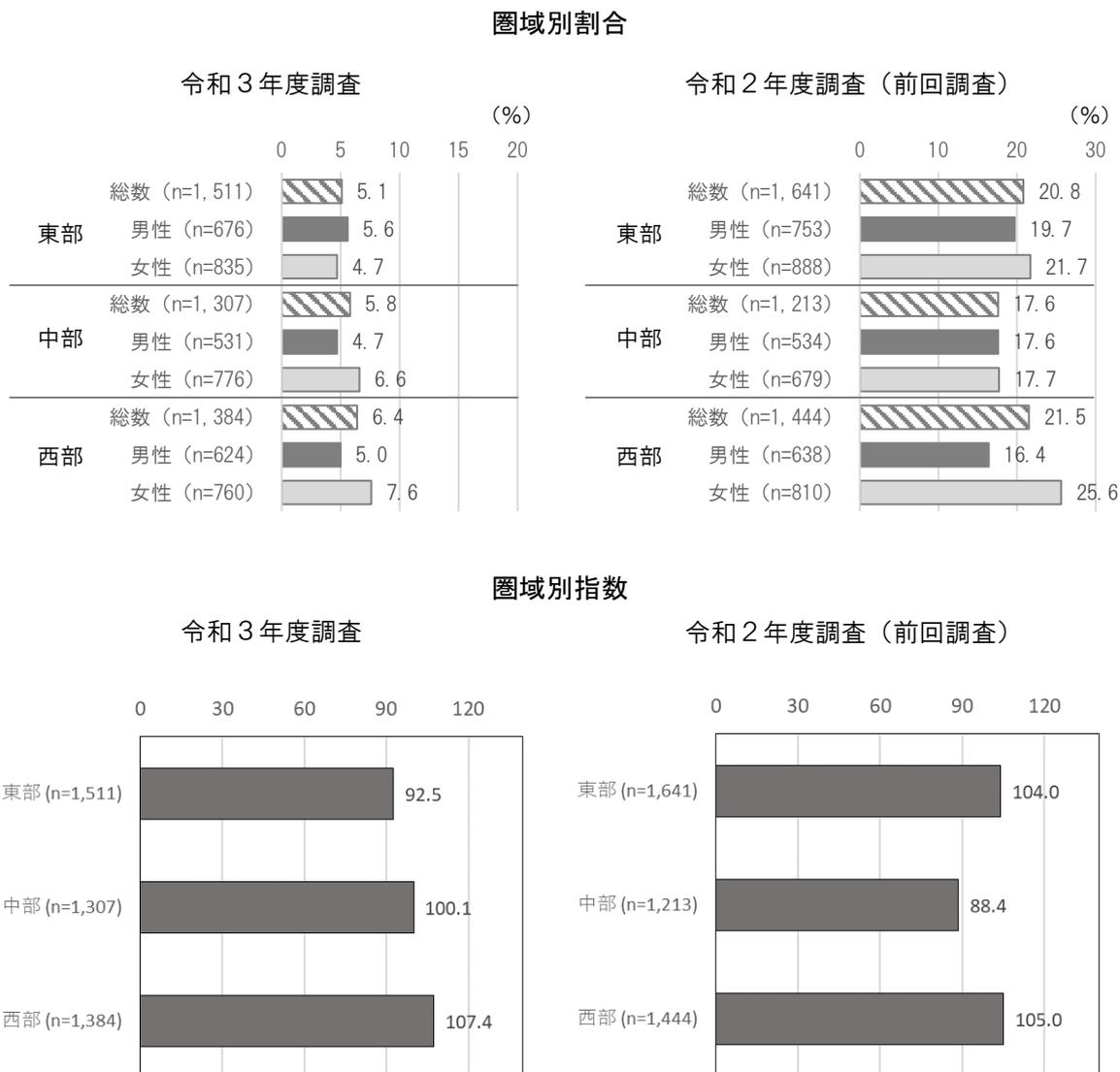
2 生活機能

圏域別割合をみると、西部圏域の女性が7.6%と他圏域に比べて高くなっています。

圏域別指数をみると、西部圏域が107.4と高くなっています。

また、前回調査との比較でみると、圏域別割合ではすべての圏域で減少しています。圏域別指数では、東部圏域は減少しているものの、中部圏域と西部圏域では増加しています。

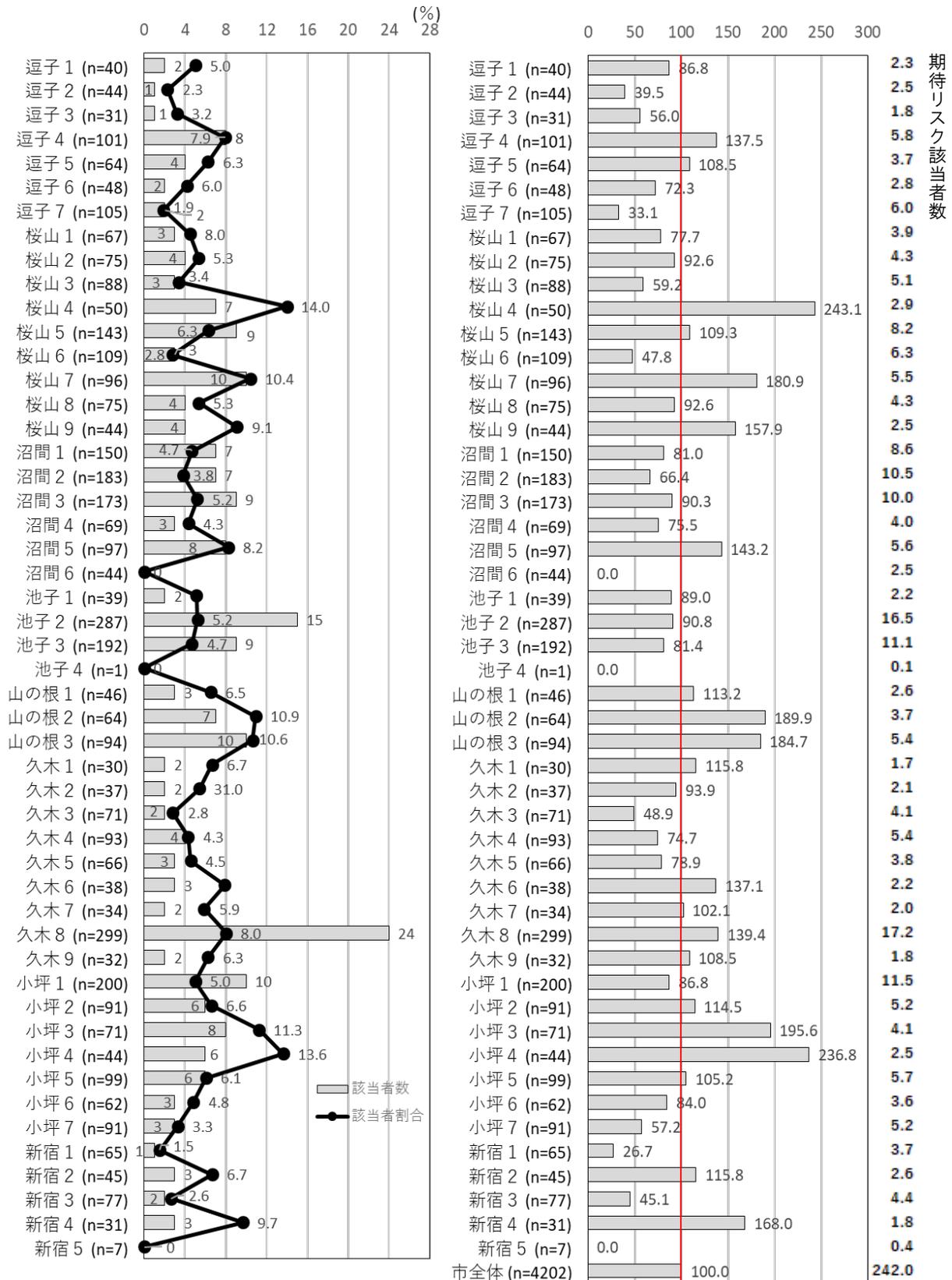
図表 閉じこもり リスク該当状況—圏域別割合、圏域別指数（前回調査との比較）



2 生活機能

町丁別リスク該当者数をみると、桜山4丁目、小坪4丁目、小坪3丁目ですリスク該当者割合が高くなっています。町丁別指数をみると、桜山4丁目、小坪4丁目、小坪3丁目、山の根2丁目、山の根3丁目の順に高くなっています。

図表 閉じこもり（左：町丁別リスク該当者数・割合 右：町丁別指数）



(2) 閉じこもり

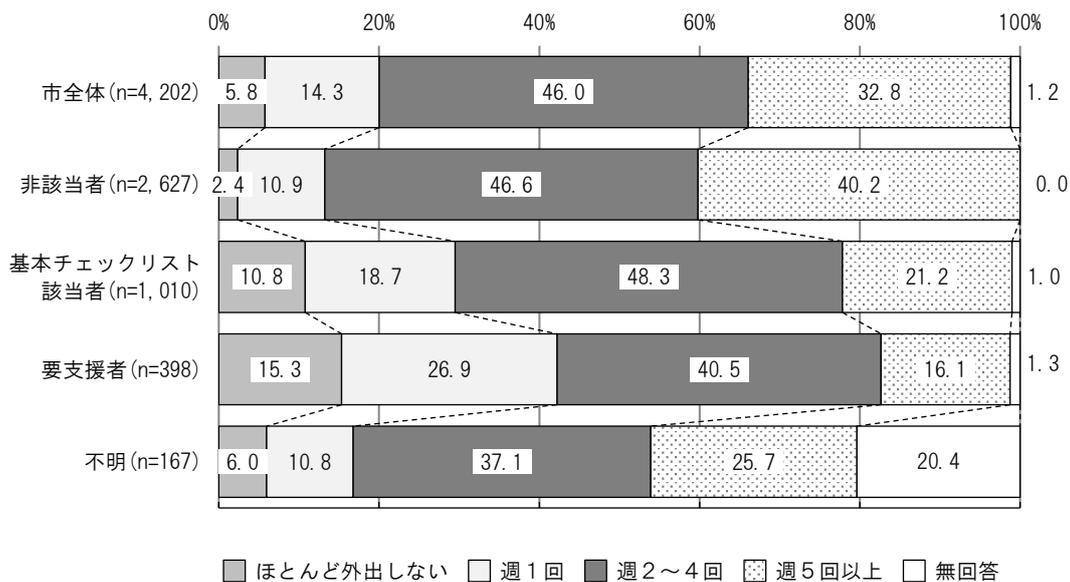
ウ 回答結果

個々の設問に関する回答を認定・該当状況別にみると、「週に1回以上は外出していますか」(問2・Q6)については、要支援者で「ほとんど外出しない」「週1回」と回答したリスク該当者割合が42.2%と高くなっています。

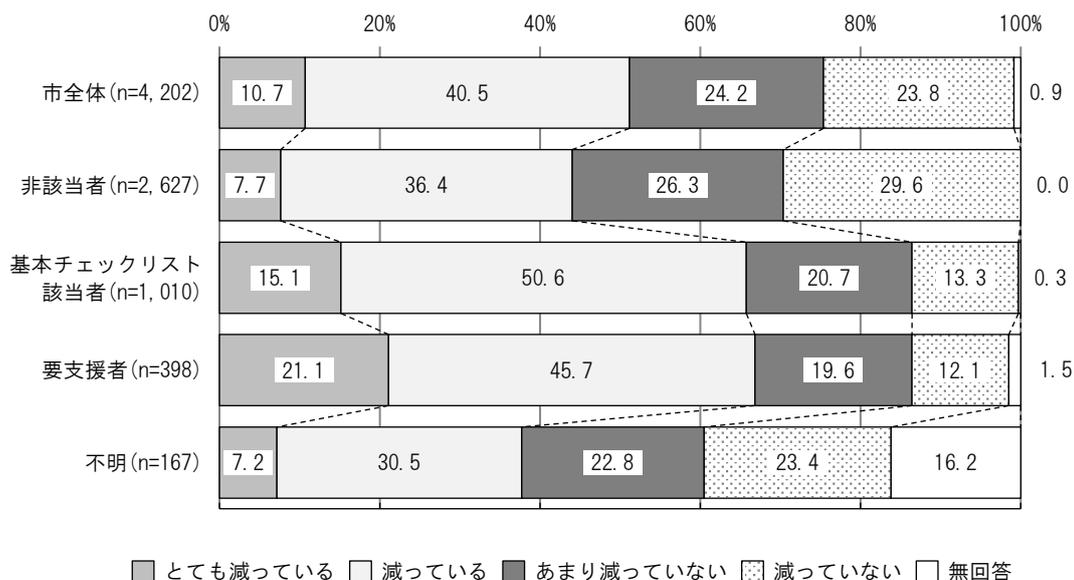
「昨年と比べて外出の回数が減っていますか」(問2・Q7)でも、基本チェックリスト該当者と要支援者で「減っている(とても減っている+減っている)」の割合が6割を超えて高くなっています。

図表 回答結果

問2・Q6. 週に1回以上は外出していますか(ほとんど外出しない・週1回)



問2・Q7. 昨年と比べて外出の回数が減っていますか(とても減っている・減っている)



2 生活機能

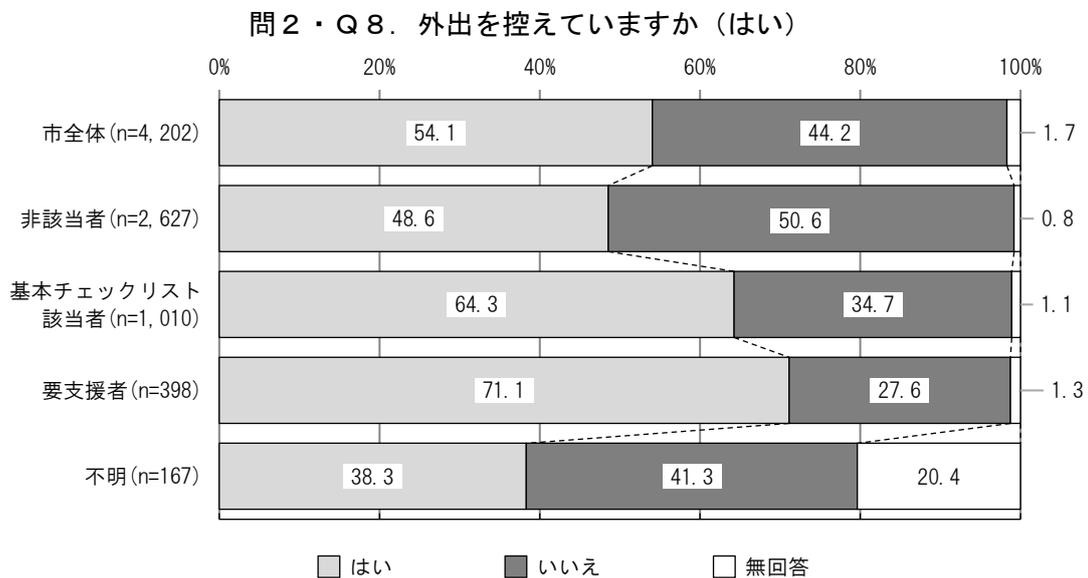
エ 関連設問

(問2・Q8)「外出を控えていますか」の回答を認定・該当状況別にみると、「はい」は要支援者が71.1%で最も多く、次いで基本チェックリスト該当者(64.3%)、非該当者(48.6%)となっています。

外出を控えていると回答した方にその理由を質問したところ、最も多いのは「その他」(77.0%)で7割を超えています。その内訳を自由記述からみると、「新型コロナウイルス感染症による外出自粛」がほとんどで、全体の割合で72.8%となっています。「その他」以外では、「足腰などの痛み」(15.1%)などが続いています。

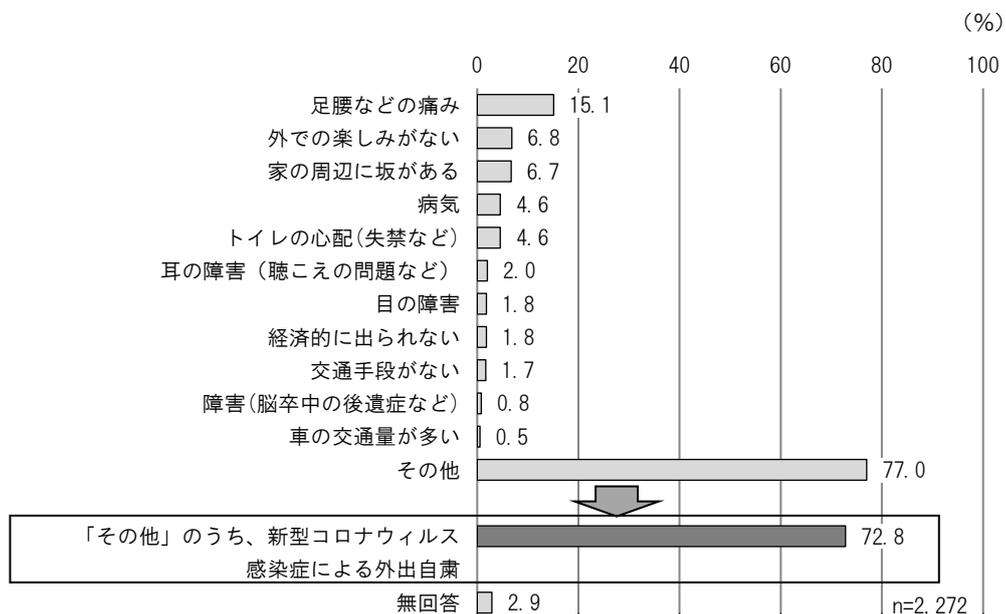
また、外出する際の移動手段としては、「徒歩」が76.3%で最も多く、次いで「電車」(49.9%)「路線バス」(43.6%)、「自動車(自分で運転)」(34.7%)などが続いています。

図表 外出を控えているかの有無



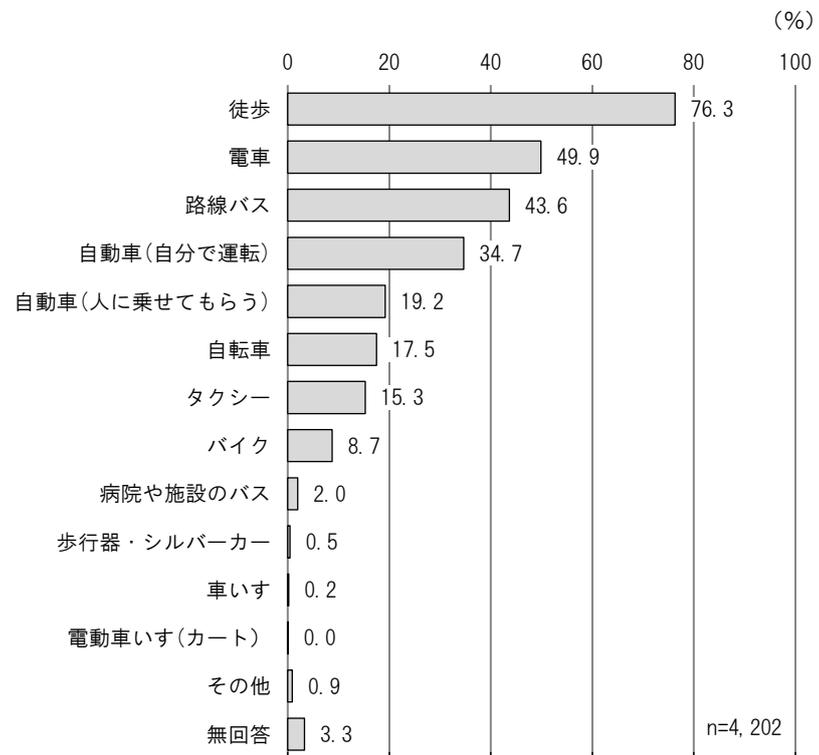
図表 外出を控えている理由

問2・Q8-1. 外出を控えている理由は、次のどれですか (いくつでも)



図表 外出の際の移動手段

問2・Q9. 外出する際の移動手段は何ですか（いくつでも）



2 生活機能

(3) 転倒

ア 設問と評価

本調査では、基本チェックリストの運動機能の評価に加え、転倒リスクについても別に評価ができるよう、設問が設けられています。

具体的には、調査票の問2・Q4が該当します。評価における各設問に対する配点は下の図表のとおりで、評価としては、問2・Q4に「1. 何度もある」「2. 1度ある」と答えた方を転倒リスクありとして評価しています。

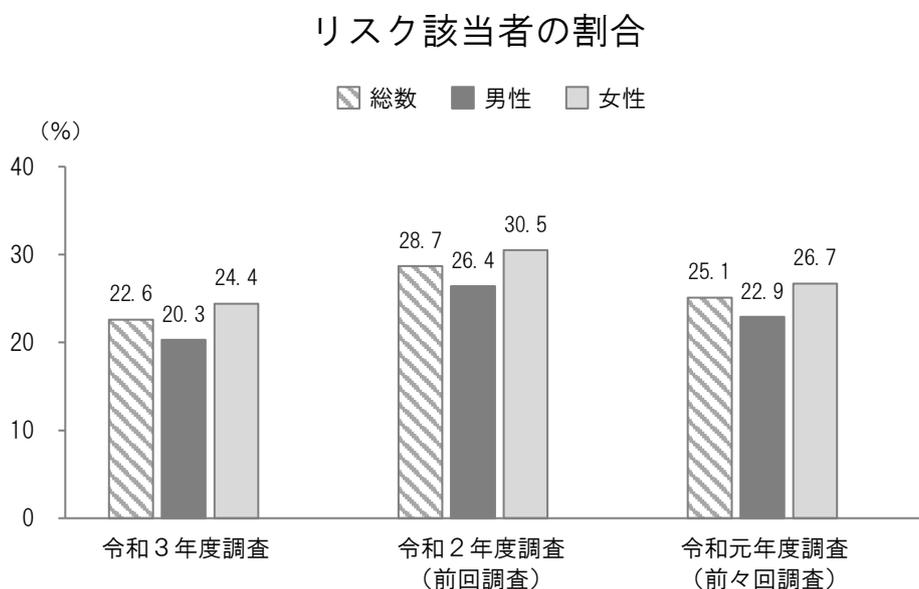
図表 転倒リスクに関する設問

問番号	設 問	配点と選択肢
問2・Q4	過去1年間に転んだ経験がありますか	1:「1. 何度もある」「2. 1度ある」 0:「3. ない」

イ 評価結果

結果をみると、全体で22.6%：950人、男性20.3%：372人、女性24.4%：578人がリスク該当者（転倒しやすい）となっています。過去の調査と比較すると、令和元年度調査（前々回調査）から令和2年度調査（前回調査）にかけて全体で3.6ポイント増加しましたが、今回調査では令和2年度調査（前回調査）より6.1ポイント減少しています。

図表 リスク該当状況－転倒



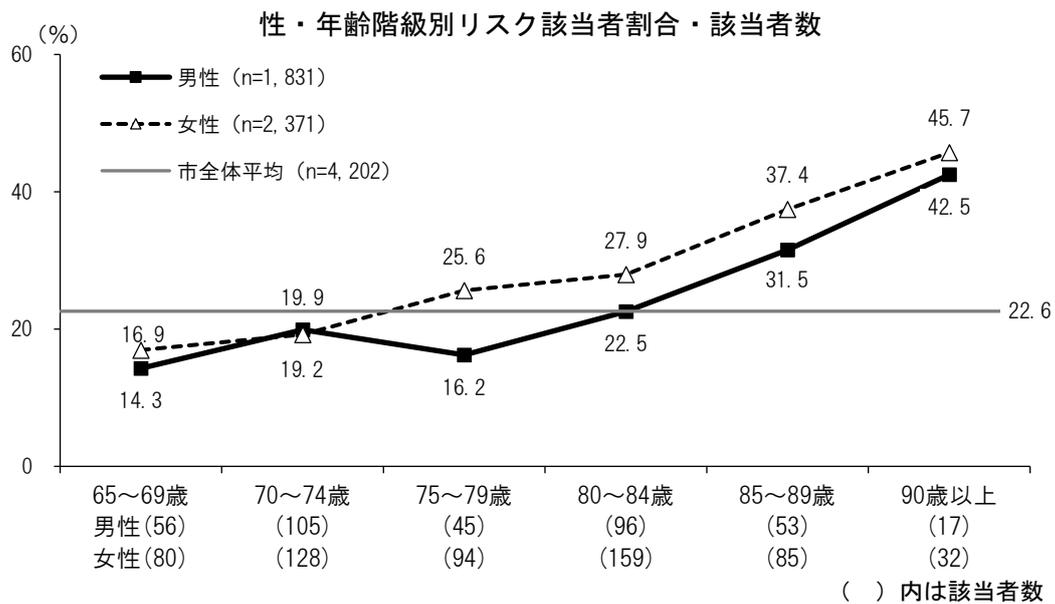
(3) 転倒

性・年齢階級別にみると、年齢とともにリスク該当者割合が高くなっています。男性は85～89歳より上、女性は75～79歳より上の年齢階級で、市全体平均（22.6%）より高くなっています。

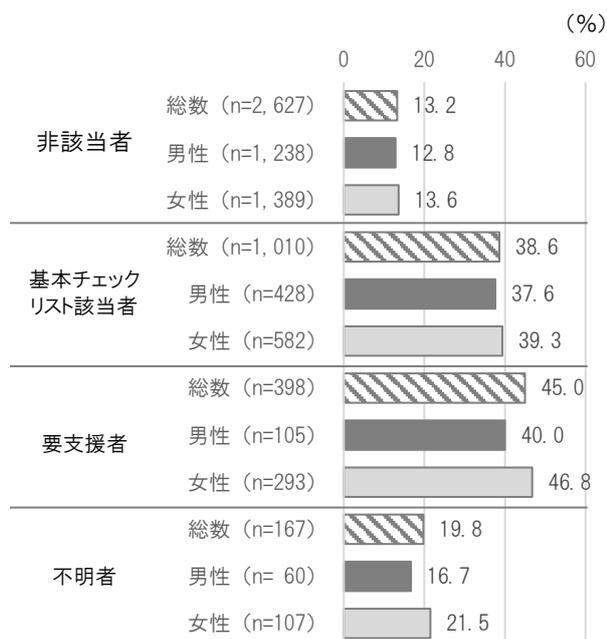
これを認定・該当状況別にみると、非該当者は13.2%、基本チェックリスト該当者は38.6%、要支援者は45.0%、不明者は19.8%となっており、要支援者のリスク該当者割合が高くなっています。

世帯構成別にみると、男女ともに、「1人暮らし世帯」と「息子・娘との2世帯」でリスク該当者割合が高くなっています。

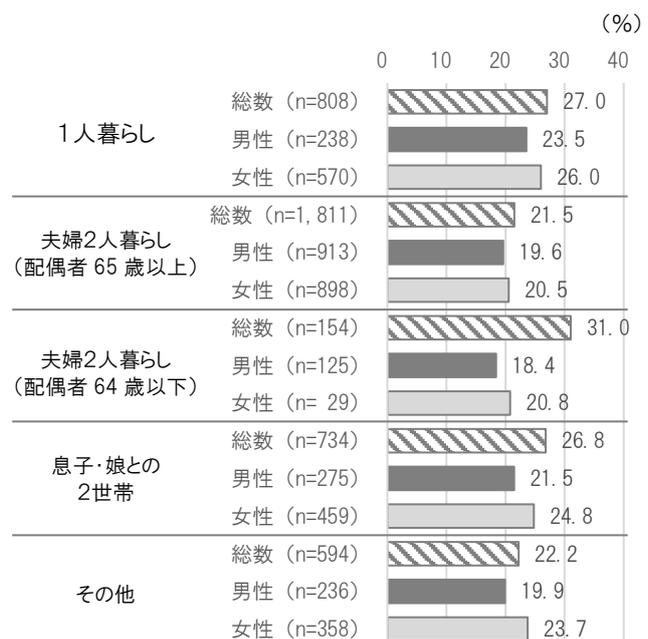
図表 転倒リスク該当状況一性・年齢階級別、認定・該当状況別、世帯構成別



認定・該当状況別割合



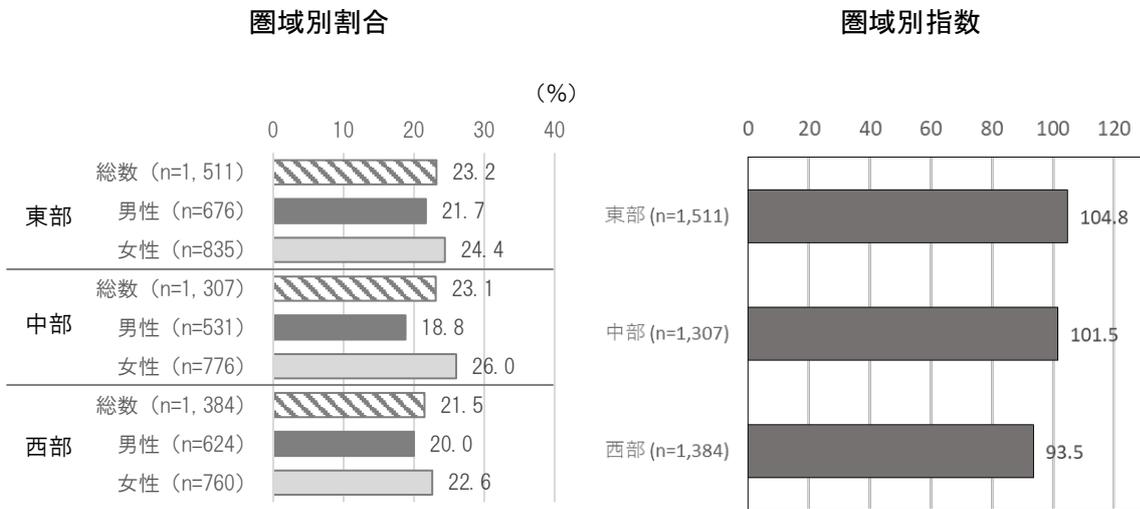
世帯構成別割合



2 生活機能

圏域別割合をみると、西部圏域が21.5%と他圏域に比べて低くなっています。
 圏域別指数でみると、西部圏域が93.5で低くなっています。

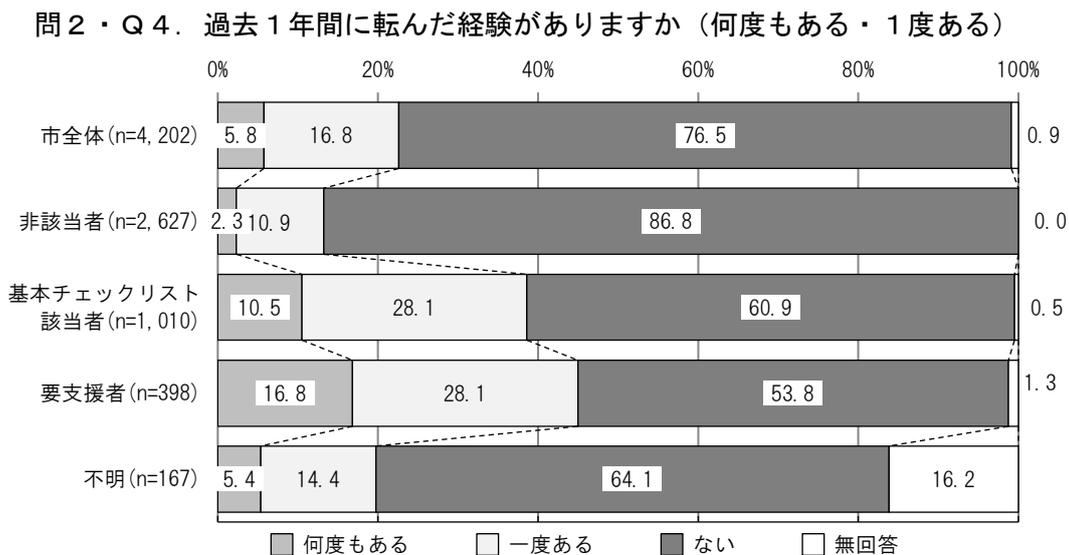
図表 転倒リスク該当状況—圏域別割合、圏域別指数



ウ 回答結果

評価の基礎となった設問に対する回答をみると、転倒の経験に関する設問（問2・Q4）では、要支援者で44.9%、基本チェックリスト該当者で38.6%、非該当者でも13.2%がリスク該当に係る回答をしています。転倒への不安（問2・Q5）は、基本チェックリスト該当者で74.9%、要支援者で77.4%と、リスク該当に係る回答割合が7割を超えています。

図表 回答結果



(4) 栄養

ア 設問と評価

基本チェックリストでは、下の2つの設問に対する回答から、高齢者の低栄養リスクの判断を行っています。

具体的には、設問2問中2問に該当した場合（BMI＝体重kg／身長m／身長mが18.5未満で、ここ6か月間で2～3kg以上の体重減少があった場合）に低栄養状態と判定されます。

図表 栄養に関する設問（基本チェックリスト）

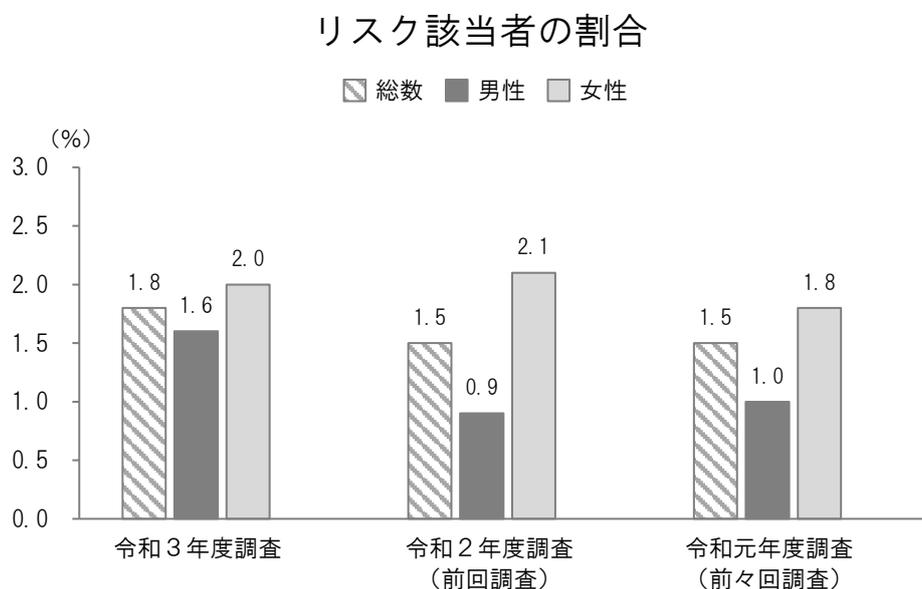
問番号	設問	該当する選択肢
問3・Q1	身長()cm、体重()kg	BMI<18.5
問3・Q9	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	「1. はい」

※BMI(肥満指数)：体重(kg)／身長(m)／身長(m)によって求められる値。18.5未満が「やせ」、25以上が「肥満」。

イ 評価結果

結果をみると、回答のあった高齢者全体で1.8%：77人、男性1.6%：29人、女性2.0%：48人がリスク該当者となっています。過去の調査と比べると、全体では令和2年度調査（前回調査）から0.3ポイント増加しており、女性は0.1ポイント減少していますが、男性が0.7ポイント増加しています。

図表 リスク該当状況－低栄養状態

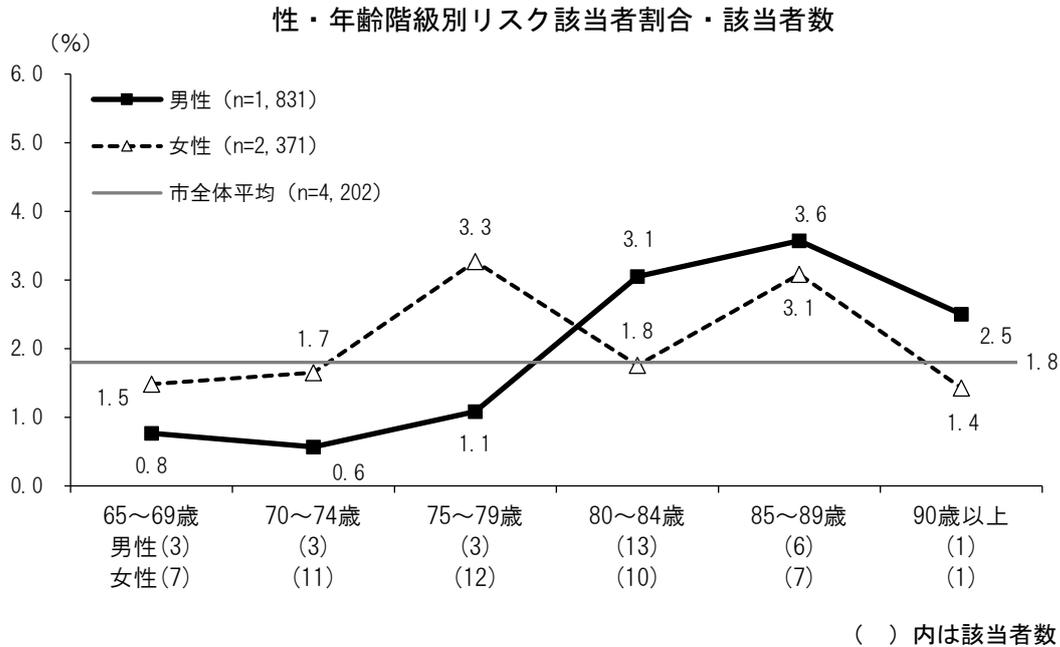


2 生活機能

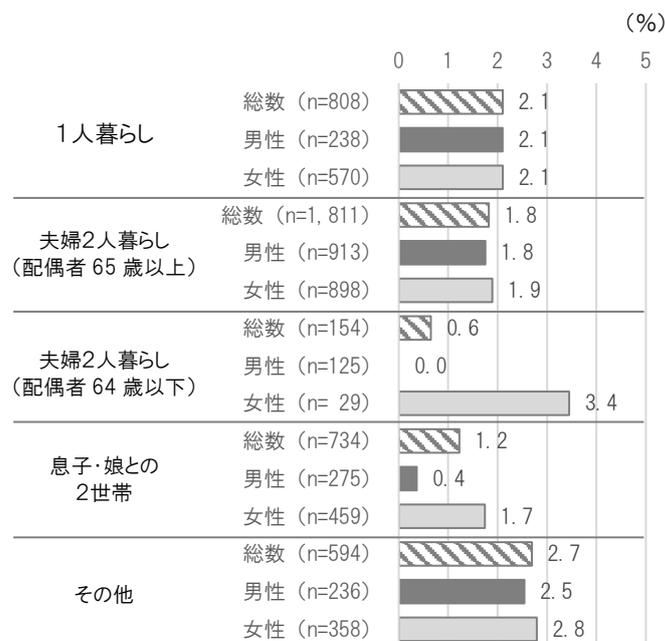
性・年齢階級別にみると、男性は85～89歳に次いで80～84歳で、女性は75～79歳に次いで85～89歳のリスク該当者割合が高くなっています。

世帯構成別では、夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）の女性でリスク該当者割合が3.4%と高くなっています。また、65歳以上世帯（1人暮らし、夫婦2人暮らし）が男女ともに市全体平均の1.8%以上のリスク該当者割合となっています。

図表 低栄養状態リスク該当状況－性・年齢階級別、世帯構成別

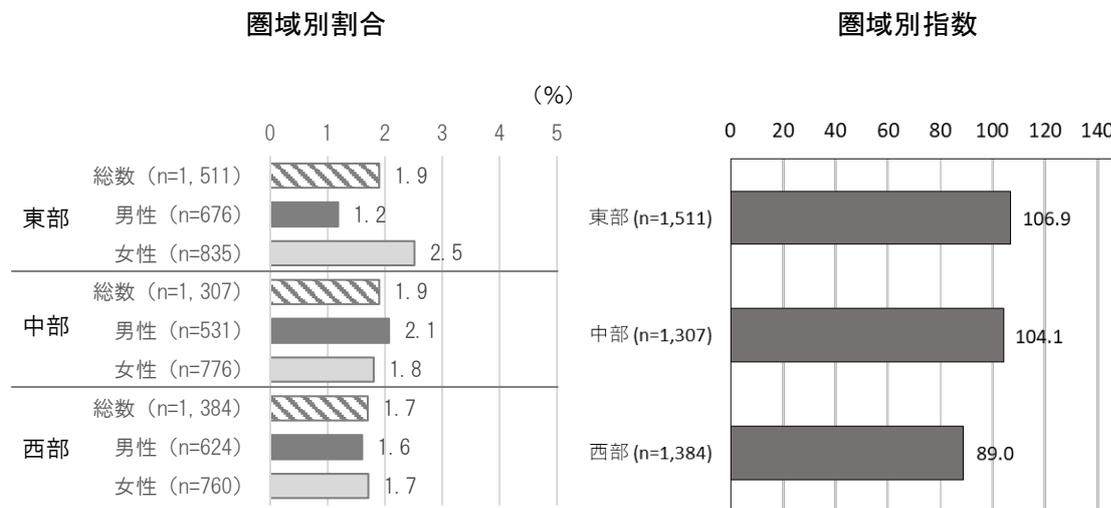


世帯構成別割合



圏域別割合をみると、東部圏域の女性が2.5%と他圏域に比べて高くなっています。
 圏域別指数をみると、東部圏域が106.9で最も高くなっています。

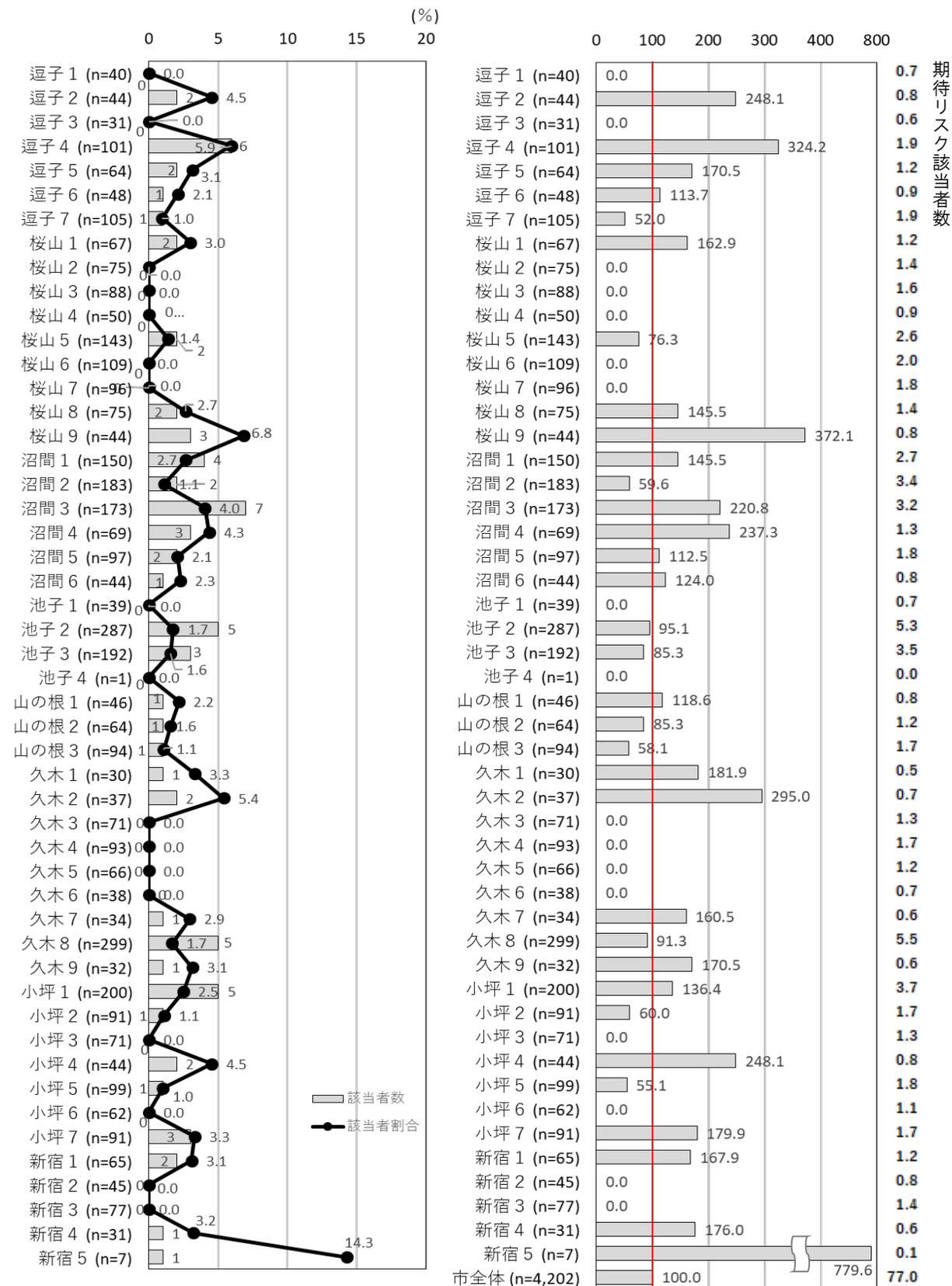
図表 低栄養状態リスク該当状況－圏域別割合、圏域別指数



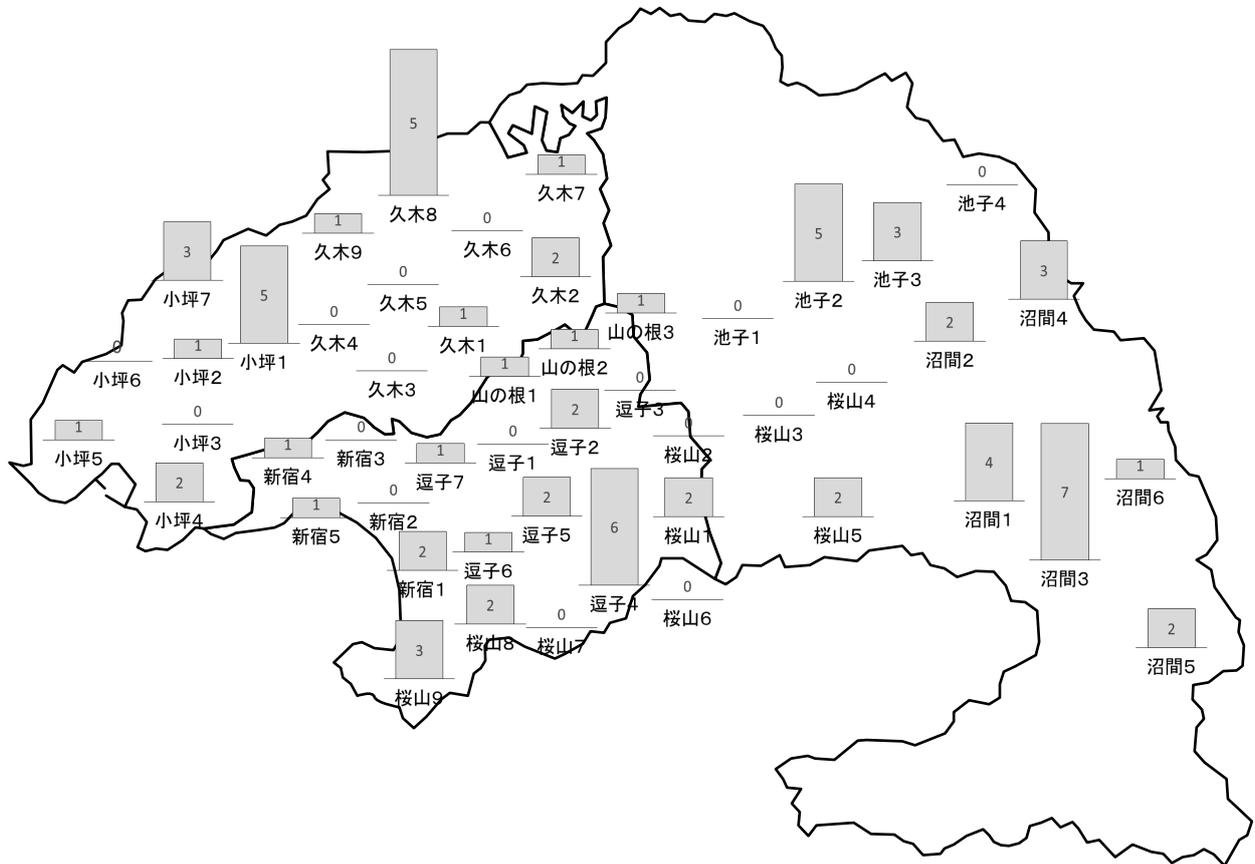
2 生活機能

町丁別リスク該当者数をみると、沼間3丁目、逗子4丁目、池子2丁目、久木8丁目、小坪1丁目で該当者が5人以上と多くなっています。町丁別指数をみると、新宿5丁目、桜山9丁目、逗子4丁目、久木2丁目、逗子2丁目、小坪4丁目、沼間4丁目、沼間3丁目が200を超えて高くなっています。

図表 低栄養状態（左：町丁別リスク該当者数・割合 右：町丁別指数）



図表 町丁別リスク該当者数の分布：低栄養状態



2 生活機能

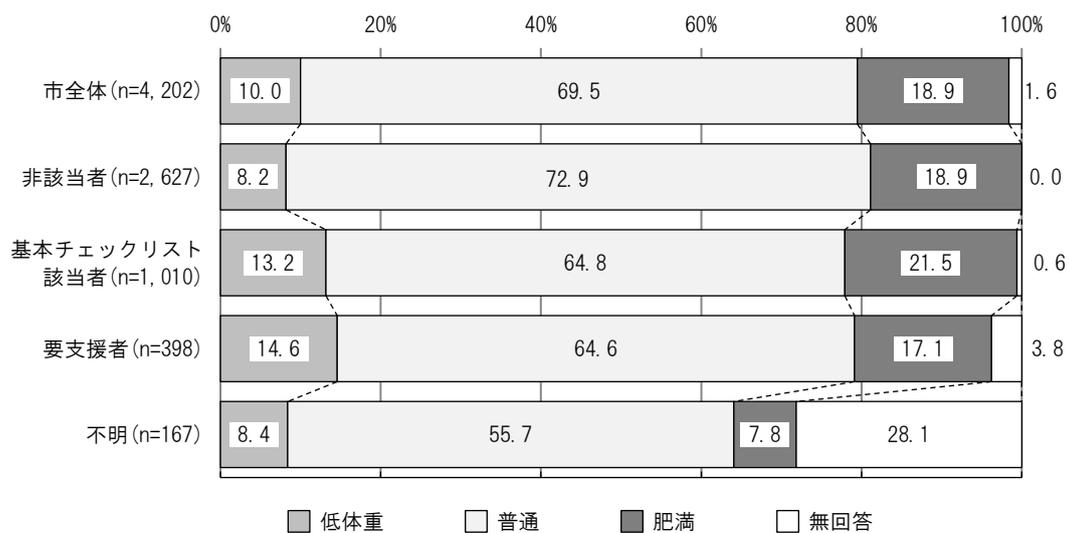
ウ 回答結果

評価の基礎となった設問に対する回答をみると、体格指数（BMI）については、非該当者のうち 8.2%が低体重となっており、非該当者にも潜在的な低栄養リスク者がいることがうかがえます。

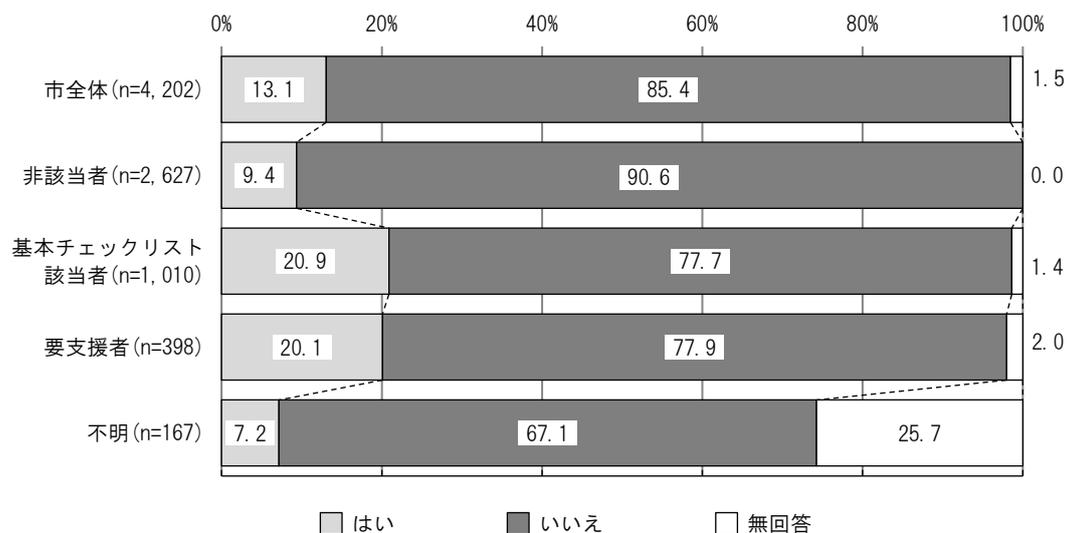
2～3 kg 以上の体重減少に関する設問（問3・Q9）で「はい」と回答した基本チェックリスト該当者が 20.9%おり、要支援者（20.1%）よりわずかに多い結果となっています。

図表 回答結果

問3・Q1. 身長と体重（BMI = 体重（kg） / 身長（m） / 身長（m） < 18.5 低体重）



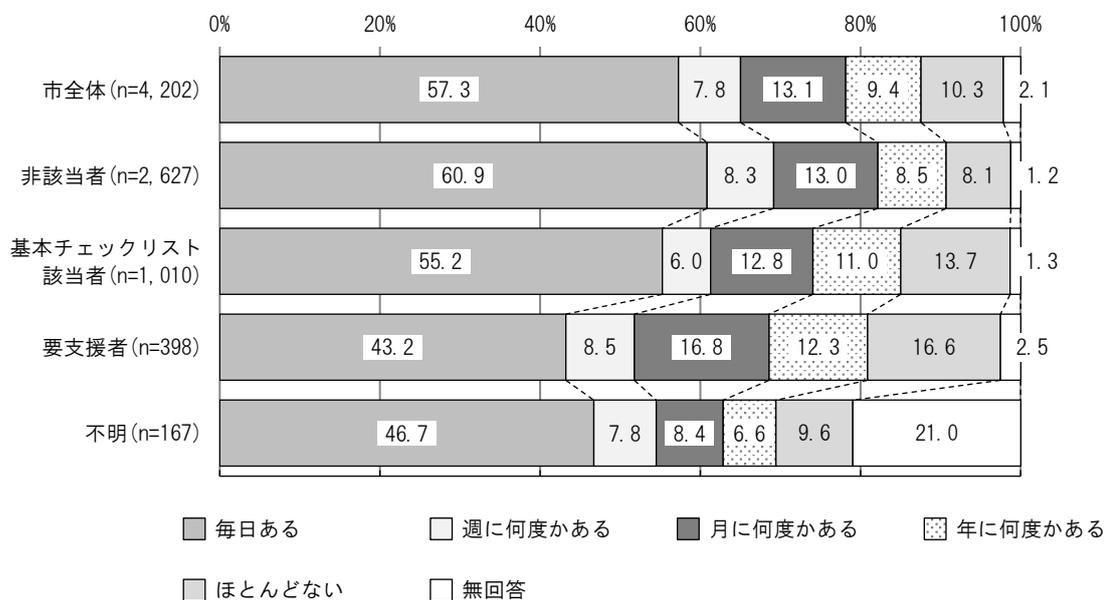
問3・Q9. 6か月間で2～3 kg 以上の体重減少がありましたか（はい）



また、誰かとともに食事をする機会（問3・Q10）に関する設問では、要支援者の「毎日ある」が43.2%と5割を割って最も低くなっています。

図表 回答結果-2

問3・Q10 どなたかと食事をとる機会がありますか



2 生活機能

(5) 口腔

ア 設問と評価

基本チェックリストでは、下の3つの設問に対する回答から、栄養と関連する指標として口腔機能のリスク判定がされます。

具体的には、3問中2問以上に該当した場合に口腔機能低下と判定されます。

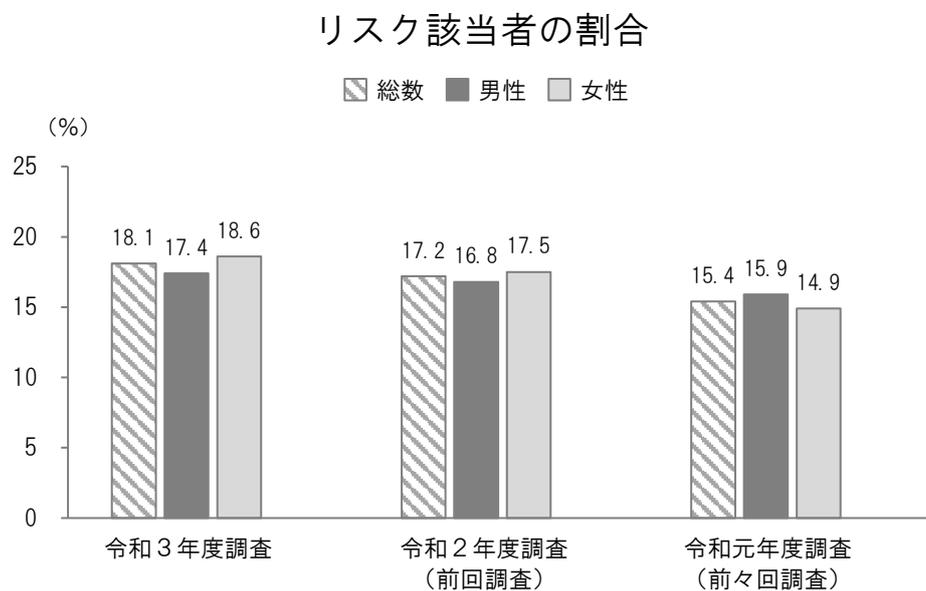
図表 口腔機能に関する設問（基本チェックリスト）

問番号	設 問	該当する選択肢
問3・Q2	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「1. はい」
問3・Q3	お茶や汁物等でむせることがありますか	「1. はい」
問3・Q4	口の渇きが気になりますか	「1. はい」

イ 評価結果

結果をみると、回答のあった高齢者全体で 18.1% : 759 人、男性 17.4% : 319 人、女性 18.6% : 440 人がリスク該当者となっています。過去の調査と比較すると、令和元年度調査（前々回調査）から年々増加しています。

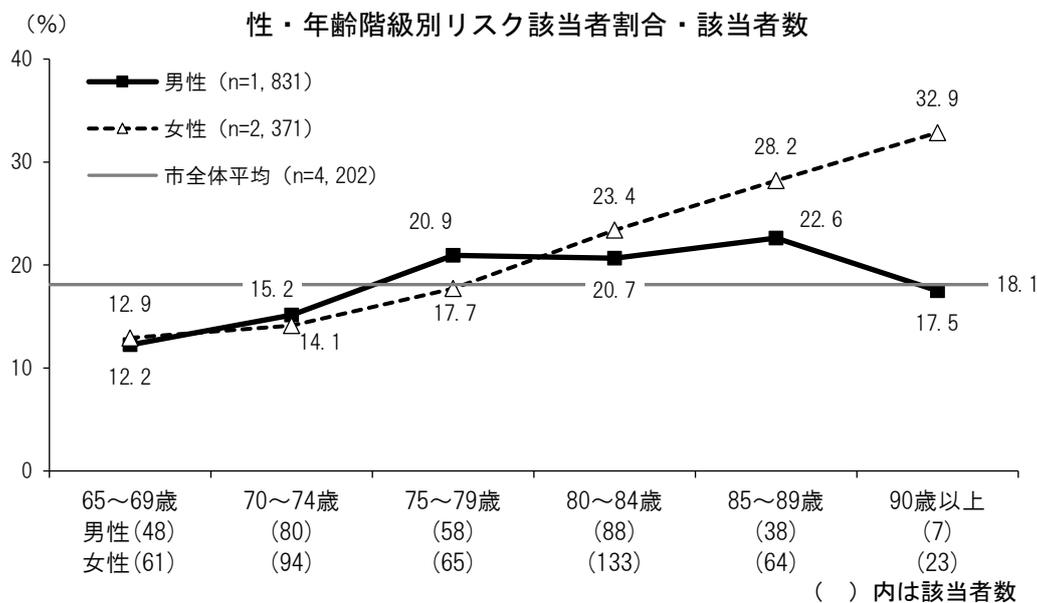
図表 リスク該当状況—口腔機能の低下



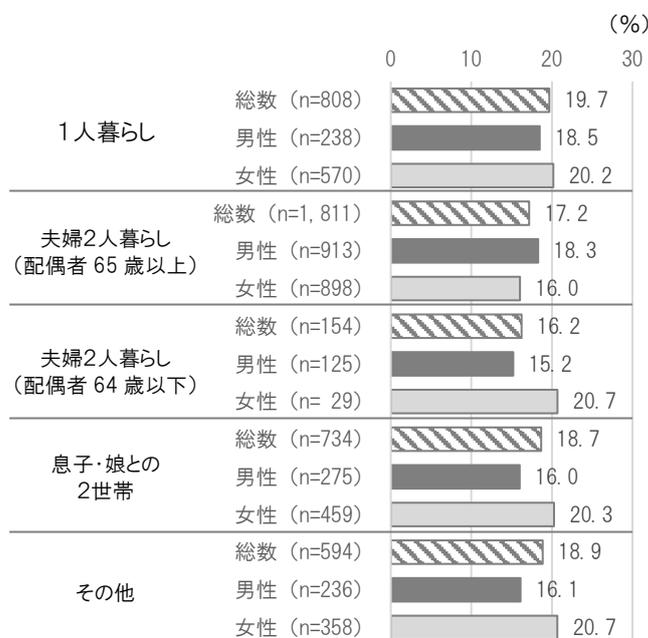
性・年齢階級別にリスク該当者割合をみると、男性は85～89歳が最も高くなっています。女性は年齢とともに高くなり、90歳以上で32.9%と最も高くなっています。

世帯構成別にみると、全体では息子・娘との2世帯の女性でリスク該当者割合が比較的高くなっています。

図表 口腔機能の低下 リスク該当状況一性・年齢階級別、世帯構成別



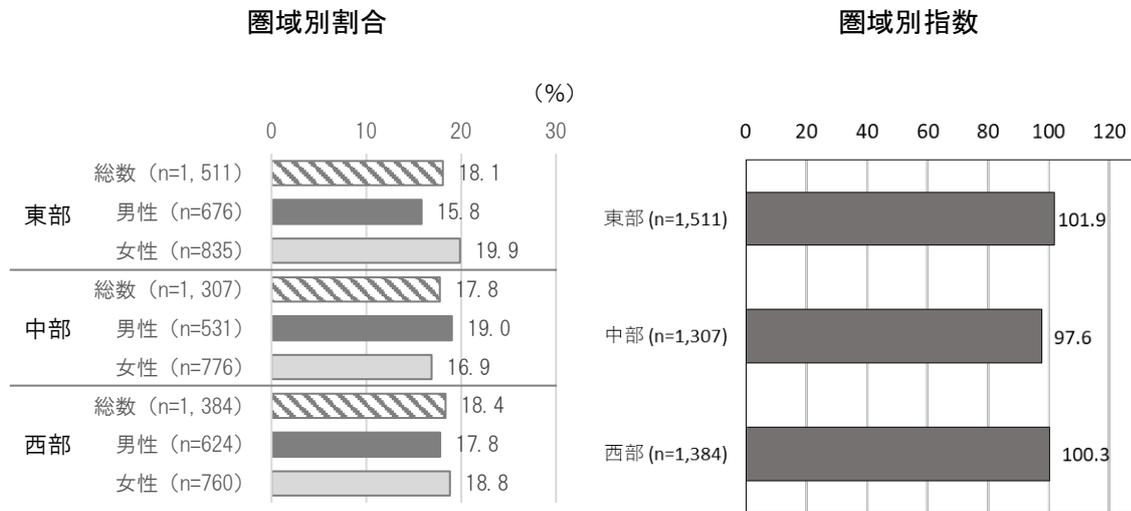
世帯構成別割合



2 生活機能

圏域別割合をみると、東部圏域の女性が19.9%と他圏域に比べて高くなっています。
 圏域別指数をみると、東部圏域が101.9で最も高くなっています。

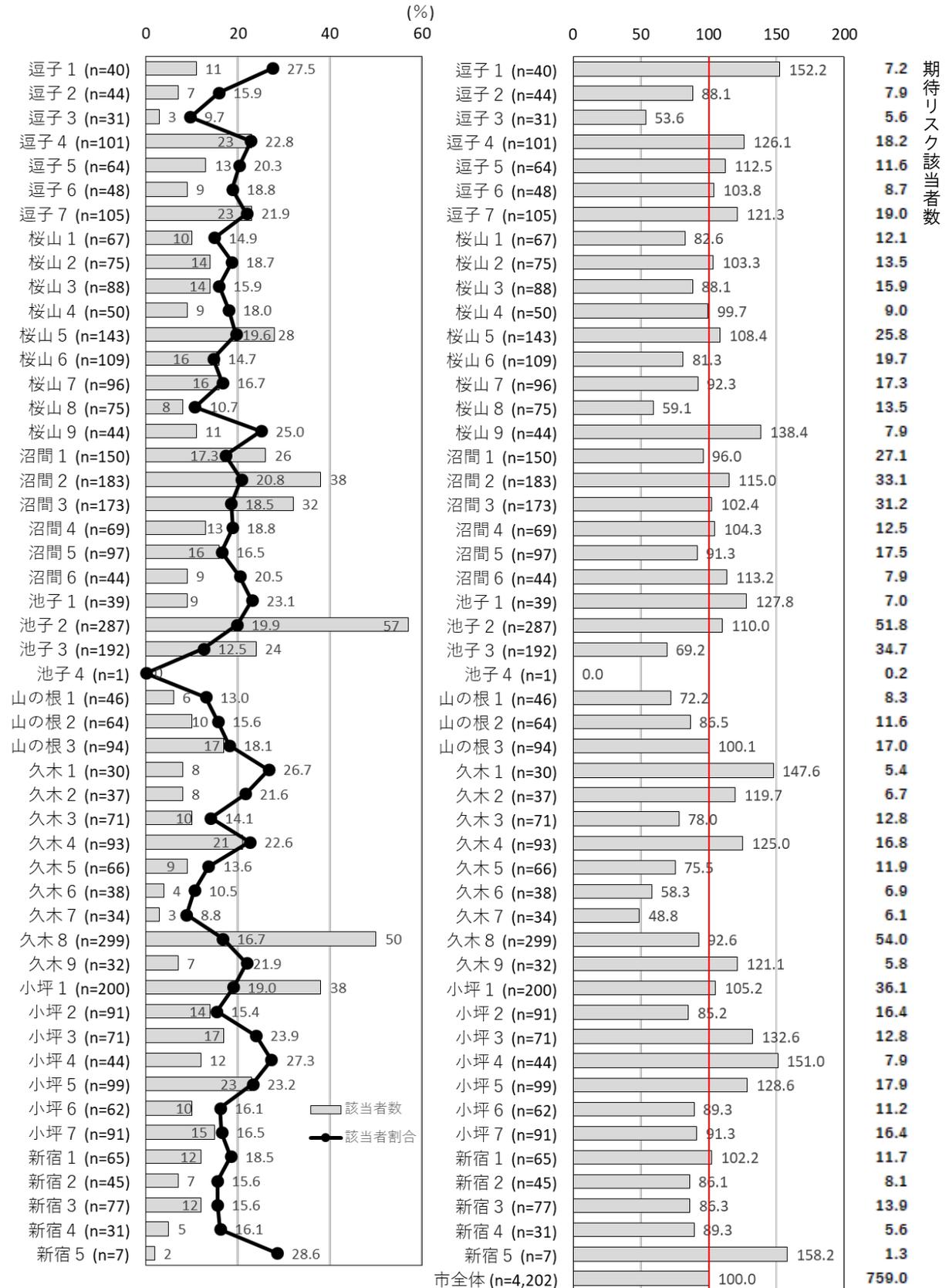
図表 口腔機能リスク該当状況—圏域別割合、圏域別指数



2 生活機能

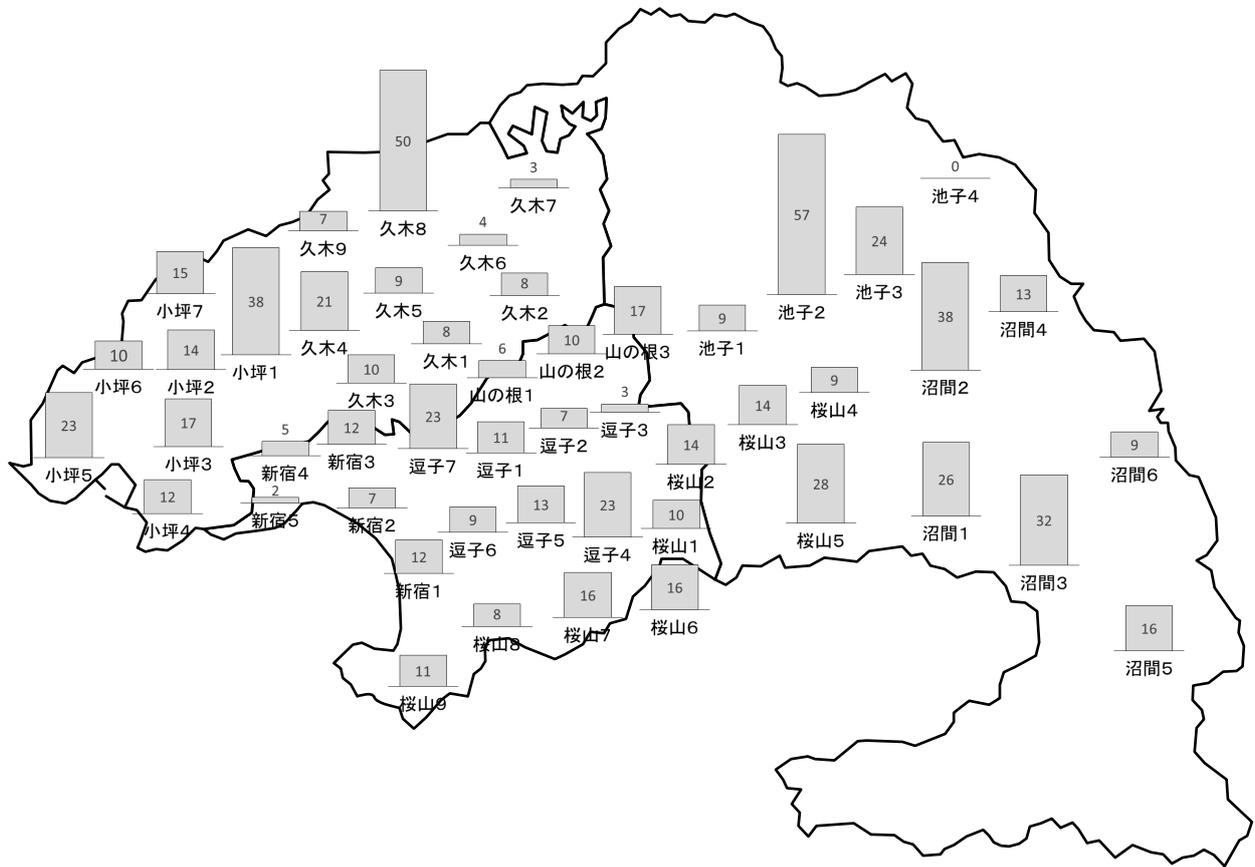
町丁別リスク該当者数をみると、池子2丁目と久木8丁目で該当者が50人を超えて多くなっています。町丁別指数をみると、新宿5丁目、逗子1丁目、小坪4丁目が150を超えて高くなっています。

図表 口腔機能の低下（左：町丁別リスク該当者数・割合 右：町丁別指数）



2 生活機能

図表 町丁別リスク該当者数の分布：口腔機能の低下

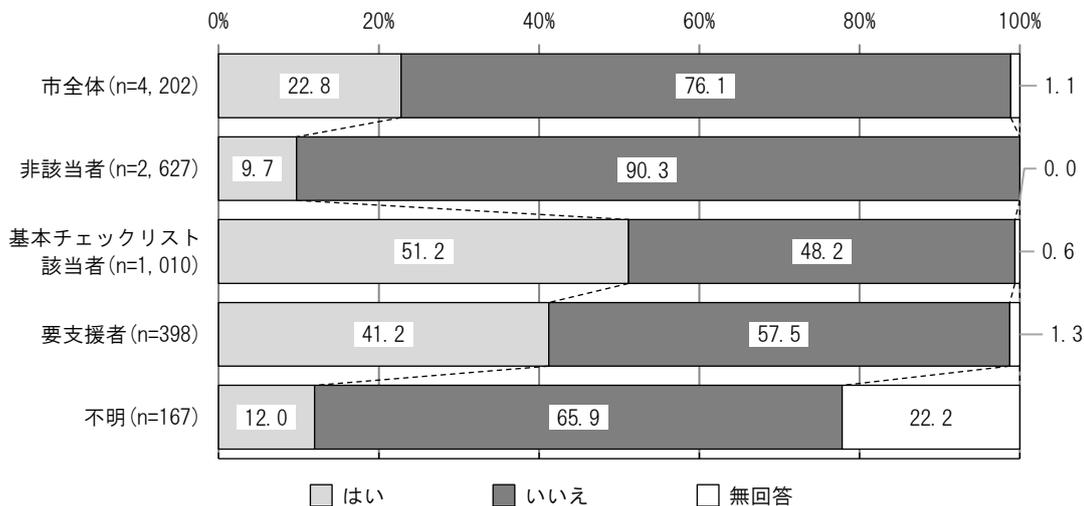


ウ 回答結果

評価の基礎となった設問に対する回答をみると、3問とも基本チェックリスト該当の方が要支援者よりも多くリスク該当に係る回答をしています。

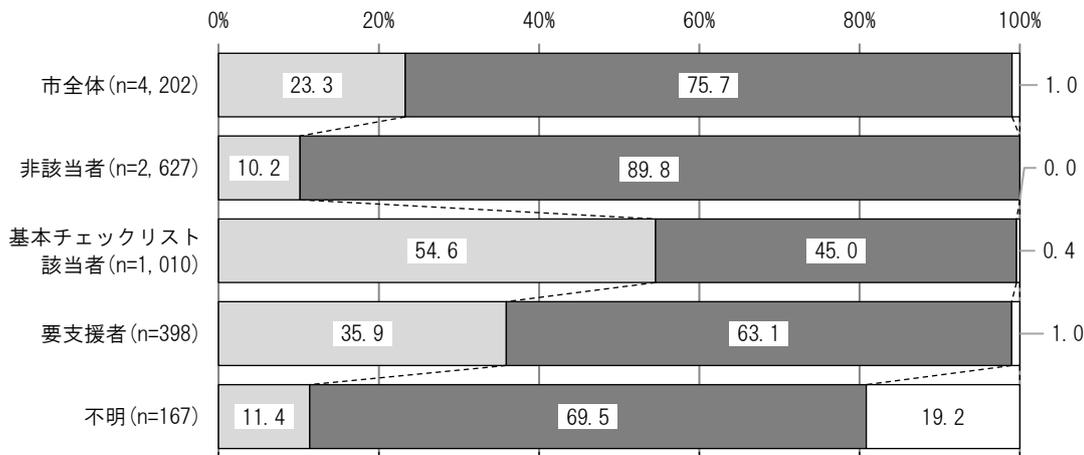
図表 口腔に関する設問

問3・Q2. 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか（はい）

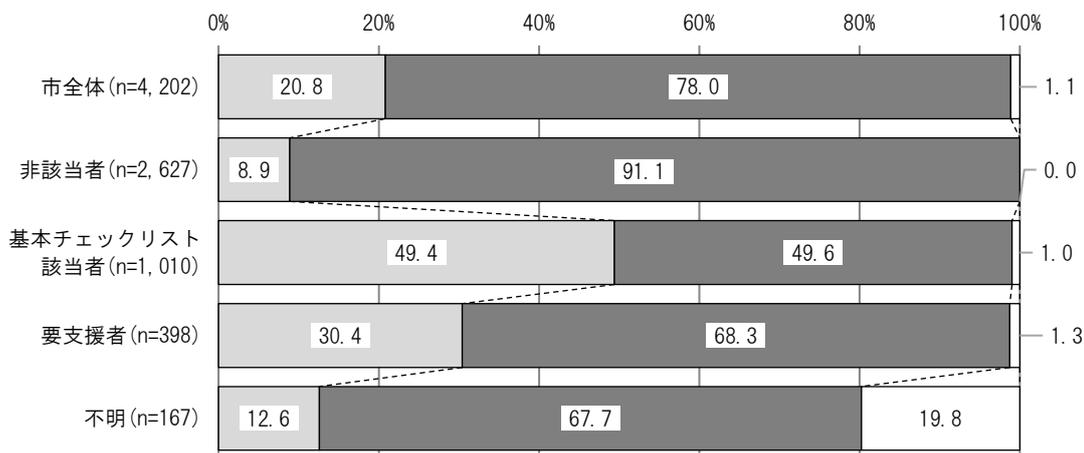


※凡例は以下同じ

問3・Q3. お茶や汁物等でむせることがありますか（はい）



問3・Q4. 口の渇きが気になりますか（はい）



2 生活機能

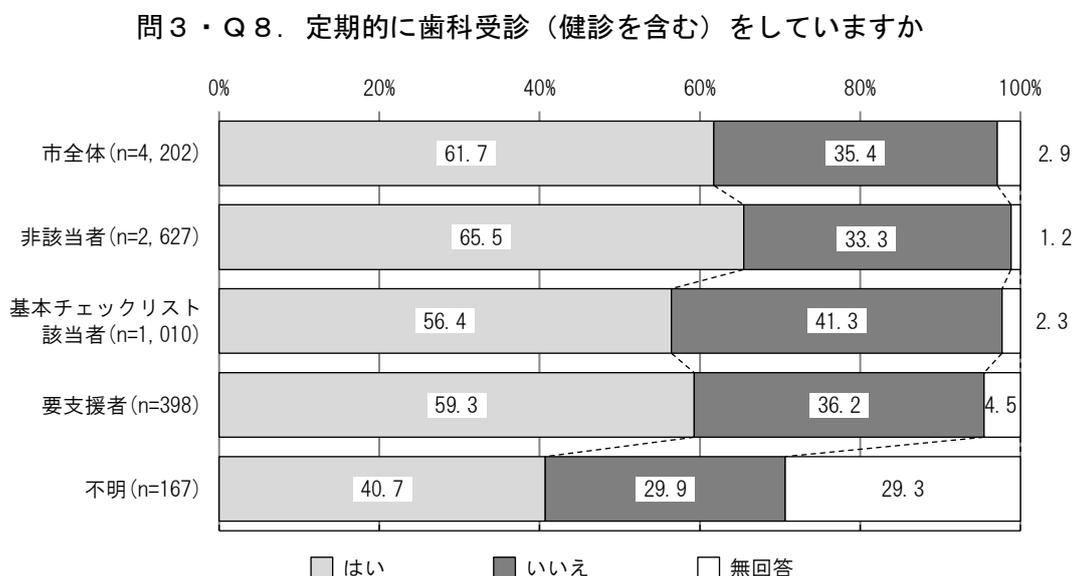
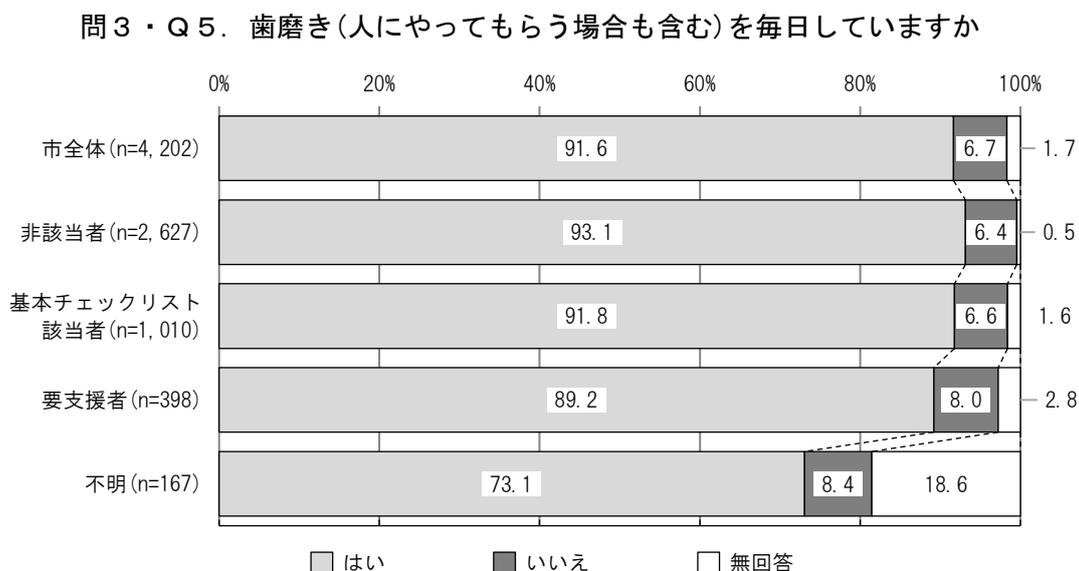
エ 関連設問

関連設問に対する回答をみると、毎日の歯磨きをしているかについては、全体で 6.7%が「いいえ」と回答しています。また、定期的に歯科受診（健診）をしているかについては、非該当者、要支援者、基本チェックリスト該当者の順に「はい」が少なくなっています。

歯の数と入れ歯使用の有無をみてみると、全体では「自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯の利用なし」（42.0%）、「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」（28.7%）の順に多くなっています。「自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用」（17.2%）も含めると、入れ歯を利用している人の割合は全体の 4 割を超えています。

入れ歯を利用している方に、「毎日入れ歯の手入れをしているか」について聞くと、「はい」との回答が全体で 88.6%、「いいえ」との回答が 5.1%となっており、認定・該当状況別においても同様の割合となっていますが、噛み合わせが良いかについては、非該当者では「いいえ」が 7.5%であるのに対し、基本チェックリスト該当者では 22.1%、要支援者では 13.6%と多くなっています。

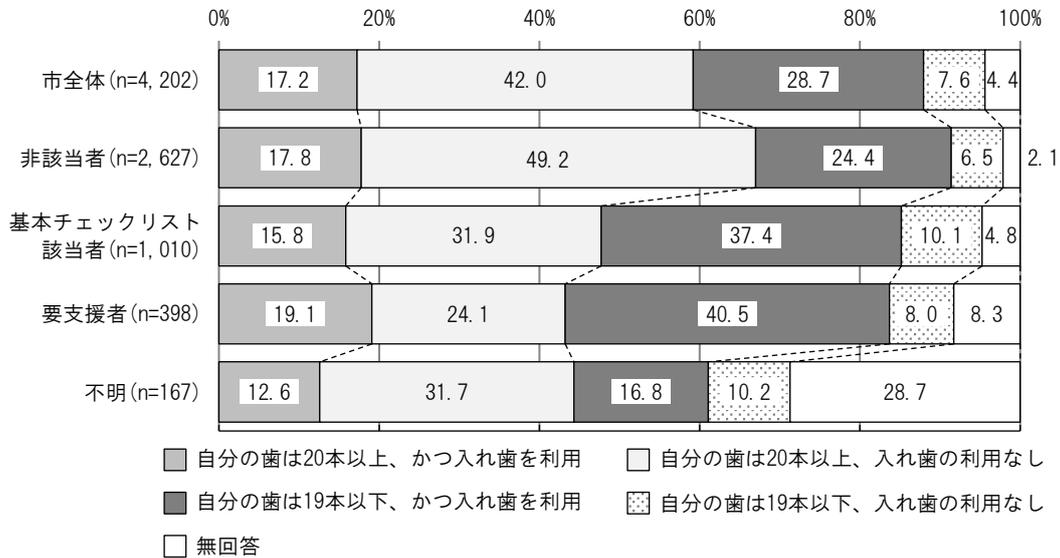
図表 口腔に関する設問・回答-1



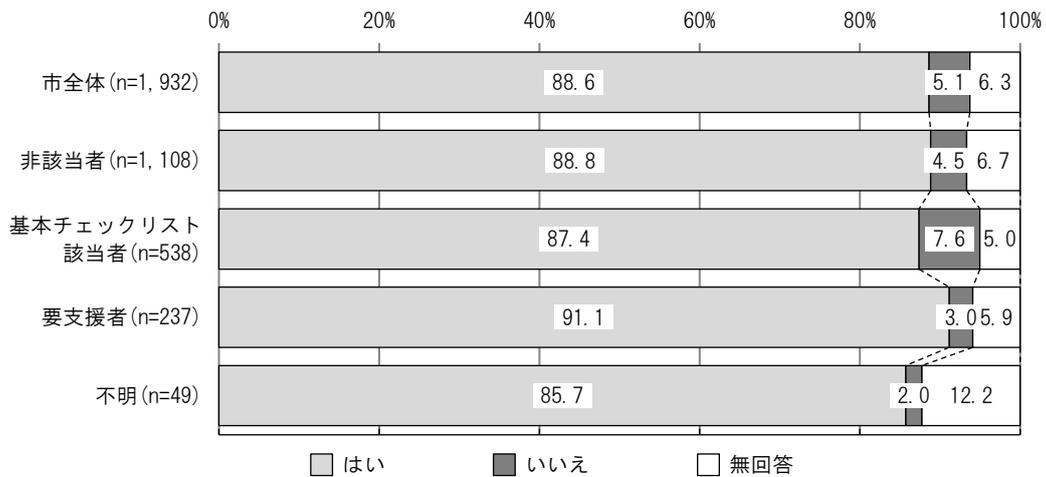
(5) 口腔

図表 口腔に関する設問・回答-2

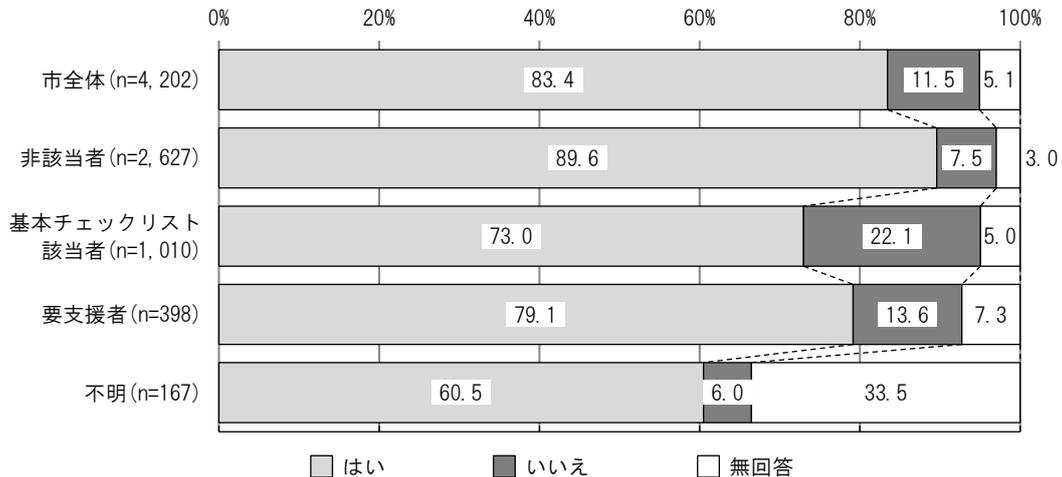
問3・Q6. 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください
(成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です)



問3・Q6-1. (入れ歯のある方のみ) 毎日入れ歯の手入れをしていますか



問3・Q7. 噛み合わせは良いですか



2 生活機能

(6) 認知機能

ア 設問と評価

今回、国のニーズ調査の手引きより、問4・Q1設問に対する回答から、認知機能低下リスクの判定をしています。

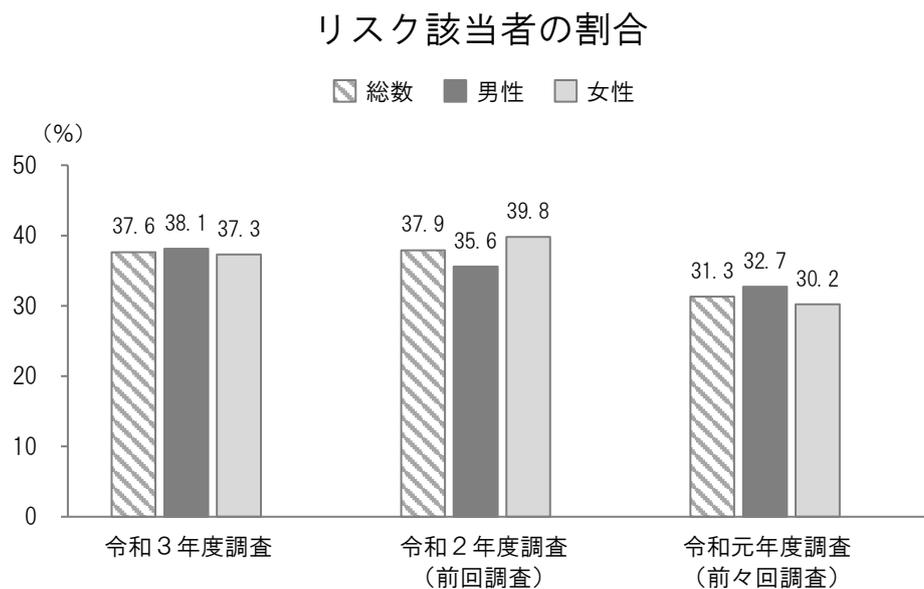
図表 認知機能に関する設問（国のニーズ調査の手引き）

問番号	設 問	該当する選択肢
問4・Q2	物忘れが多いと感じますか	「1. はい」

イ 評価結果

結果をみると、回答のあった高齢者全体で、37.6%：1,582人、男性38.1%：697人、女性37.3%：885人がリスク該当者となっています。過去の調査と比較すると、全体で令和元年度調査（前々回調査）から増加しています。

図表 リスク該当状況－認知機能低下

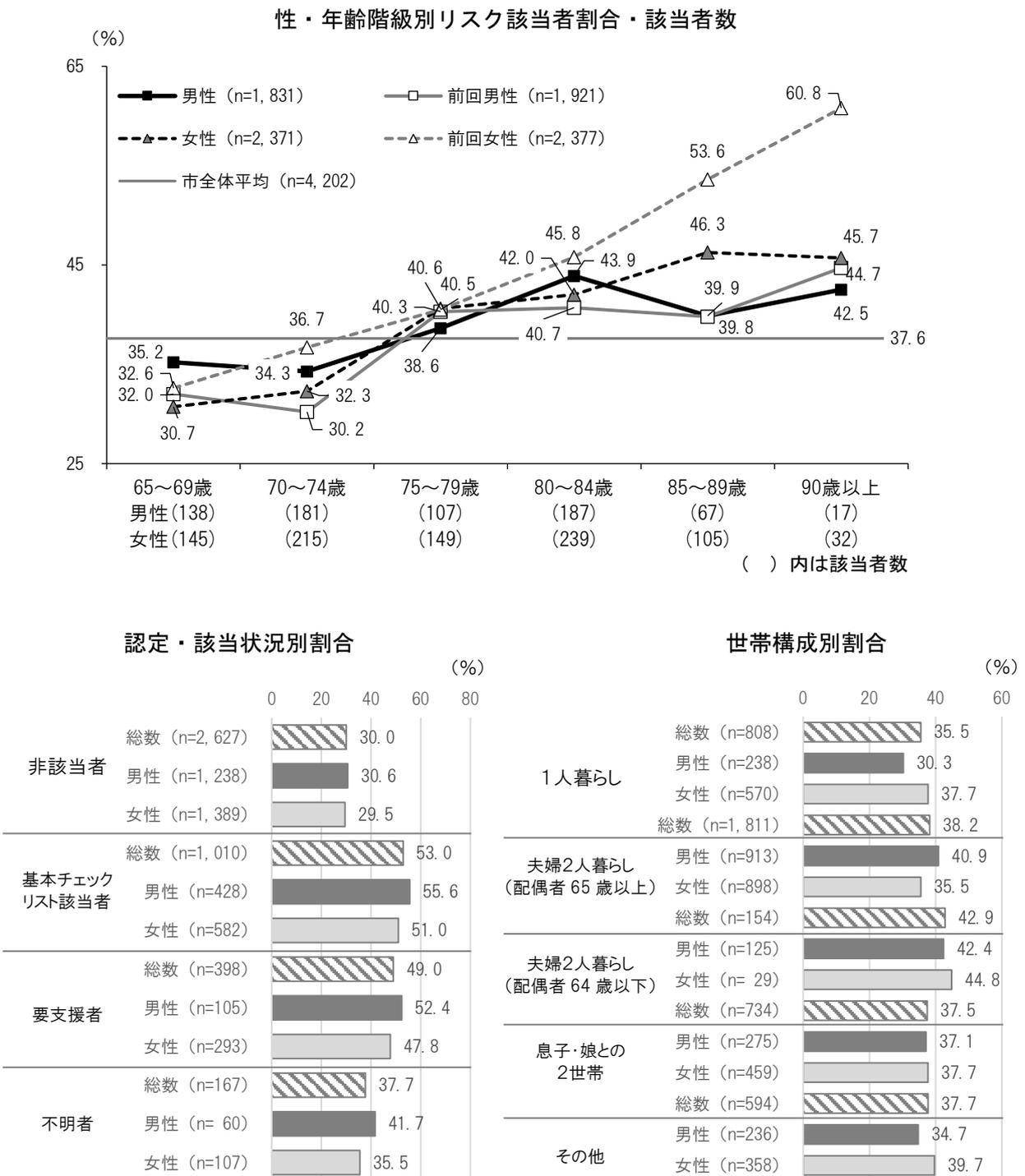


性・年齢階級別にみると、男女ともに年齢が上がるにつれてリスク該当者割合が高くなっています。令和2年度（前回調査）との比較でみると、折れ線の傾きは緩やかになってはいますが、前回も今回も、男女ともに75～79歳から市全体平均より高くなっています。

認定・該当状況別にみると、基本チェックリスト該当者が53.0%と半数を超えています。

世帯構成別では、夫婦2人暮らし世帯（配偶者64歳以下）の女性が44.8%、男性が42.4%、夫婦2人暮らし世帯（配偶者65歳以上）の男性が40.9%と、40%を超えて比較的高くなっています。

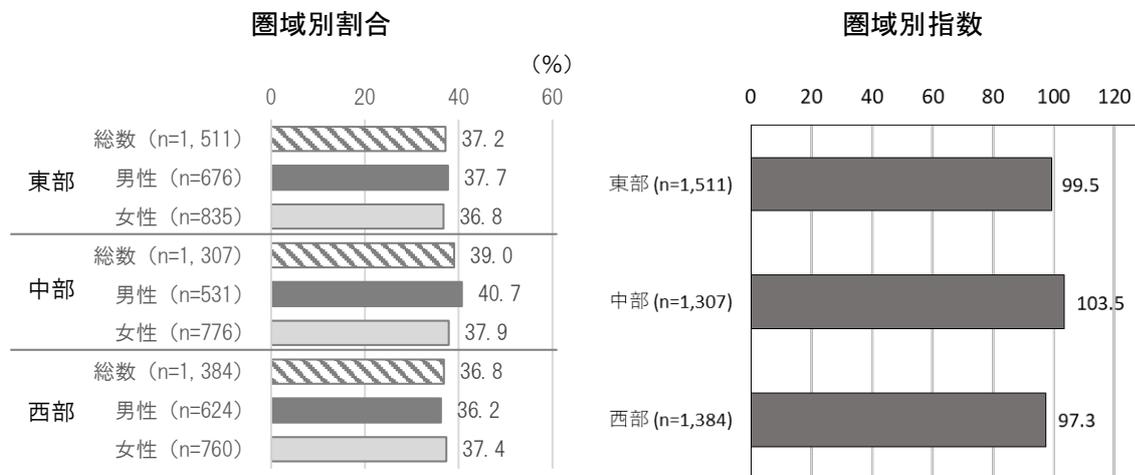
図表 認知機能低下 リスク該当状況一性・年齢階級別、認定・該当状況別、世帯構成別



2 生活機能

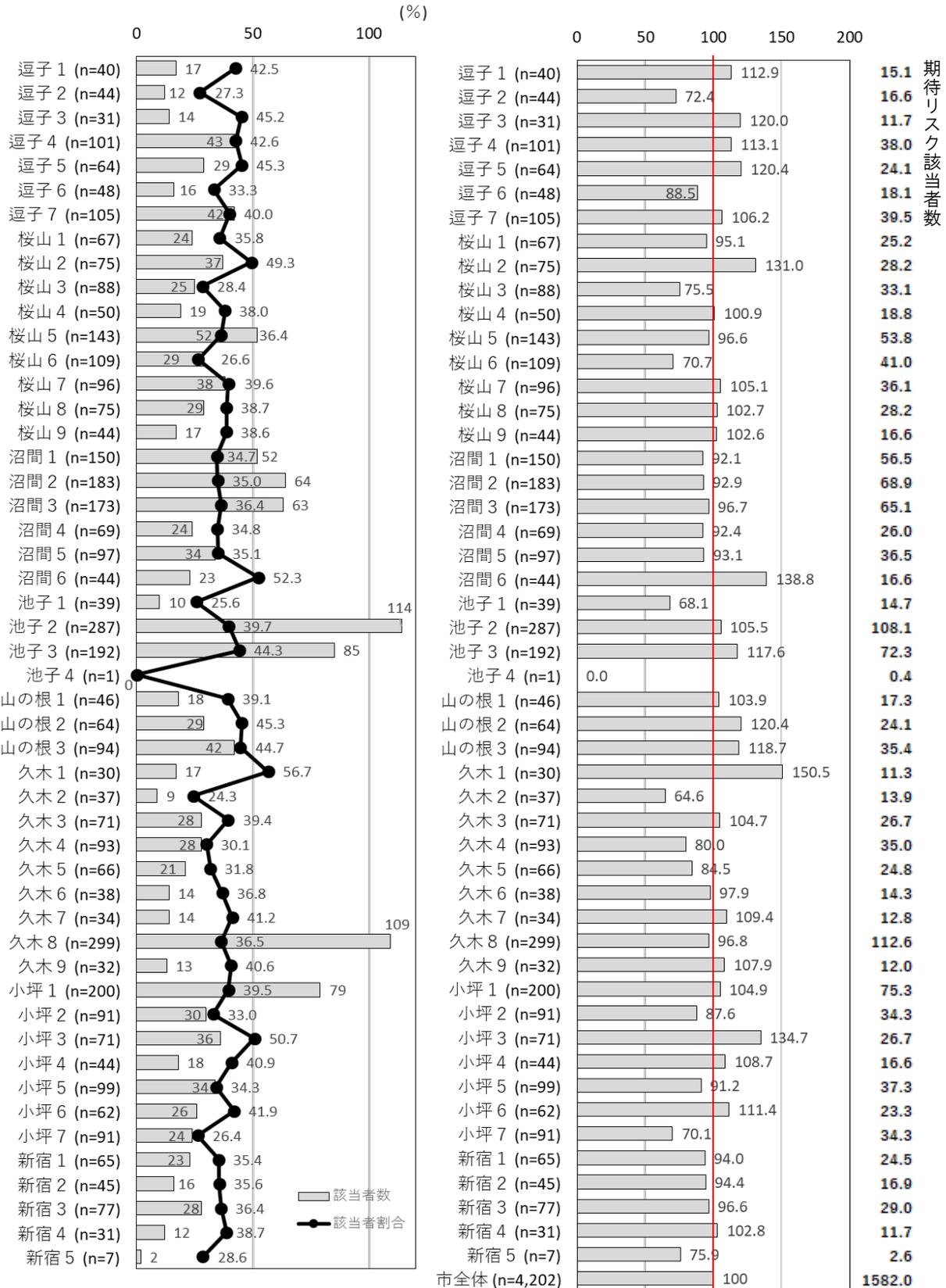
圏域別割合をみると、中部圏域が 39.0%と最も高く、男性は 40%を超えています。
 圏域別指数においても、中部圏域が 103.5 と最も高くなっています。

図表 認知機能低下 リスク該当状況—圏域別割合、圏域別指数



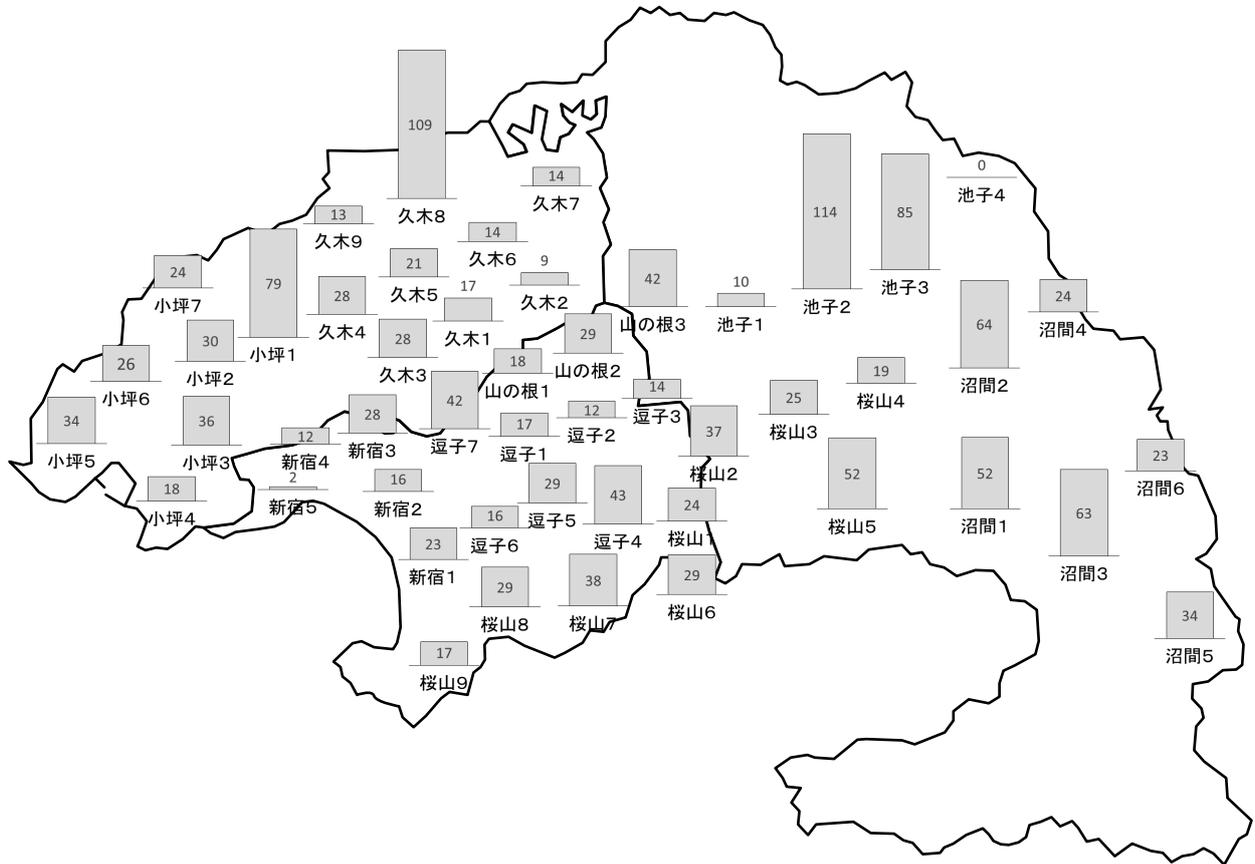
町丁別リスク該当者数をみると、池子2丁目が114人、次いで久木8丁目が109人と100人を超えています、町丁別指数をみると、久木1丁目、沼間6丁目、小坪3丁目、桜山2丁目、逗子5丁目、山の根2丁目、逗子3丁目が高くなっています。

図表 認知機能低下（左：町丁別リスク該当者数・割合 右：町丁別指数）



2 生活機能

図表 町丁別リスク該当者数の分布：認知機能低下

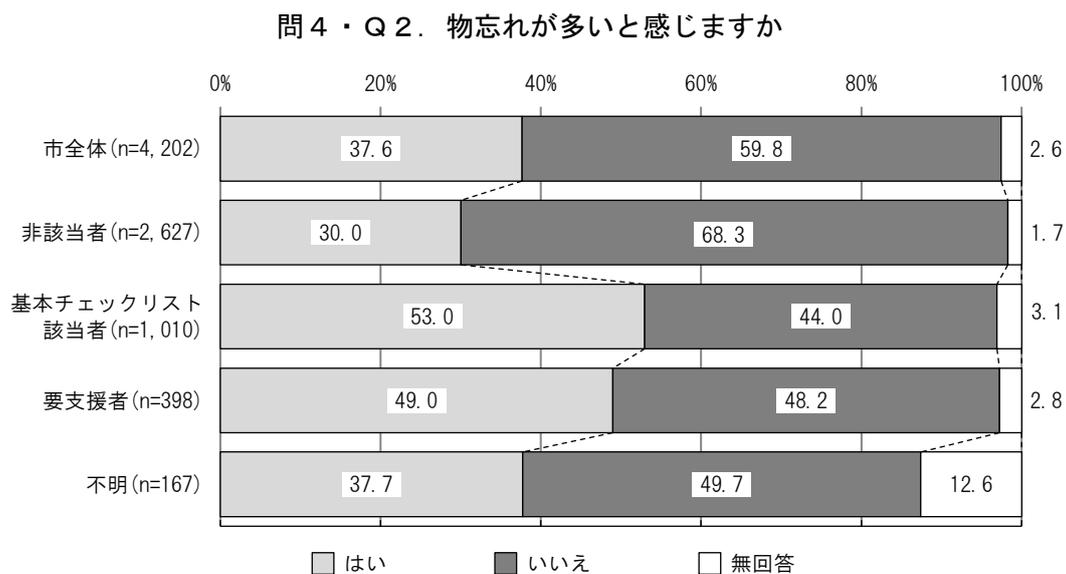


ウ 回答結果-1

物忘れが多いかについては、国のニーズ調査の手引きによる認知機能の低下を問う設問で、この設問に「はい」と回答した場合は、認知機能の低下が疑われる高齢者となります。全体では37.6%が「はい」と回答しています。

認定・該当状況別では、非該当者で30.0%、基本チェックリスト該当者で53.0%、要支援者で49.0%、不明で37.7%が「はい」と回答しており、認知機能の低下が疑われる高齢者が3割以上いると考えられます。

図表 物忘れ



2 生活機能

エ 回答結果-2

基本チェックリストでは、下の3つの設問に対する回答から、認知機能低下リスクの判定ができます。

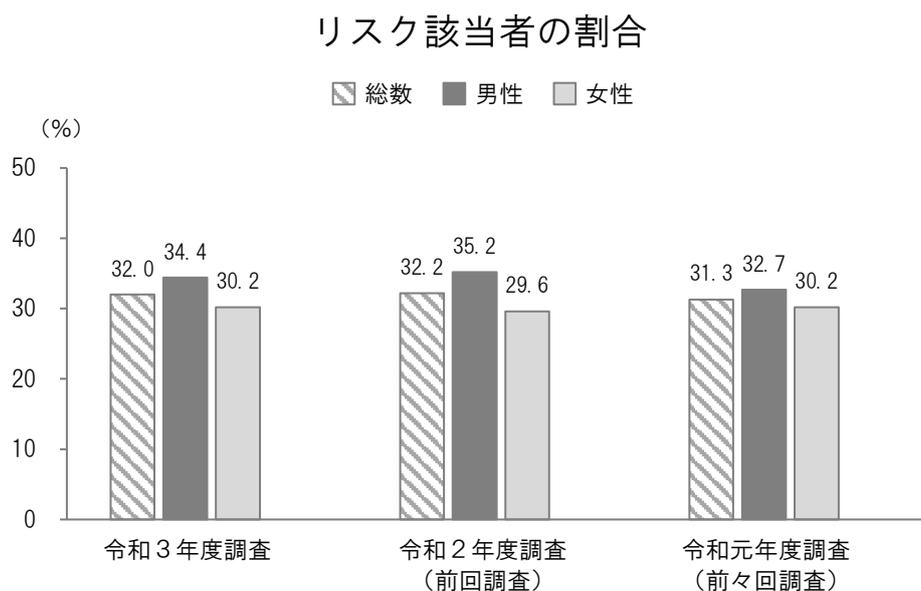
具体的には、3問中1問以上に該当した場合に、認知機能低下と判定されます。

図表 認知機能に関する設問（基本チェックリスト）

問番号	設 問	該当する選択肢
問4・Q3	周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあるとされますか	「1. はい」
問4・Q4	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	「2. いいえ」
問4・Q5	今日が何月何日かわからないときがありますか	「1. はい」

結果をみると、回答のあった高齢者全体で、32.0%：1,344人、男性34.4%：629人、女性30.2%：715人がリスク該当者となっています。過去の調査と比較すると、全体と男性は令和2年度調査（前回調査）から減少し、女性は増加しています。

図表 リスク該当状況－認知機能低下

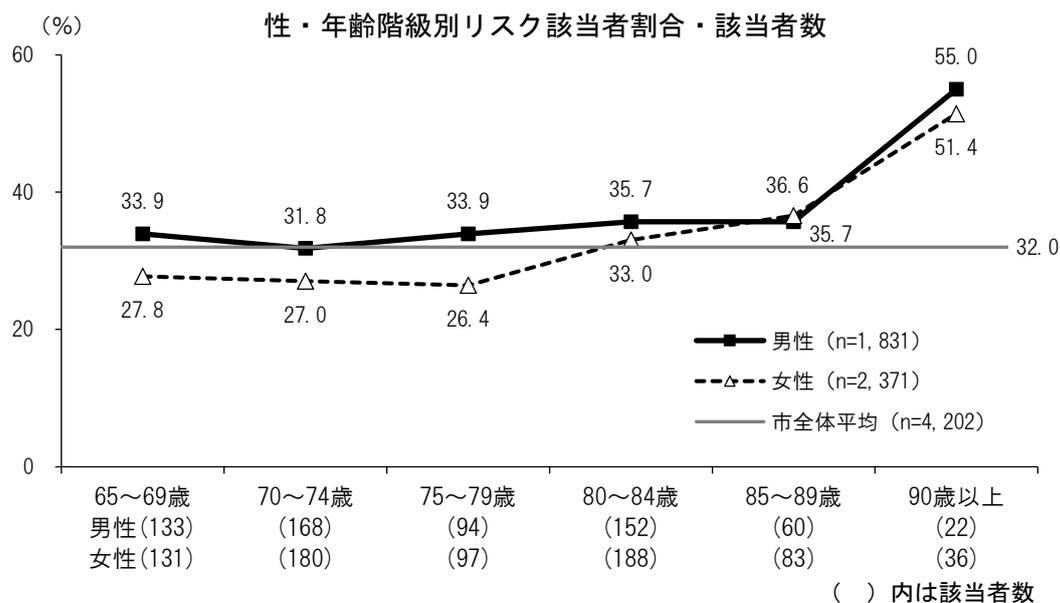


性・年齢階級別にみると、男女ともに65～89歳までは市全体平均付近で推移していますが、90歳以上になると急激に増え、5割を超える割合となっています。

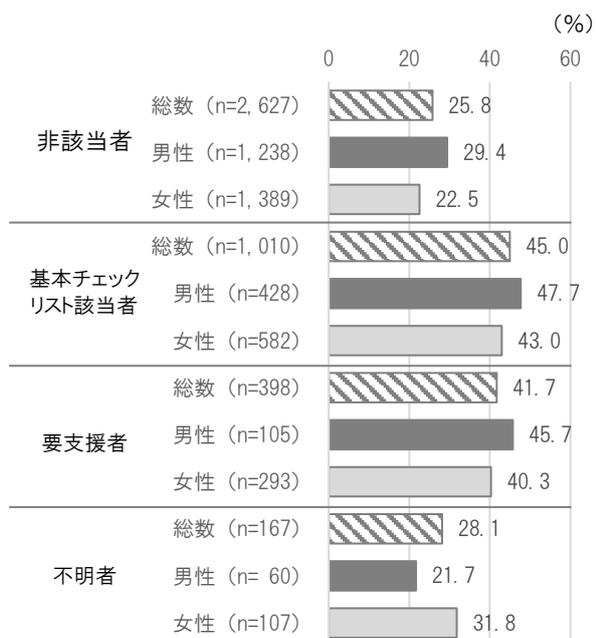
認定・該当状況別にみると、男性は基本チェックリスト該当者が47.7%、要支援者が45.7%と、いずれも女性より高くなっています。

世帯構成別では、女性の夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）世帯が41.4%と、最も高くなっています。

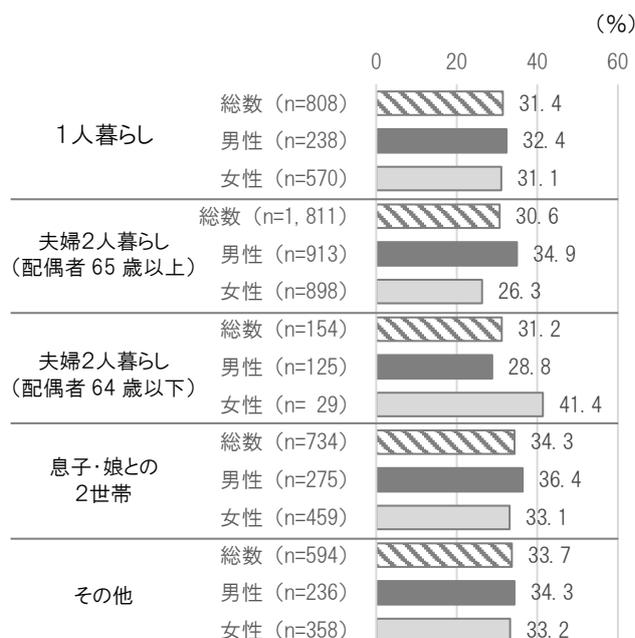
図表 認知機能低下 リスク該当状況一性・年齢階級別、認定・該当状況別、世帯構成別



認定・該当状況別割合



世帯構成別割合

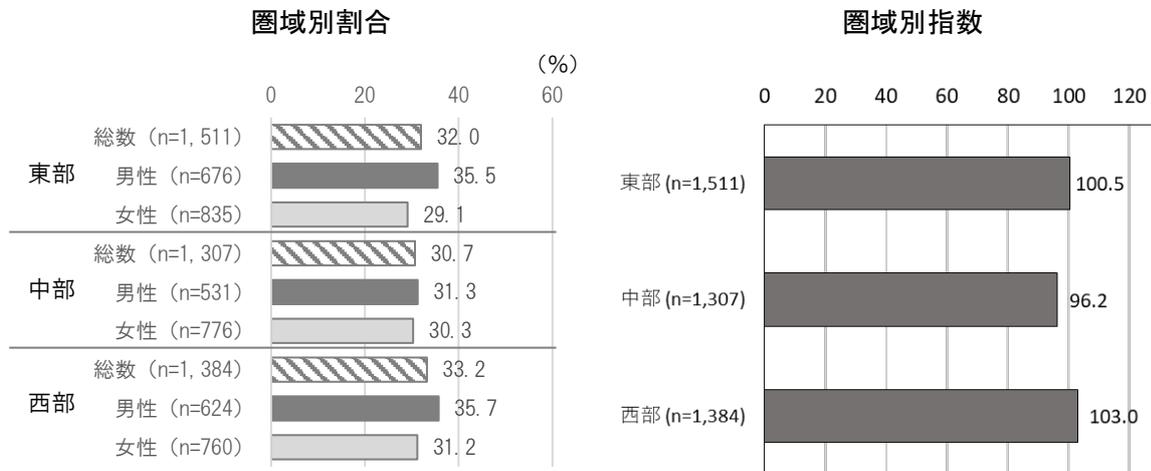


2 生活機能

圏域別割合をみると、中部圏域が 30.7%と他圏域に比べて低くなっています。

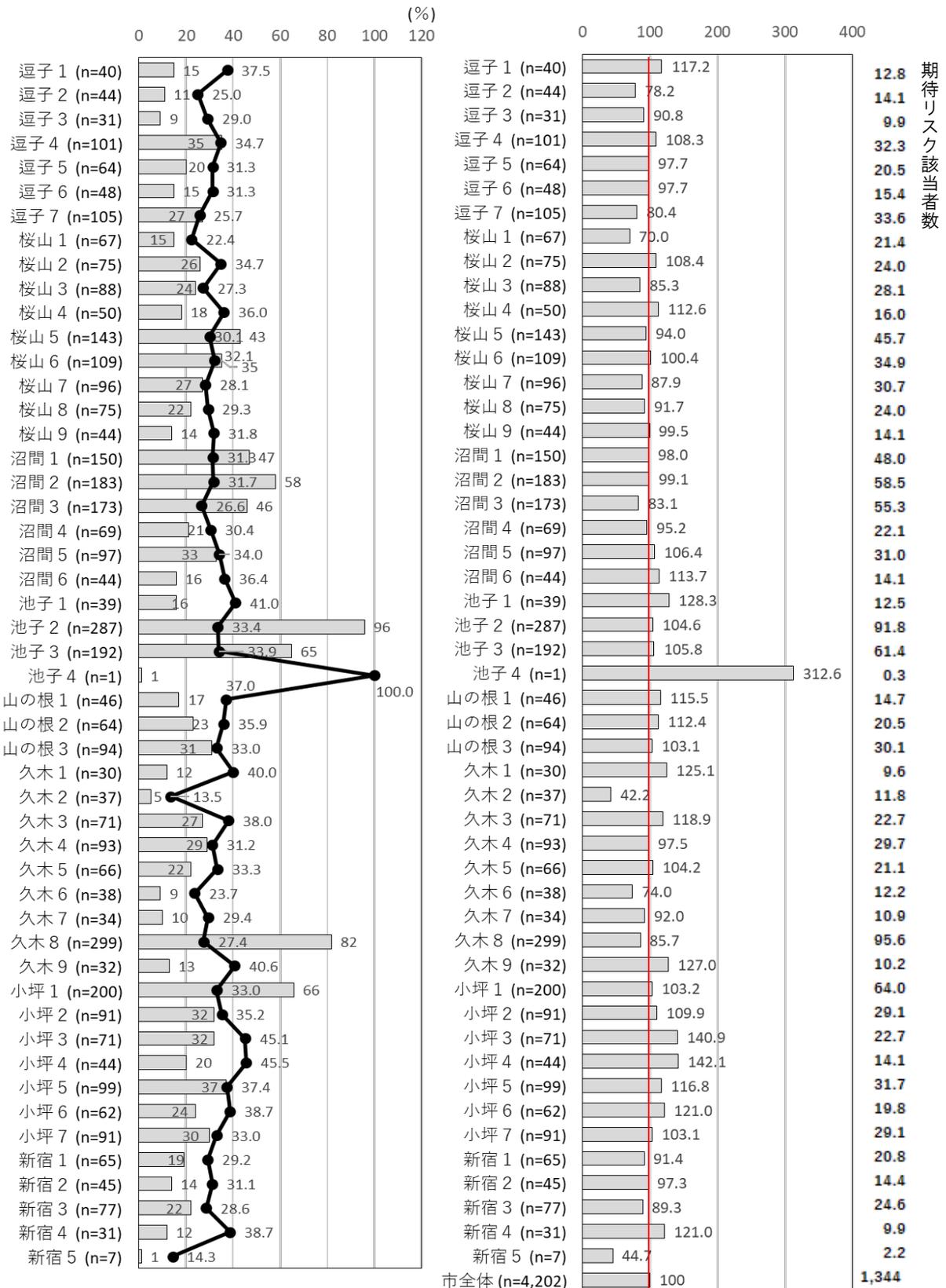
圏域別指数をみると、中部圏域が 96.2 と低くなっています。

図表 認知機能低下 リスク該当状況—圏域別割合、圏域別指数



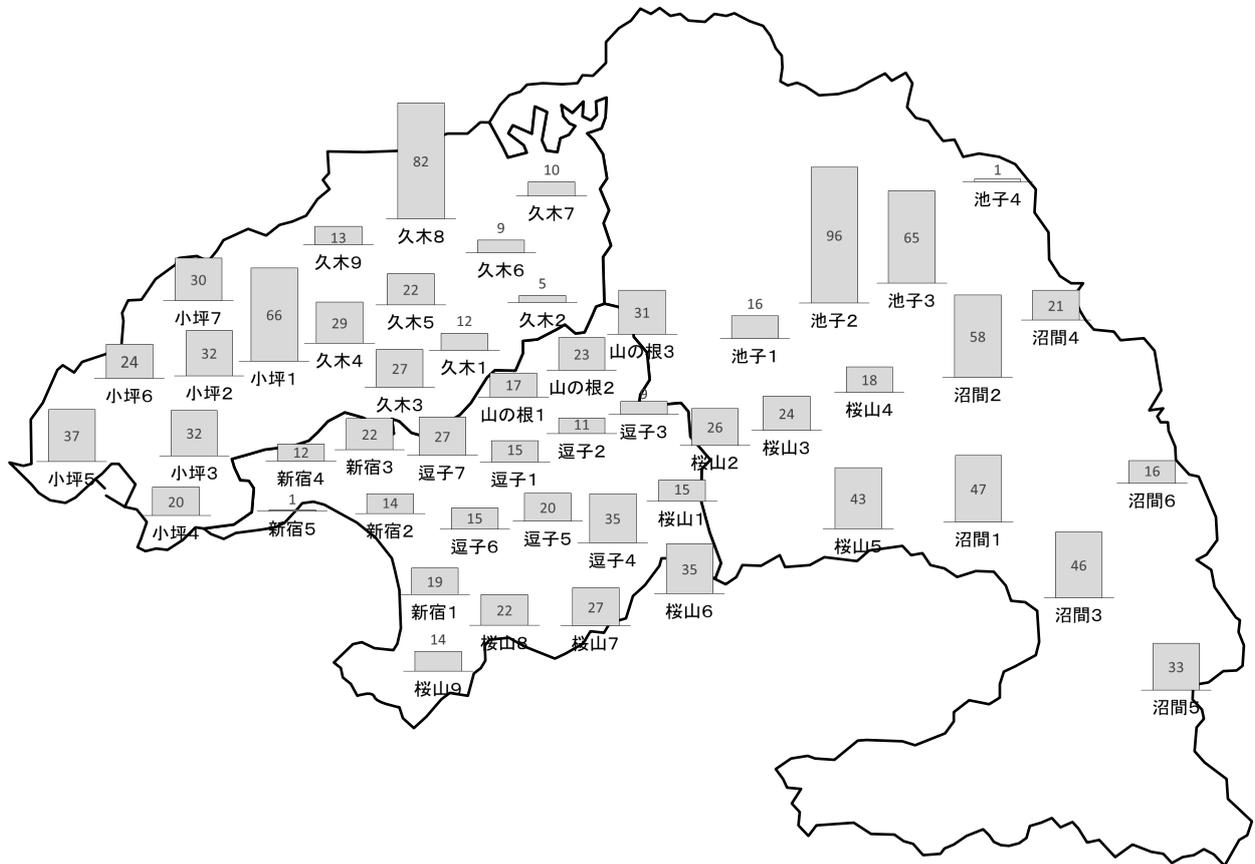
町丁別リスク該当者数をみると、池子2丁目、久木8丁目、小坪1丁目、池子3丁目、沼間2丁目の順に該当者が多くなっています。町丁別指数をみると、池子4丁目、小坪4丁目、小坪3丁目、池子1丁目、久木9丁目の順に高くなっています。

図表 認知機能低下（左：町丁別リスク該当者数・割合 右：町丁別指数）



2 生活機能

図表 町丁別リスク該当者数の分布：認知機能低下

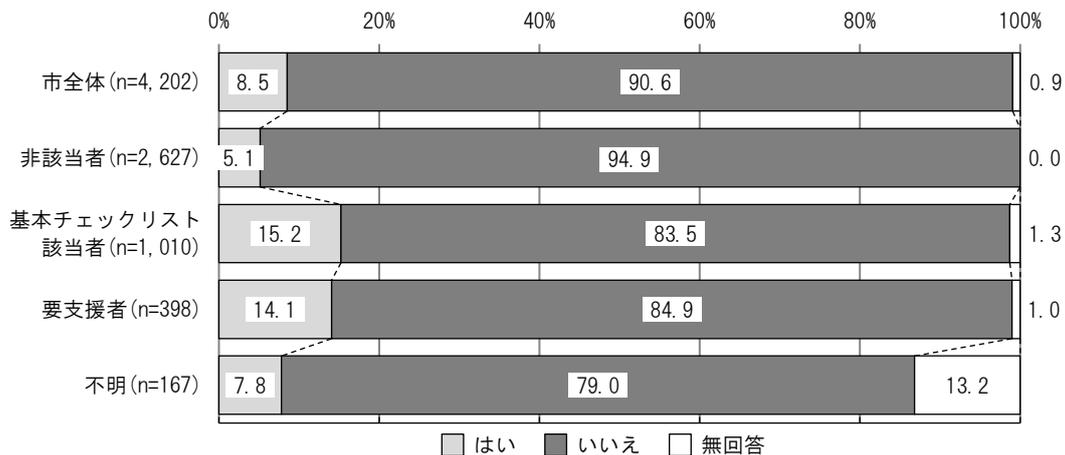


基本チェックリストによる判定対象となる設問への回答をみると、電話番号を調べての電話利用（問4・Q4）では全体で「いいえ」が11.3%となっています。

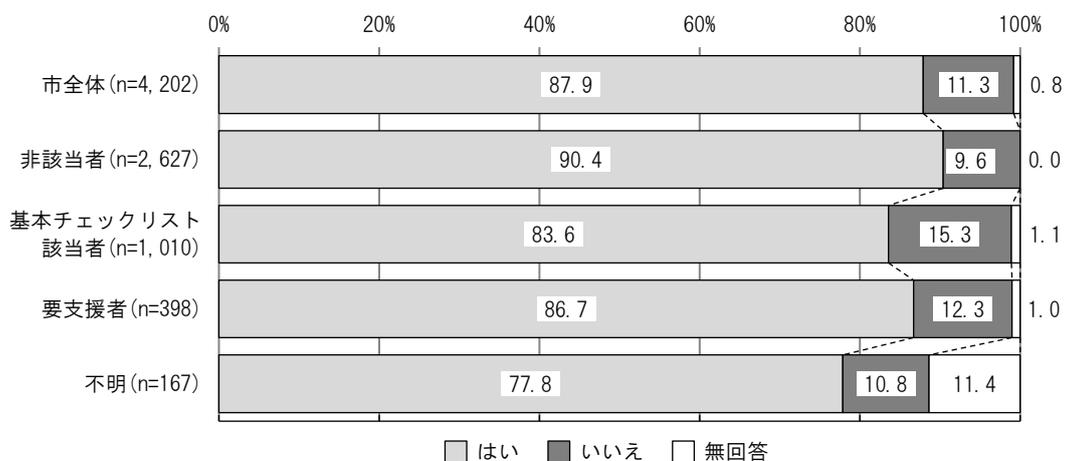
一方、日付の認識（問4・Q5）については、全体で「はい」が19.3%となっており、認定・該当状況別にみると、基本チェックリスト該当者が28.3%、要支援者が26.9%と高くなっています。

図表 回答結果

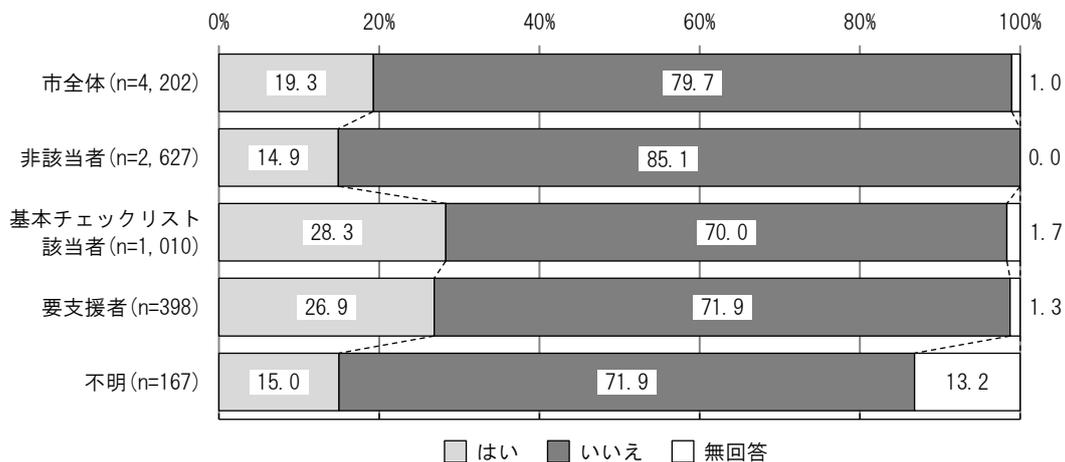
問4・Q3. 周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあるとされますか（はい）



問4・Q4. 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか（いいえ）



問4・Q5. 今日が何月何日かわからないときがありますか（はい）

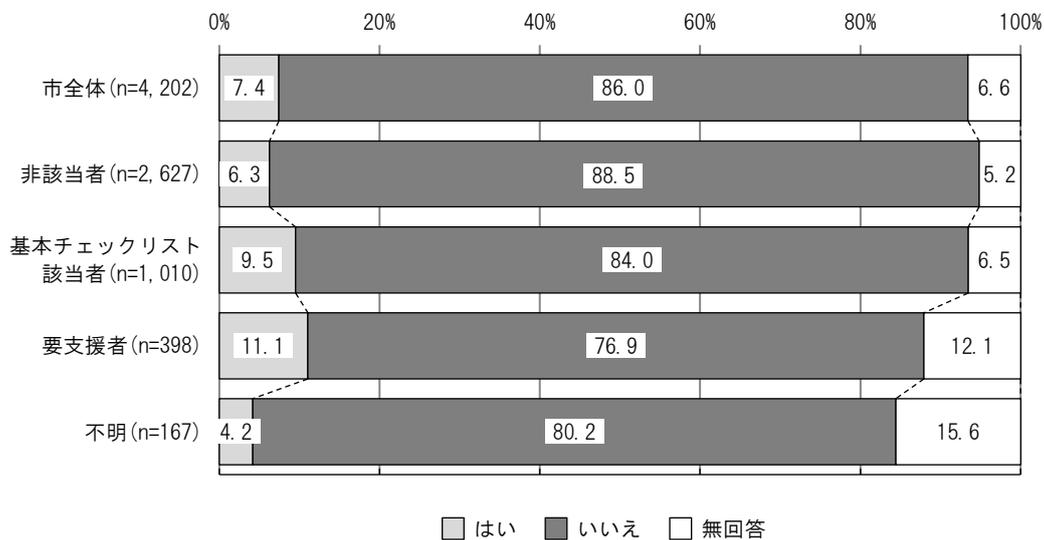


2 生活機能

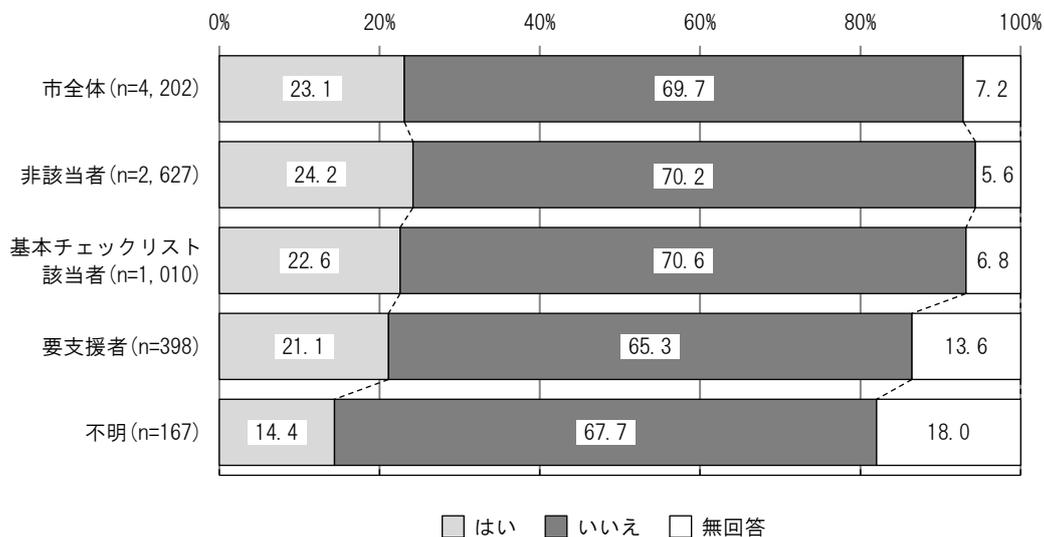
オ 関連設問

認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいるか（問7・Q1）については、要支援者で11.1%となっており、1割を超えています。また、認知症の相談窓口の認知度（問7・Q2）は2割台となっており、認知度が高いとはいえません。

問7・Q1. 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか



問7・Q2. 認知症に関する相談窓口を知っていますか



(7) うつ予防

ア 設問と評価

国のニーズ調査の手引きにより、下の2つの設問に対する回答でうつリスクの判定をしています。

具体的には、2問中1問以上に該当した場合は、うつ予防の対象者（うつ傾向）となります。

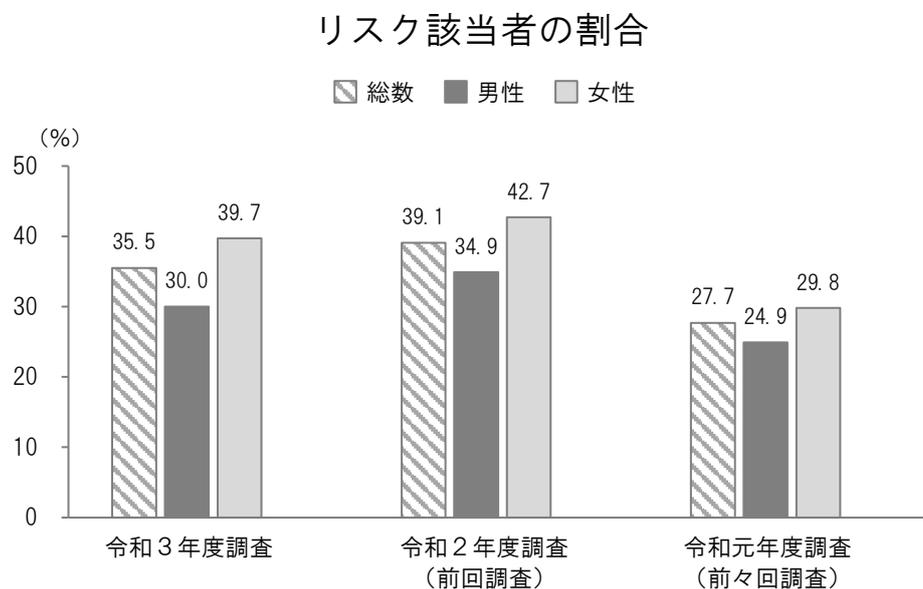
図表 うつ予防に関する設問（国のニーズ調査の手引き）

問番号	設 問	該当する選択肢
問6・Q3	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	「1. はい」
問6・Q4	この1か月間、どうしても物事に関して興味がわからない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	「1. はい」

イ 評価結果

結果をみると、回答のあった高齢者全体で、国のニーズ調査の手引きによる判定では35.5%：1,492人、男性30.0%：550人、女性39.7%：942人が該当者となっています。過去の調査と比較すると、全体で令和2年度調査（前回調査）から減少しています。

図表 リスク該当状況—うつ予防



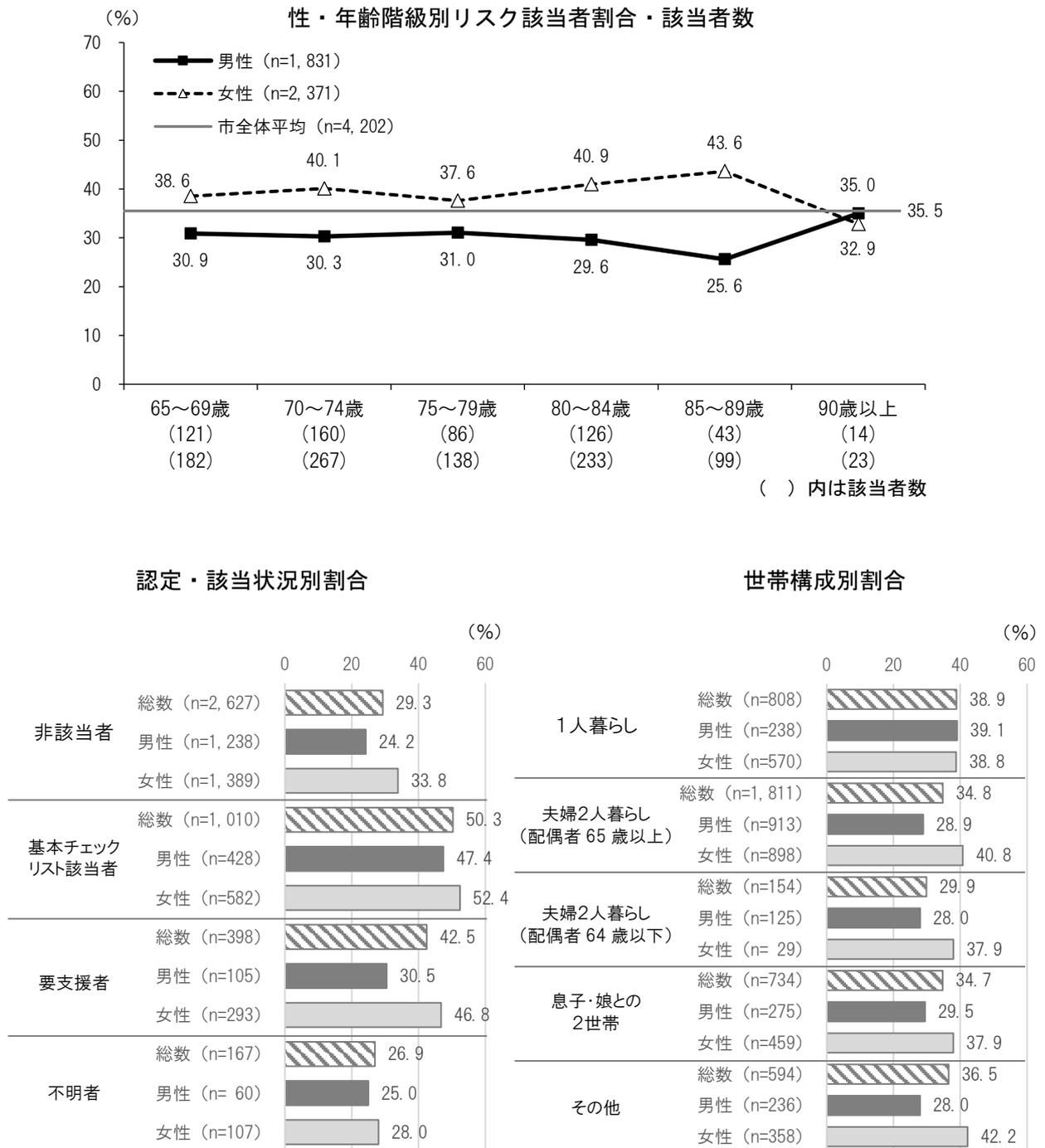
2 生活機能

性・年齢階級別にみると、女性においては89歳までの各年齢階級で市全体平均を超えています。一方男性は、すべての年齢階級で市全体平均を下回っています。

認定・該当状況別にみると、基本チェックリスト該当者が50.3%で、男女別にみても市全体平均(35.5%)を上回っています。また、要支援者も42.5%と、4割を超えています。

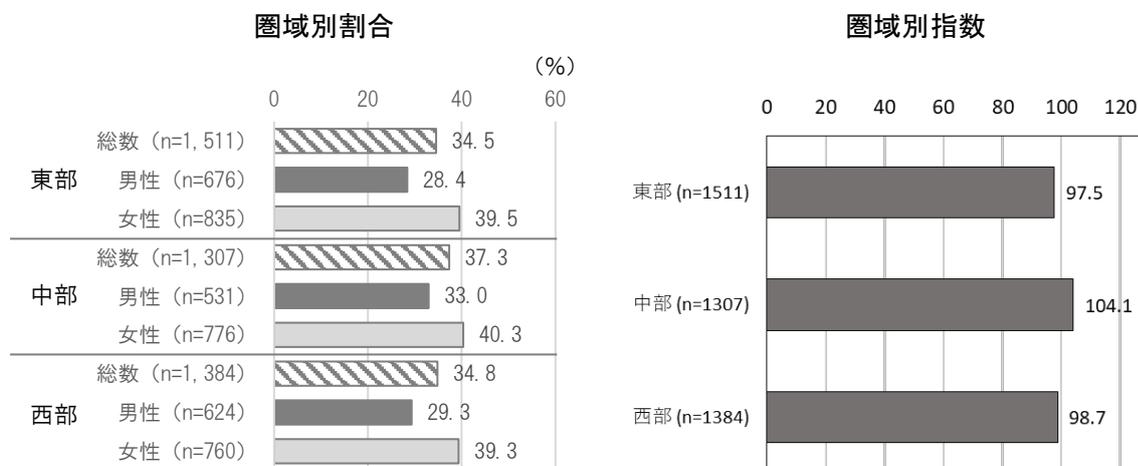
世帯構成別では、1人暮らし世帯が男女ともに市全体平均よりも高く、その他世帯の女性で42.2%、夫婦2人暮らし世帯(配偶者65歳以上)の女性で40.8%と、該当者割合が4割を超えて高くなっています。

図表 うつ予防 リスク該当状況－性・年齢階級別、認定・該当状況別、世帯構成別



圏域別割合をみると、中部圏域の女性が40.3%と他圏域に比べて高くなっています。
 圏域別指数をみると、中部圏域が104.1最も高くなっています。

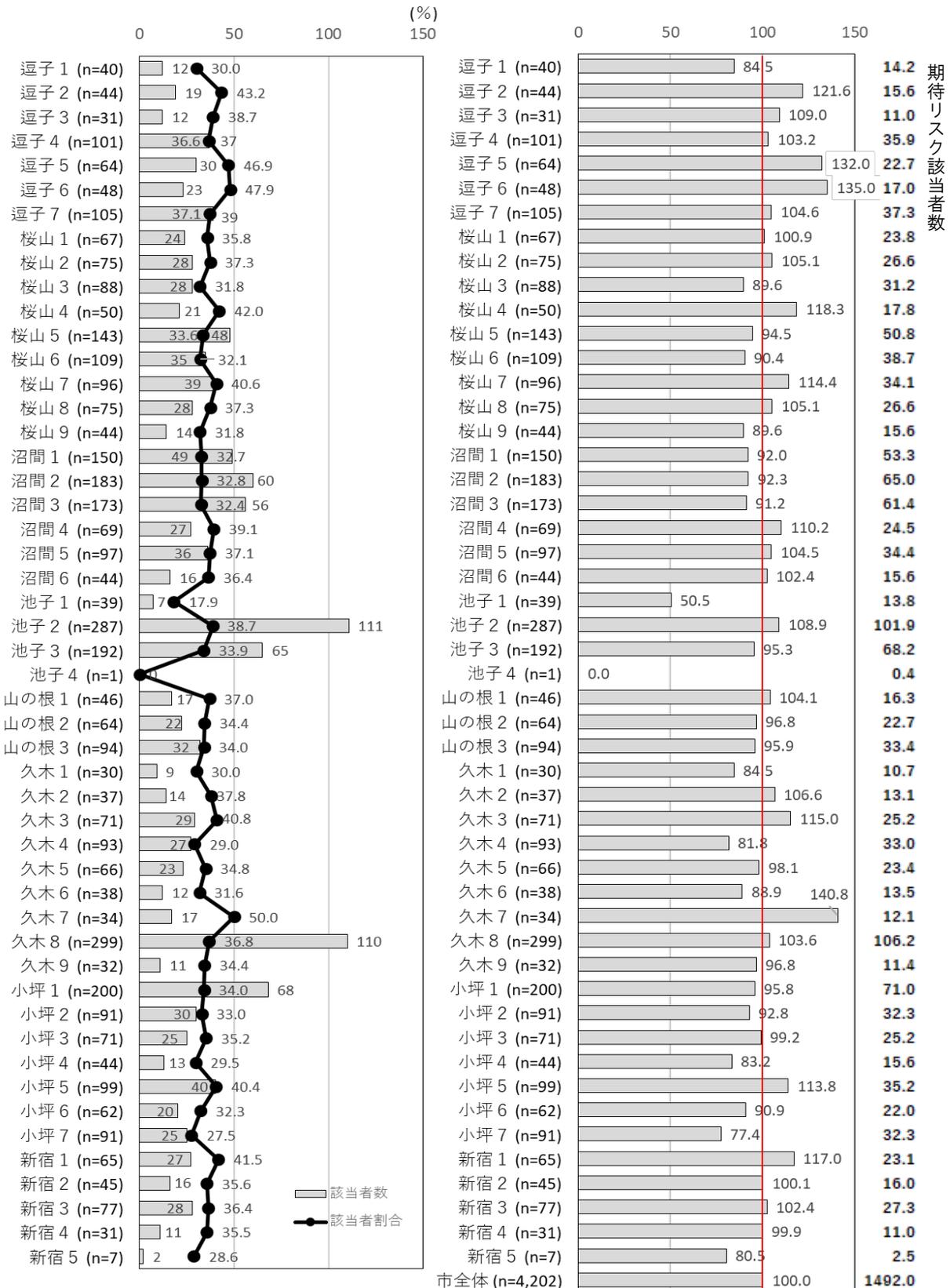
図表 うつ予防 リスク該当状況—圏域別割合、圏域別指数



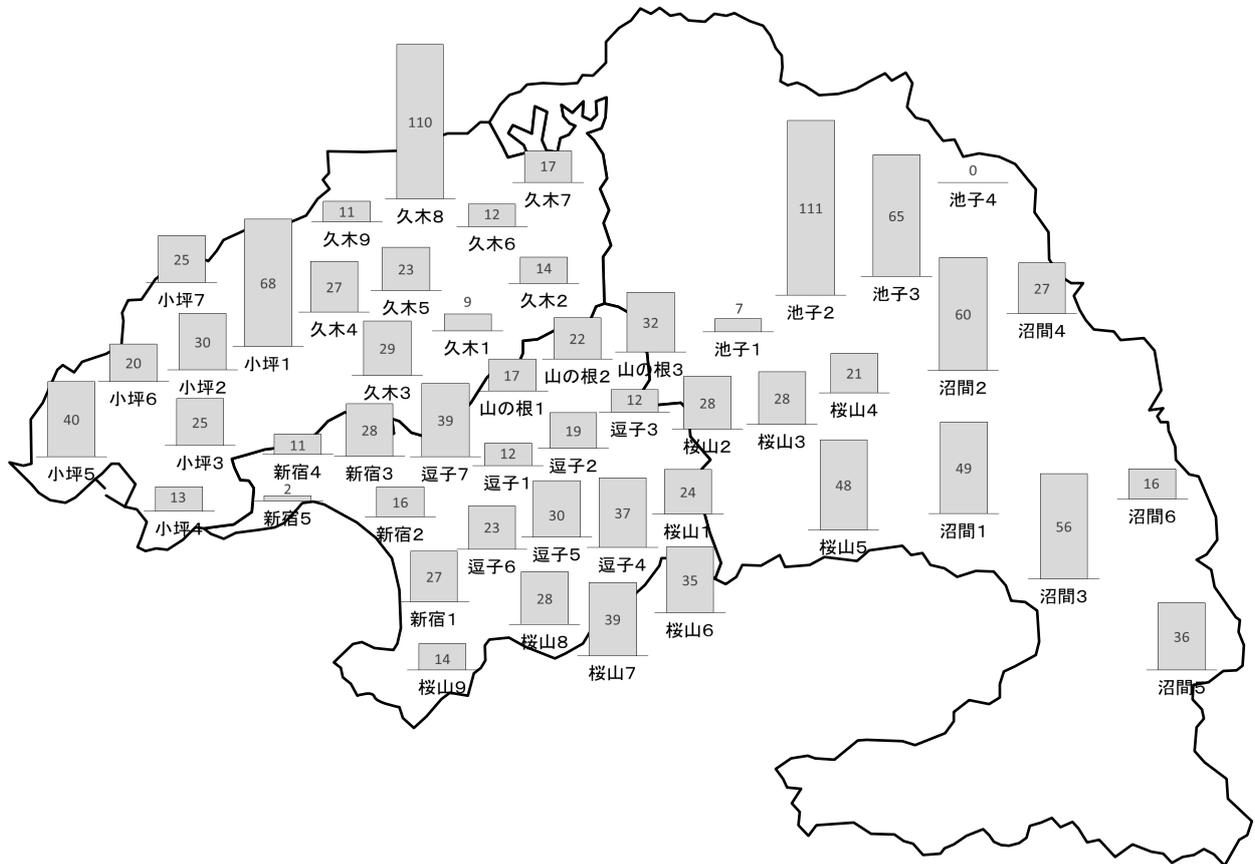
2 生活機能

町丁別リスク該当者数をみると、池子2丁目、久木8丁目で110人を超えて多くなっています。町丁別指数をみると、久木7丁目、逗子6丁目、逗子5丁目、逗子2丁目で120を超えて高くなっています。

図表 うつ予防（左：町丁別リスク該当者数・割合 右：町丁別指数）



図表 町丁別リスク該当者数の分布：うつ予防



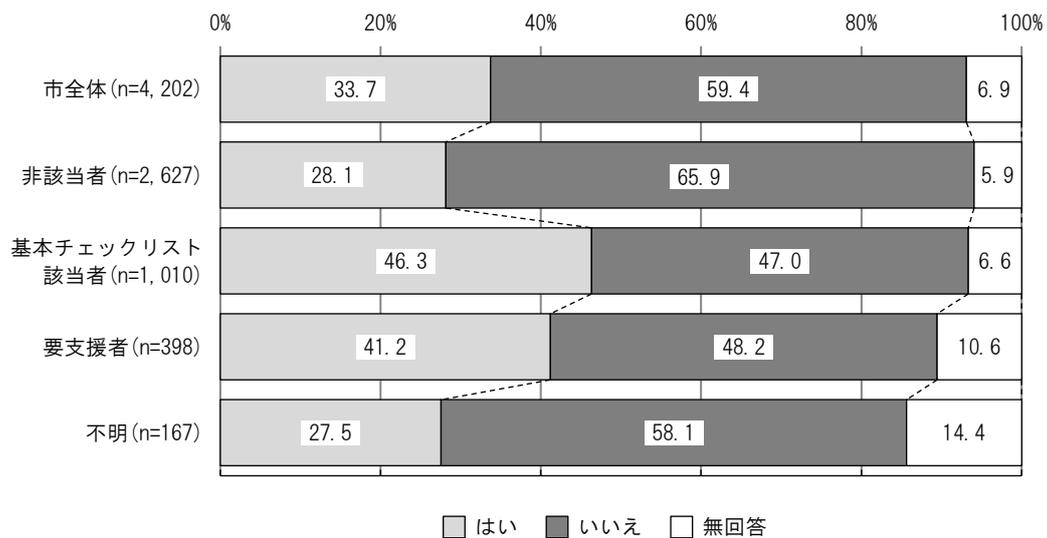
2 生活機能

ウ 回答結果-1

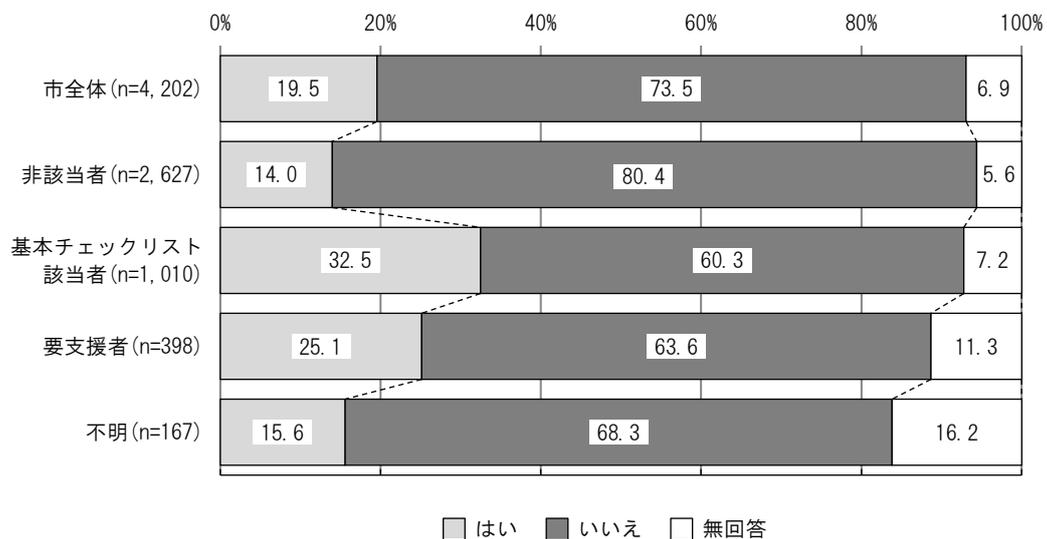
国のニーズ調査の手引きによる評価の基礎となった設問に対する回答結果をみると、問6・Q3、Q4ともに基本チェックリスト該当者、要支援者の順に該当回答の割合が高くなっています。非該当者と比べると割合に大きな差があります。

図表 回答結果

問6・Q3. この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあった（はい）



問6・Q4. この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくある（はい）



エ 回答結果-2

基本チェックリストでは、下の5つの設問に対する回答から、うつリスクの判定をします。

具体的には、5問中2問以上に該当した場合は、うつ予防の対象者となります。

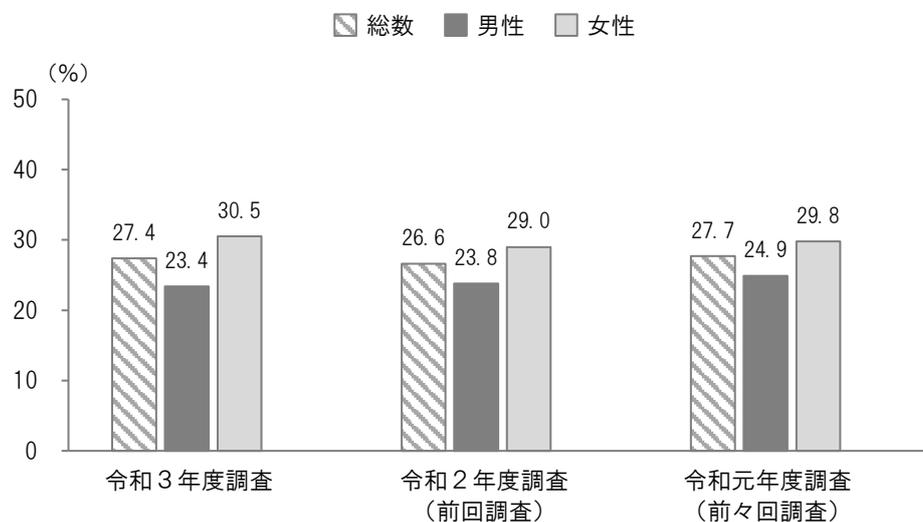
図表 うつ予防に関する設問（基本チェックリスト）

問番号	設 問	該当する選択肢
問6・Q5	(ここ2週間)毎日の生活に充実感がない	「1. はい」
問6・Q6	(ここ2週間)これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった	「1. はい」
問6・Q7	(ここ2週間)以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる	「1. はい」
問6・Q8	(ここ2週間)自分が役に立つ人間だと思えない	「1. はい」
問6・Q9	(ここ2週間)わけもなく疲れたような感じがする	「1. はい」

結果をみると、回答のあった高齢者全体で、27.4%：1,150人、男性23.4%：428人、女性30.5%：722人がリスク該当者となっています。過去の調査と比較すると、全体で令和2年度調査（前回調査）から0.8ポイント高くなっていますが、男性は0.4ポイント低く、女性は1.5ポイント高くなっています。

図表 リスク該当状況—うつ予防

リスク該当者の割合



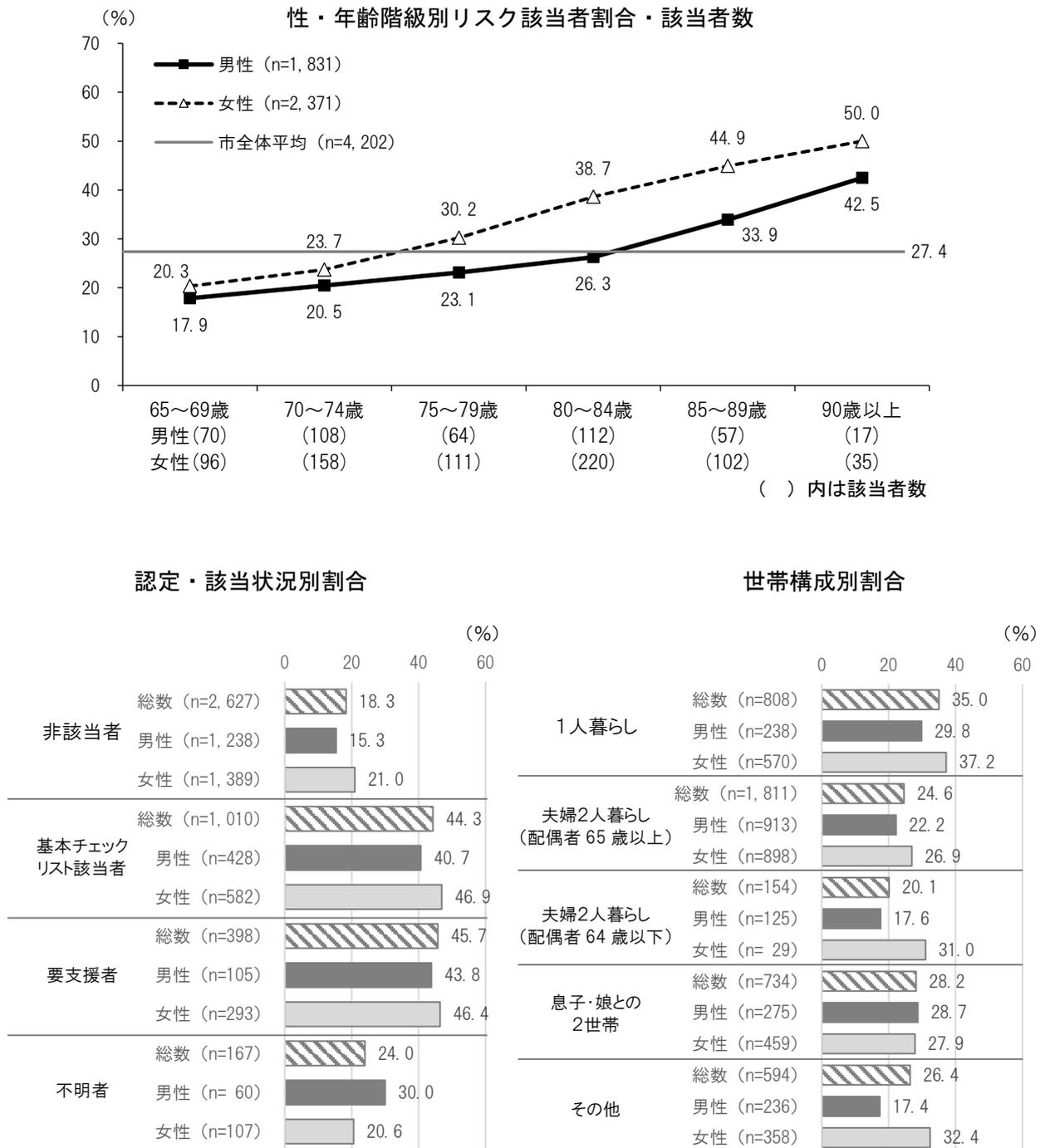
2 生活機能

性・年齢階級別にみると、男女ともに年齢とともにリスク該当者割合が増加しており、男性は85～89歳より上、女性は75～79歳より上の年齢階級で市全体平均（27.4%）より高くなっています。

認定・該当状況別にみると、要支援者と基本チェックリスト該当者は、男女ともに市全体平均より高くなっています。

世帯構成別では、1人暮らし世帯のリスク該当者割合が35.0%と最も高く、次いで息子・娘との2世帯が28.2%と、他と比べて高くなっています。

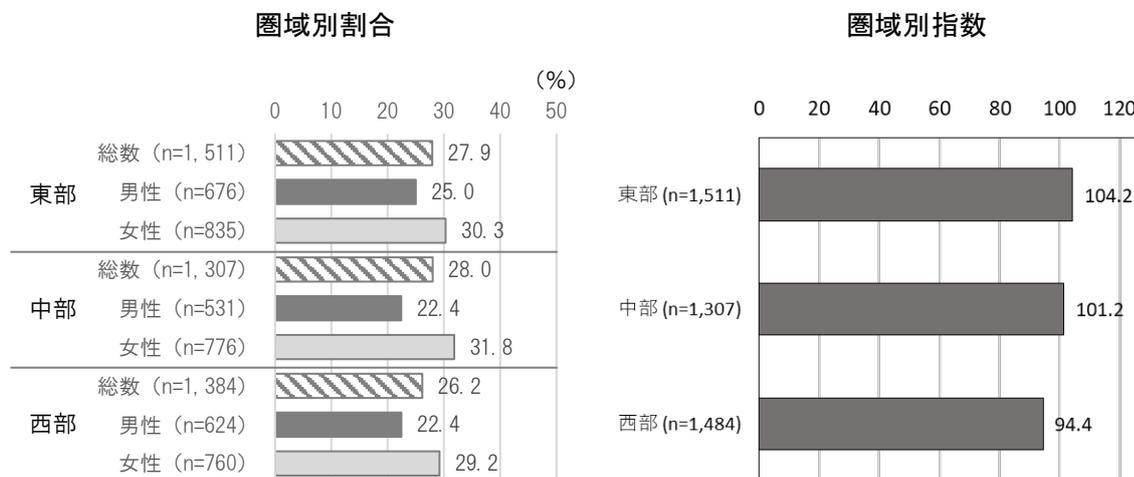
図表 うつ予防 リスク該当状況－性・年齢階級別、認定・該当状況別、世帯構成別



圏域別割合をみると、中部圏域が 28.0%と他圏域に比べて該当者割合がやや高くなっています。また、いずれの圏域でも女性の方が高くなっています。

圏域別指数をみると、東部圏域が 104.2 と最も高くなっています。

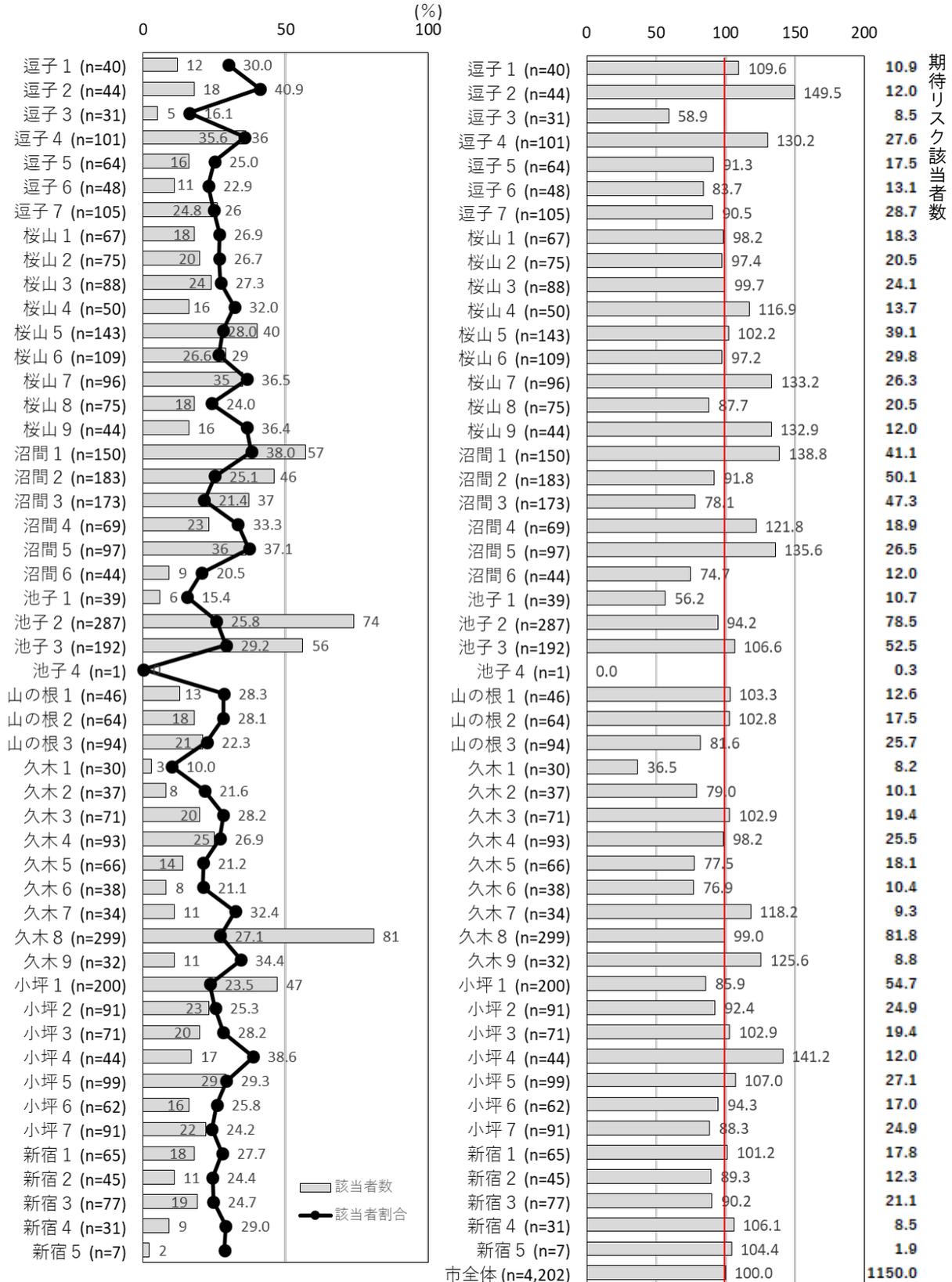
図表 うつ予防 リスク該当状況—圏域別割合・圏域別指数



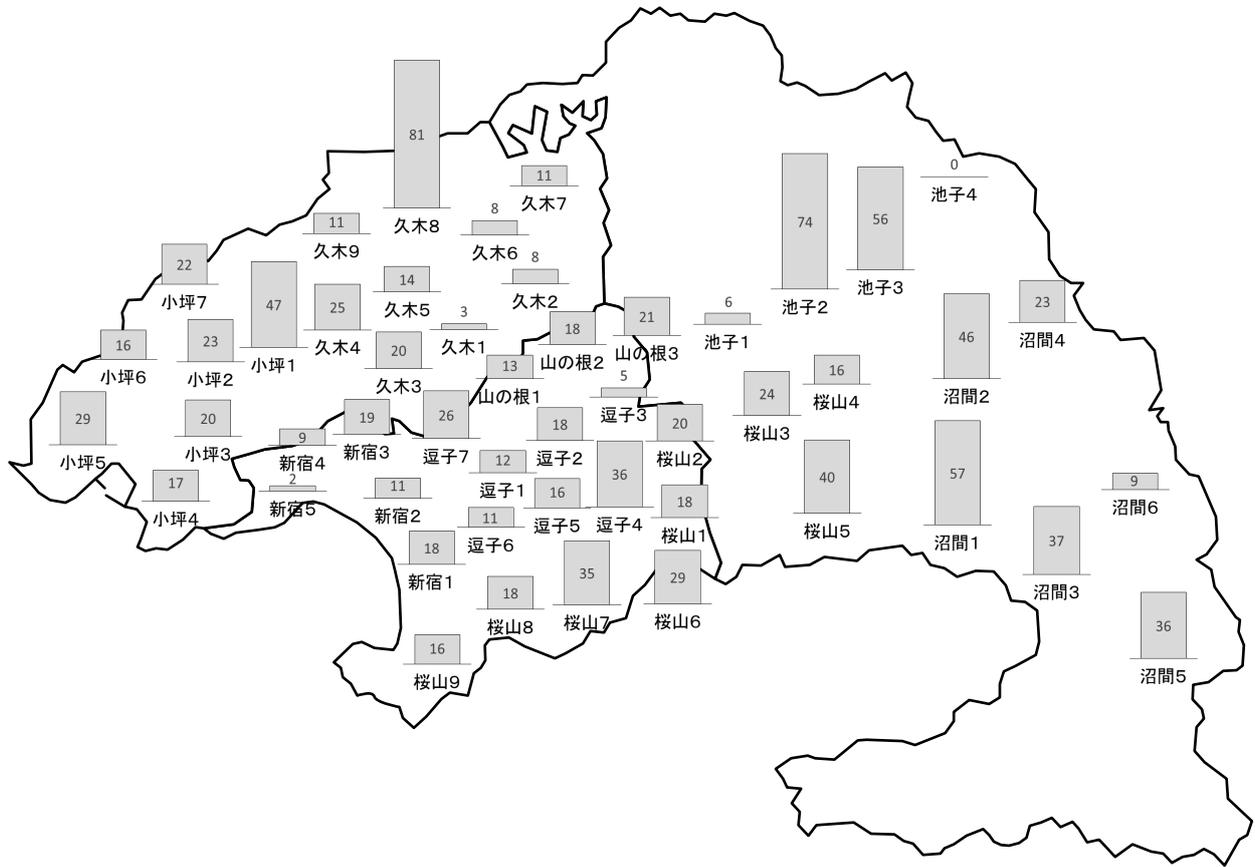
2 生活機能

町丁別リスク該当者数をみると、久木8丁目で81人、池子2丁目で74人、沼間1丁目で57人、池子3丁目で56人とリスク該当者が多くなっています。町丁別指数では、逗子2丁目が149.5と最も高く、次いで小坪4丁目、沼間1丁目、沼間5丁目、桜山7丁目、桜山9丁目、逗子4丁目が130を超えて高くなっています。

図表 うつ予防（左：町丁別リスク該当者数・割合 右：町丁別指数）



図表 町丁別リスク該当者数の分布：うつ予防

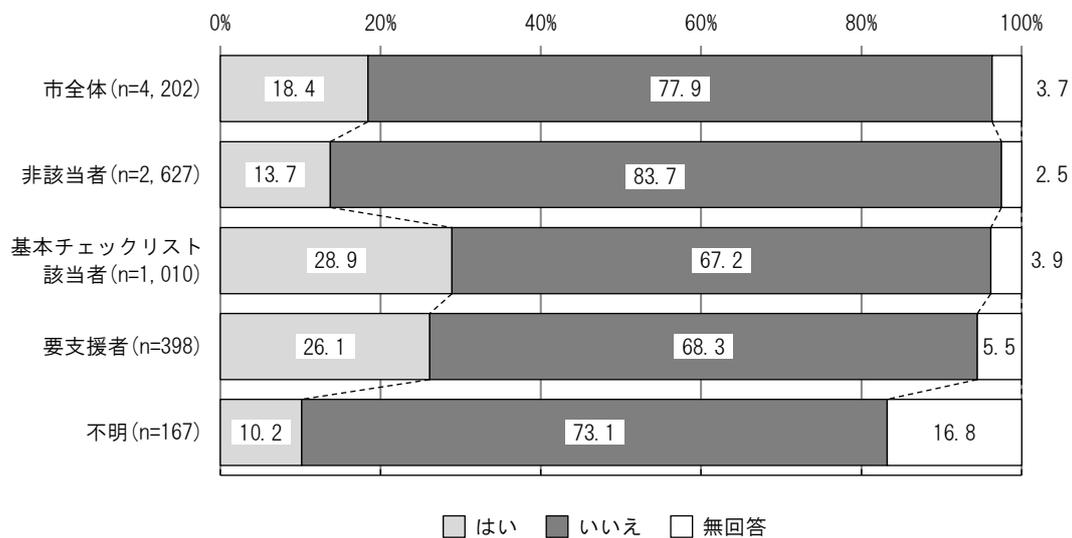


2 生活機能

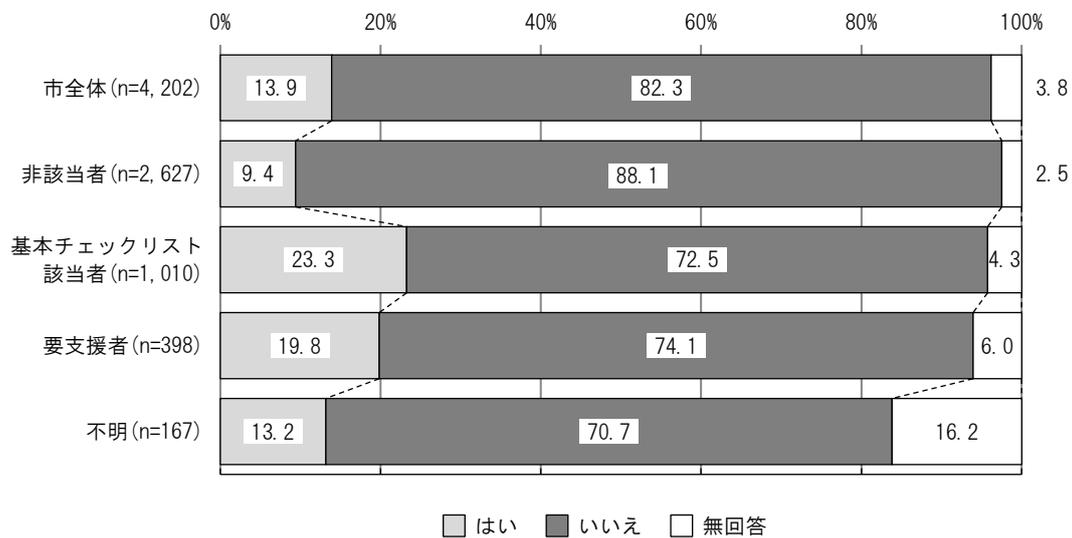
基本チェックリストによる判定対象となる設問への回答結果をみると、問6・Q5～Q9において、特に基本チェックリスト該当者と要支援者のリスク該当に係る割合が高くなっており、非該当者の割合と大きな差がみられます。

図表 回答結果-1

問6・Q5. (ここ2週間) 毎日の生活に充実感がない (はい)

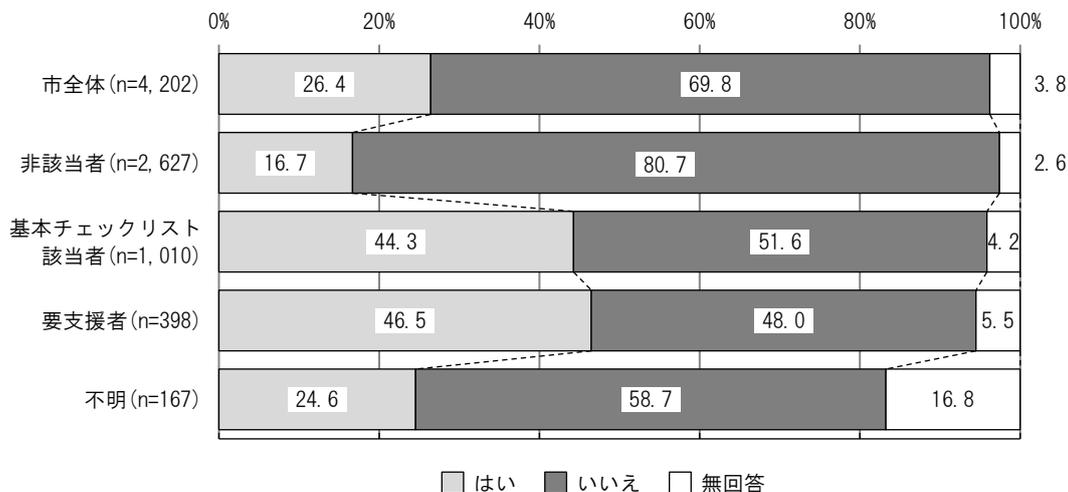


問6・Q6. (ここ2週間) これまで楽しんでやれたことが楽しめなくなった

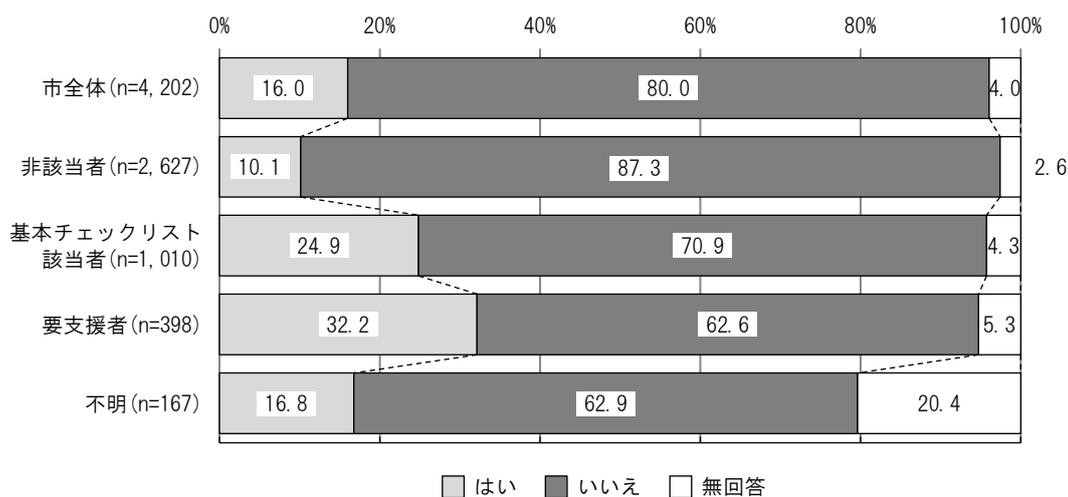


図表 回答結果-2

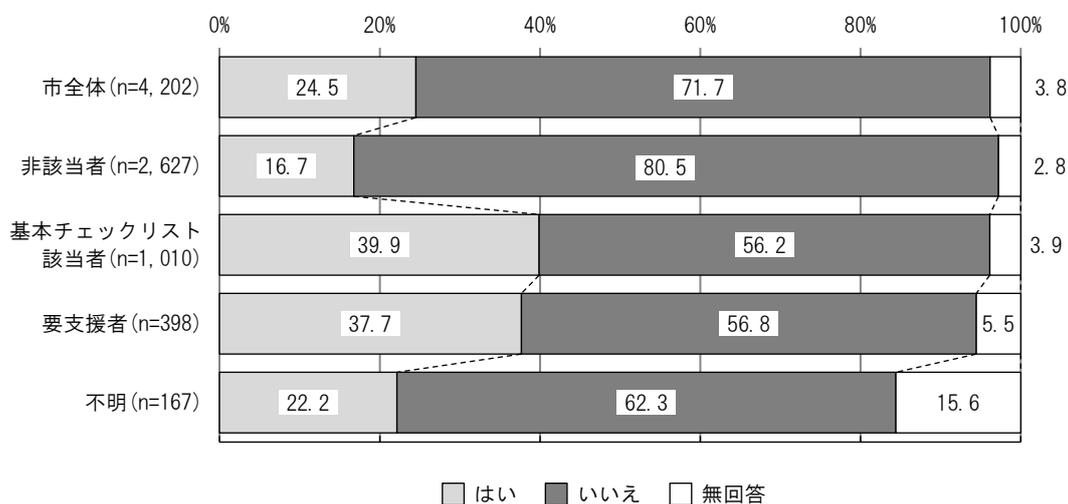
問6・Q7. (ここ2週間) 以前は楽にできたことが、今ではおっくうに感じられる (はい)



問6・Q8. (ここ2週間) 自分が役に立つ人間だと思えない (はい)



問6・Q9. (ここ2週間) わけもなく疲れたような感じがする



2 生活機能

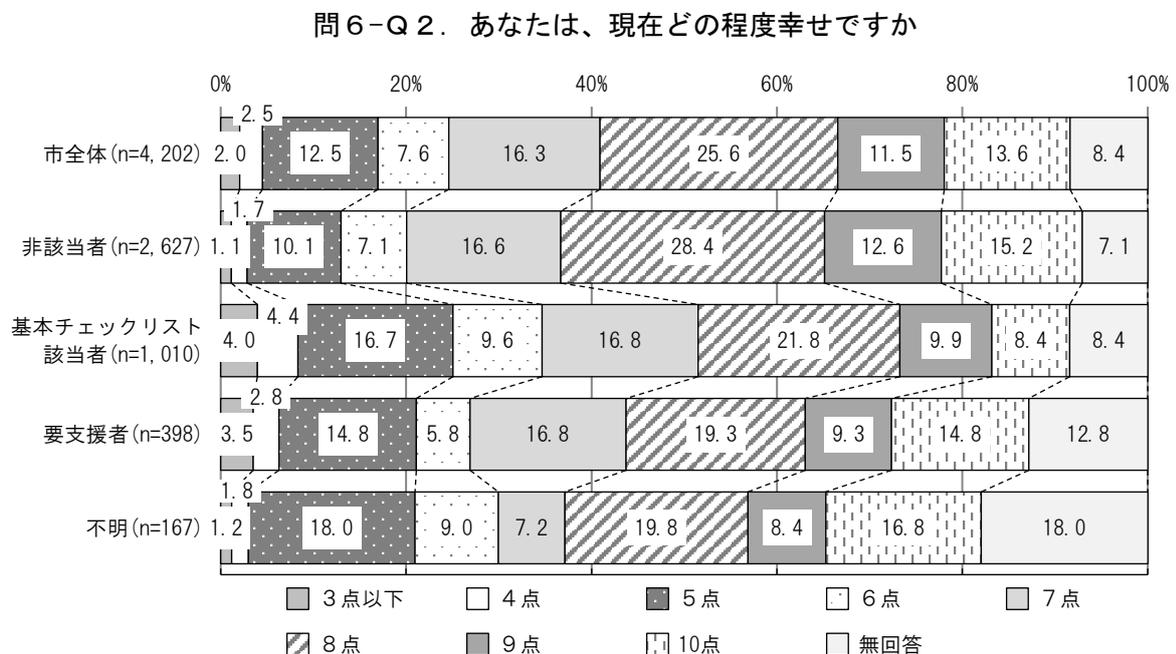
オ 関連設問

うつ傾向と関係すると言われている主観的幸福感についてみると、全体を11段階に点数化した回答で「8点」が25.6%で最も多く、次いで「7点」(16.3%)、「10点」(13.6%)、「5点」(12.5%)、「9点」(11.5%)等が続いています。

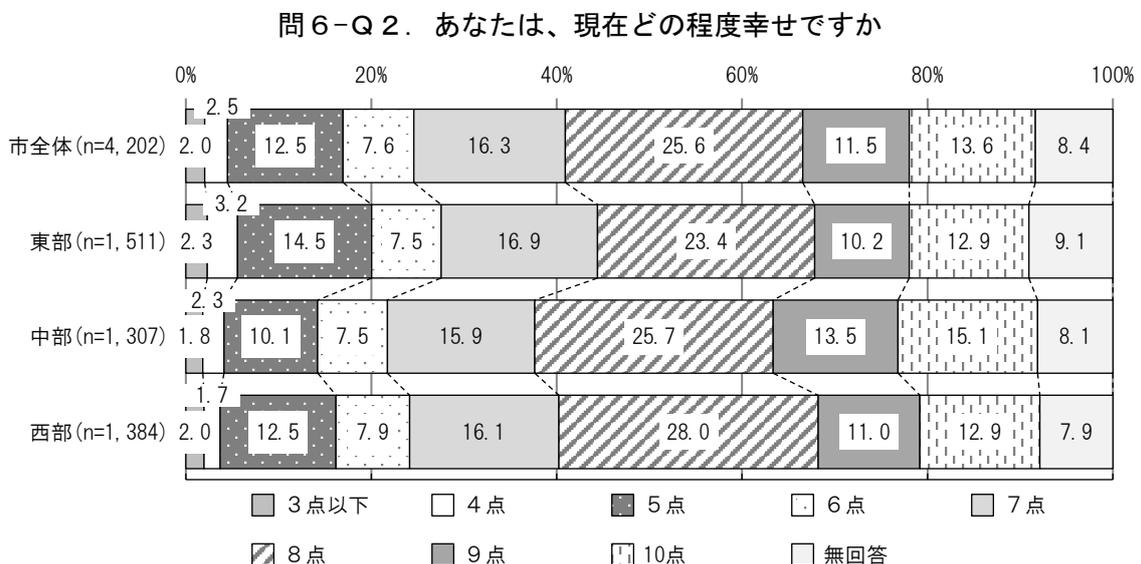
認定・該当状況別に5点以下の割合をみると、非該当者は12.9%、基本チェックリスト該当者は25.1%、要支援者は21.1%、不明者は21.0%と、非該当者以外は主観的幸福感が低いと感じている方が多いことがうかがえます。

そのため、主観的幸福感はその地域の精神面での健康度のアウトカム指標として活用できると考えられ、圏域別に5点以下の割合をみると、東部圏域では20.1%と最も高く、次に、西部圏域が16.2%、中部圏域が14.2%となっており、東部圏域の幸福感が他の地域よりもやや低くなっています。

図表 幸福感-認定・該当状況別



図表 幸福感-圏域別



(7) うつ予防

(8) 虚弱

ア 設問と評価

基本チェックリストでは、うつ予防に関する5問を除いた20問中10問以上にあてはまる場合、虚弱リスク該当者となります。

この項目は、運動や栄養などの個別の評価項目にIADLや社会生活に関する設問を加えた生活機能の総合評価としての位置づけになります。

図表 評価に使用する設問（基本チェックリスト）

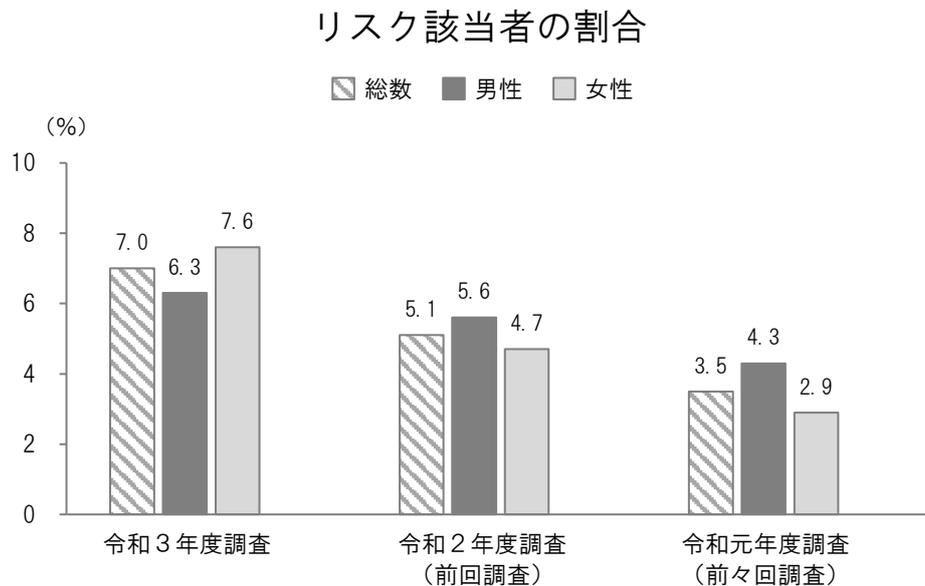
問番号	設問	該当する選択肢
問2・Q1	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	「2. できるだけしていない」 または「3. できない」
問2・Q2	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	「2. できるだけしていない」 または「3. できない」
問2・Q3	15分位続けて歩いていますか	「2. できるだけしていない」 または「3. できない」
問2・Q4	過去1年間に転んだ経験がありますか	「1. 何度もある」 または「2. 1度ある」
問2・Q5	転倒に対する不安は大きいですか	「1. とても不安である」 または「2. やや不安である」
問2・Q6	週に1回以上は外出していますか	「1. ほとんど外出しない」
問2・Q7	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	「1. とても減っている」 または「2. 減っている」
問3・Q1	身長()cm、体重()kg	BMI<18.5
問3・Q9	6カ月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	「1. はい」
問3・Q2	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「1. はい」
問3・Q3	お茶や汁物等でむせることがありますか	「1. はい」
問3・Q4	口の渇きが気になりますか	「1. はい」
問4・Q3	周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあるとされますか	「1. はい」
問4・Q4	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	「2. いいえ」
問4・Q5	今日が何月何日かわからないときがありますか	「1. はい」
問4・Q6	バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)	「2. できるだけしていない」 または「3. できない」
問4・Q8	自分で食品・日用品の買物をしていますか	「2. できるだけしていない」 または「3. できない」
問4・Q11	自分で預貯金の出し入れをしていますか	「2. できるだけしていない」 または「3. できない」
問4・Q17	友人の家を訪ねていますか	「2. いいえ」
問4・Q18	家族や友人の相談にのっていますか	「2. いいえ」

2 生活機能

イ 評価結果

評価結果をみると、回答のあった高齢者全体で7.0%：295人、男性6.3%：115人、女性7.6%：180人がリスク該当者となっています。過去の調査と比較すると、令和元年度調査(前々回調査)から上昇傾向が続いています。

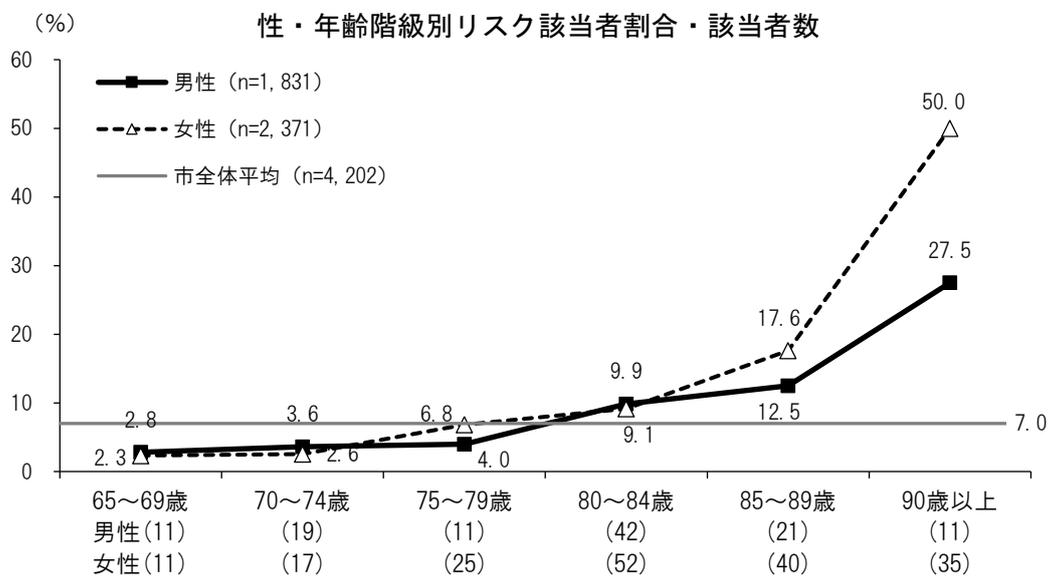
図表 リスク該当状況－虚弱



性・年齢階級別にみると、男女ともに年齢が上がるにつれてリスク該当者割合が高くなっています。85～89歳までは男女ともに同じような上昇を描いていますが、90歳以上になると、男性は27.5%と高くなっていますが、女性は50.0%とさらに高くなっています。

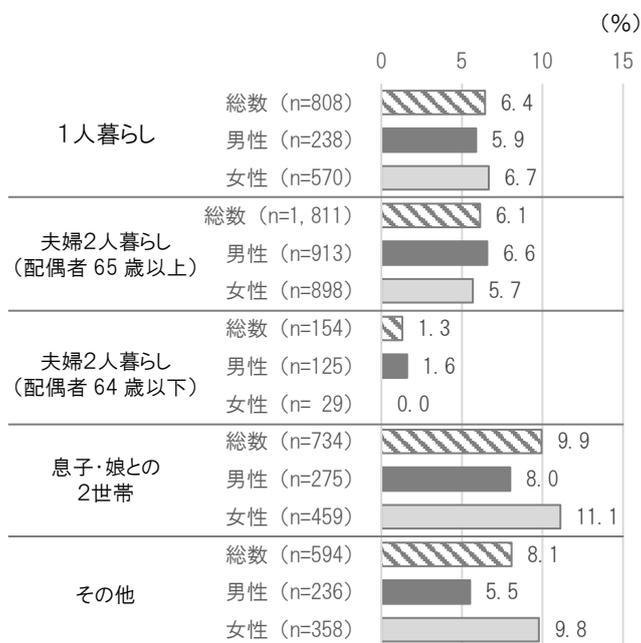
世帯構成別では、息子・娘との2世帯でリスク該当者割合が高くなっています。

図表 虚弱 リスク該当状況一性・年齢階級別、世帯構成別



() 内は該当者数

世帯構成別割合

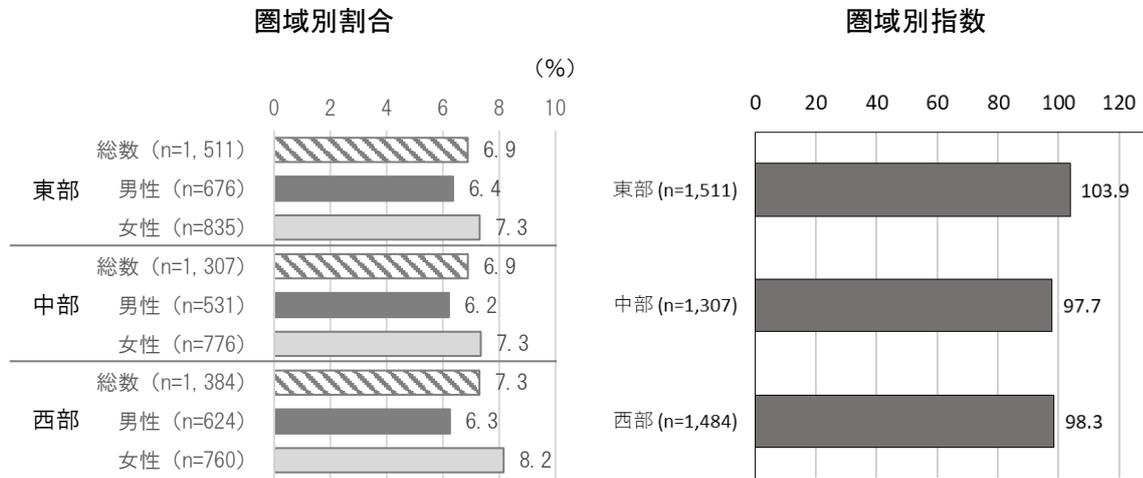


2 生活機能

圏域別割合をみると、西部圏域の女性が8.2%と他圏域に比べて高くなっている一方、中部圏域の男性は6.2%と低くなっています。

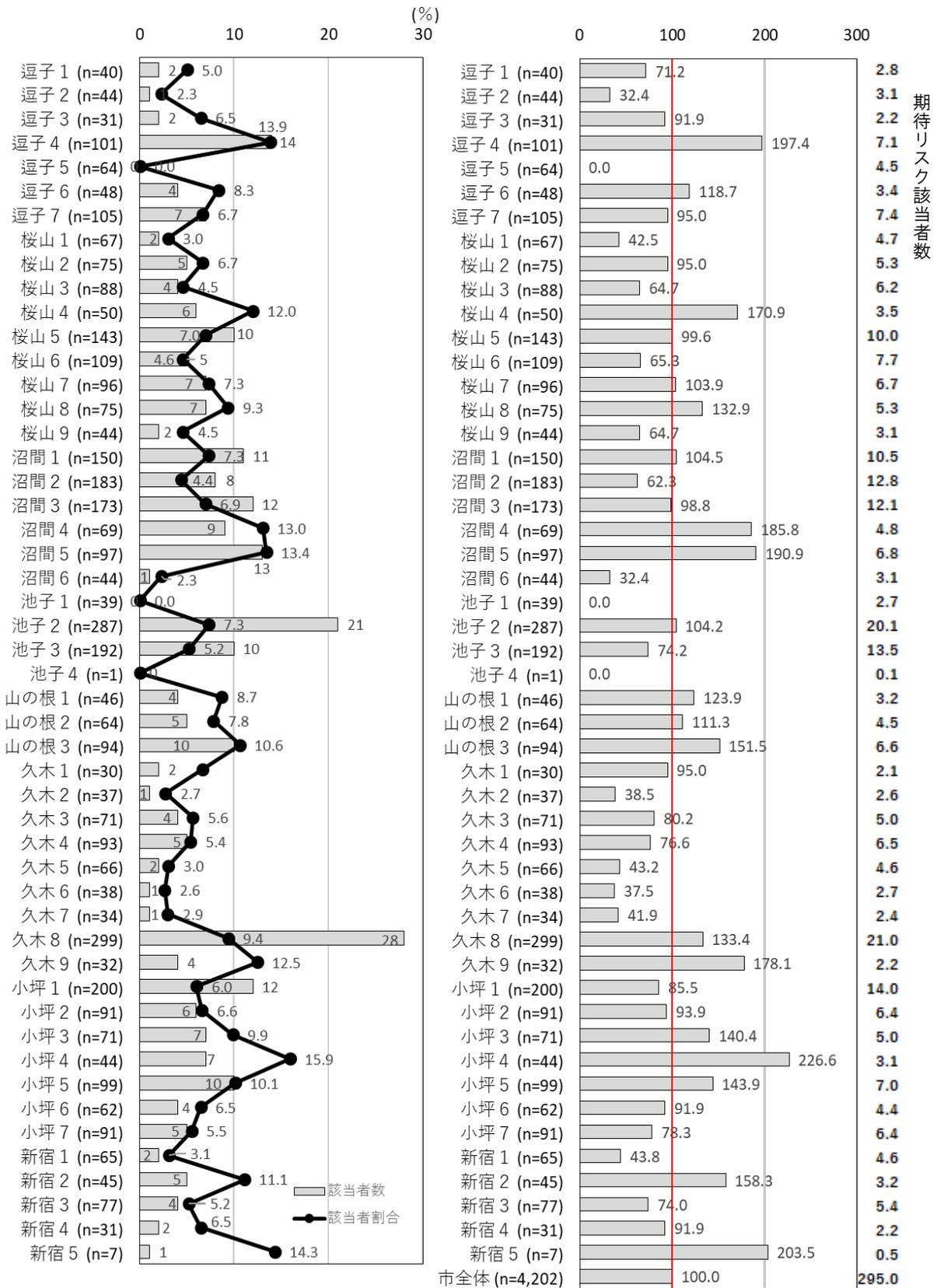
圏域別指数をみると、東部圏域が103.9と高くなっています。

図表 虚弱 リスク該当状況—圏域別割合、圏域別指数



町丁別リスク該当者数をみると、久木8丁目と池子2丁目とが20人を超えて多くなっています。町丁別指数をみると、小坪4丁目と新宿5丁目とが200を超えて高くなっています。

図表 虚弱（左：町丁別リスク該当者数・割合 右：町丁別指数）



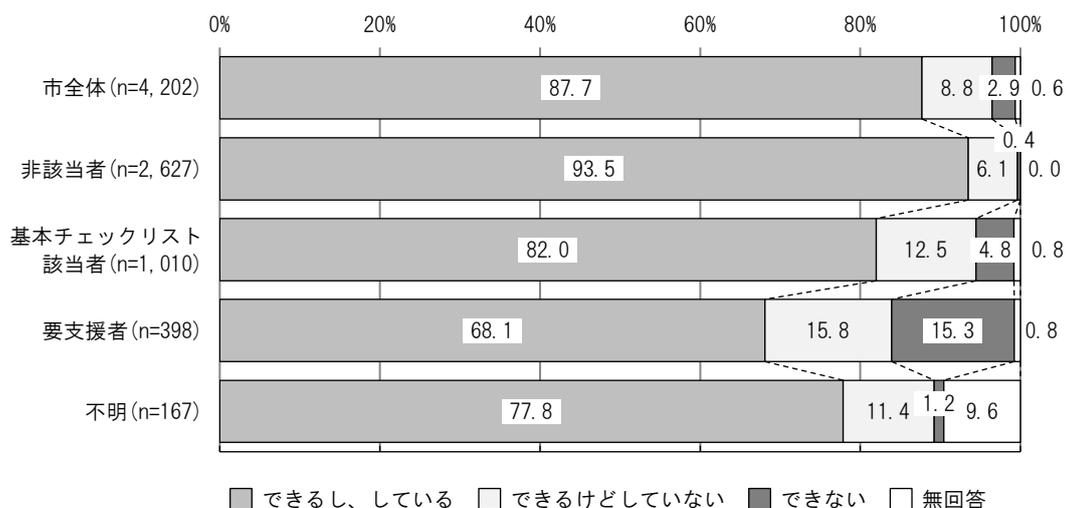
ウ 回答結果

評価の基礎となった20問のうち、他の評価項目に含まれない5問についてそれぞれの回答結果をみてみます。

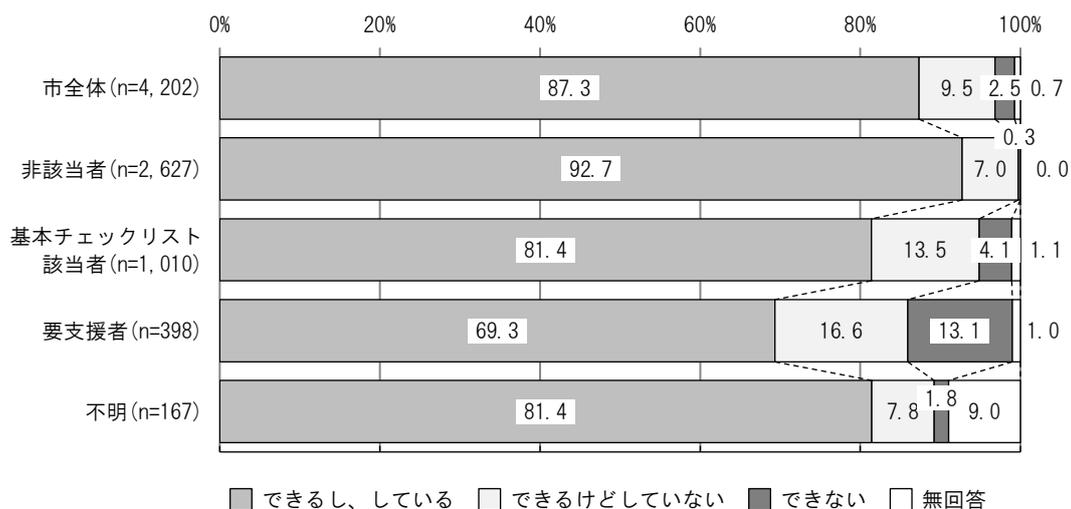
友人宅への訪問（問4・Q17）について、「いいえ」と答えた方は基本チェックリスト該当者が68.6%で最も高く、その他の設問においては要支援者でリスク該当に係る回答率が最も高くなっています。

図表 回答結果-1

問4・Q6. バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）
（できるけどしていない・できない）



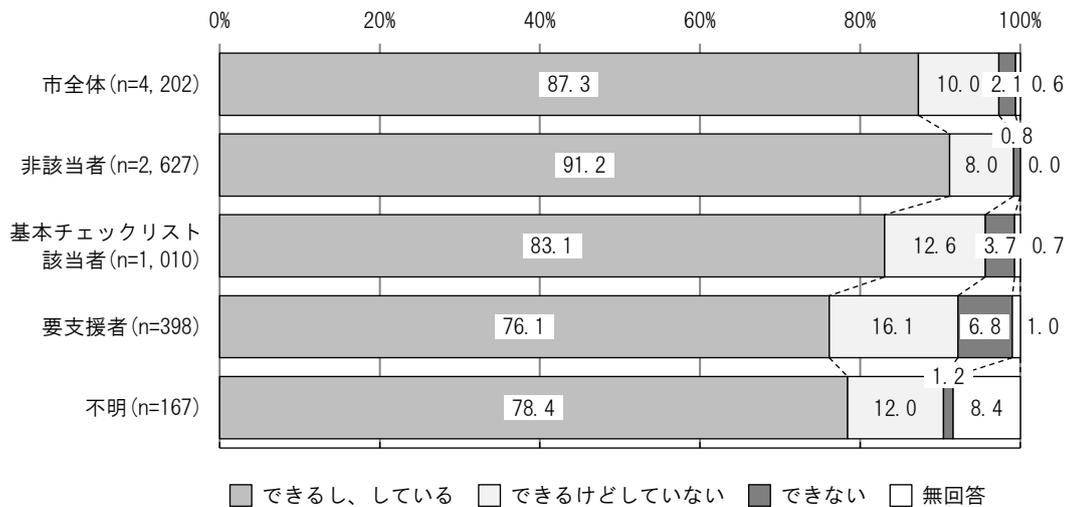
問4・Q8. 自分で食品・日用品の買物をしていますか（できるけどしていない・できない）



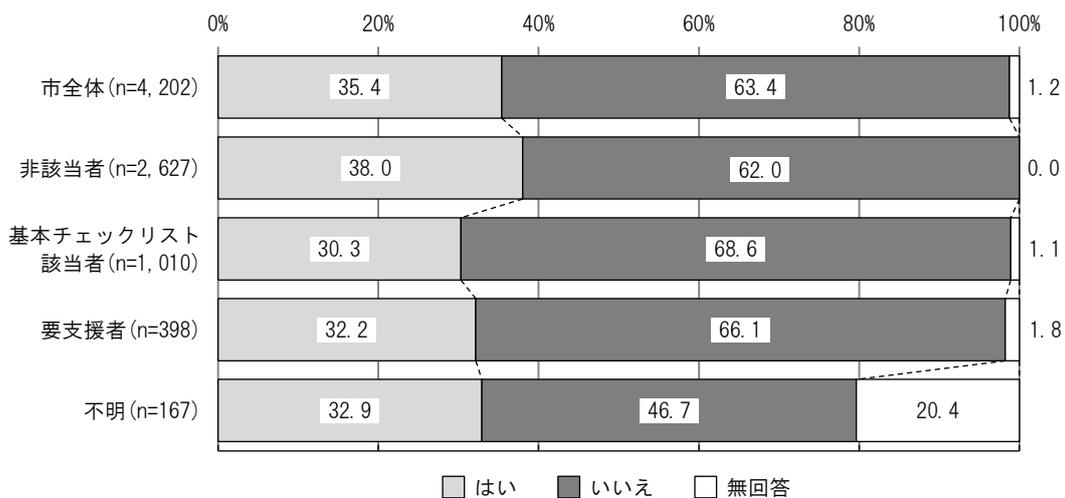
2 生活機能

図表 回答結果-2

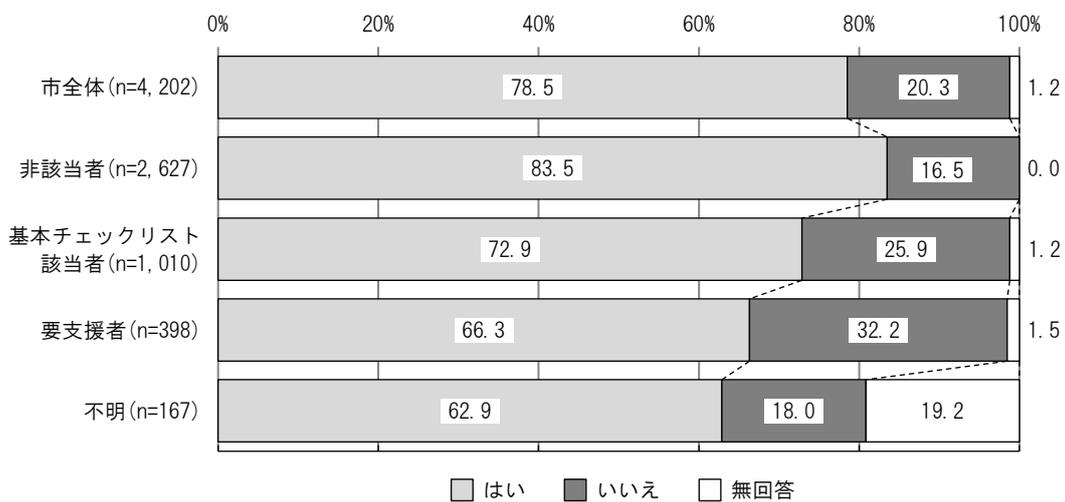
問4・Q11. 自分で預貯金の出し入れをしていますか（できるけどしていない・できない）



問4・Q17. 友人の家を訪ねていますか（いいえ）



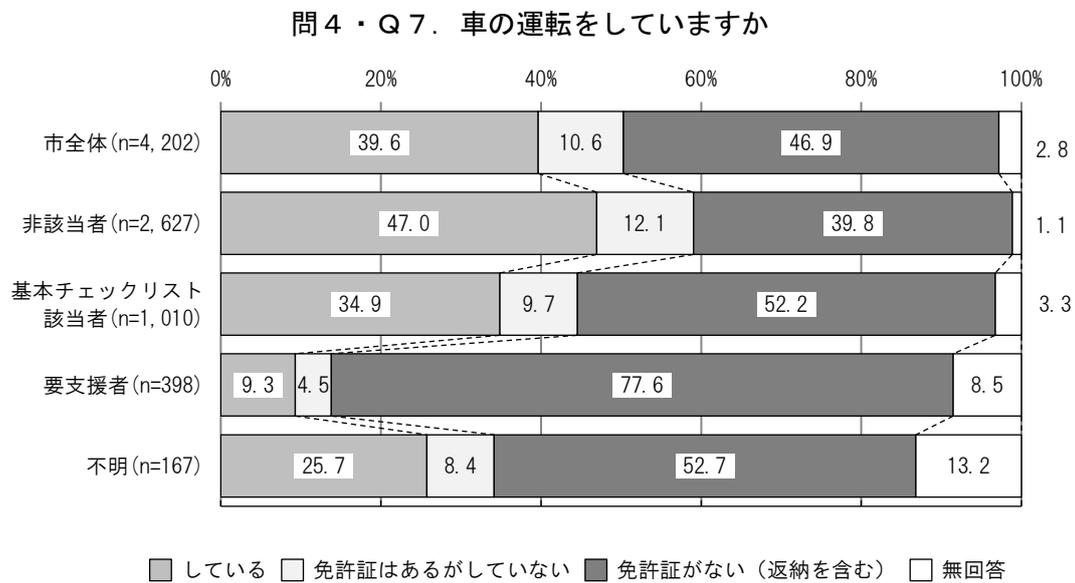
問4・Q18. 家族や友人の相談にのっていますか（いいえ）



エ 関連設問

車の運転をしているかについては、全体では「している」が39.6%、「免許証はあるがしていない」が10.6%と回答している一方、「免許証がない（返納を含む）」が46.9%となっています。特に、要支援者では、7割以上で免許証がない（返納を含む）と回答しています。

図表 車の運転



2 生活機能

(9) 基本チェックリスト該当者

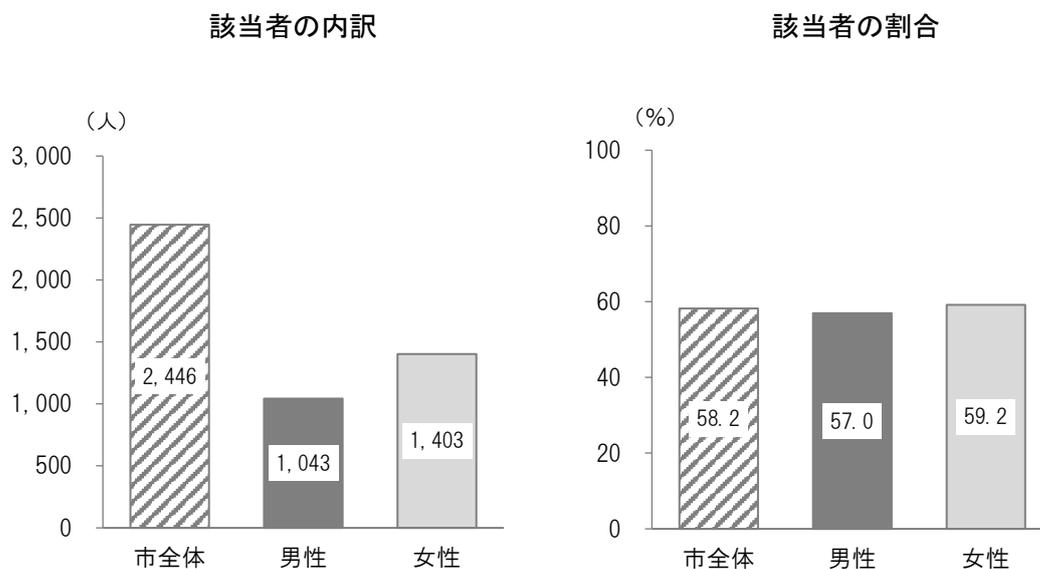
ア 設問と評価

該当する方は、本調査において基本チェックリストの判定項目（虚弱、運動、閉じこもり、栄養、口腔、認知機能、うつ）のいずれかにあてはまる方になります。

イ 評価結果

全体で 58.2% : 2,446 人、男性 57.0% : 1,043 人、女性 59.2% : 1,403 人が該当者となっています。男性より女性の割合がやや高くなっています。

図表 基本チェックリスト該当者の状況



図表 基本チェックリスト該当者のリスク該当状況

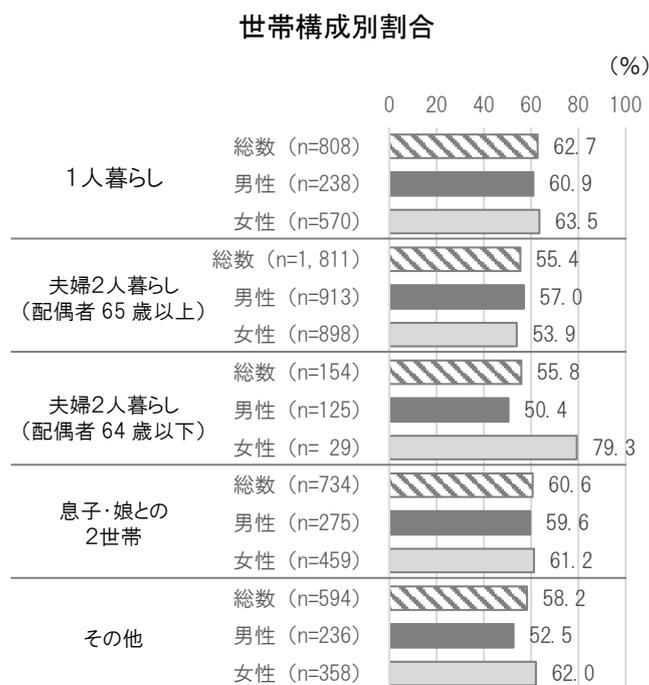
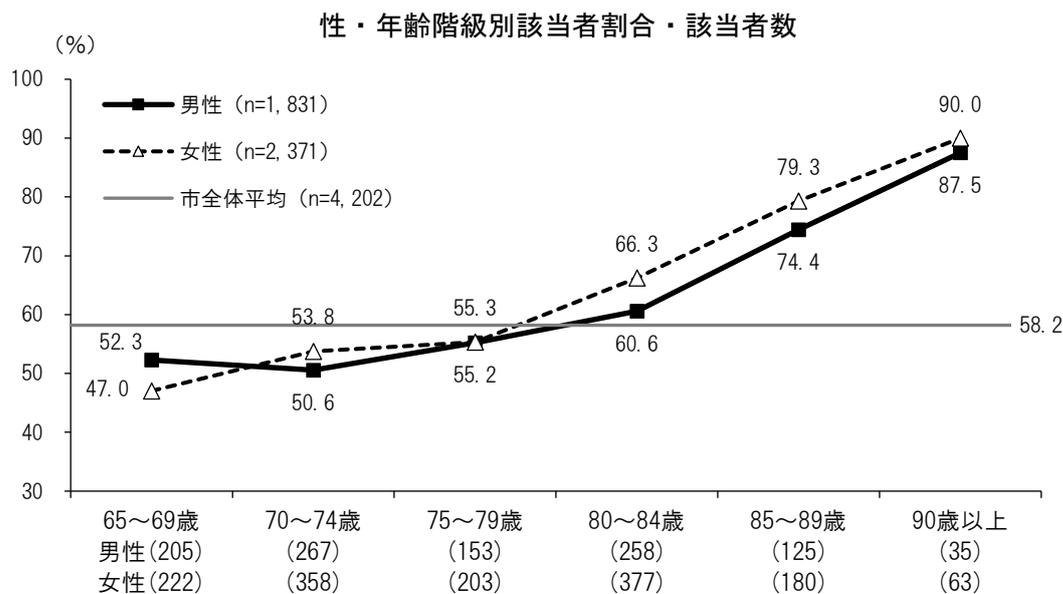
上段：人数、下段：%

	虚弱	運動	閉じこもり	栄養	口腔	認知機能	うつ	全体
市全体	295 12.1	775 31.7	242 9.9	77 3.1	759 31.0	1,344 54.9	1,150 47.0	2,446 100.0
男性	115 11.0	260 24.9	94 9.0	29 2.8	319 30.6	629 60.3	428 41.0	1,043 100.0
女性	180 12.8	515 36.7	148 10.5	48 3.4	440 31.4	715 51.0	722 51.5	1,403 100.0

性・年齢階級別にみると、70～74歳以降は男女ともに年齢が上がるにつれてリスク該当者割合が高くなっています。また、80～84歳より上の年齢階級で市全体平均（58.2%）より高くなっています。

世帯構成別にみると、総数では1人暮らし世帯が最も高くなっています。男女別では、夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）世帯の女性が79.3%と最も高く、夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）世帯の男性が50.4%と最も低くなっています。

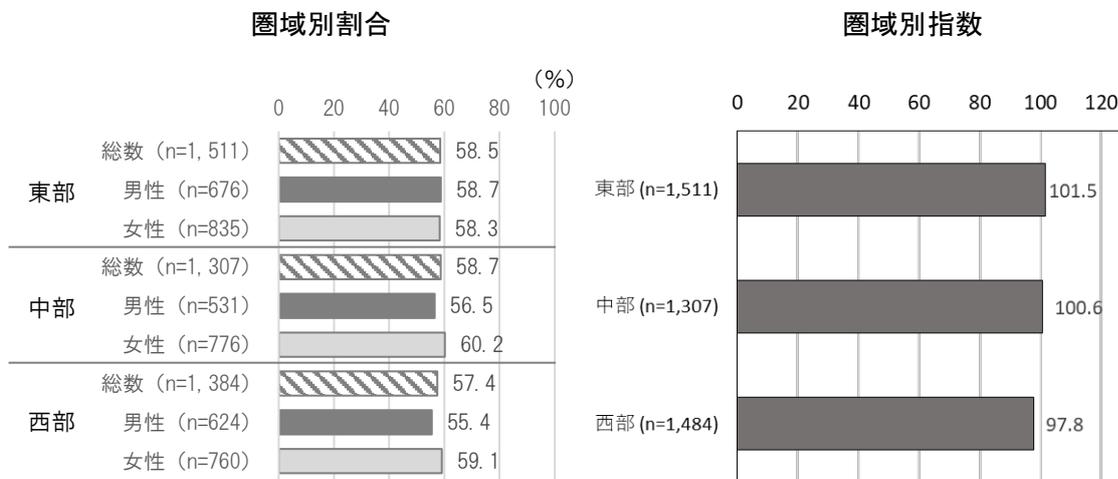
図表 基本チェックリスト該当者状況－性・年齢階級別、世帯構成別



2 生活機能

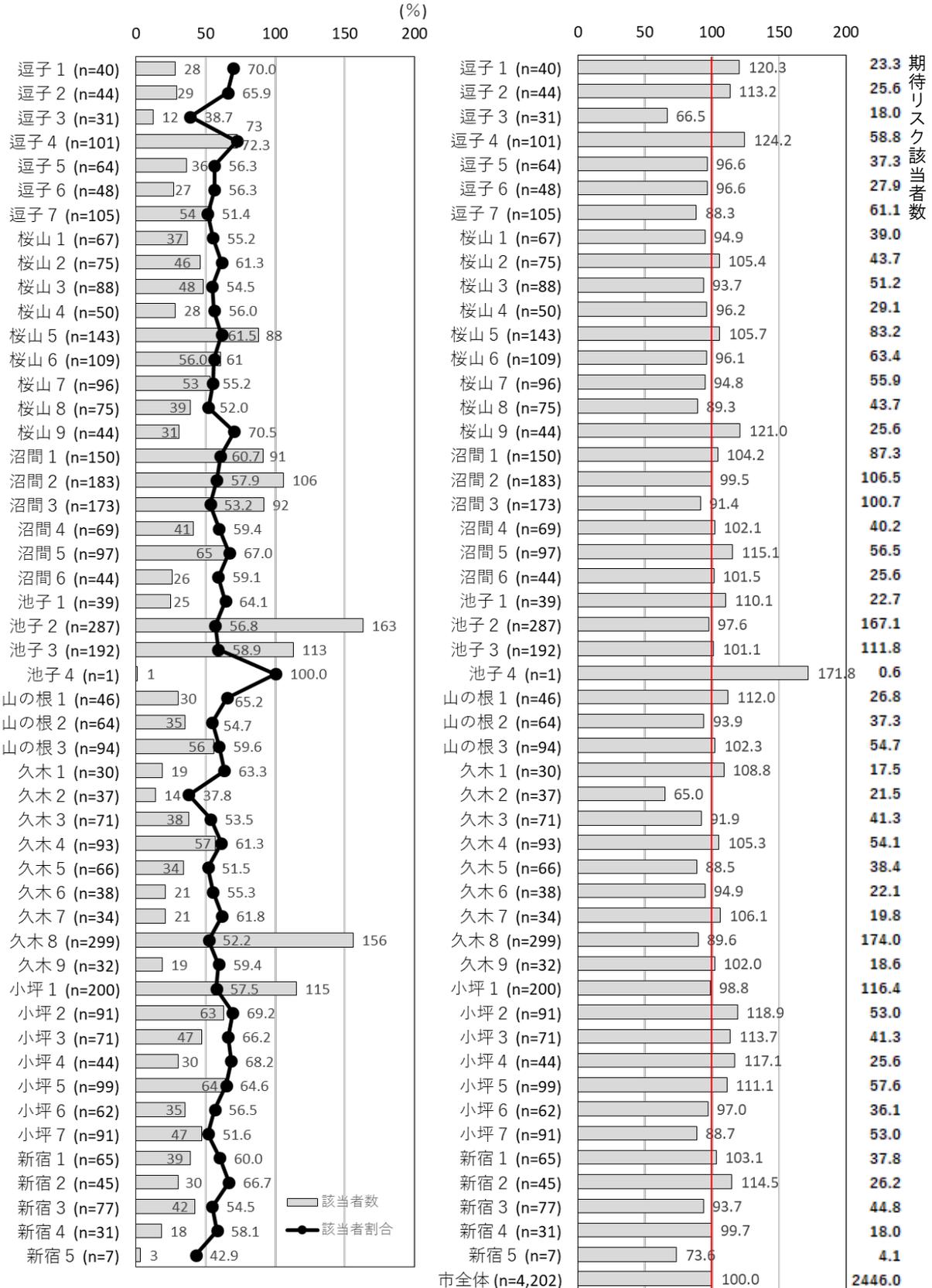
圏域別割合をみると、中部圏域が 58.7%と他圏域に比べてやや高くなっています。
 圏域別指数をみると、東部圏域が 101.5 と高くなっています。

図表 基本チェックリスト該当者状況－圏域別割合、圏域別指数



町丁別該当者数をみると、池子2丁目、久木8丁目、小坪1丁目、池子3丁目、沼間2丁目
で100人を超えて多くなっています。町丁別指数では池子4丁目、逗子4丁目、桜山9丁目、
逗子1丁目の順に120を超えて高くなっています。

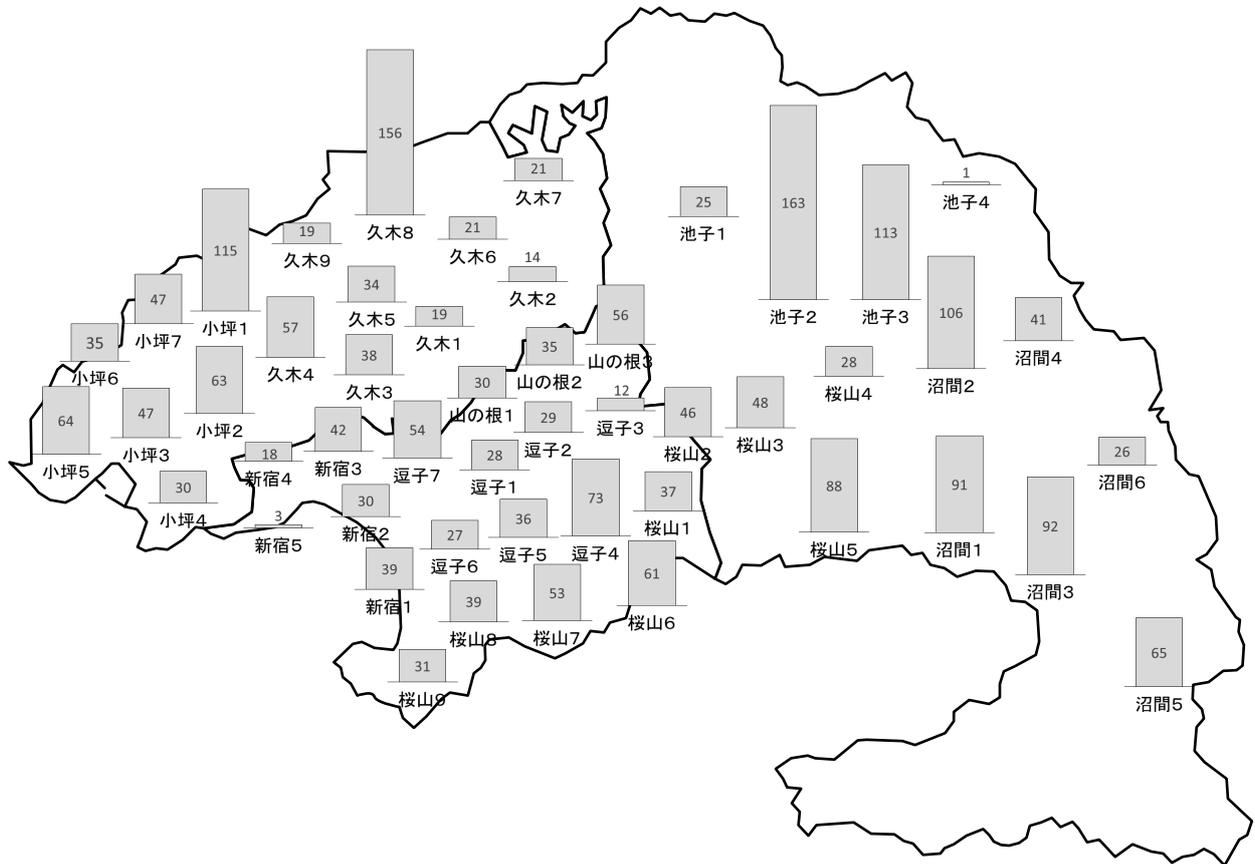
図表 基本チェックリスト該当者（左：町丁別該当者数・割合 右：町丁別指数）



(9) 基本チェックリスト該当者

2 生活機能

図表 町丁別人数の分布：基本チェックリスト該当者

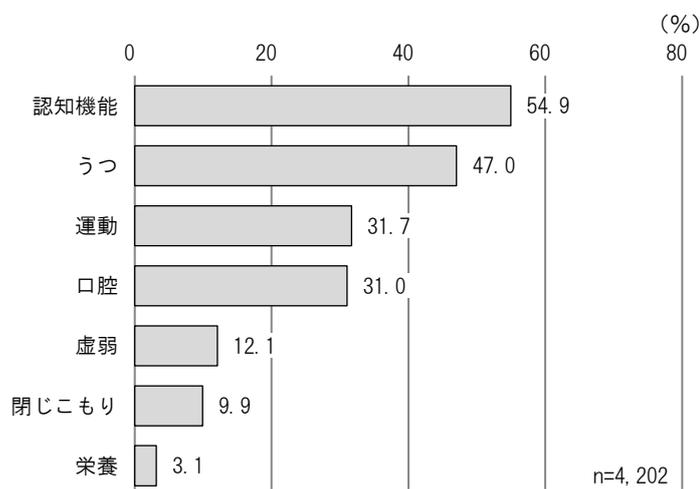


ウ 該当項目

基本チェックリストの判定項目（虚弱、運動、閉じこもり、栄養、口腔、認知機能、うつ）について、重複している方がいますが、該当項目の割合は以下のグラフのとおりです。

評価項目のうち最も多いのは「認知機能」で、全体の54.9%となっており、次いで「うつ」が47.0%となっています。

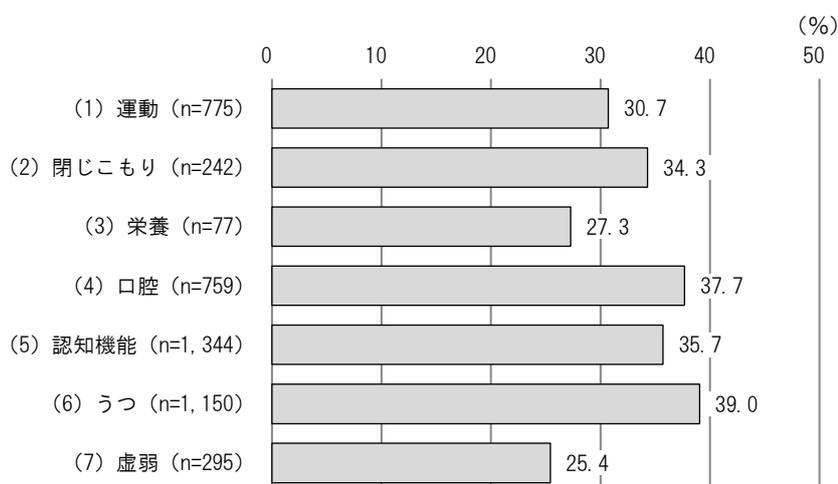
リスク該当項目構成比（該当項目に重複する方あり）



エ 関連項目

新型コロナウイルス感染症による外出自粛の影響をみるため、各リスク該当者のうち、外出を控えている理由（問2・Q8-1）で新型コロナウイルスによる外出自粛と回答した割合をみると、「うつ」が39.0%で最も高く、次いで「口腔」が37.7%、「認知機能」が35.7%、「閉じこもり」が34.3%となっています。

新型コロナウイルス感染症による外出自粛と回答した方（リスク該当項目別）



3 日常生活

3 日常生活

(1) 手段的自立度 (IADL)

ア 設問と評価

ニーズ調査では、高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができる老研式活動能力指標に準じた設問が設けられています。

このうち、手段的自立度 (IADL) については、各設問に「している」または「できるだけしていない」と回答した場合を1点として、5点満点で評価し、5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」として評価が可能です。

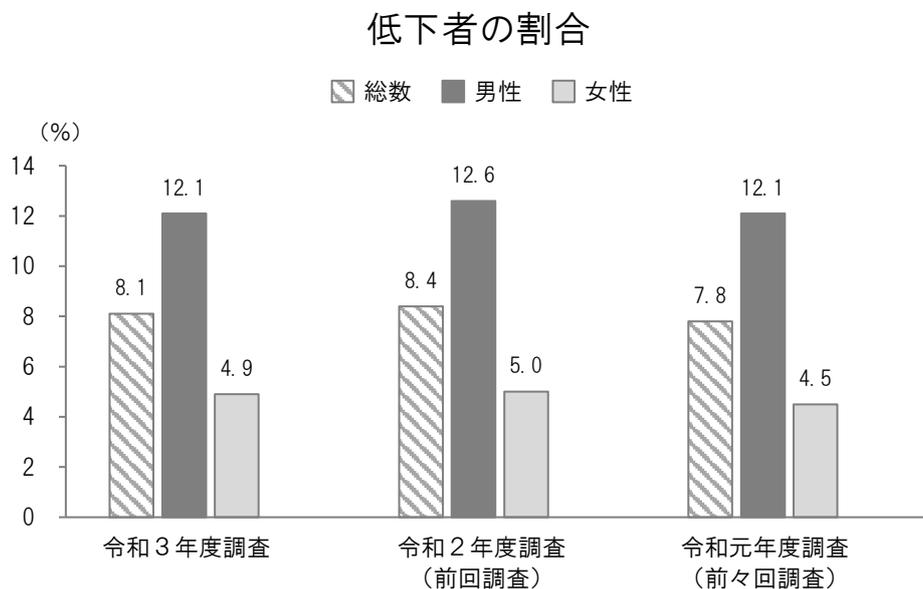
図表 手段的自立度に関する設問 (老研指標)

問番号	設問	配点と選択肢
問4・Q6	バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)	1:「1. できるし、している」または「2. できるだけしていない」
問4・Q8	自分で食品・日用品の買物をしていますか	1:「1. できるし、している」または「2. できるだけしていない」
問4・Q9	自分で食事の用意をしていますか	1:「1. できるし、している」または「2. できるだけしていない」
問4・Q10	自分で請求書の支払いをしていますか	1:「1. している」または「2. できるだけしていない」
問4・Q11	自分で預貯金の出し入れをしていますか	1:「1. している」または「2. できるだけしていない」

イ 評価結果

4点以下を低下者とした評価結果をみると、全体で8.1% : 339人、男性12.1% : 222人、女性4.9% : 117人が低下者となっており、女性より男性の低下者割合が顕著に高くなっています。過去の調査と比較すると、全体では、令和元年度調査(前々回調査)から0.3ポイント増加しています。

図表 低下者割合—手段的自立度 (IADL)



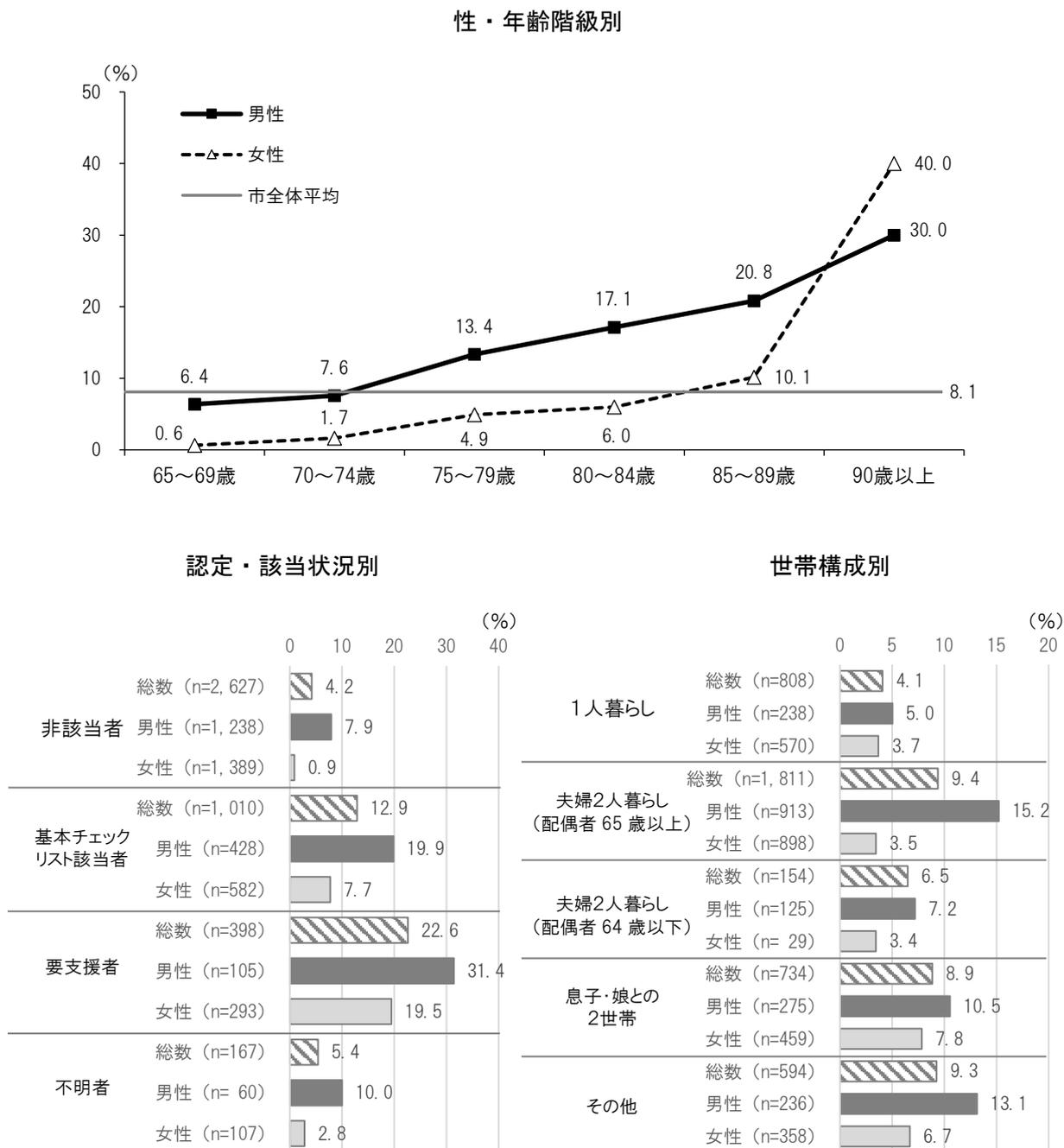
(1) 手段的自立度 (IADL)

性・年齢階級別にみると、男女ともに年齢が高いほど低下者割合が高くなる傾向となっています。

認定・該当状況別にみると、要支援者が22.6%と、非該当者の5倍以上高くなっています。

世帯構成別にみると、夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）の男性で15.2%、息子・娘との2世帯の男性で10.5%と低下者割合が高くなっています。

図表 IADL低下者割合－性・年齢階級別、認定・該当状況別、世帯構成別



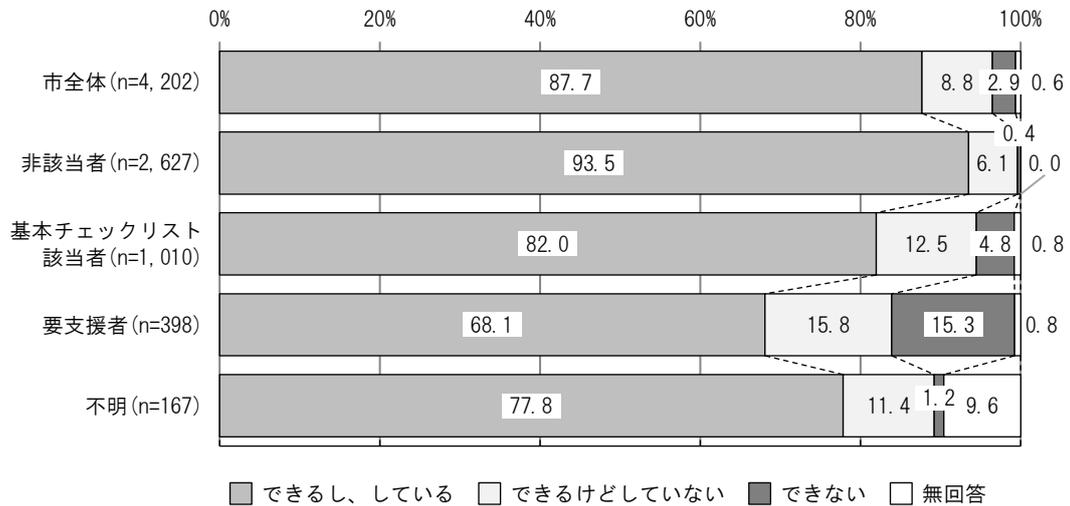
3 日常生活

ウ 回答結果

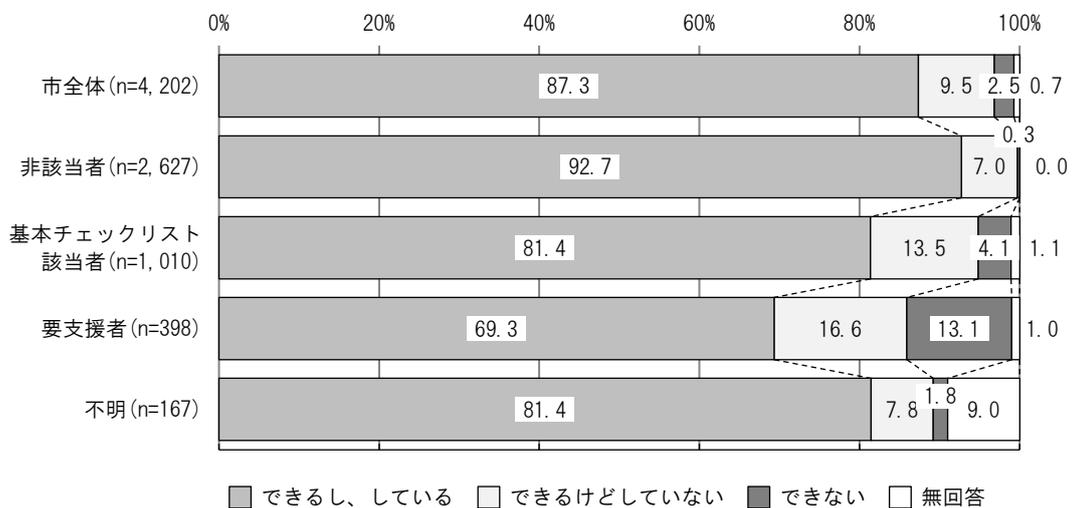
評価の基礎となった回答結果をみると、全体で「できるし、している」との回答は、食事の用意（問4・Q9）のみ80%を下回っています。

図表 回答結果-1

問4・Q6. バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）
（できるけどしていない・できない）

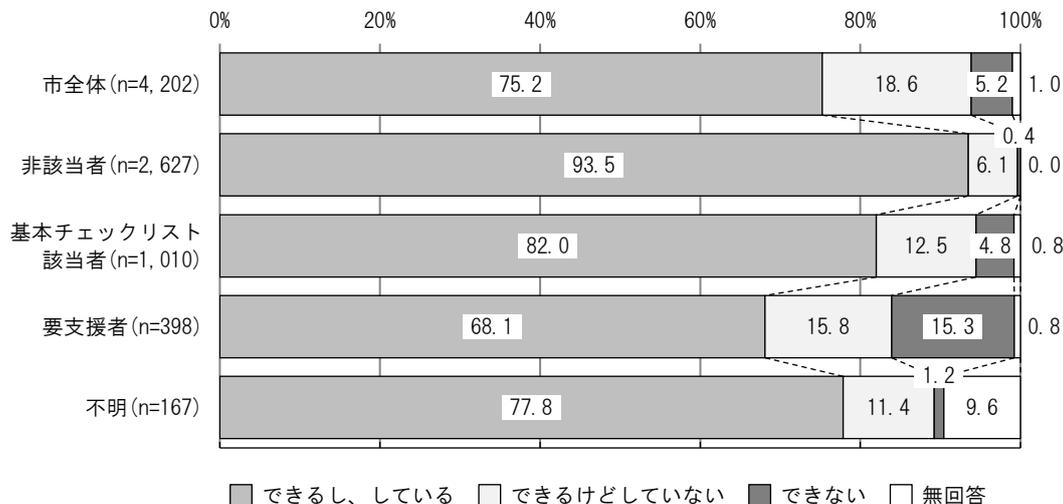


問4・Q8. 自分で食品・日用品の買物をしていますか（できるけどしていない・できない）

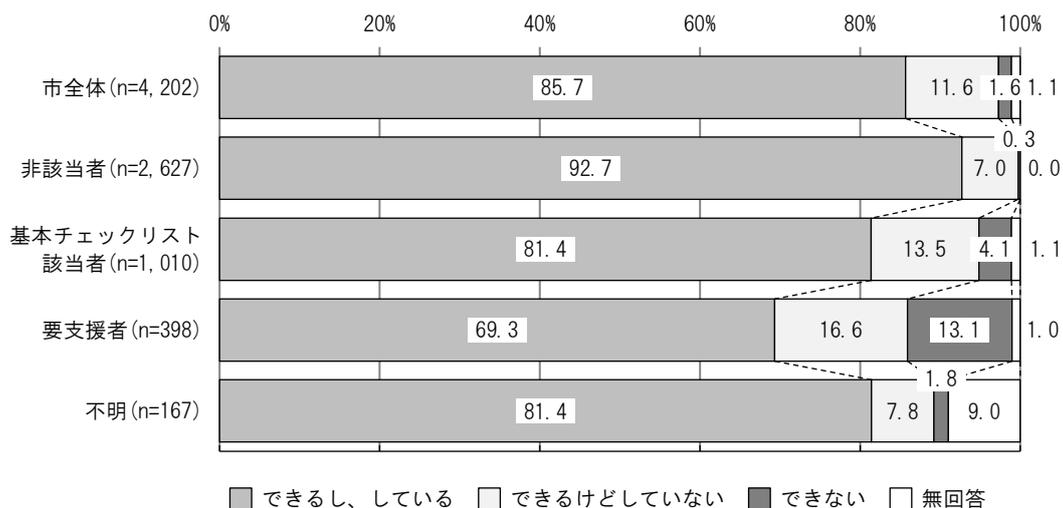


図表 回答結果-2

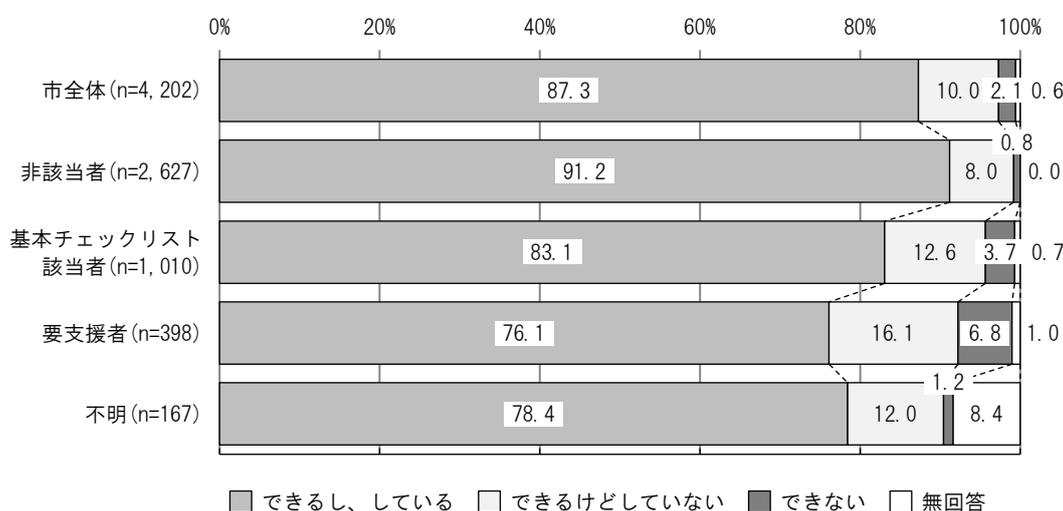
問4・Q9. 自分で食事の用意をしていますか（できるけどしていない・できない）



問4・Q10. 自分で請求書の支払いをしていますか（できるけどしていない・できない）



問4・Q11. 自分で預貯金の出し入れをしていますか（できるけどしていない・できない）



(1) 手段的自立度 (IADL)

4 社会参加

4 社会参加

(1) 知的能動性

ア 設問と評価

老研式活動能力指標には、高齢者の知的活動に関する設問が4問設けられ、「知的能動性」として尺度化されています。

評価は、各設問に「はい」と回答した場合を1点として、4点満点の4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」と評価しています。

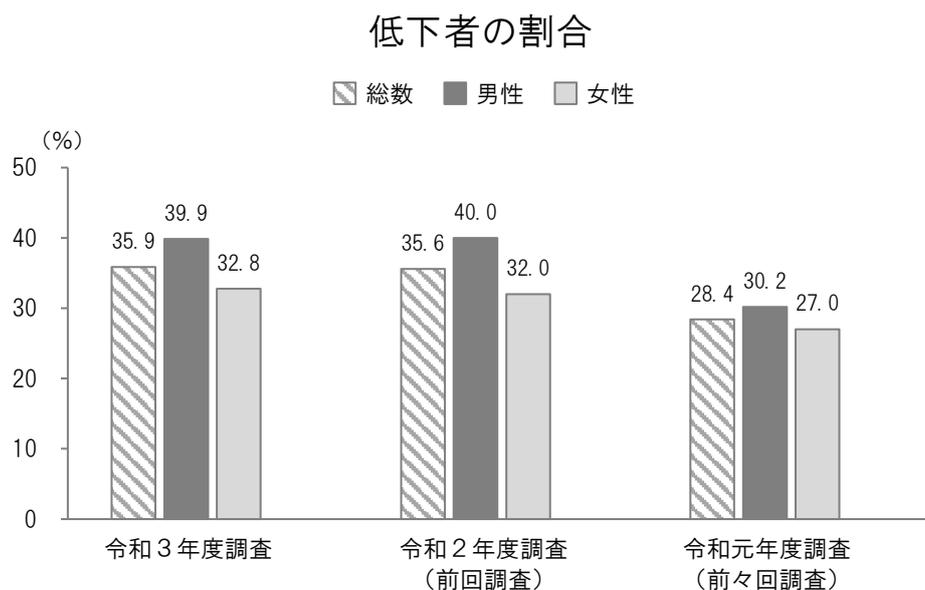
図表 知的能動性に関する設問（老研指標）

問番号	設問	配点と選択肢
問4・Q12	年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか	1:「1. はい」
問4・Q13	新聞を読んでいますか	1:「1. はい」
問4・Q14	本や雑誌を読んでいますか	1:「1. はい」
問4・Q15	健康についての記事や番組に関心がありますか	1:「1. はい」

イ 評価結果

3点以下を低下者とした評価結果をみると、全体で35.9%：1,507人、男性39.9%：730人、女性32.8%：777人が低下者となっており、女性より男性の方が7.1ポイント低下者割合が高くなっています。過去の調査と比較すると、全体で令和元年度調査（前々回調査）から増加傾向にあり、令和2年度調査（前回調査）との比較でも0.3ポイント高くなっています。

図表 低下者割合—知的能動性



(1) 知的能動性

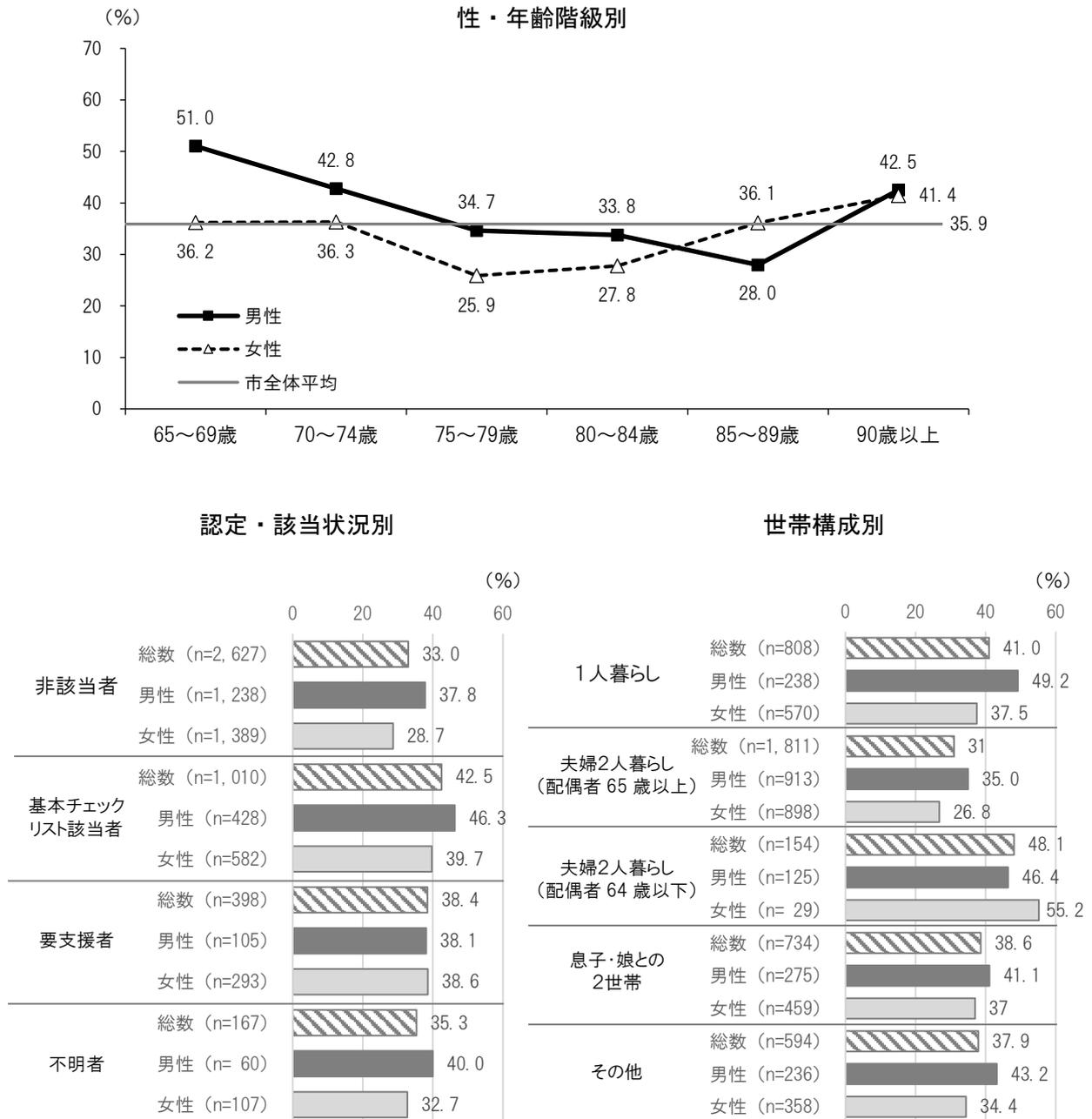
4 社会参加

性・年齢階級別にみると、男性では65～69歳が51.0%、女性では90歳以上が41.4%と他の年齢と比べて低下者割合が高くなっています。

認定・該当状況別にみると、非該当者33.0%、基本チェックリスト該当者42.5%、要支援者38.4%、不明者35.3%が低下者になっています。

世帯構成別にみると、夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）の女性が55.2%、1人暮らし世帯の男性が49.2%と、低下者割合が高くなっています。

図表 知的能動性 低下者割合－性・年齢階級別、世帯構成別、認定・該当状況別



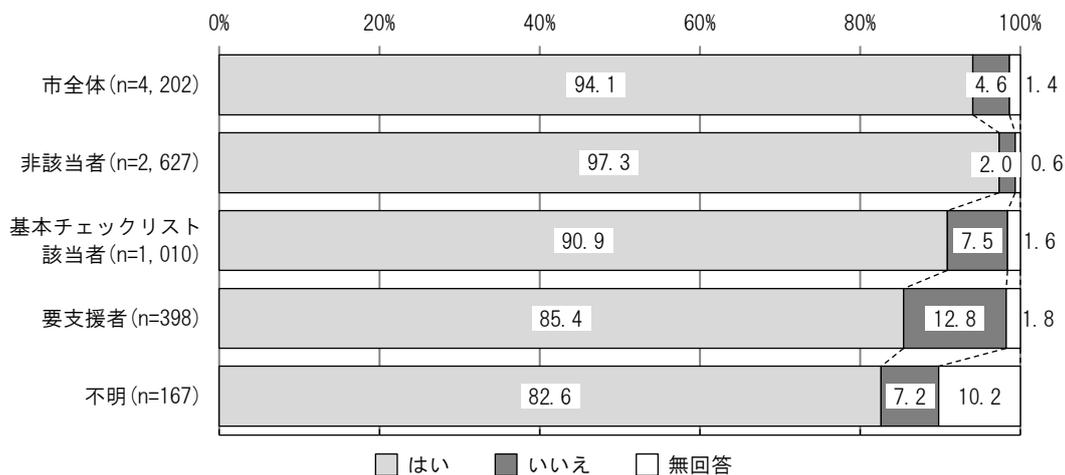
4 社会参加

ウ 回答結果

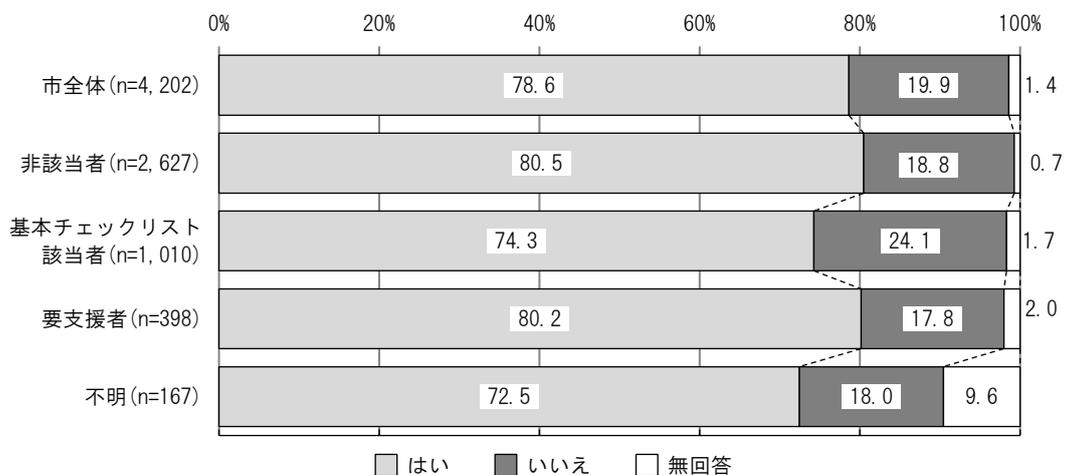
評価の基礎となっている4問の回答結果をみると、(問4・Q12)年金などの書類が書けますかについては、「はい」との回答がすべての認定・該当状況で80%を超えており、他の設問と比較して高くなっています。

図表 回答結果-1

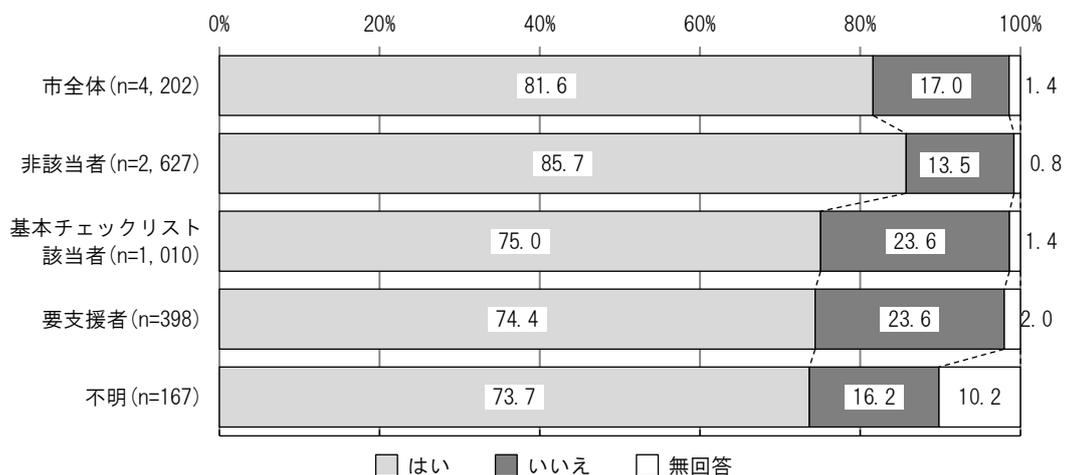
問4・Q12. 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか（いいえ）



問4・Q13. 新聞を読んでいますか（いいえ）

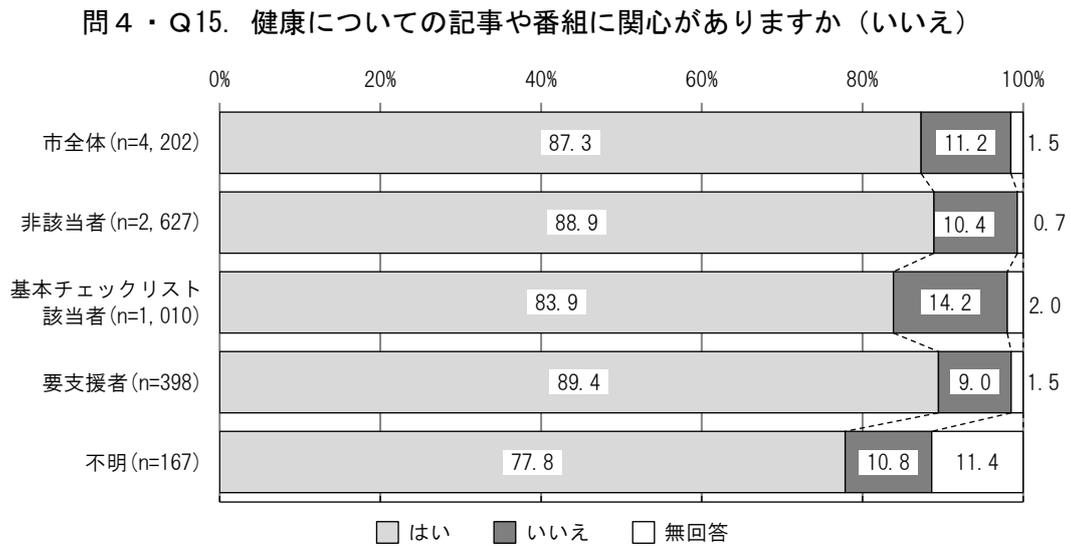


問4・Q14. 本や雑誌を読んでいますか（いいえ）



(1) 知的能動性

図表 回答結果-2



4 社会参加

(2) 社会的役割

ア 設問と評価

老研式活動能力指標には、高齢者の社会活動に関する設問が4問設けられ、「社会的役割」として尺度化されています（問4・Q17～20）。

評価は、知的能動性と同様に4点満点で評価し、4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」と評価しています。

図表 社会的役割に関する設問（老研指標）

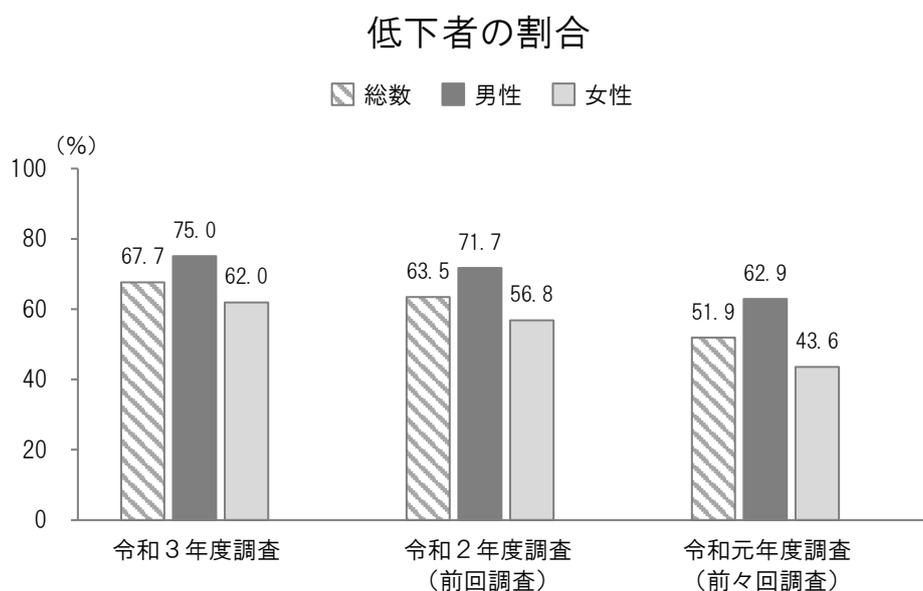
問番号	設問	配点と選択肢
問4・Q17	友人の家を訪ねていますか	1:「1. はい」
問4・Q18	家族や友人の相談にのっていますか	1:「1. はい」
問4・Q19	病人を見舞うことができますか	1:「1. はい」
問4・Q20	若い人に自分から話しかけることがありますか	1:「1. はい」

イ 評価結果

3点以下を低下者とした評価結果をみると、全体で67.7%：2,843人、男性75.0%：1,374人、女性62.0%：1,469人が低下者となっています。男性が女性よりも13.0ポイント高くなっています。

過去の調査と比較すると、令和元年度調査（前々回調査）から増加しており、令和2年度調査（前回調査）との比較では全体で4.2ポイント高くなっています。

図表 低下者割合－社会的役割



(2) 社会的役割

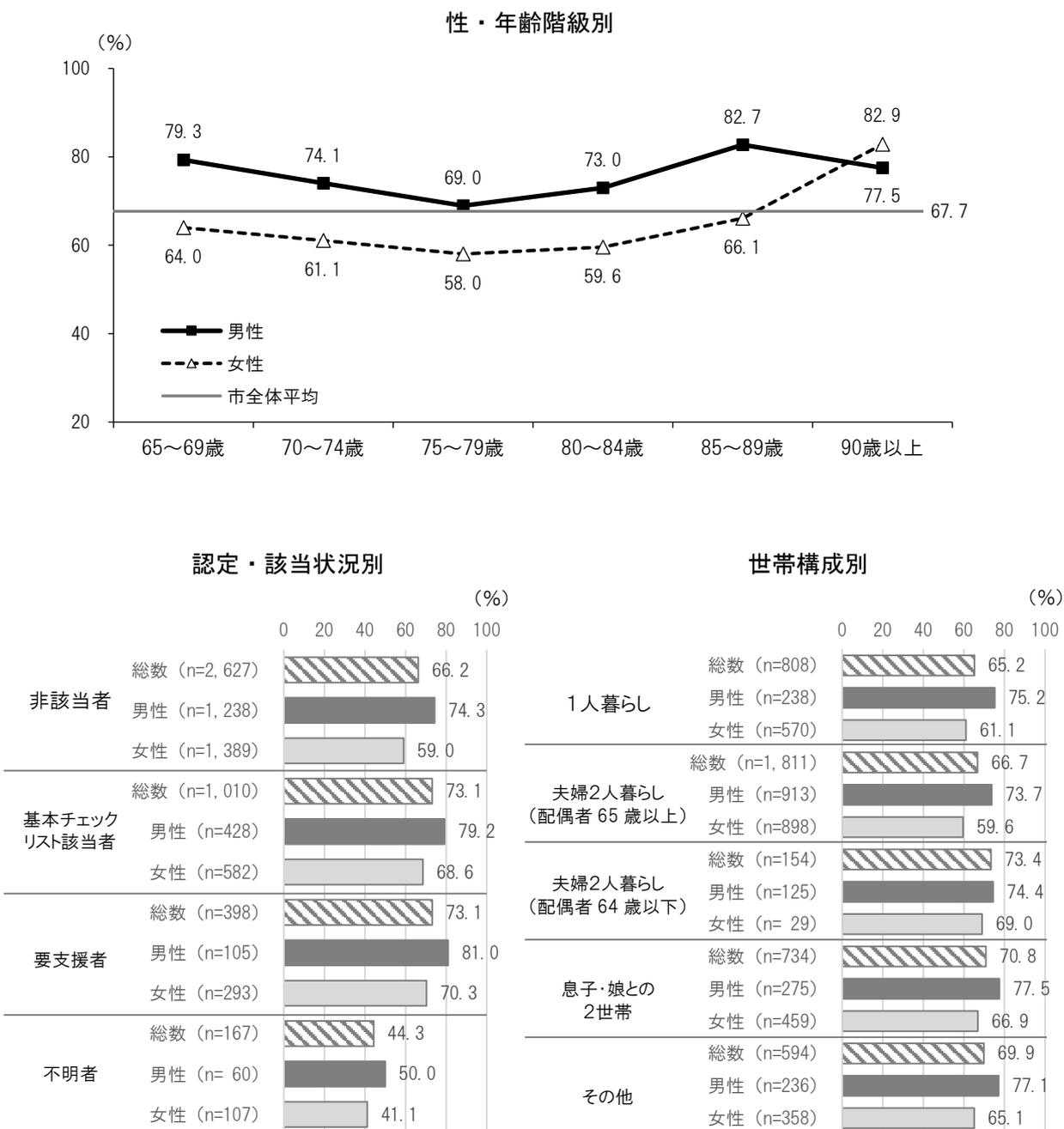
4 社会参加

性・年齢階級別にみると、90歳以上を除くすべての年齢階級で男性が女性より高くなっています。男性は85～89歳の82.7%が最も高く、女性は75～79歳の58.0%から年齢とともに高くなり、90歳以上で82.9%と、男性より高くなっています。

認定・該当状況別にみると、男性が非該当者で74.3%、基本チェックリスト該当者で79.2%、要支援者で81.0%、不明者50.0%と、いずれにおいても女性より高くなっています。

世帯構成別でも、すべての世帯構成で男性の低下者割合が市全体平均（67.7%）より高くなっています。

図表 社会的役割 低下者割合－性・年齢階級別、世帯構成別、認定・該当状況別

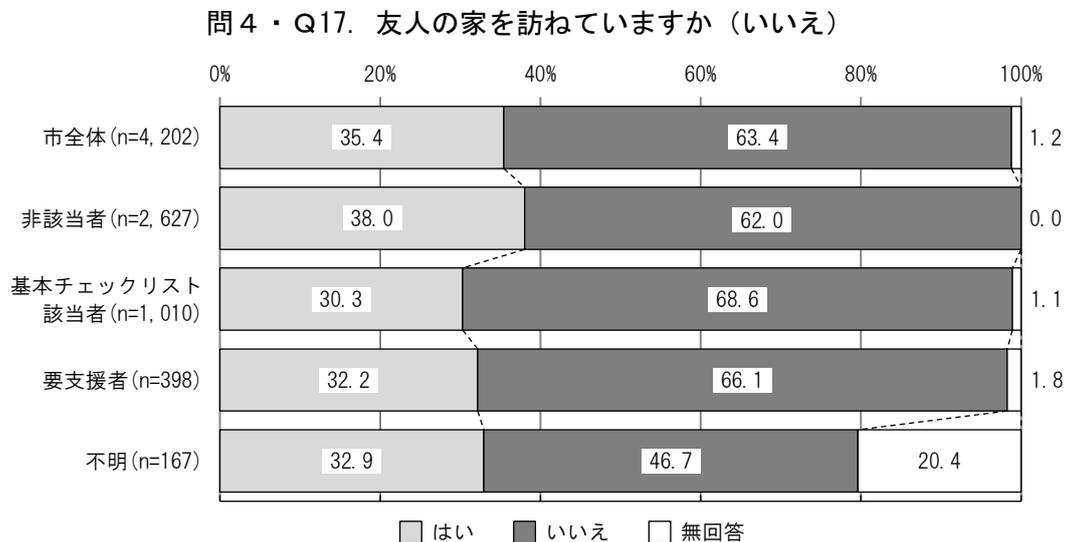


4 社会参加

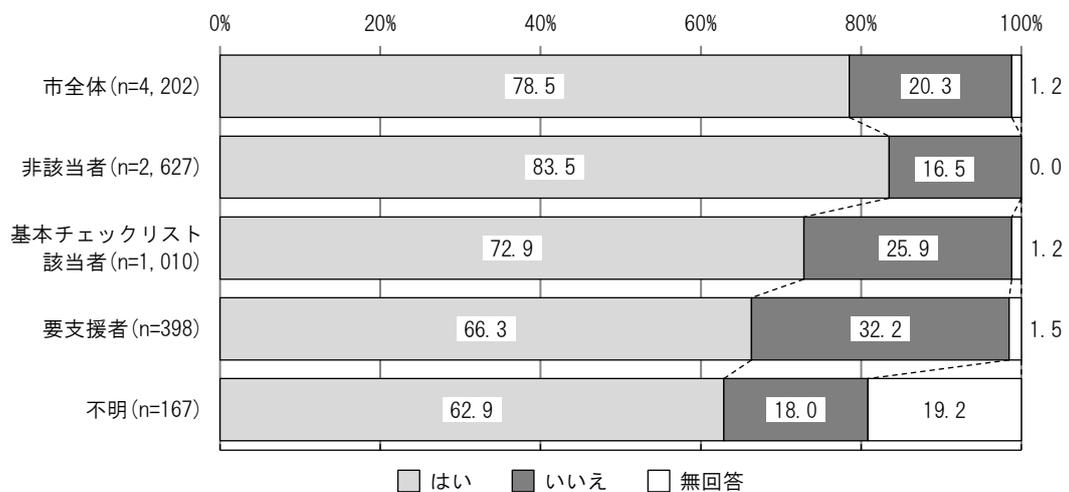
ウ 回答結果

評価の基礎となっている4問の回答結果をみると、友人の家を訪ねているか（問4・Q17）との設問で「はい」との回答が最も少なくなっています。

図表 回答結果-1

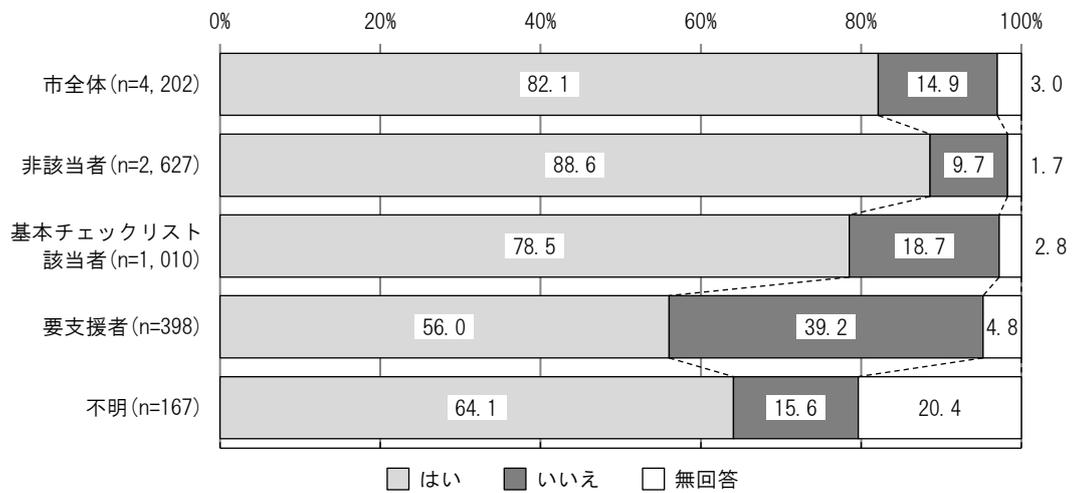


問4・Q18. 家族や友人の相談にのっていますか（いいえ）

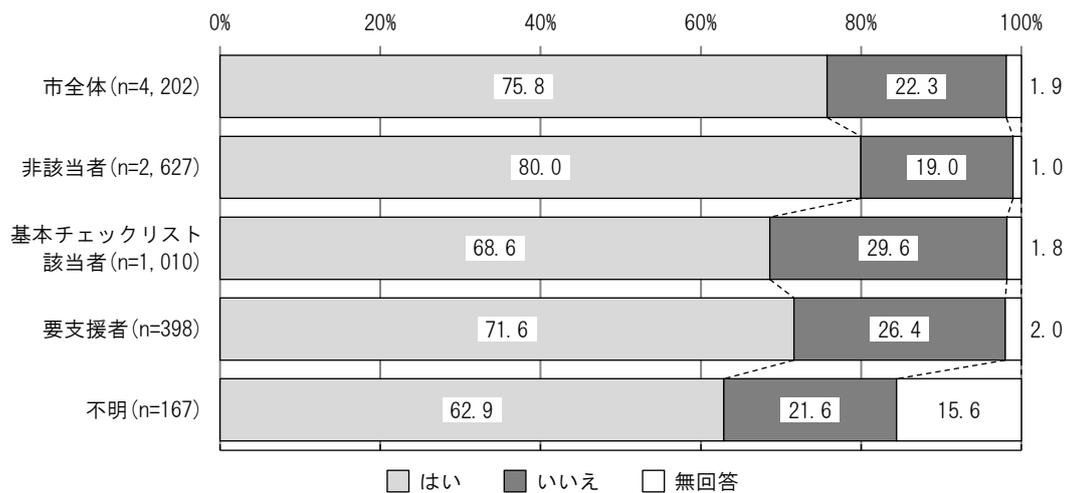


図表 回答結果-2

問4・Q19. 病人を見舞うことができますか（いいえ）



問4・Q20. 若い人に自分から話しかけることがありますか（いいえ）



4 社会参加

エ 関連設問

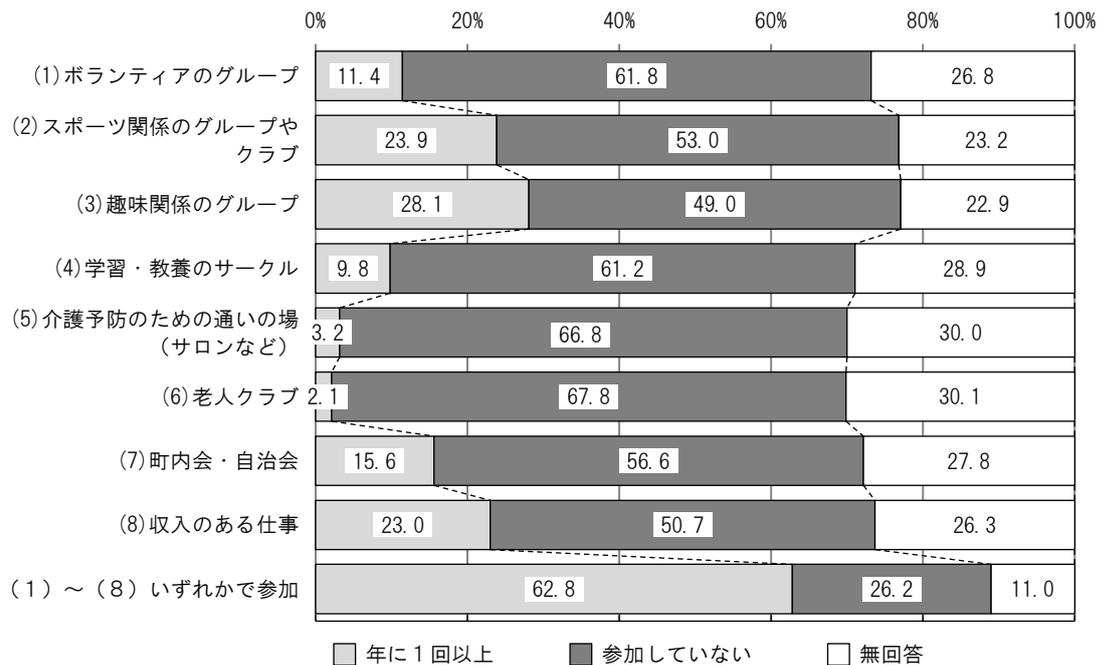
① 会の活動

関連設問である、参加している会・グループについてみると、比較的多いのは「趣味関係のグループ」「スポーツ関係のグループやクラブ」となっています。「老人クラブ」は「年に1回以上」が2.1%と他の会・グループ等と比べて低い割合となっています。

また、いずれの会・グループも参加していない人の割合は26.2%となっています。

図表 参加している会・グループ

問5・Q1. 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか



上段：人数、下段：%

	年に1回以上						参加していない	無回答
	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回			
(1) ボランティアのグループ	480 11.4	21 0.5	49 1.2	88 2.1	173 4.1	149 3.5	2,595 61.8	1,127 26.8
(2) スポーツ関係のグループやクラブ	1,003 23.9	104 2.5	332 7.9	258 6.1	205 4.9	104 2.5	2,225 53.0	974 23.2
(3) 趣味関係のグループ	1,181 28.1	36 0.9	157 3.7	204 4.9	534 12.7	250 5.9	2,059 49.0	962 22.9
(4) 学習・教養サークル	413 9.8	16 0.4	18 0.4	61 1.5	185 4.4	133 3.2	2,573 61.2	1,216 28.9
(5) 介護予防のための通いの場 (サロンなど)	133 3.2	3 0.1	17 0.4	37 0.9	49 1.2	27 0.6	2,808 66.8	1,261 30.0
(6) 老人クラブ	89 2.1	3 0.1	7 0.2	7 0.2	37 0.9	35 0.8	2,847 67.8	1,266 30.1
(7) 町内会・自治会	655 15.6	8 0.2	15 0.4	18 0.4	181 4.3	433 10.3	2,377 56.6	1,170 27.8
(8) 収入のある仕事	967 23.0	431 10.3	287 6.8	70 1.7	96 2.3	83 2.0	2,129 50.7	1,106 26.3
合計※ (1)～(8) いずれかで年1回以上参加	2,637 62.8						1,099 26.2	466 11.0

(2) 社会的役割

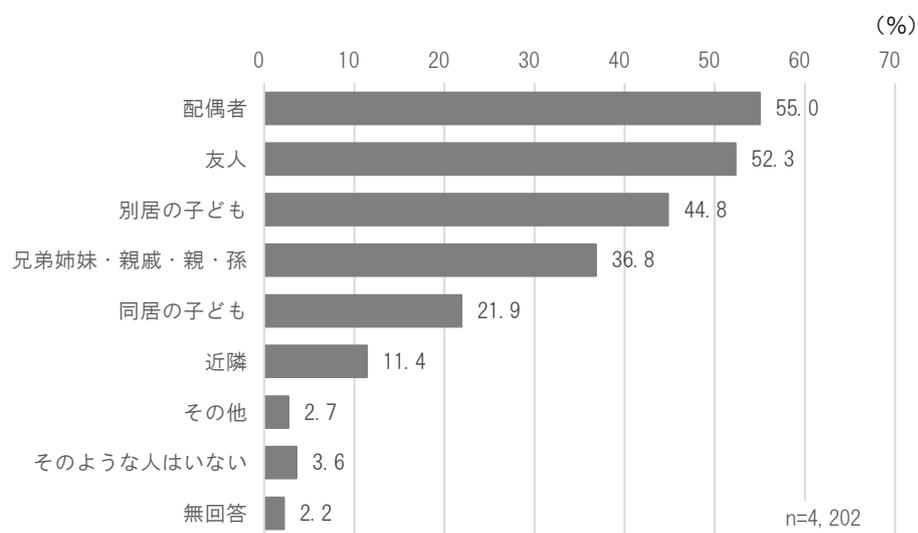
② まわりの人との助け合い

「心配事や愚痴を聞いてくれる人」としては、「配偶者」が55.0%と最も多く、次いで「友人」(52.3%)、「別居の子ども」(44.8%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(36.8%)となっています。

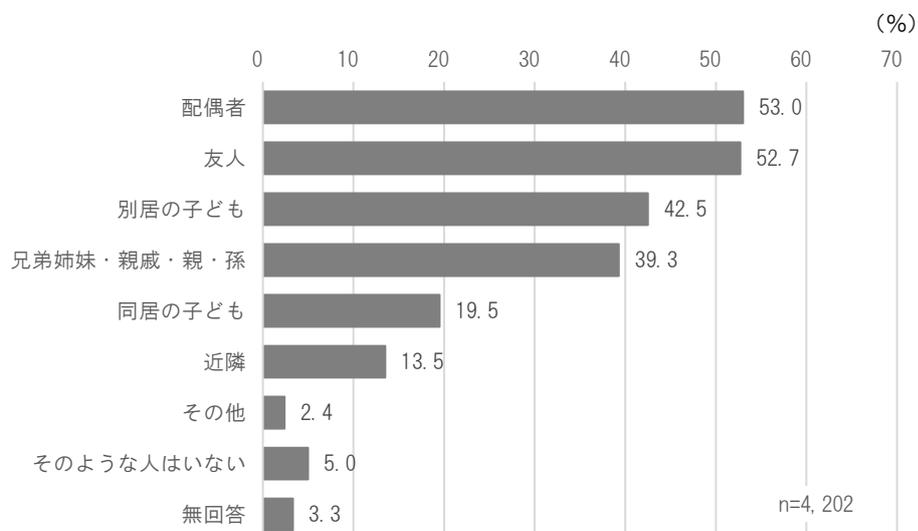
「心配事や愚痴を聞いてあげる人」も、「配偶者」が53.0%で最も多く、次いで「友人」(52.7%)、「別居の子ども」(42.5%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(39.3%)の順になっています。

図表 まわりの人との助け合い-1

問5・Q4. あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします。
(1) あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人(いくつでも)



問5・Q4. あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします。
(2) 反対に、あなたが心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人(いくつでも)



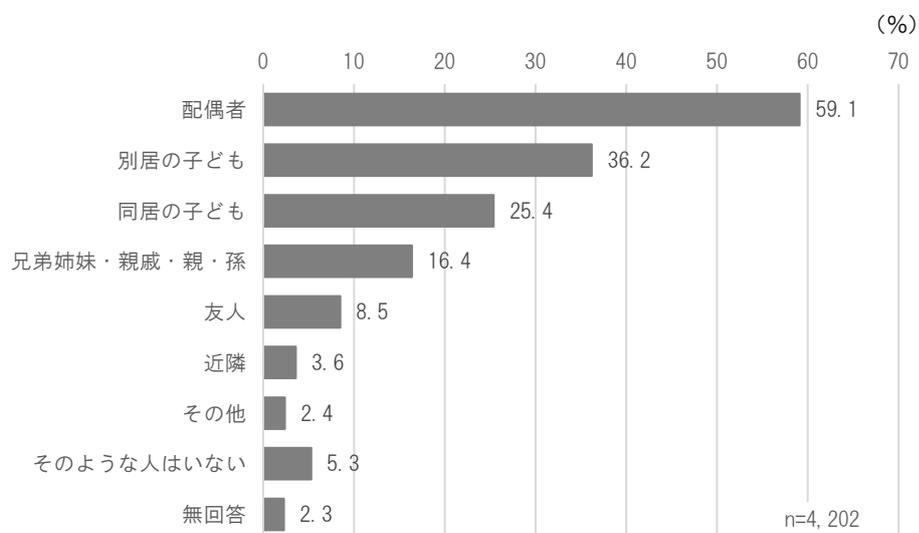
4 社会参加

「看病や世話をしてくれる人」は、「配偶者」が 59.1%で最も多く、次いで「別居の子ども」(36.2%)、「同居の子ども」(25.4%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(16.4%)が続いています。

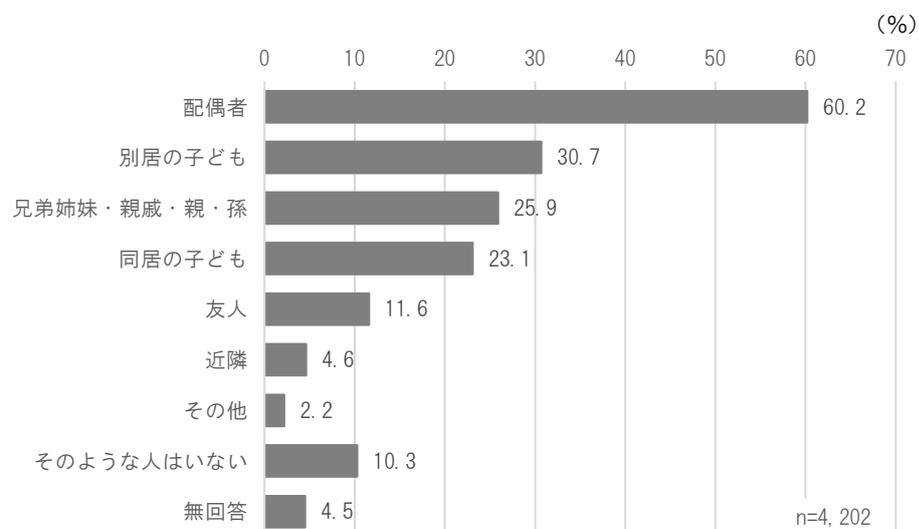
「看病や世話をしてあげる人」も、「配偶者」が 60.2%で最も多く、次いで「別居の子ども」(30.7%)、「兄弟姉妹・親戚・親」(25.9%)、「同居の子ども」(23.1%)の順になっています。

図表 まわりの人との助け合い-2

問5・Q4. あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします。
(3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人(いくつでも)



問5・Q4. あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします。
(4) 反対に、看病や世話をしてあげる人(いくつでも)

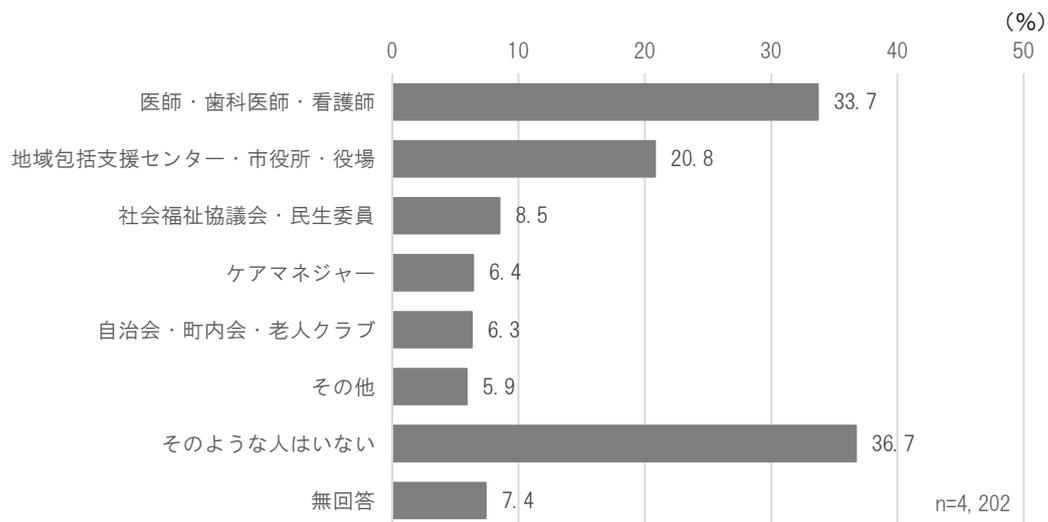


③ 相談相手

家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手としては、「医師・歯科医師・看護師」が33.7%で最も多く、次いで「地域包括支援センター・役所・役場」(20.8%)などと続いています。「そのような人はいない」との回答は36.7%となっています。

図表 何かあったときの相談相手

問5・Q5. 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください(いくつでも)



4 社会参加

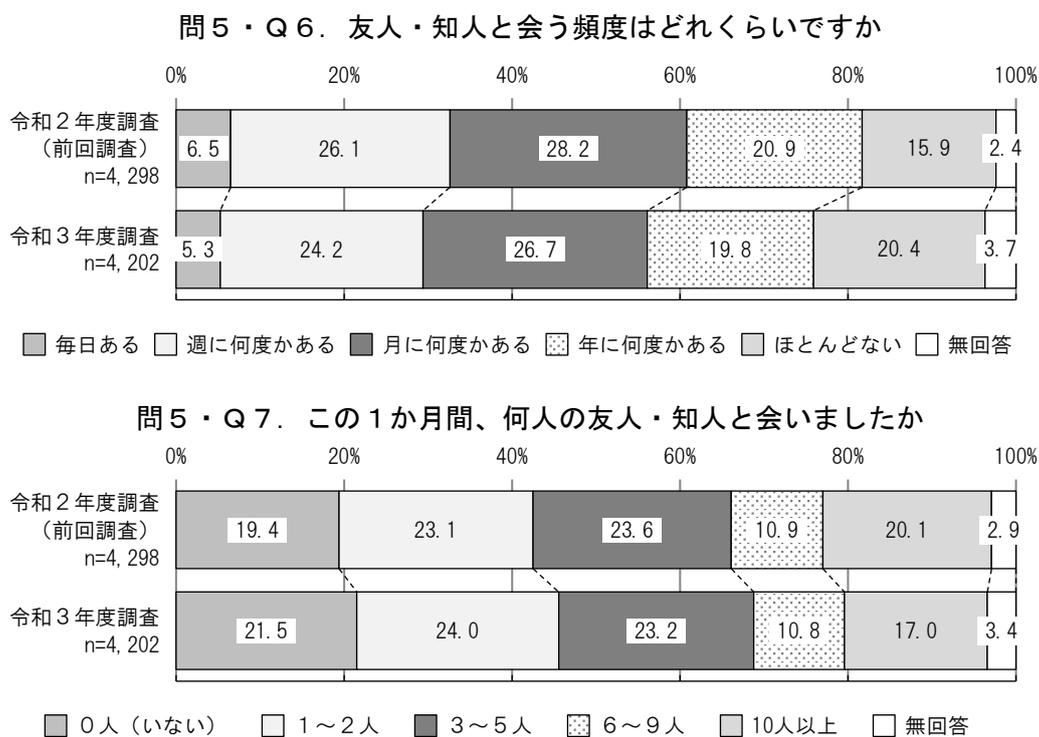
④ 知人・友人

「知人・友人に会う頻度」については、「月に何度かある」が26.7%で最も多くなっています。令和2年度調査（前回調査）と比較すると、「毎日ある」、「週に何度かある」、「月に何度かある」、「年に何度かある」の割合が減少し、「ほとんどない」の割合が増加しています。

1か月に会った友人・知人の数は、「1～2人」が24.0%で最も多くなっています。令和2年度調査（前回調査）と比較すると、「0人（いない）」と「1～2人」の割合が増加した一方、それ以外の割合は減少しています。

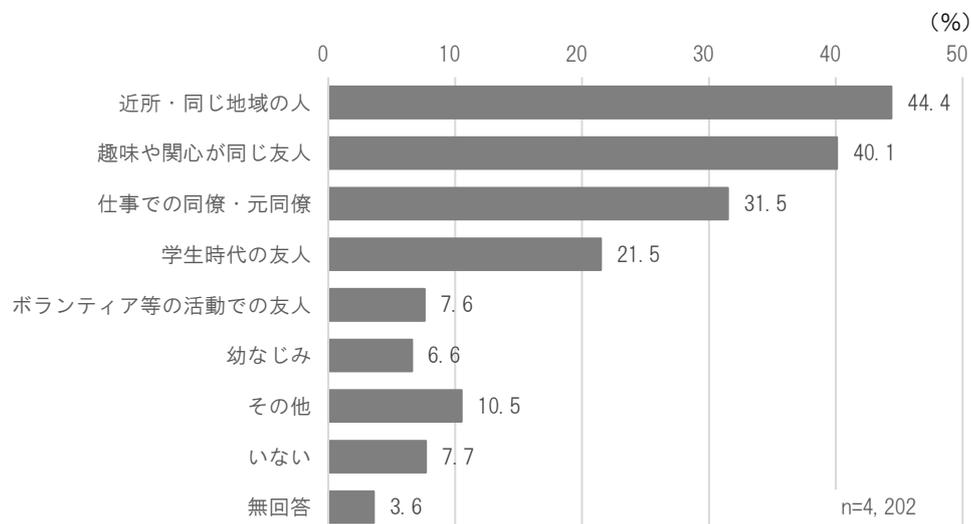
「よく会う友人・知人」としては、「近所・同じ地域の人」が44.4%で最も多く、次いで「趣味や関心が同じ友人」（40.1%）、「仕事での同僚・元同僚」（31.5%）と続いています。

図表 知人・友人と会う頻度・人数



図表 知人・友人の関係

問5・Q8. よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか（いくつでも）



(2) 社会的役割

⑤ 地域づくり

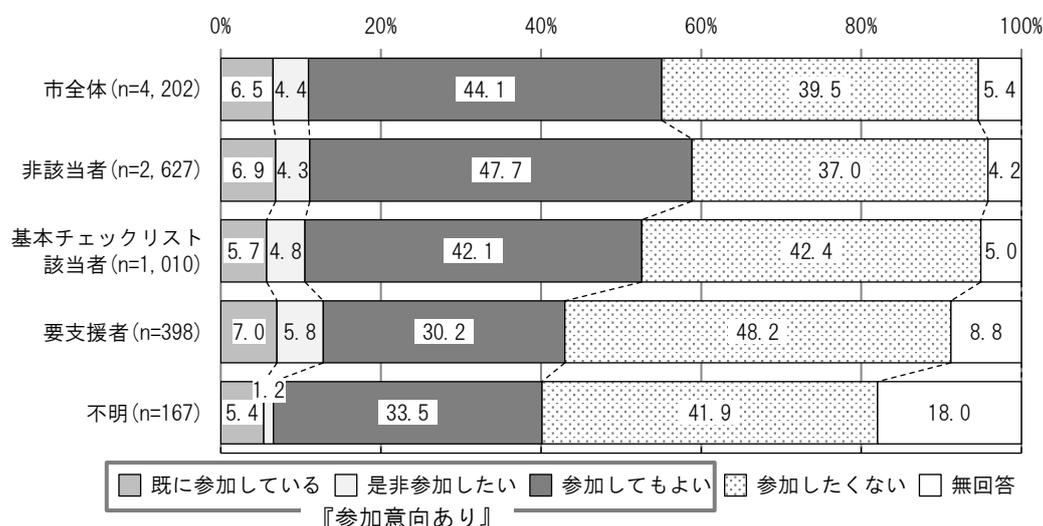
「地域づくりを進めるために、あなたはその活動に参加者として参加したいか」については、全体では「参加してもよい」が44.1%と最も多く、次いで「参加したくない」(39.5%)、「既に参加している」(6.5%)「是非参加したい」(4.4%)となっています。非該当者と基本チェックリスト該当者では、半数以上が『参加意向あり』と回答しています。

「地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加したいか」については、全体では「参加したくない」が58.2%と最も多く、次いで「参加してもよい」(29.4%)、「既に参加している」(4.3%)「是非参加したい」(1.6%)となっています。また、非該当者の38.6%が『参加意向あり』と回答しています。

図表 活動に参加者として参加

問5・Q2.

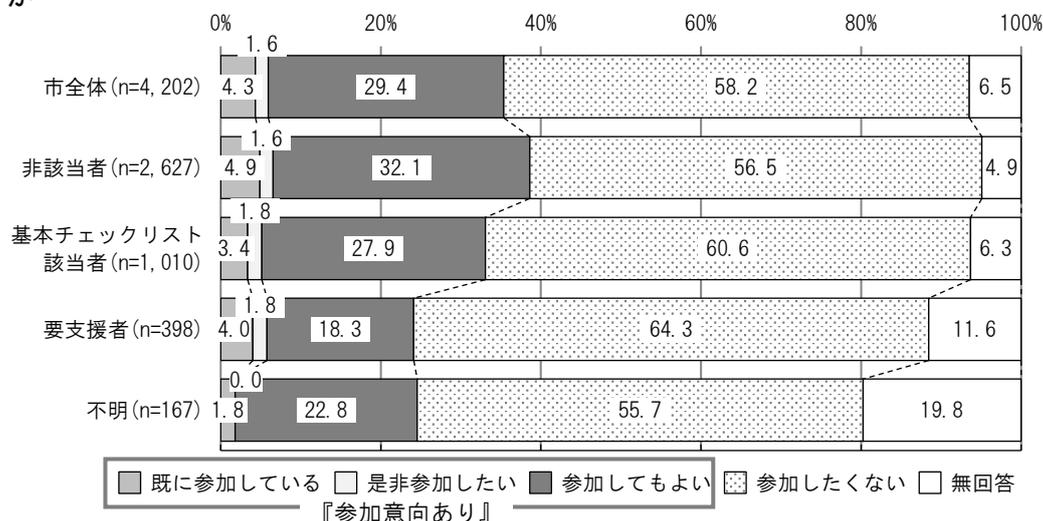
地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか



図表 活動に企画・運営（お世話役）として参加

問5・Q3.

地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか



4 社会参加

(3) 老研式活動能力指標総合評価

ア 設問と評価

老研指標では、全 13 問の合計得点で生活機能において高次・複雑な対応ができるかどうか等の活動能力の総合評価ができます。

評価は 13 点満点で行いますが、ここでは 11 点以上を「高い」、9、10 点を「やや低い」、8 点以下を「低い」として評価しています。(設問の実行している状況の評価)

図表 老研式活動能力指標総合評価に関する設問

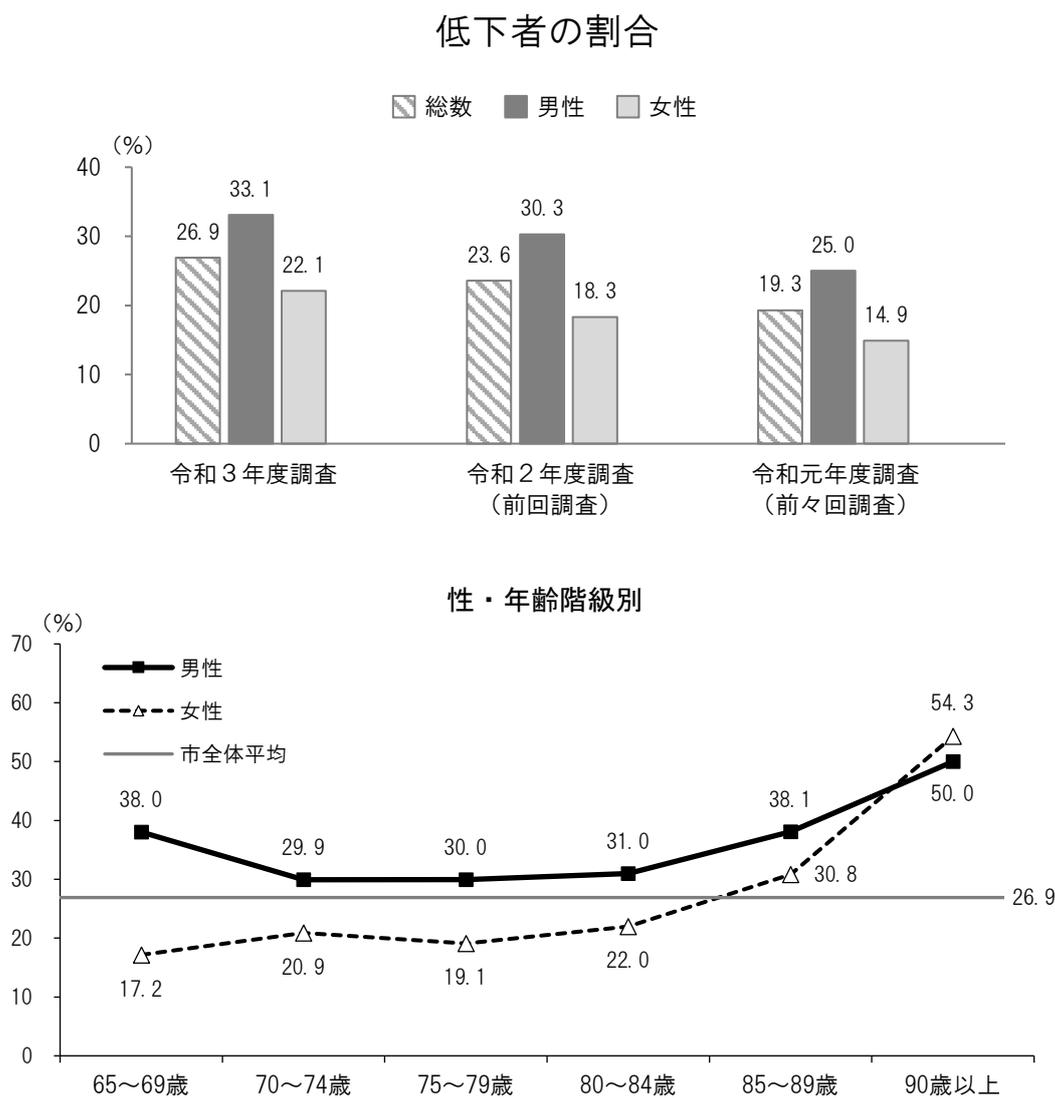
問番号	設 問	配点と選択肢
問4・Q6	バスや電車を使って1人で外出していますか (自家用車でも可)	1:「できるし、している」または「できるけどしていない」
問4・Q8	自分で食品・日用品の買物をしていますか	1:「できるし、している」または「できるけどしていない」
問4・Q9	自分で食事の用意をしていますか	1:「できるし、している」または「できるけどしていない」
問4・Q10	自分で請求書の支払いをしていますか	1:「できるし、している」または「できるけどしていない」
問4・Q11	自分で預貯金の出し入れをしていますか	1:「できるし、している」または「できるけどしていない」
問4・Q12	年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか	1:「はい」
問4・Q13	新聞を読んでいますか	1:「はい」
問4・Q14	本や雑誌を読んでいますか	1:「はい」
問4・Q15	健康についての記事や番組に関心がありますか	1:「はい」
問4・Q17	友人の家を訪ねていますか	1:「はい」
問4・Q18	家族や友人の相談にのっていますか	1:「はい」
問4・Q19	病人を見舞うことができますか	1:「はい」
問4・Q20	若い人に自分から話しかけることがありますか	1:「はい」

イ 評価結果

10点以下を低下者とした結果をみると、全体で26.9%：1,129人、男性33.1%：606人、女性22.1%：523人が低下者となっており、男性が女性より11.0ポイント高くなっています。過去の調査と比較すると、令和元年度調査（前々回調査）から増加傾向にあり、令和2年度調査（前回調査）から3.3ポイント増加しています。

性・年齢階級別にみると、男性は70～74歳から年齢とともに低下者割合が高くなり、90歳以上で50.0%となっています。女性は75～79歳から年齢とともに低下者割合が高くなり、90歳以上で54.3%となっています。

図表 低下者割合－老研指標総合評価

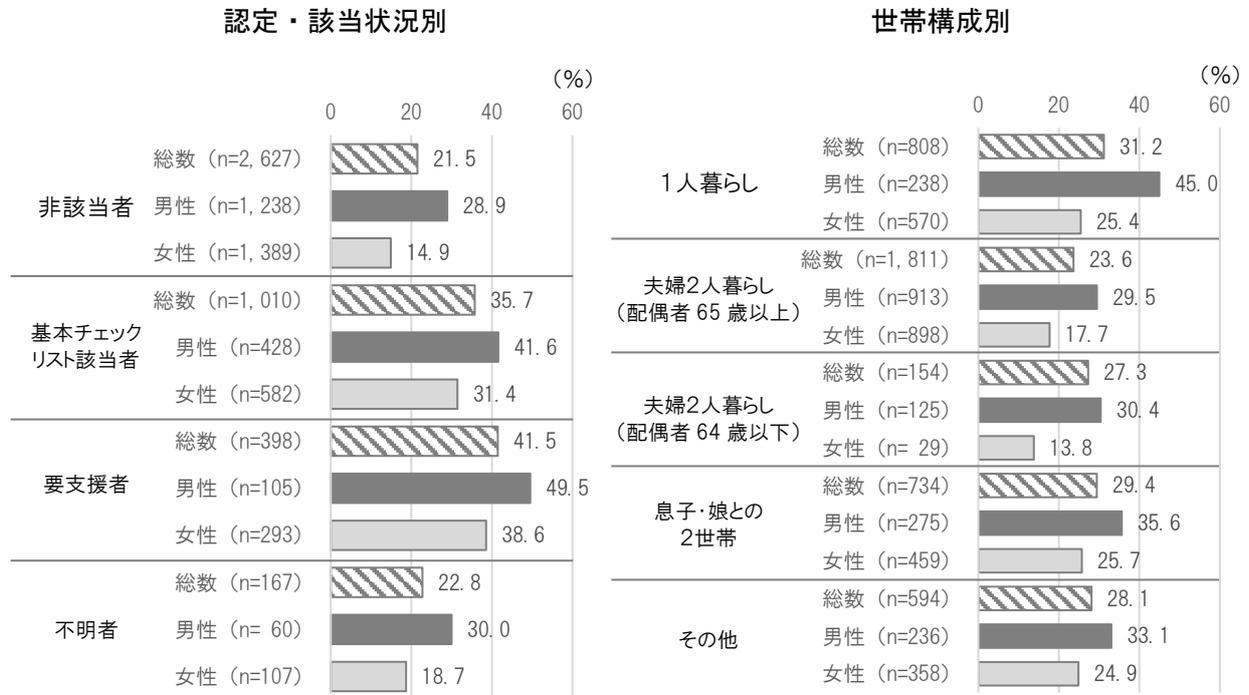


4 社会参加

これを認定・該当状況別にみると、非該当者 21.5%、基本チェックリスト該当者 35.7%、要支援者 41.5%、不明者 22.8%となっています。

また世帯構成別にみると、1人暮らし世帯の男性が45.0%と特に高くなっています。

図表 低下者割合－認定・該当状況別、世帯構成別



(4) 生きがい

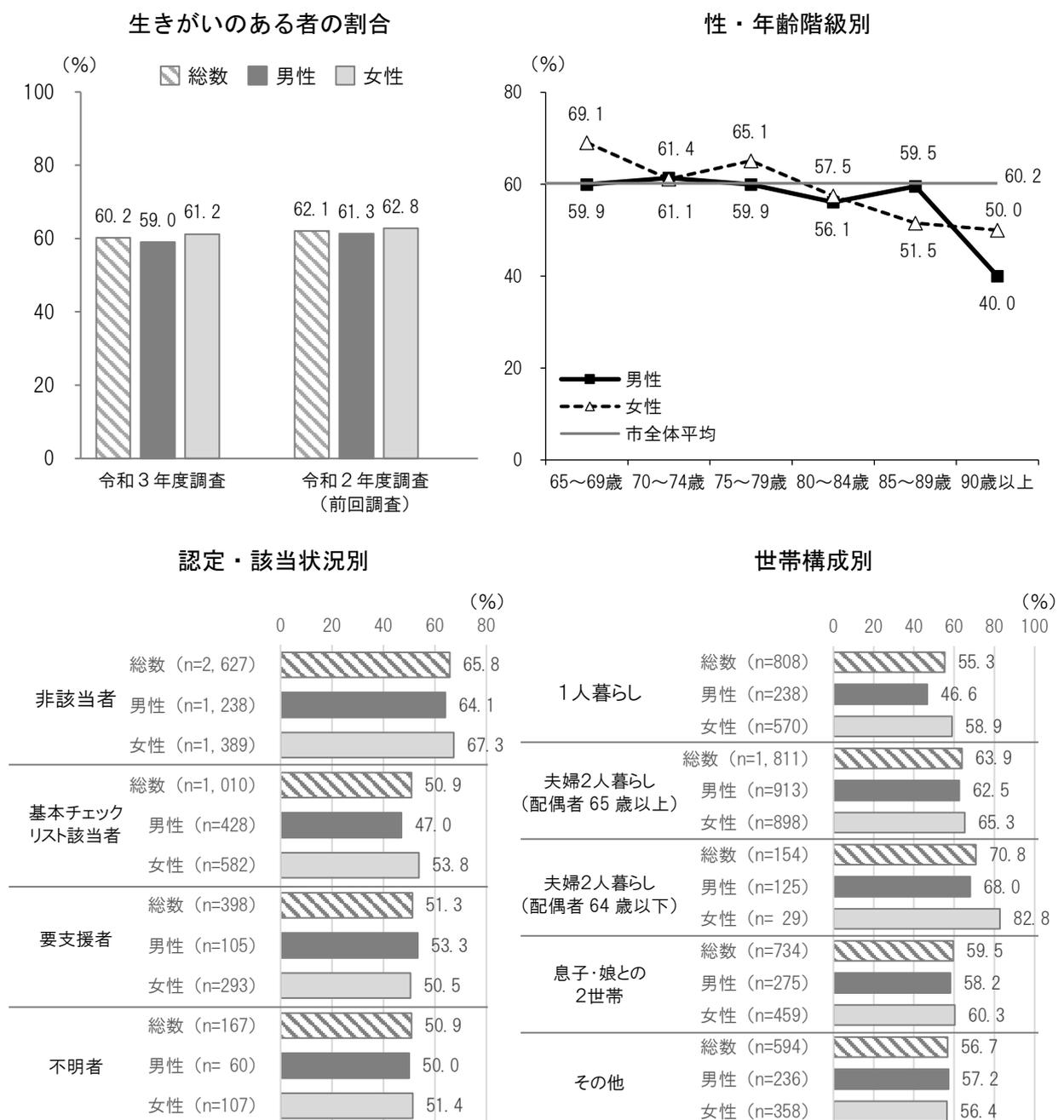
ニーズ調査では、いきがいの有無についての設問が設けられています。「生きがいはありますか」(問4・Q22)との設問に「はい」と回答したのは、全体で60.2%:2,531人、男性59.0%:1,080人、女性61.2%:1,451人となっています。また、令和2年度調査(前回調査)と比較すると、全体で1.9ポイント減少しています。

性・年齢階級別にみると、男女とも年齢とともに割合が低くなる傾向となっています。

認定・該当状況別では、基本チェックリスト該当者と不明者で50.9%が「はい」と回答していますが、非該当者の65.8%より14.9ポイント低くなっています。

世帯構成別にみると、夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)世帯で82.8%と、他の世帯構成より高くなっています。

図表 生きがいがある者の割合



4 社会参加

(5) 趣味

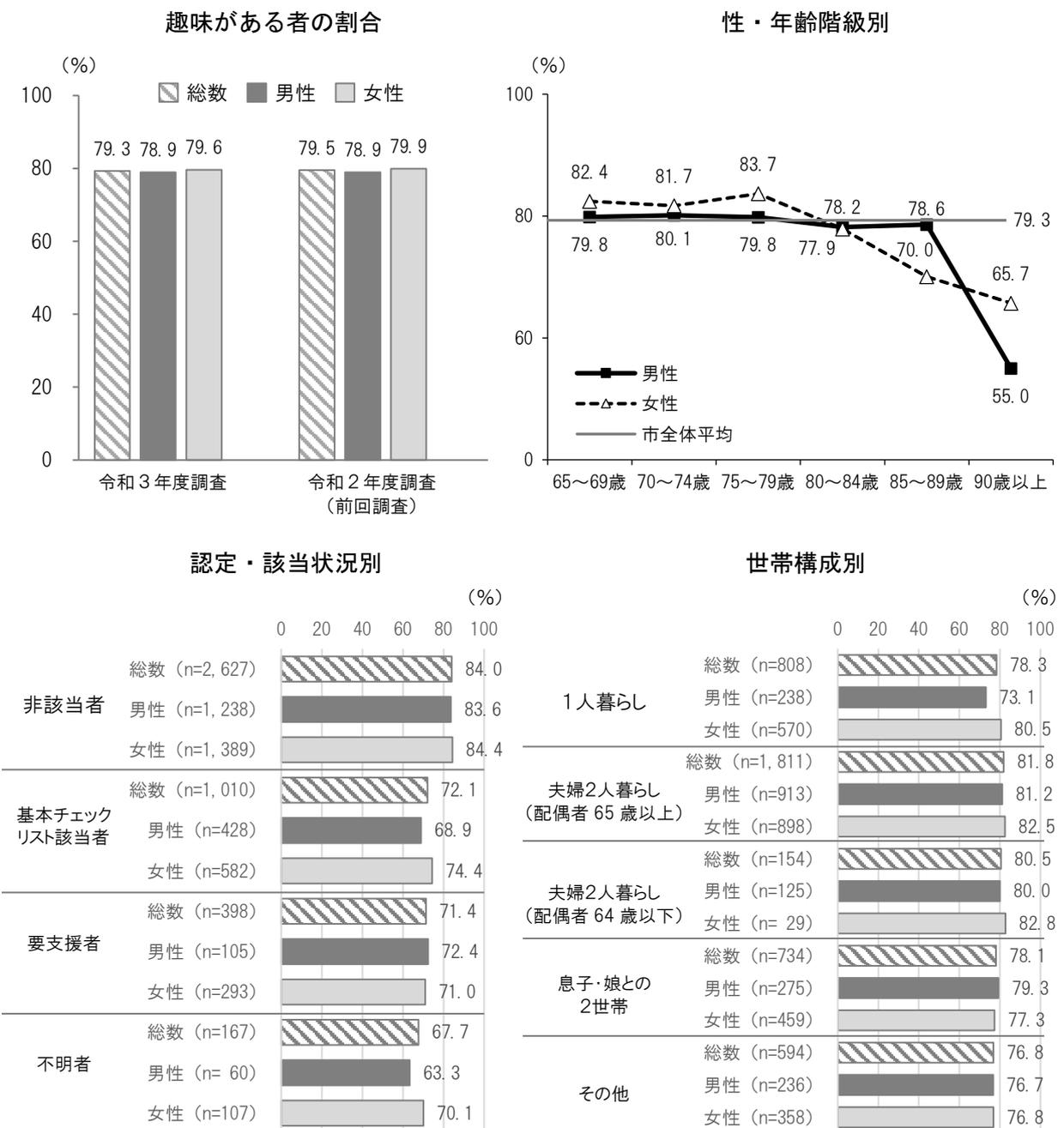
ニーズ調査では、趣味の有無についての設問が設けられています。「趣味はありますか」(問4・Q21)との設問に「はい」と回答したのは、全体で79.3% : 3,332人、男性78.9% : 1,444人、女性79.6% : 1,888人となっています。また、令和2年度調査(前回調査)と比較すると、全体で0.2ポイント減少しています。

性・年齢階級別にみると、男性は85~89歳までほぼ市全体平均(79.3%)付近を保ち、90歳以上で55.0%に低下していますが、女性は80~84歳から年齢階級が上がるごとに低下しています。

認定・該当状況別では、要支援者では71.4%が「はい」と回答していますが、非該当者の84.0%より12.6ポイント低くなっています。

世帯構成別にみると、1人暮らしの男性が73.1%と、他と比べて低くなっています。

図表 趣味がある者の割合



(5) 趣味

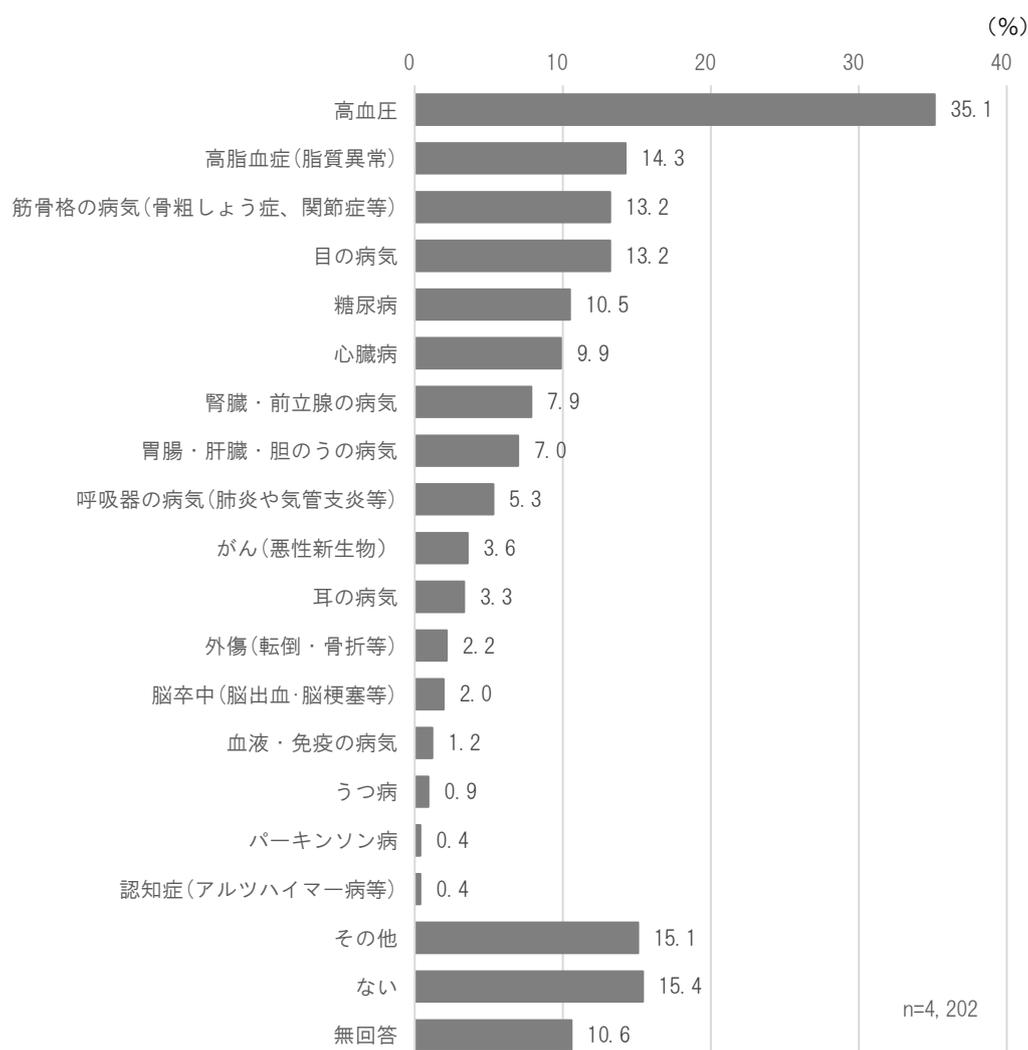
5 疾病

(1) 病気全体

現在治療中、又は後遺症のある病気の有無や病名について聞いてみると、「高血圧」が35.1%で最も多く、次いで「高脂血症(脂質異常)」(14.3%)、「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」・「目の病気」(各13.2%)、「糖尿病」(10.5%)、「心臓病」(9.9%)などが続いています。「なし」の回答は15.4%となっています。

図表 病気全体

問6・Q13. 現在治療中、又は後遺症のある病気はありますか(いくつでも)



5 疾病

(2) 高血圧

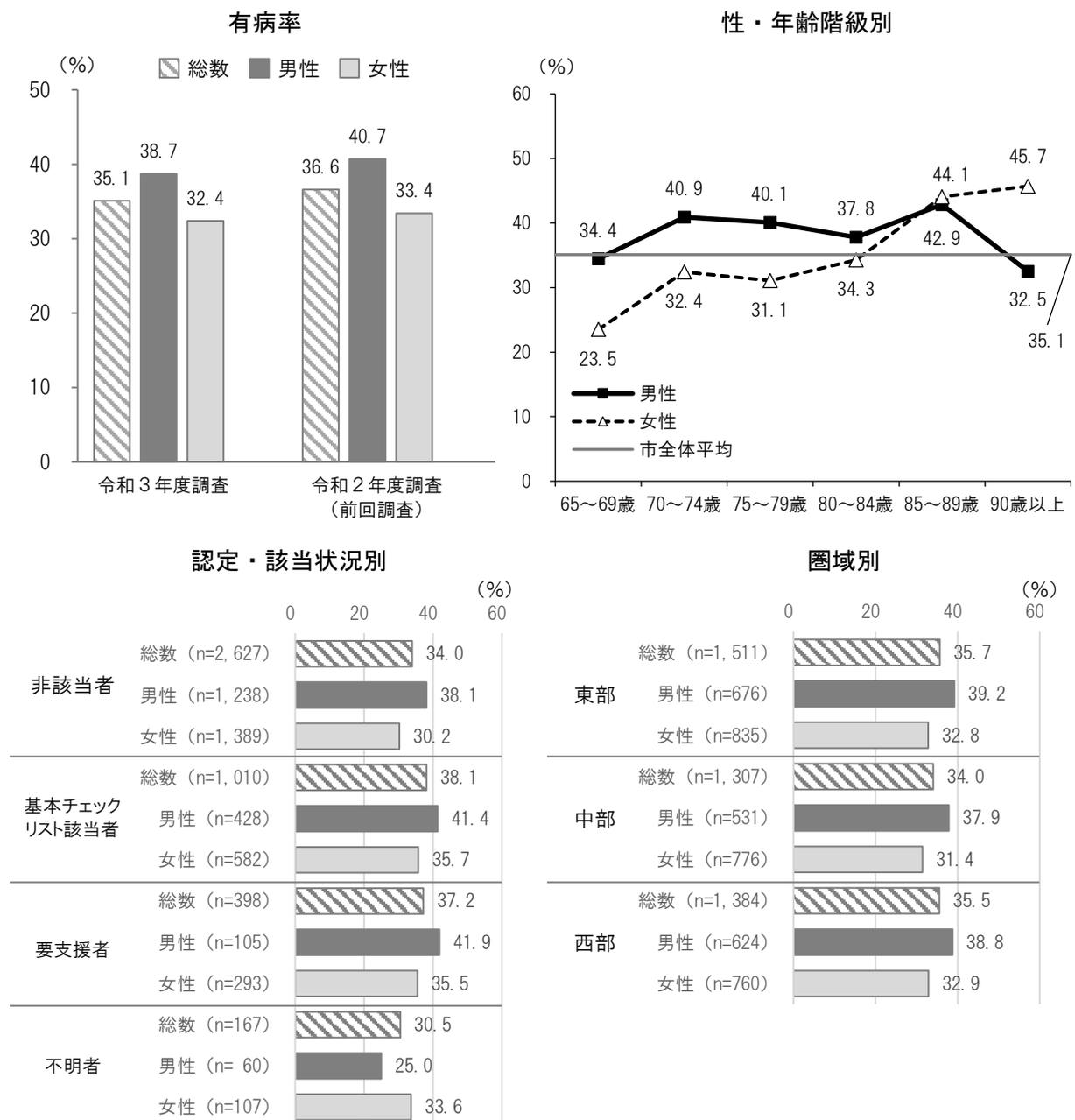
個々の疾病に関する回答結果について、「現在治療中、または後遺症のある病気」（問6・Q13）があるとする割合（有病率）で、最も高いのは「高血圧」で、全体で35.1%：1,476人、男性38.7%：708人、女性32.4%：768人となっており、女性より男性の方が6.3ポイント高くなっています。令和2年度調査（前回調査）と比較すると、全体では1.5ポイント低くなっています。

性・年齢階級別にみると、男性は85～89歳、女性は90歳以上の有病率が最も高くなっています。

認定・該当状況別にみると、基本チェックリスト該当者で最も有病率が高くなっています。

圏域別では、東部圏域の男性が39.2%と最も高く、最も低いのは中部圏域の女性で31.4%となっています。また、すべての圏域で男性が女性より高くなっています。

図表 有病率—高血圧



(2) 高血圧

(3) 高脂血症 (脂質異常)

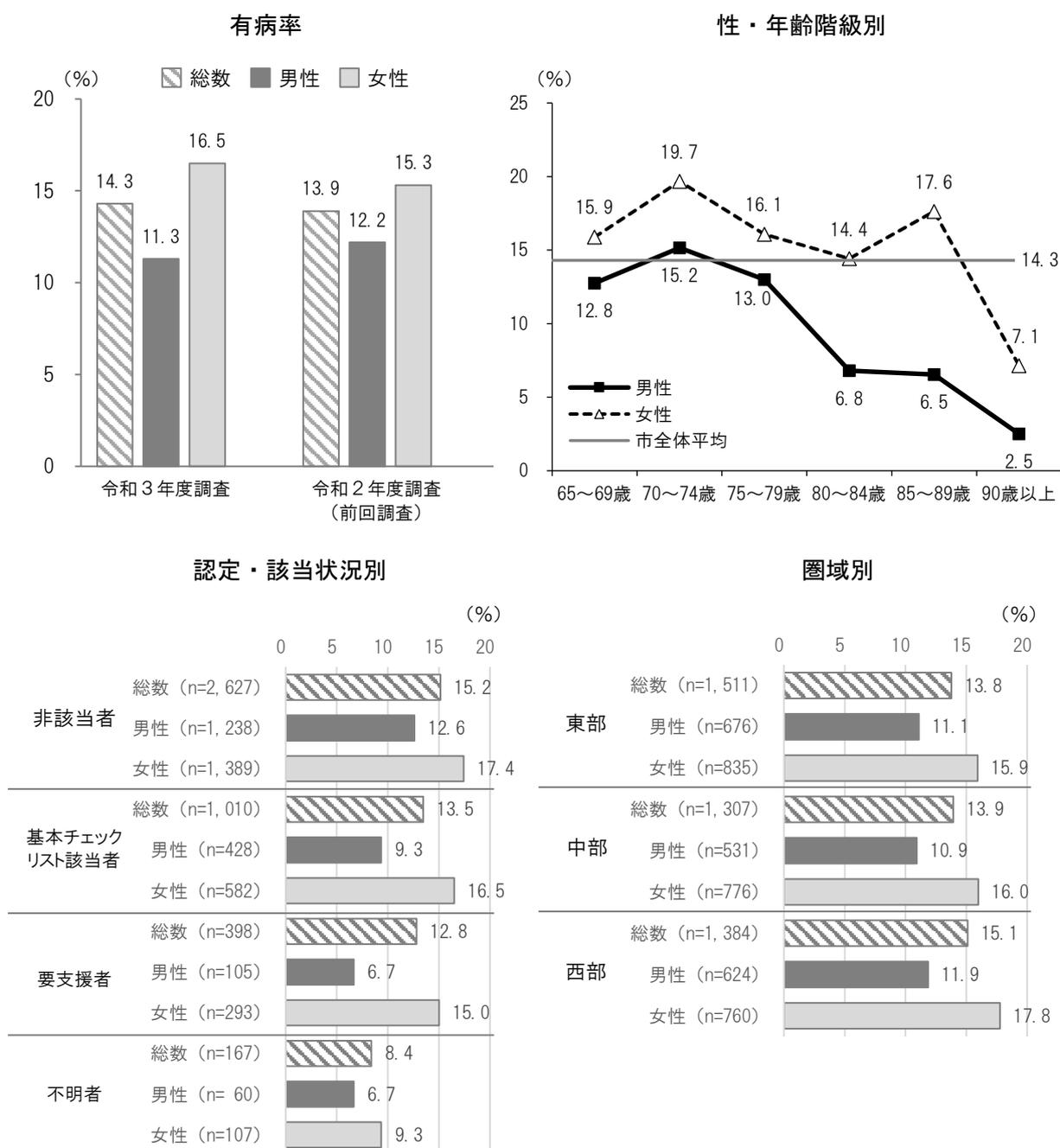
「現在治療中、または後遺症のある病気」(問6・Q13)があるとする割合(有病率)で、「高血圧」の次に高いのは「高脂血症(脂質異常)」です。全体で14.3%:599人、男性11.3%:207人、女性16.5%:392人となっています。令和2年度調査(前回調査)と比較すると、全体で0.4ポイント高くなっています。

性・年齢階級別にみると、男女ともに70~74歳で有病率が最も高くなっています。

認定・該当状況別にみると、非該当者で最も有病率が高くなっています。

圏域別では、西部圏域の女性が17.8%と最も高く、最も低いのは中部圏域の男性で10.9%となっています。

図表 有病率—高脂血症(脂質異常)



5 疾病

(4) 筋骨格の病気

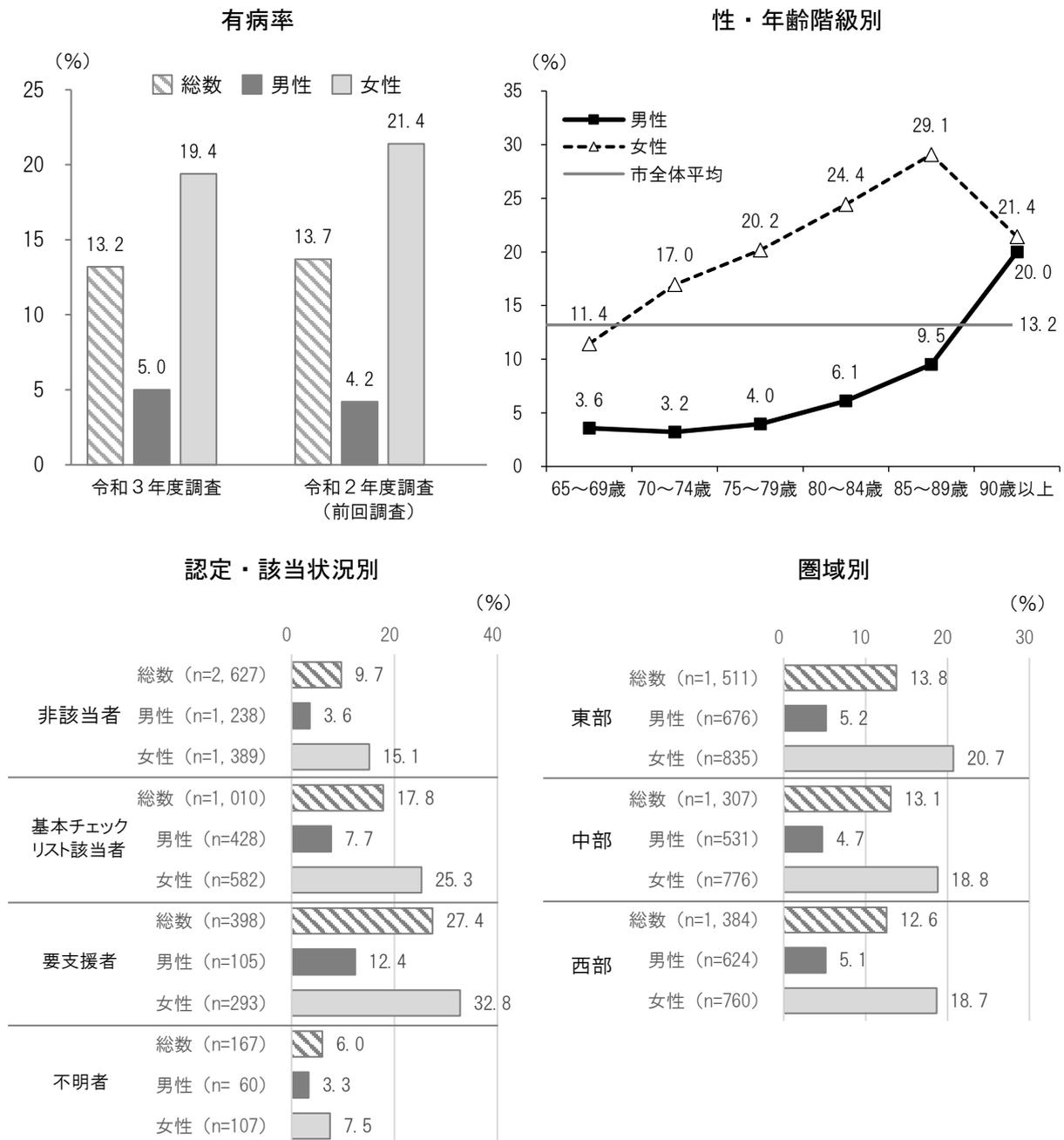
要介護の原因となりうる「筋骨格の病気」の有病率は、全体で13.2%：553人、男性5.0%：92人、女性19.4%：461人となっており、男性より女性が顕著に高くなっています。また、令和2年度調査（前回調査）と比較すると、全体で0.5ポイント低くなっています。

性・年齢階級別にみると、男性は90歳以上、女性は85～89歳の有病率が最も高くなっています。

認定・該当状況別にみると、要支援者の女性で有病率が32.8%と高くなっています。

圏域別では、すべての圏域で女性の有病率が男性より高く、特に東部圏域では女性の有病率が20.7%と高くなっています。一方、すべての圏域で男性の有病率は5%程度と低く、男女差が大きくなっています。

図表 有病率－筋骨格の病気



(4) 筋骨格の病気

(5) 目の病気

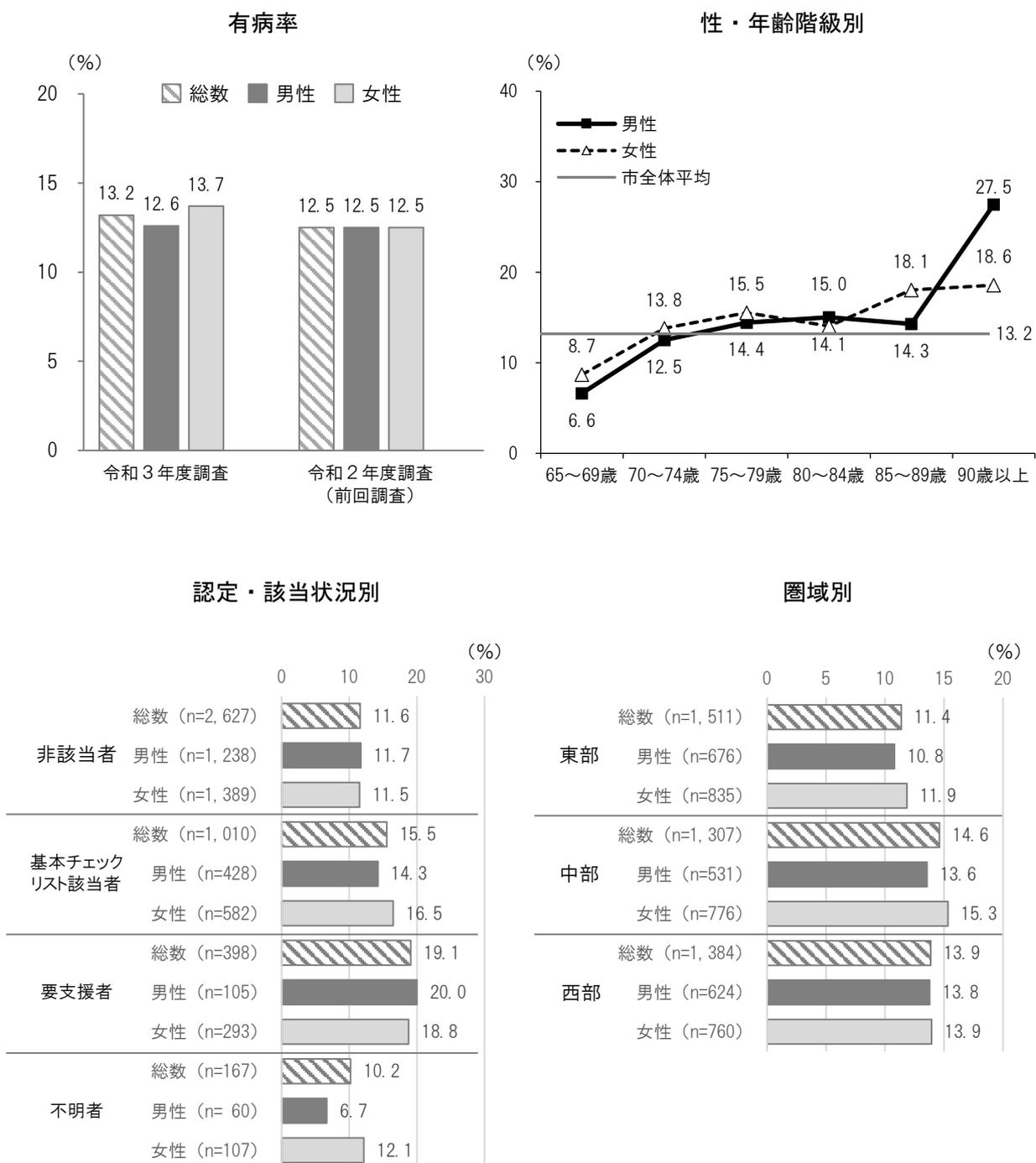
高齢者に多い「目の病気」の有病率は、全体で 13.2% : 555 人、男性 12.6% : 231 人、女性 13.7% : 324 人となっています。また、令和 2 年度調査（前回調査）と比較すると、全体で 0.7 ポイント高くなっています。

性・年齢階級別にみると、男女ともに 90 歳以上の有病率が高くなっています。

認定・該当状況別にみると、要支援者の男性で有病率が 20.0% と高くなっています。

圏域別では、中部圏域の女性の有病率が 15.3% と、他圏域より高くなっています。

図表 有病率—目の病気



5 疾病

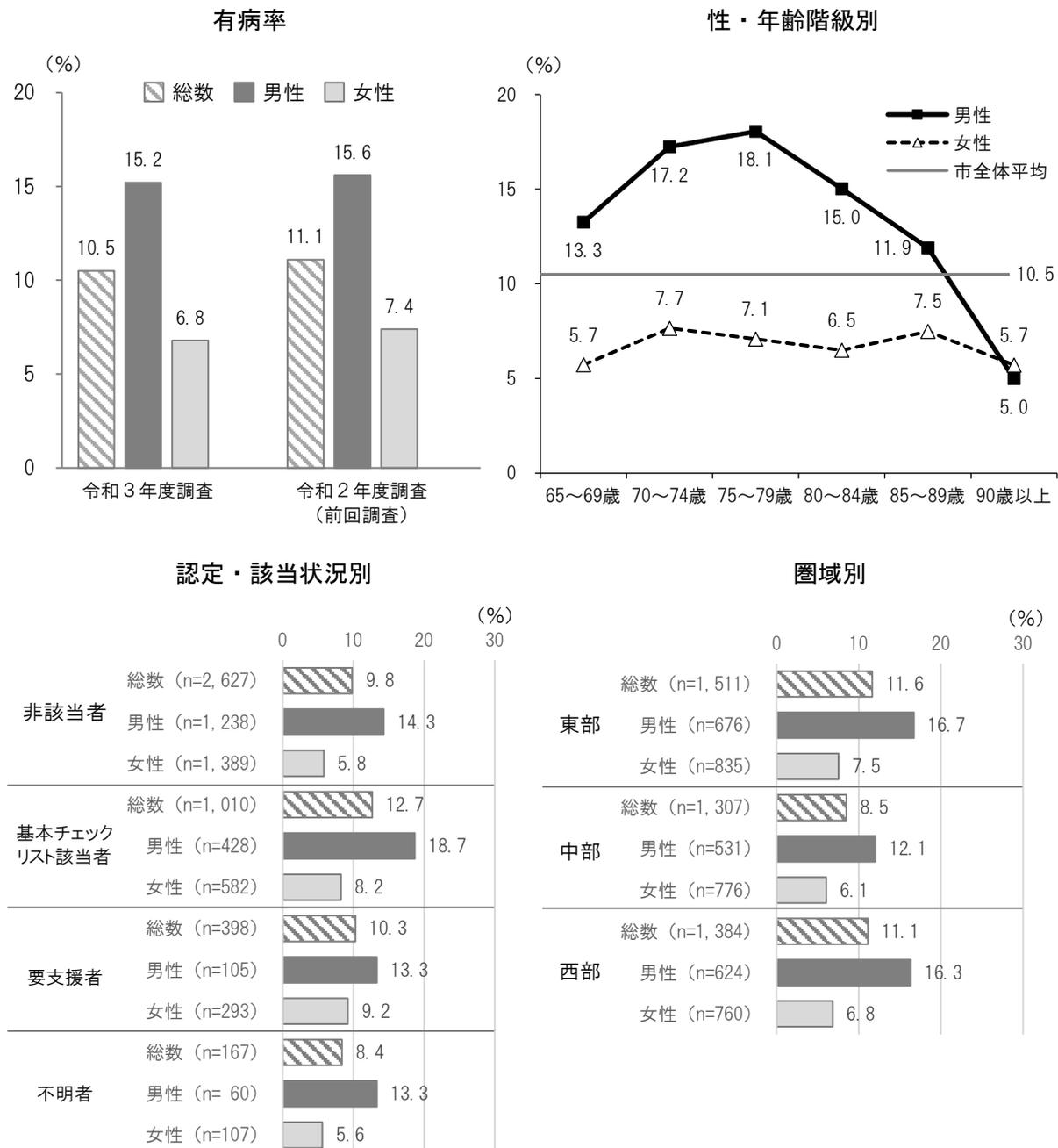
(6) 糖尿病

主な生活習慣病で要介護の原因ともなる「糖尿病」の有病率は、全体で 10.5% : 441 人、男性 15.2% : 279 人、女性 6.8% : 162 人で、女性より男性の有病率が 8.4 ポイント高くなっています。令和 2 年度調査（前回調査）と比較すると、全体で 0.6 ポイント低くなっています。

認定・該当状況別にみると、非該当者 9.8%、基本チェックリスト該当者 12.7%、要支援者 10.3%、不明 8.4%と、基本チェックリスト該当者の有病率が高くなっています。

圏域別では、すべての圏域で女性より男性の有病率が高くなっています。さらに、女性はすべての圏域で有病率が 8%未満と低く、特に西部圏域の女性は 6.1%と、男性の半分程度となっています。

図表 有病率—糖尿病



(6) 糖尿病

(7) 心臓病

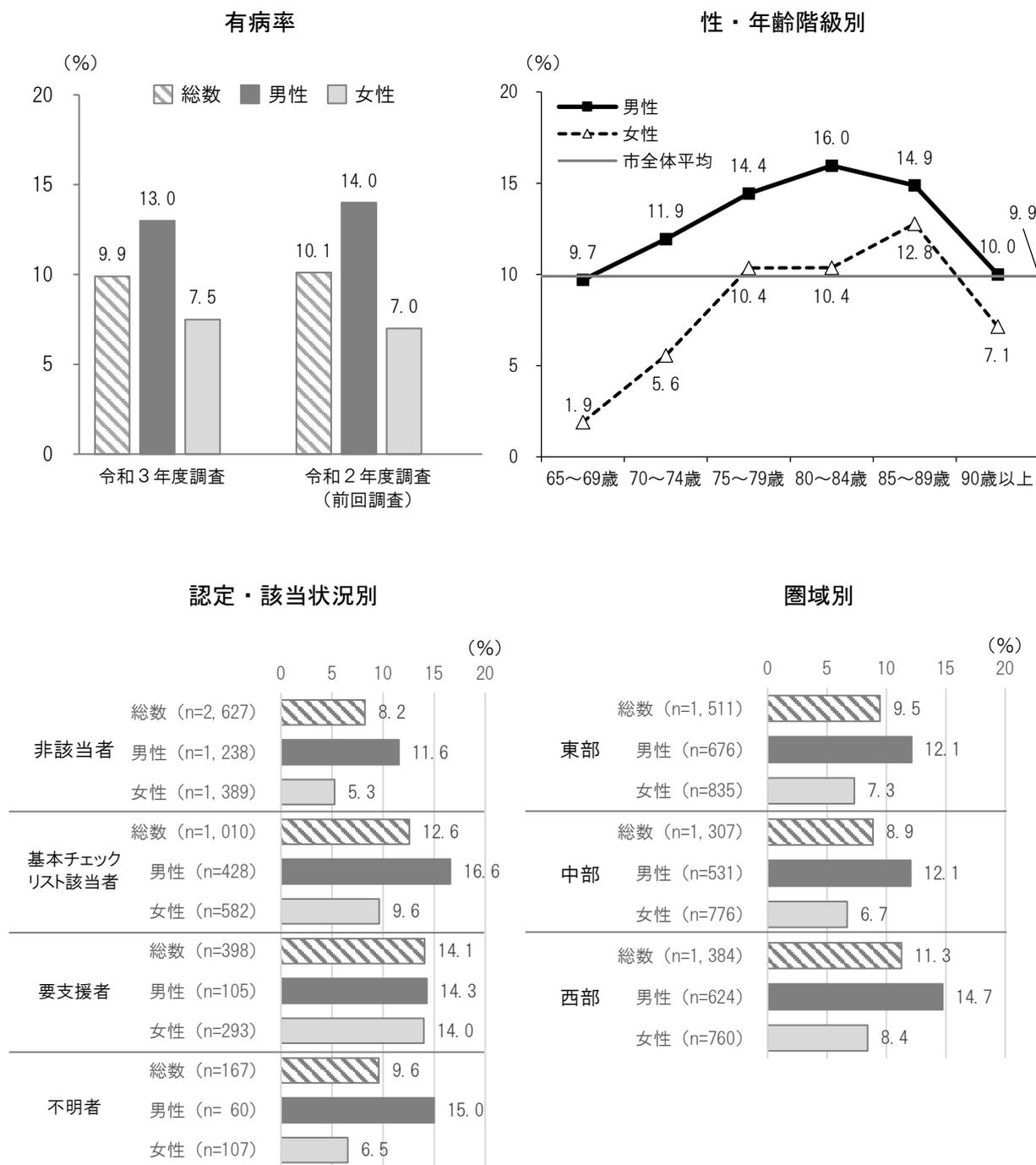
主な生活習慣病で要介護の原因ともなる「心臓病」の有病率は、全体で9.9%：415人、男性13.0%：238人、女性7.5%：177人となっています。令和2年度調査（前回調査）と比較すると、全体で0.2ポイント低くなっています。

性・年齢階級別にみると、すべての年齢階級で女性より男性が高くなっています。

認定・該当状況別にみると、基本チェックリスト該当者の男性で有病率が16.6%と最も高くなっています。要支援者では、ほとんど男女差はみられません。

圏域別では、すべての圏域で女性より男性が高くなっています。

図表 有病率—心臓病



5 疾病

(8) 脳卒中

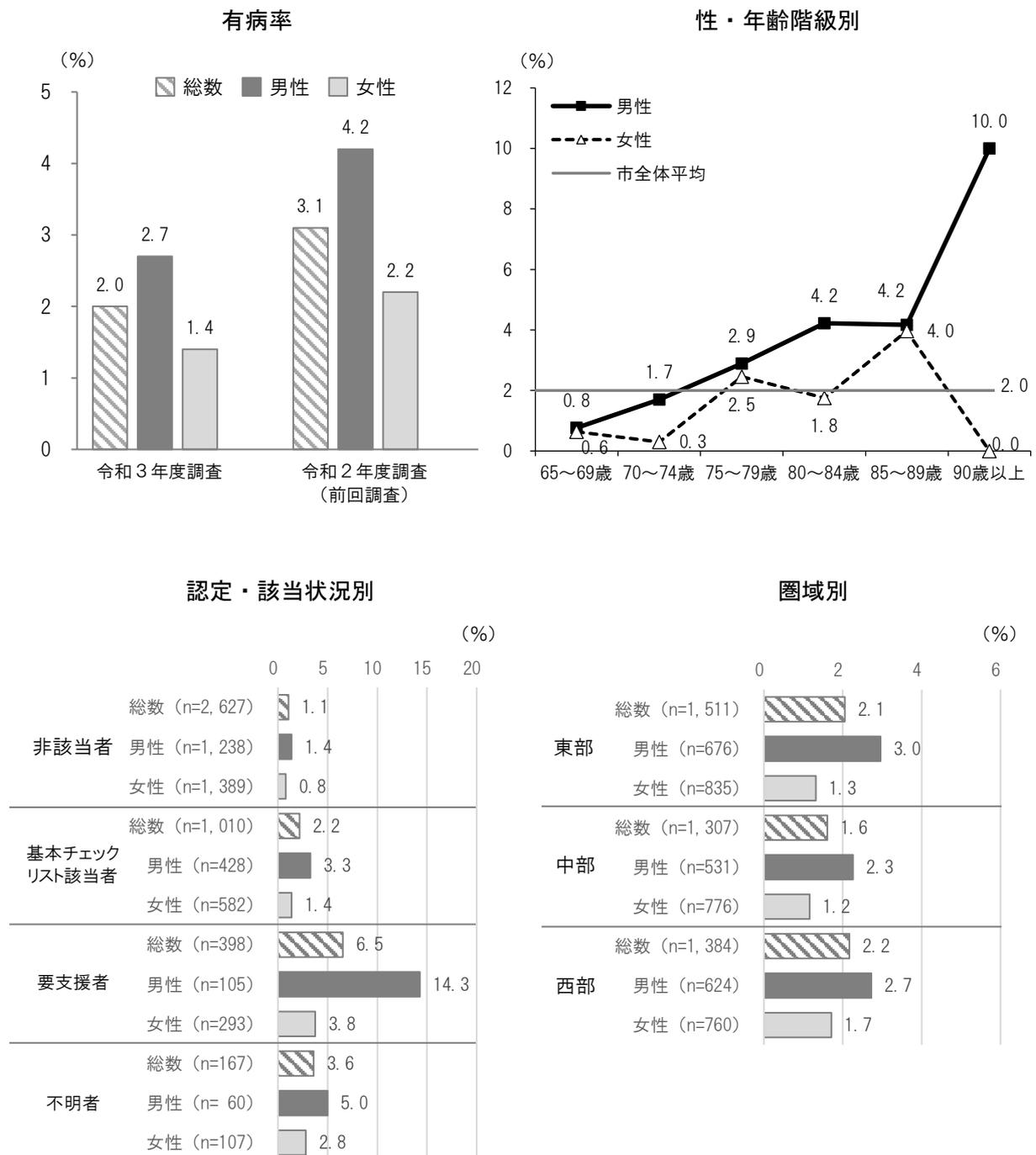
要介護の主原因となる「脳卒中」の有病率は、全体で2.0%：82人、男性2.7%：49人、女性1.4%：33人で、男性の有病率が高くなっています。令和2年度調査（前回調査）と比較すると、全体で1.1ポイント低くなっています。

性・年齢階級別にみると、90歳以上の男性の有病率が特に高くなっています。

認定・該当状況別にみると、要支援者の男性で有病率が14.3%と特に高くなっています。

圏域別では、すべての圏域で女性より男性の有病率が高くなっています。特に東部圏域の男性は有病率が3.0%と、市全体平均の2.0%より1%高くなっています。

図表 有病率－脳卒中



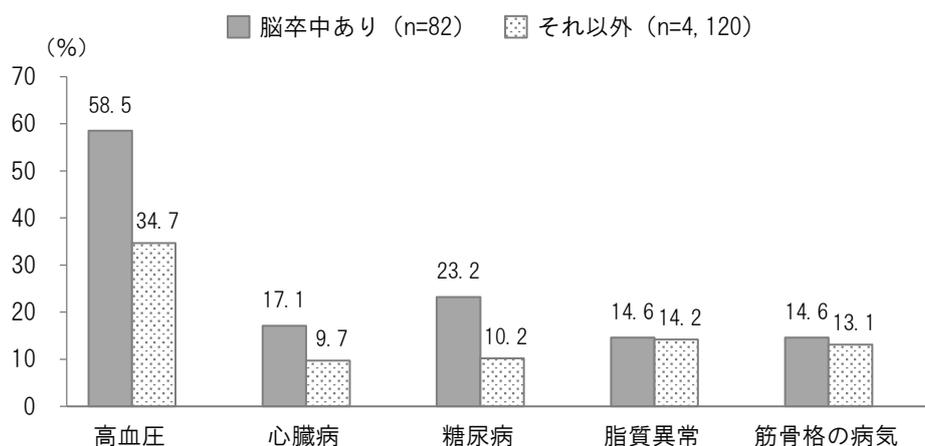
(8) 脳卒中

脳卒中については、リスク要因が概ね明らかとなっています。具体的には、加齢、性別、喫煙、肥満、高血圧、糖尿病などです。

今回の調査結果でも、「現在治療中、または後遺症のある病気」として「脳卒中」と回答した方とそれ以外の方で、他の病気の有病率をみると以下の図表のとおりとなっています。高血圧、心臓病、糖尿病については、脳卒中有病者でそれぞれの有病率が顕著に高くなっています。

こうした疾病と脳卒中の関連が、今回の調査結果からもうかがえます。

図表 脳卒中有病者の他の疾病（有病率）



5 疾病

(9) 通院

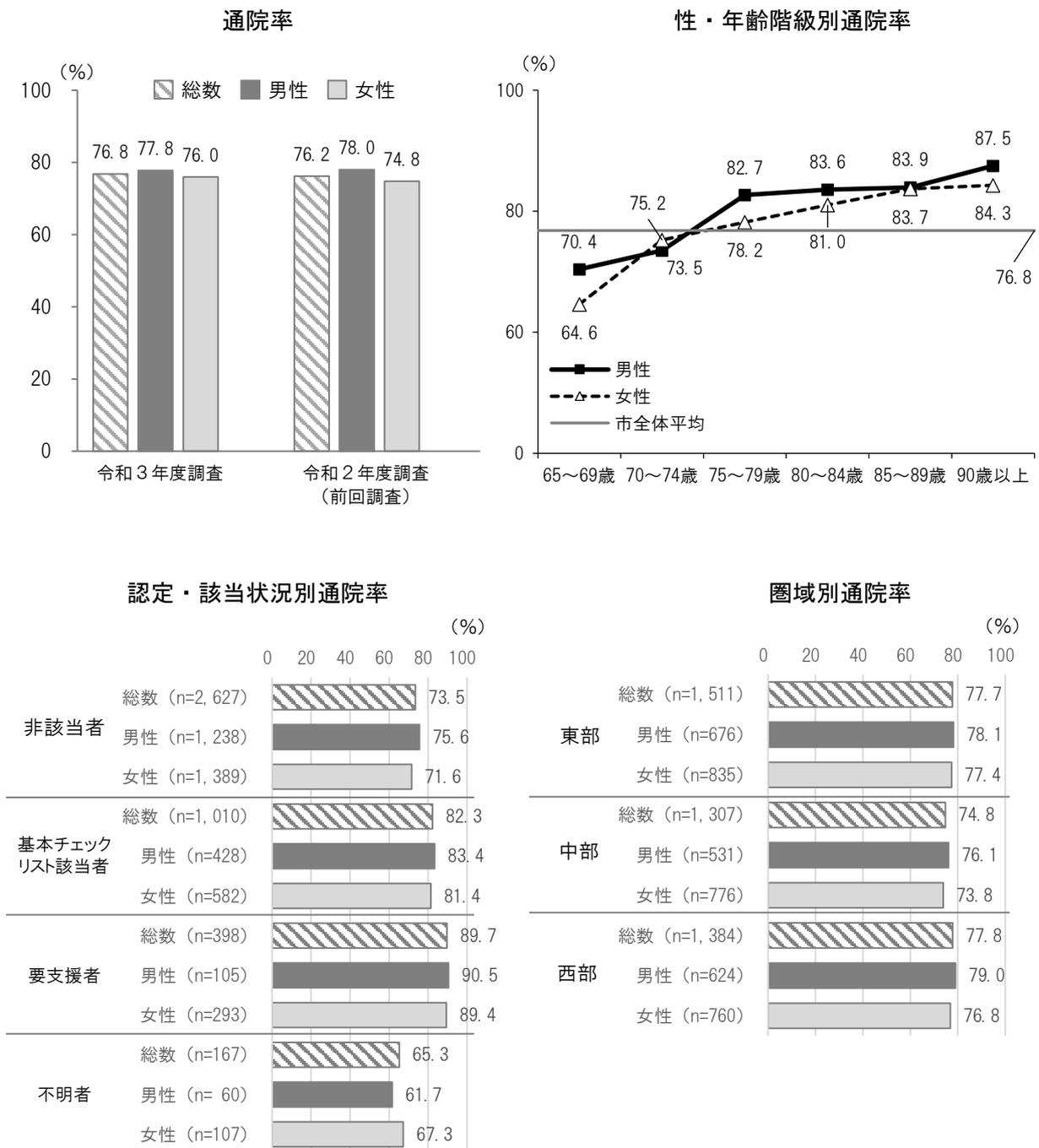
病院・医院（診療所、クリニック）への通院者の割合（通院率）についてみると、全体で76.8%：3,228人、男性77.8%：1,425人、女性76.0%：1,803人となっています。令和2年度調査（前回調査）と比較すると、全体で0.6ポイント高くなっています。

性・年齢階級別にみると、男女ともに年齢が上がるにつれて通院率が高くなっています。

認定・該当状況別では、要支援者で通院率が89.7%と非該当者の73.5%より16.2ポイント高くなっています。

圏域別では、西部圏域の男性が他圏域よりやや高くなっています。

図表 通院状況



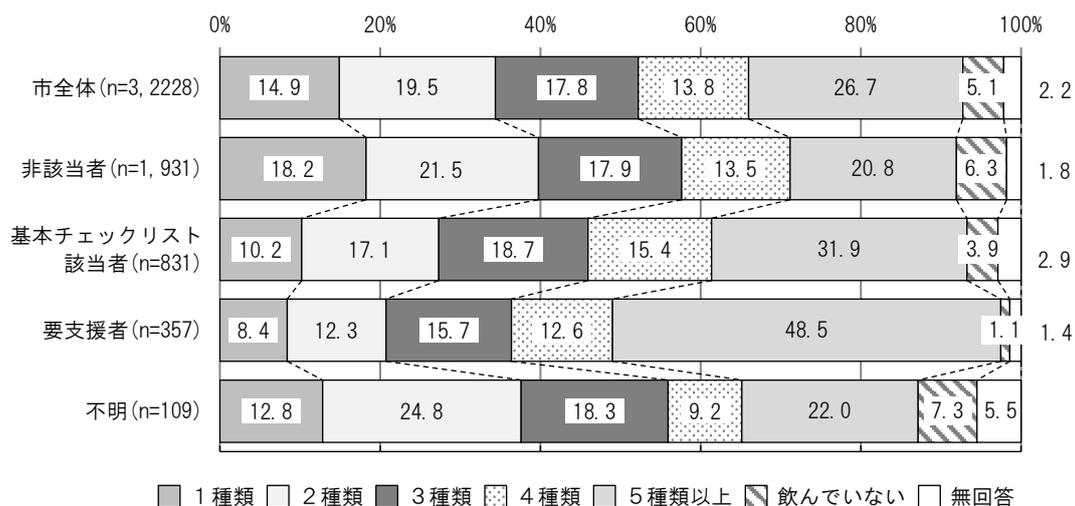
(9) 通院

次に、通院している方を対象にした、医師の処方した薬を何種類飲んでいるかについての回答結果をみると、「5種類以上」が26.7%で最も多く、次いで「2種類」(19.5%)、「3種類」(17.8%)、「1種類」(14.9%)となっています。

認定・該当状況別にみると、要支援者で5種類以上飲んでいる方が48.5%と、他と比べて多くなっています。

図表 薬を飲む種類

問6・Q12-1. (通院している方のみ) 現在、医師の処方した薬を何種類飲んでいますか



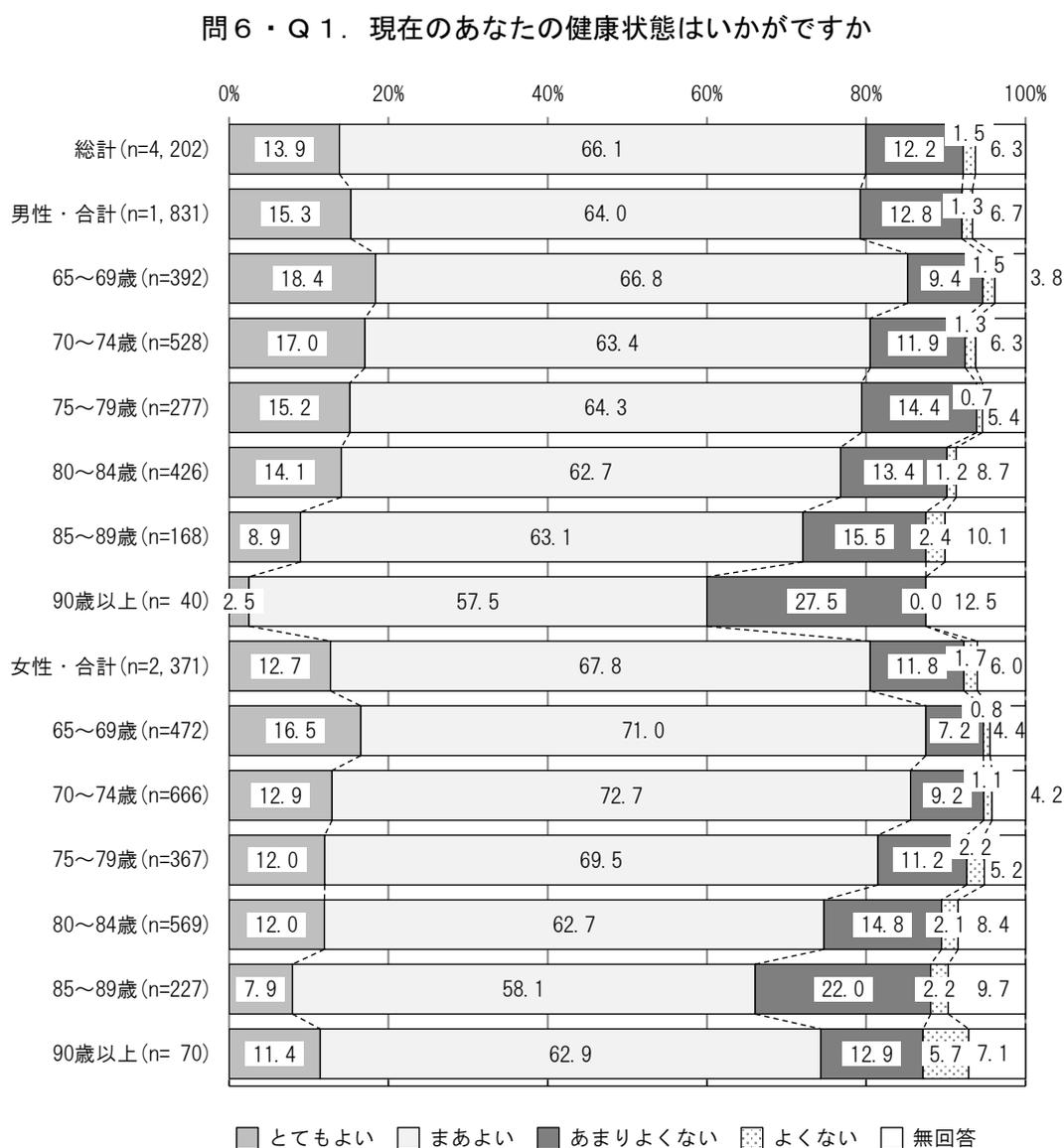
6 健康・生活習慣

6 健康・生活習慣

(1) 主観的健康感

高齢者のQOL（生活の質）の指標ともなっている主観的健康感（問6・Q1）の回答結果をみると、「とてもよい」「まあよい」と回答した「健康群」は、全体でそれぞれ13.9%、66.1%となっています。一方、「あまりよくない」「よくない」と回答した「不健康群」はそれぞれ12.2%、1.5%となっています。また、年齢が高くなるほど「健康群」の割合が低くなる傾向がみられます。

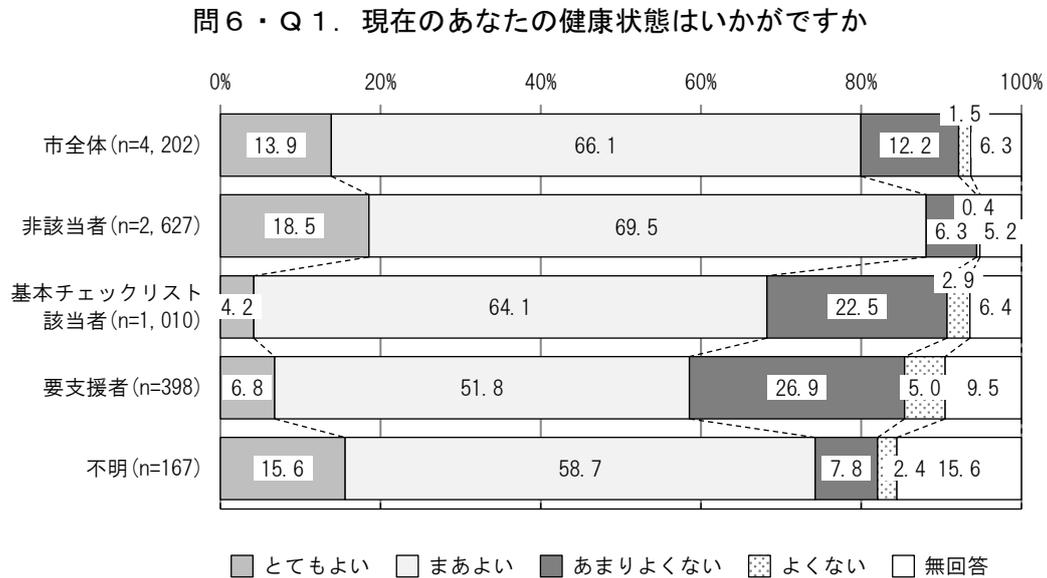
図表 主観的健康感—性・年齢階級別



(1) 主観的健康感

認定・該当状況別にみると、「あまりよくない」と「よくない」と回答した「不健康群」の合計は、要支援者が31.9%と最も高く、次いで基本チェックリスト該当者が25.4%となっています。一方、「とてもよい」の回答は非該当者が18.5%で最も高くなっています。

図表 主観的健康感



6 健康・生活習慣

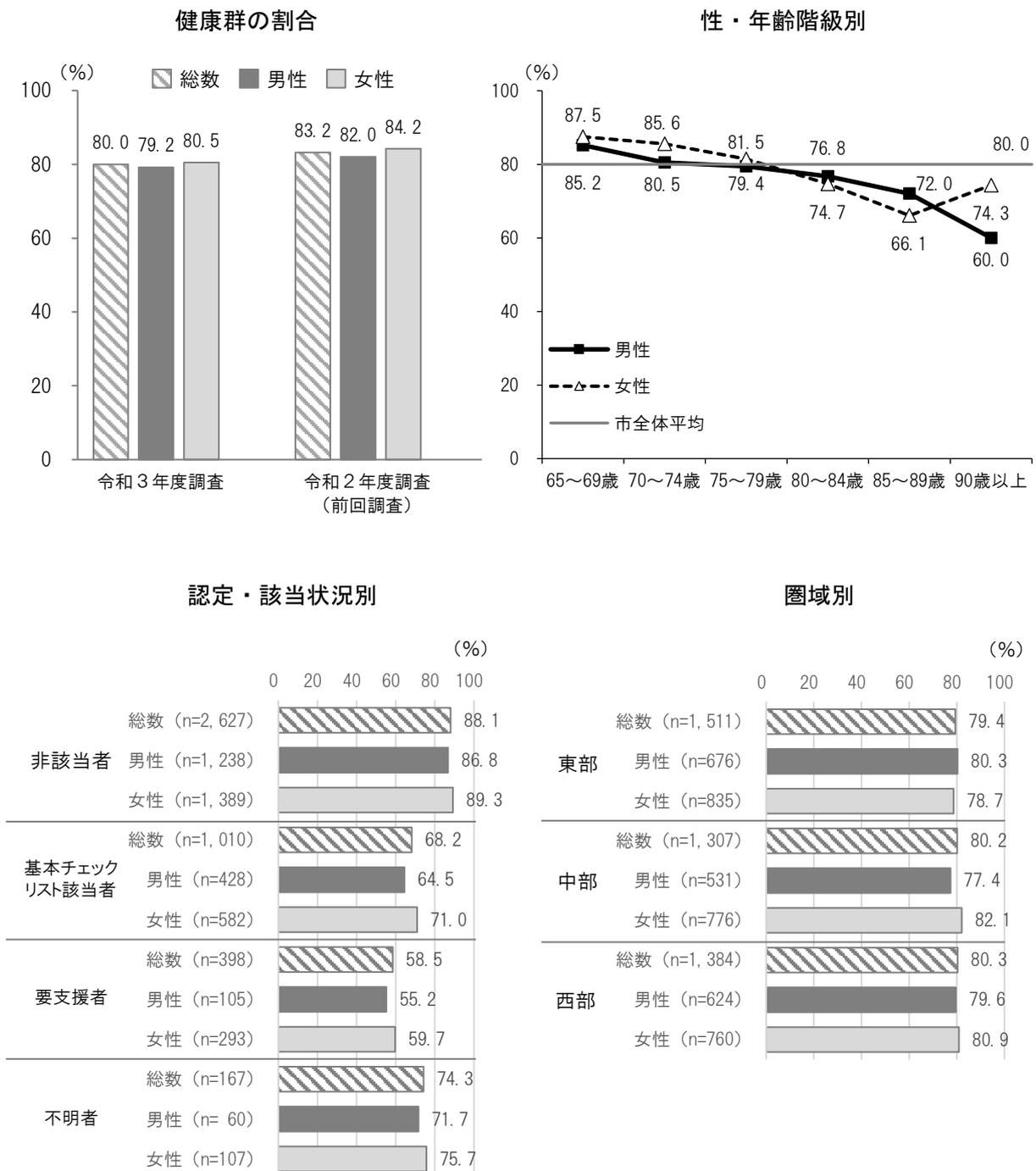
「とてもよい」と「まあよい」を合計した「健康群」についてまとめると、全体では80.0%：3,360人、男性79.2%：1,451人、女性80.5%：1,909人が「健康群」となっています。令和2年度調査（前回調査）と比較すると、全体で3.2ポイント低くなっています。

性・年齢階級別にみると、女性の90歳以上を除くと、年齢が高くなるほど「健康群」の割合が低くなる傾向がみられます。

認定・該当状況別にみると、男女ともに非該当者は高く、要支援者が最も低く50%台となっています。

圏域別にみると、西部圏域が全体で80.3%とやや高くなっています。

図表 主観的健康感—健康群の割合



(1) 主観的健康感

(2) 肥満度

生活習慣に関連する項目の1つとして、肥満者割合についてみます（問3・Q1）。

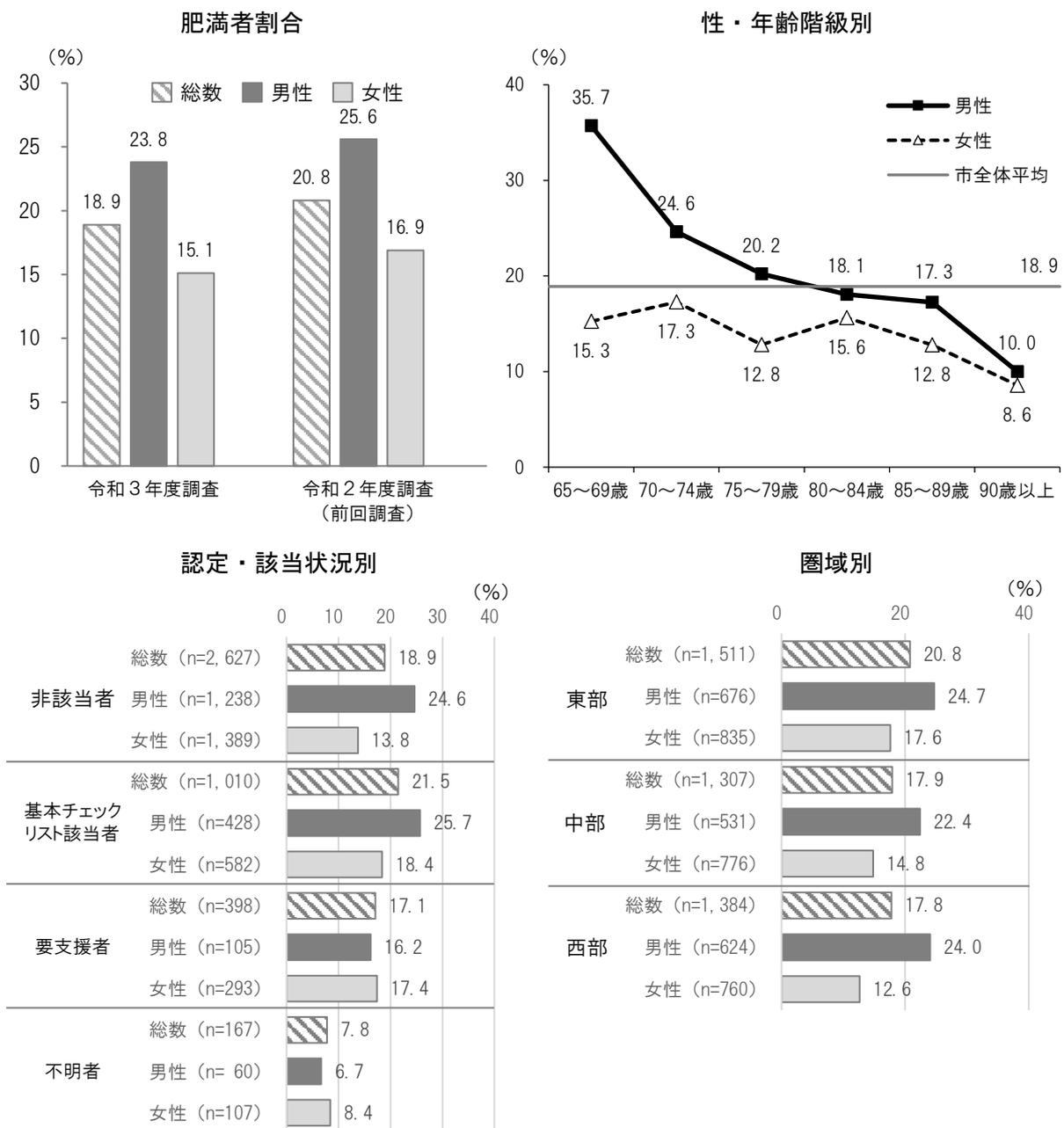
肥満者（BMI = 体重 kg / 身長 m / 身長 m ≥ 25 ）の割合は全体で 18.9% : 794 人、男性 23.8% : 436 人、女性 15.1% : 358 人となっています。令和2年度調査（前回調査）と比較すると、全体で 1.9 ポイント低くなっています。

性・年齢階級別にみると、65~69歳の男性の肥満者割合が最も高く、年齢とともに低下しています。

認定・該当状況別では、男性は基本チェックリスト該当者が 25.7%と最も高く、次いで非該当者（24.6%）、要支援者（16.2%）となっています。女性は基本チェックリスト該当者が 18.4%と最も高く、次いで要支援者（17.4%）、非該当者（13.8%）となっています。

圏域別にみると、すべての圏域で男性の肥満者割合が女性より高くなっています。

図表 肥満者割合



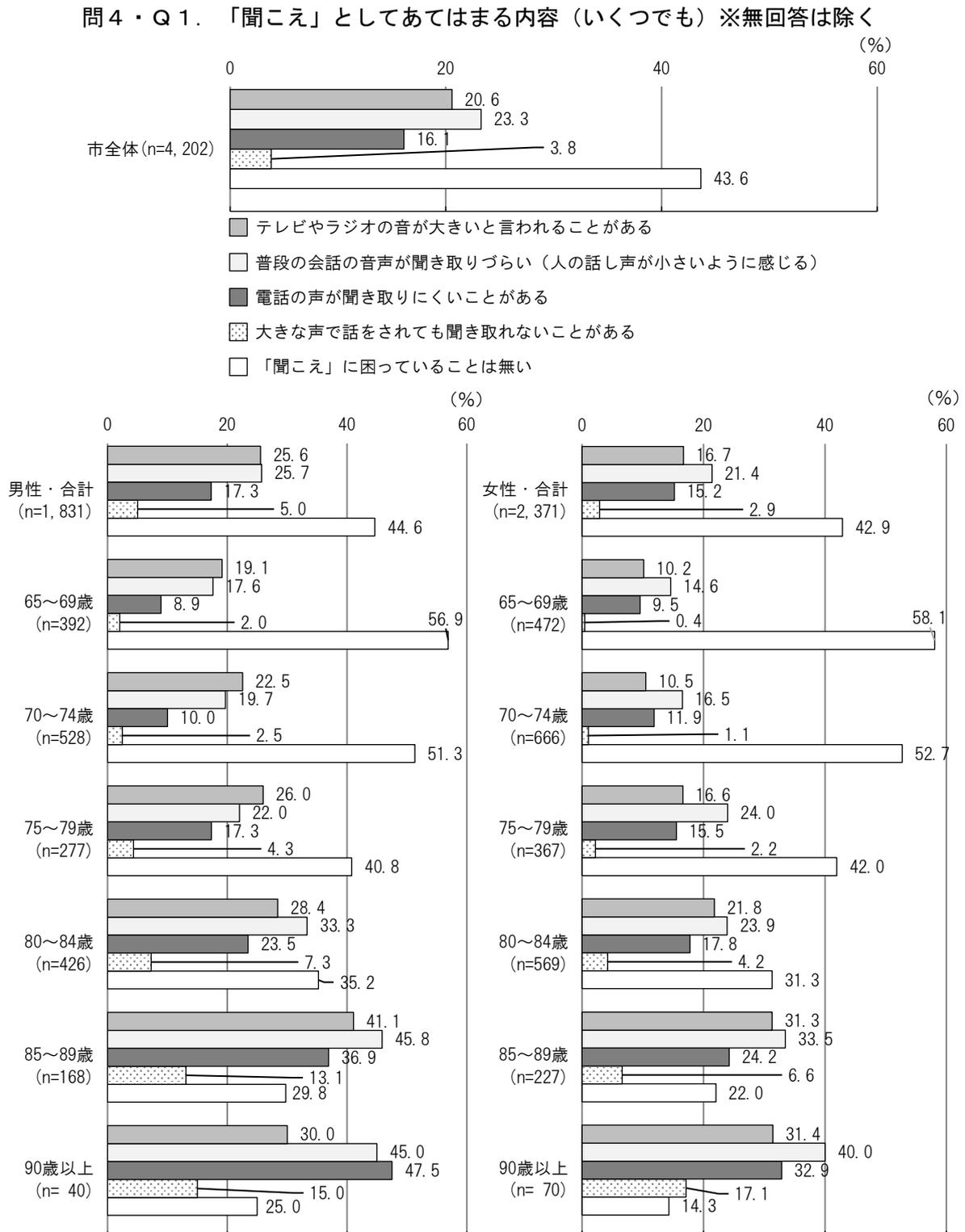
6 健康・生活習慣

(3) 聞こえ

聞こえの状態についてみます（問4・Q1）。

市全体でみると『「聞こえ」に困っていることは無い』が43.6%で最も高く、次いで「普段の会話の音声聞き取りづらい（人の話し声が小さいように感じる）」が23.3%となっています。年齢階級別にみると、85歳以上は男女ともに「テレビやラジオの音が大きいと言われることがある」、「普段の会話の音声聞き取りづらい」が3割を超えています。

図表 「聞こえ」の状態－性別、年齢階級別

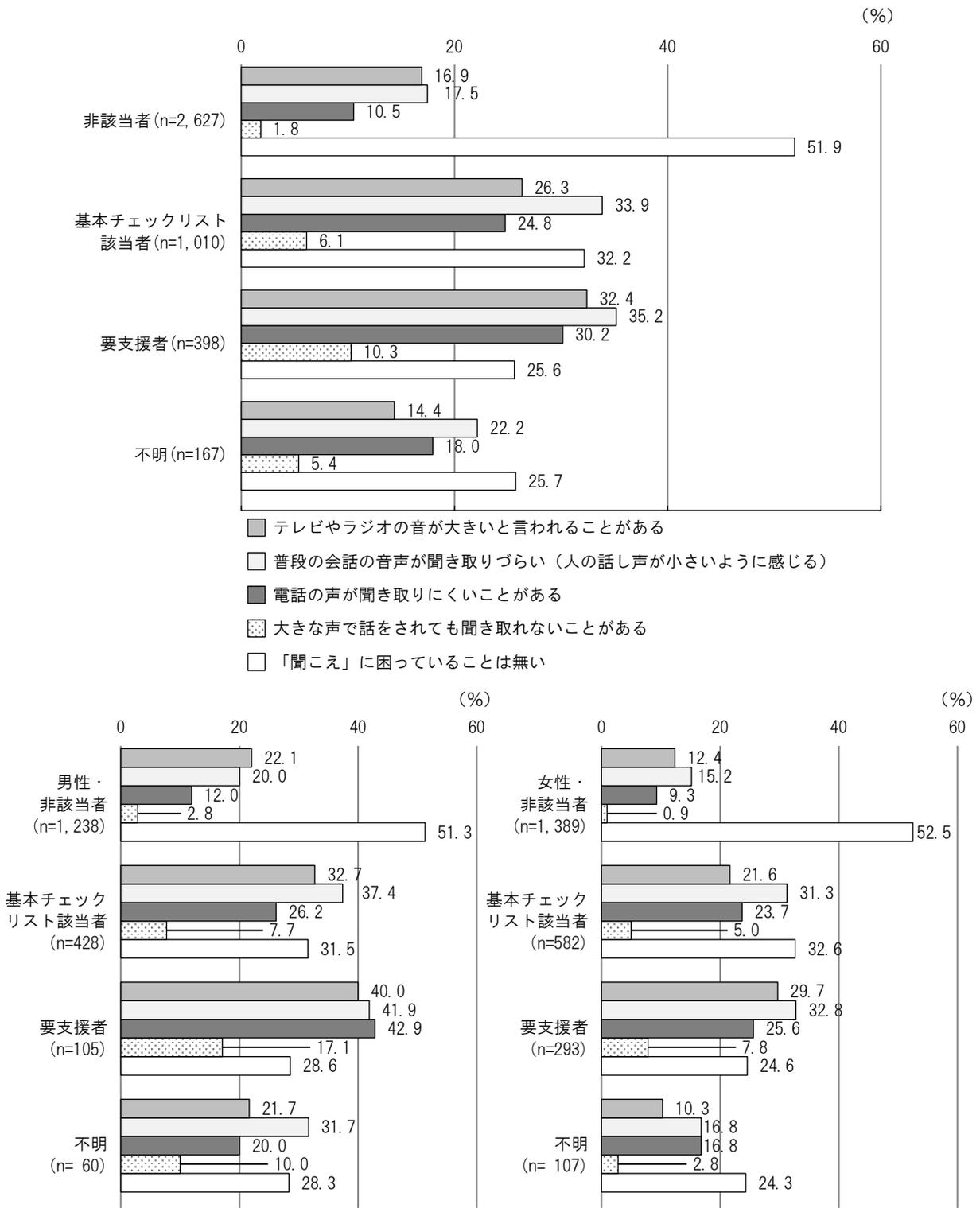


(3) 聞こえ

認定・該当状況別にみると、非該当者は『「聞こえ」に困っていることはない』が最も高く、5割を超えています。基本チェックリスト該当者や要支援者では「普段の会話の音声聞き取りづらい（人の話し声が小さいように感じる）」が最も高くなっています。また、要支援者では「テレビやラジオの音大きいと言われることがある」、「電話の音が聞き取りにくいことがある」、「テレビやラジオの音が大きいと言われることがある」、「電話の音が聞き取りにくいことがある」、「電話の音が聞き取りにくいことがある」、「電話の音が聞き取りにくいことがある」がともに3割を超えています。

図表 「聞こえ」の状態－認定・該当状況別

問4・Q1. 「聞こえ」としてあてはまる内容（いくつでも）※無回答は除く



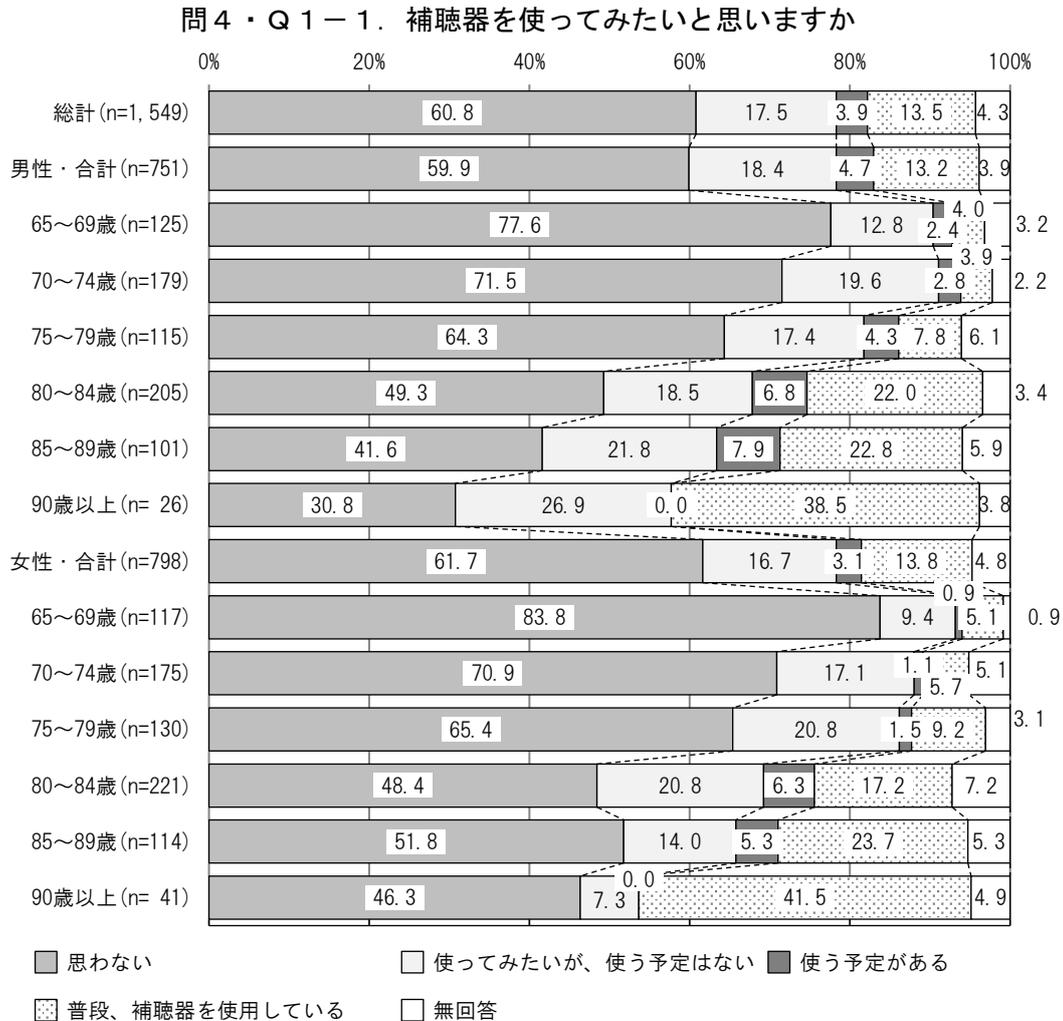
6 健康・生活習慣

問4・Q1で『「聞こえ」に困っていることは無い』以外の回答をした人に、補聴器を使ってみたいかを質問したところ、「思わない」が60.8%：942人、男性59.9%：450人、女性61.7%：492人となっています。

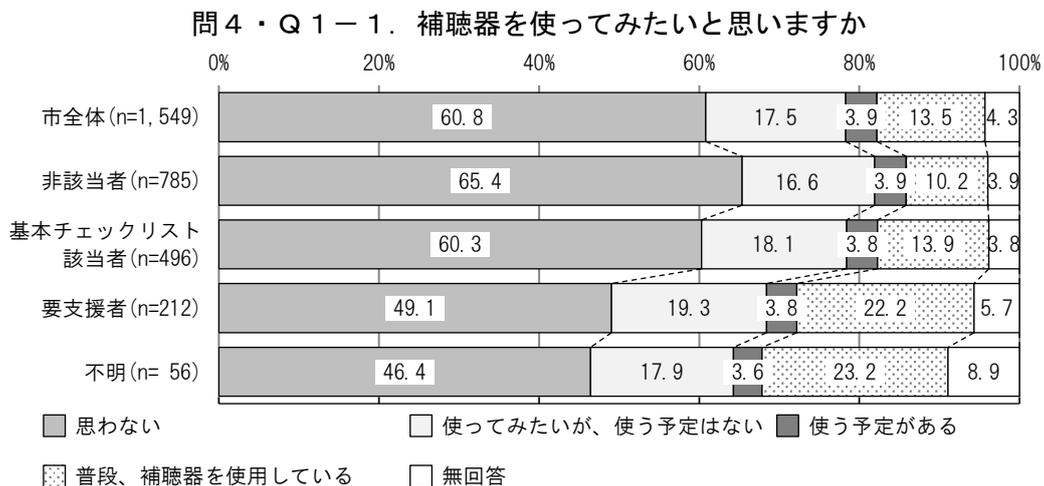
年齢階級別にみると、年齢が高いほどその割合が低くなっています。

認定・該当状況別では、非該当者が65.4%と最も高くなっています。

図表 「聞こえ」の状態－補聴器の使用意向－性・年齢階級別



図表 「聞こえ」の状態－補聴器の使用意向－認定・該当状況別



(3) 聞こえ

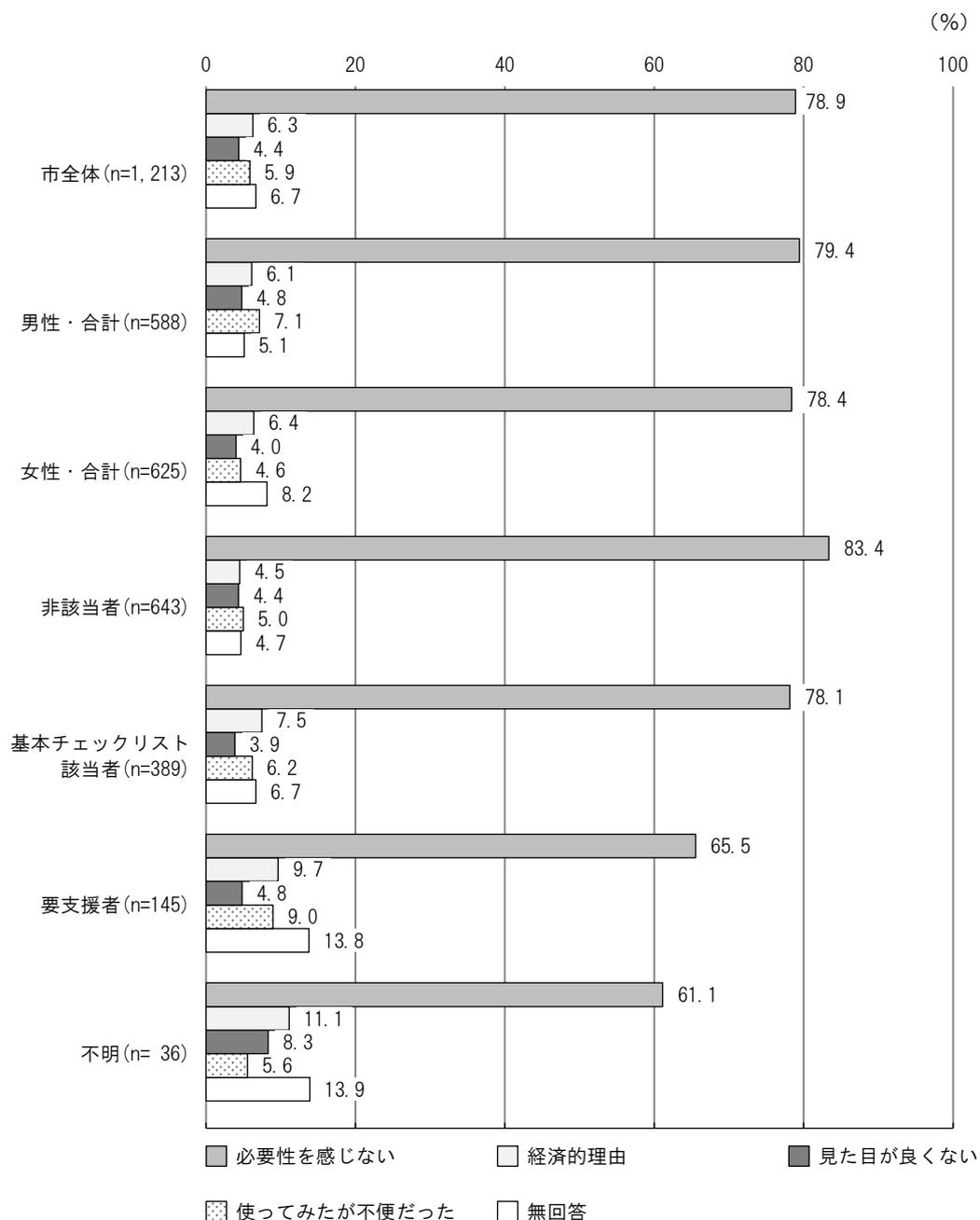
問4・Q1-1で「補聴器を使ってみたいと思わない」、「使ってみたいが、使う予定はない」と答えた人にその理由を尋ねたところ、「必要性を感じない」が78.9%と最も多く、次いで「経済的理由」(6.3%)、「使ってみたが不便だった」(5.9%)となっています。

男女別にみると、「必要性を感じない」の割合にはほとんど差がなく、「使ってみたら不便だった」は、男性の方が女性より2.5ポイント高くなっています。

認定・該当状況別にみると、「必要性を感じない」の割合は、非該当者～基本チェックリスト該当者～要支援者の順に減っています。

図表 「聞こえ」の状態－補聴器を使わない理由－性別、認定・該当状況別

問4・Q1-2. 補聴器を使ってみたいと思わない、使ってみたいが使う予定はない理由



※複数回答者がいたため、割合をすべて足すと100.0%を超える場合があります

6 健康・生活習慣

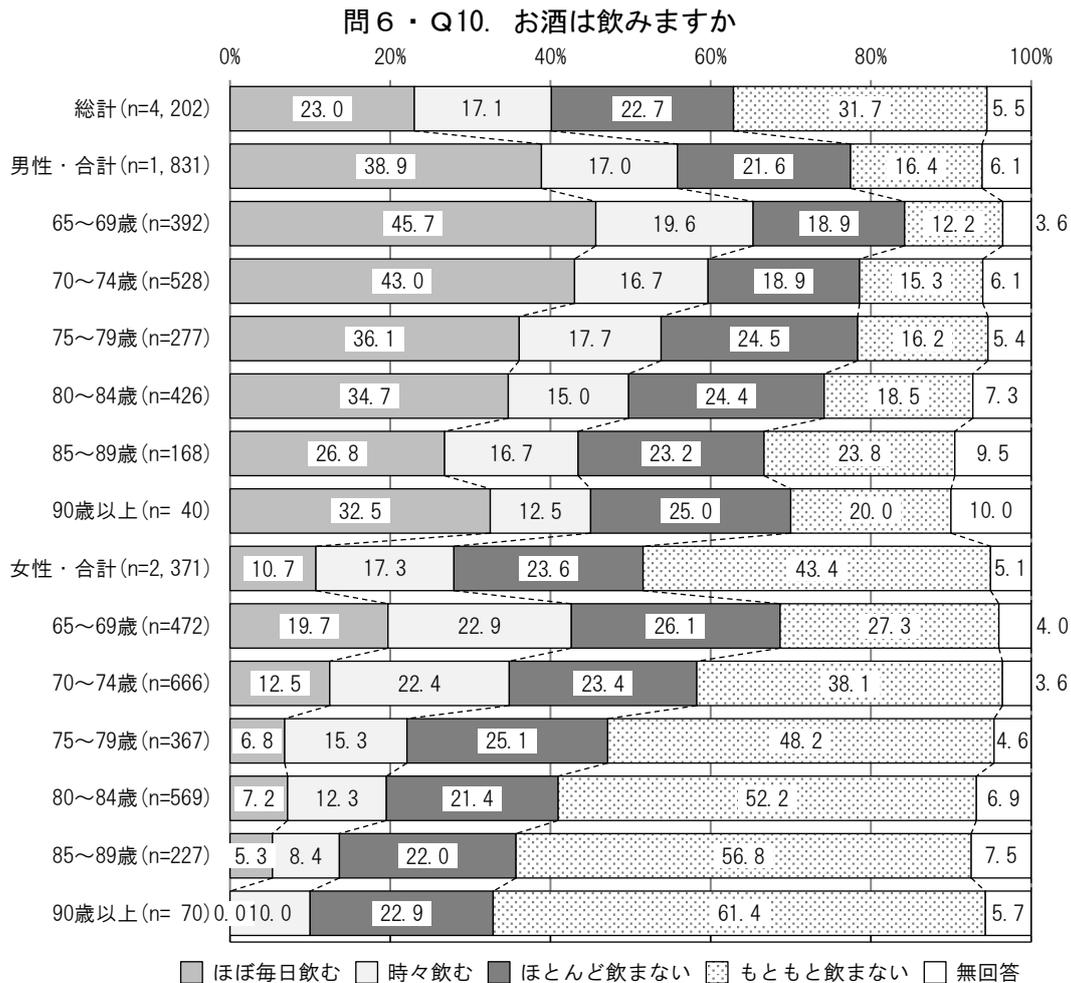
(4) 飲酒

飲酒習慣についての質問（問6・Q10）では、「ほぼ毎日飲む」との回答は、全体で23.0%：966人、男性38.9%：712人、女性10.7%：254人となっており、性別による差が非常に大きく表れています。

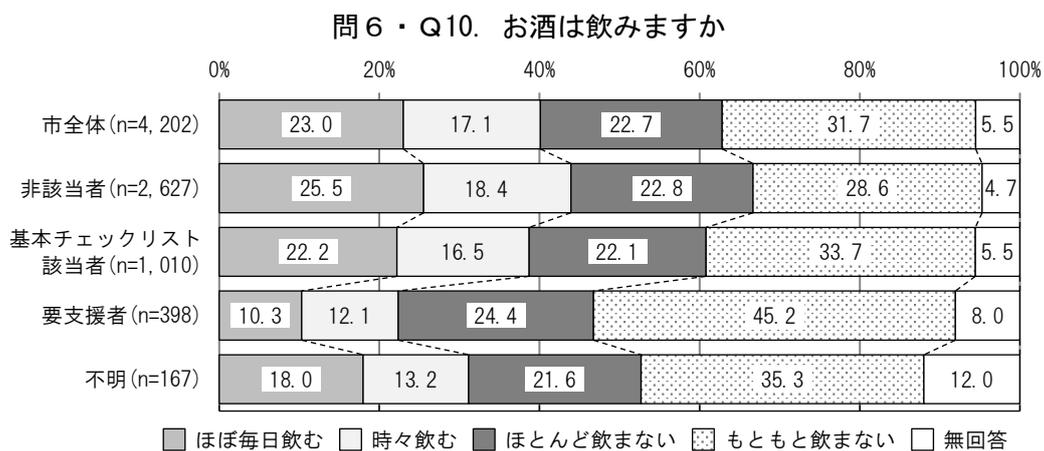
年齢階級別では、飲酒習慣は年齢とともに低くなる傾向にあります。

認定・該当状況別にみると、非該当者が25.5%と最も高くなっています。

図表 飲酒習慣－性・年齢階級別



図表 飲酒習慣－認定・該当状況別



(4) 飲酒

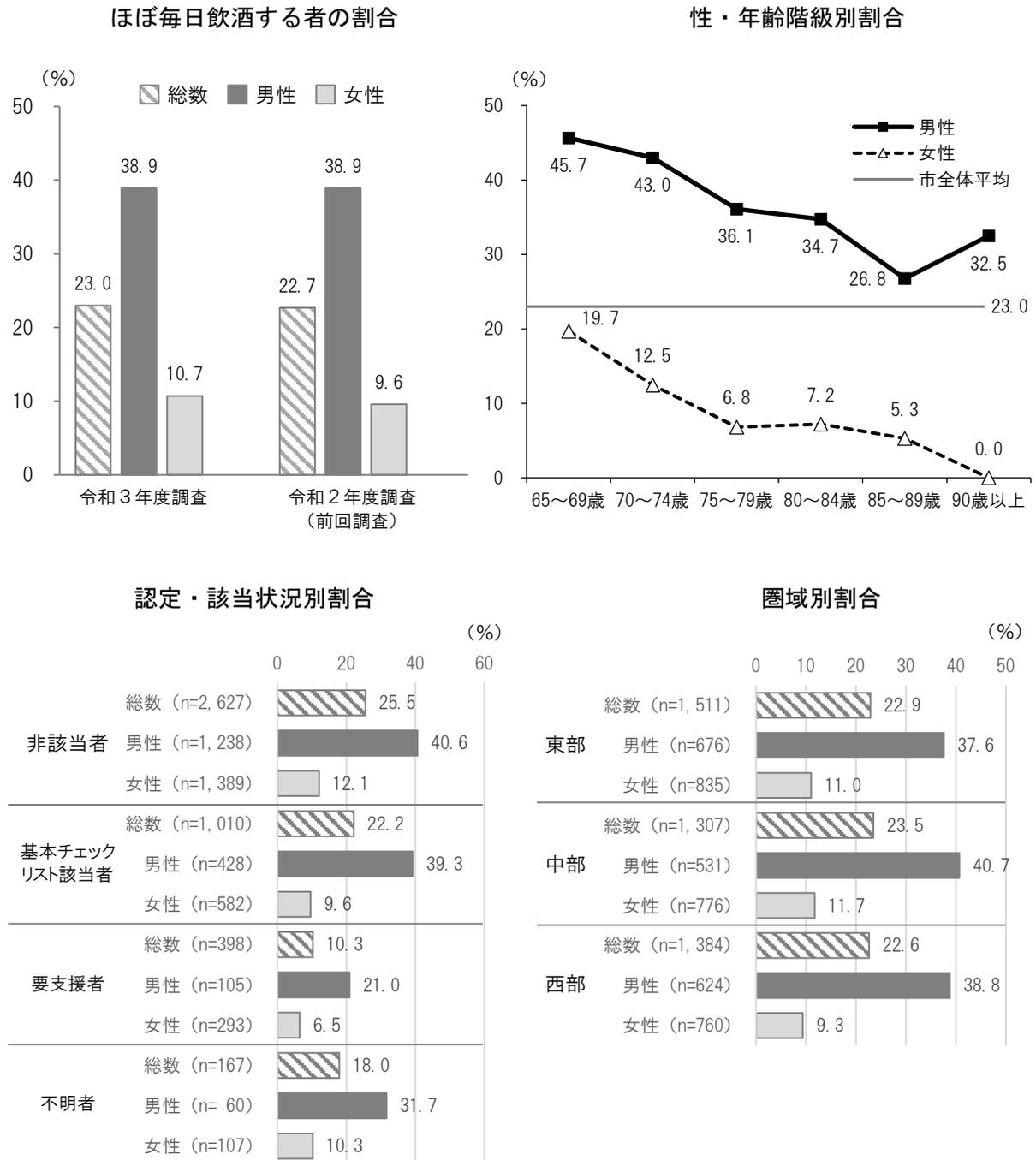
令和2年度調査（前回調査）と比較すると、全体で0.3ポイント高くなっています。

性・年齢階級別では、男性はすべての年齢階級で市全体平均を上回り、女性は全ての年齢階級で市全体平均を下回っています。

認定・該当状況別にみると、「ほぼ毎日飲む」は非該当者の男性で40.6%、基本チェックリスト該当者の男性で39.3%と4割近くになっています。

圏域別にみると、中部圏域の男性の割合が40.7%と高くなっています。

図表 飲酒習慣



6 健康・生活習慣

(5) 喫煙

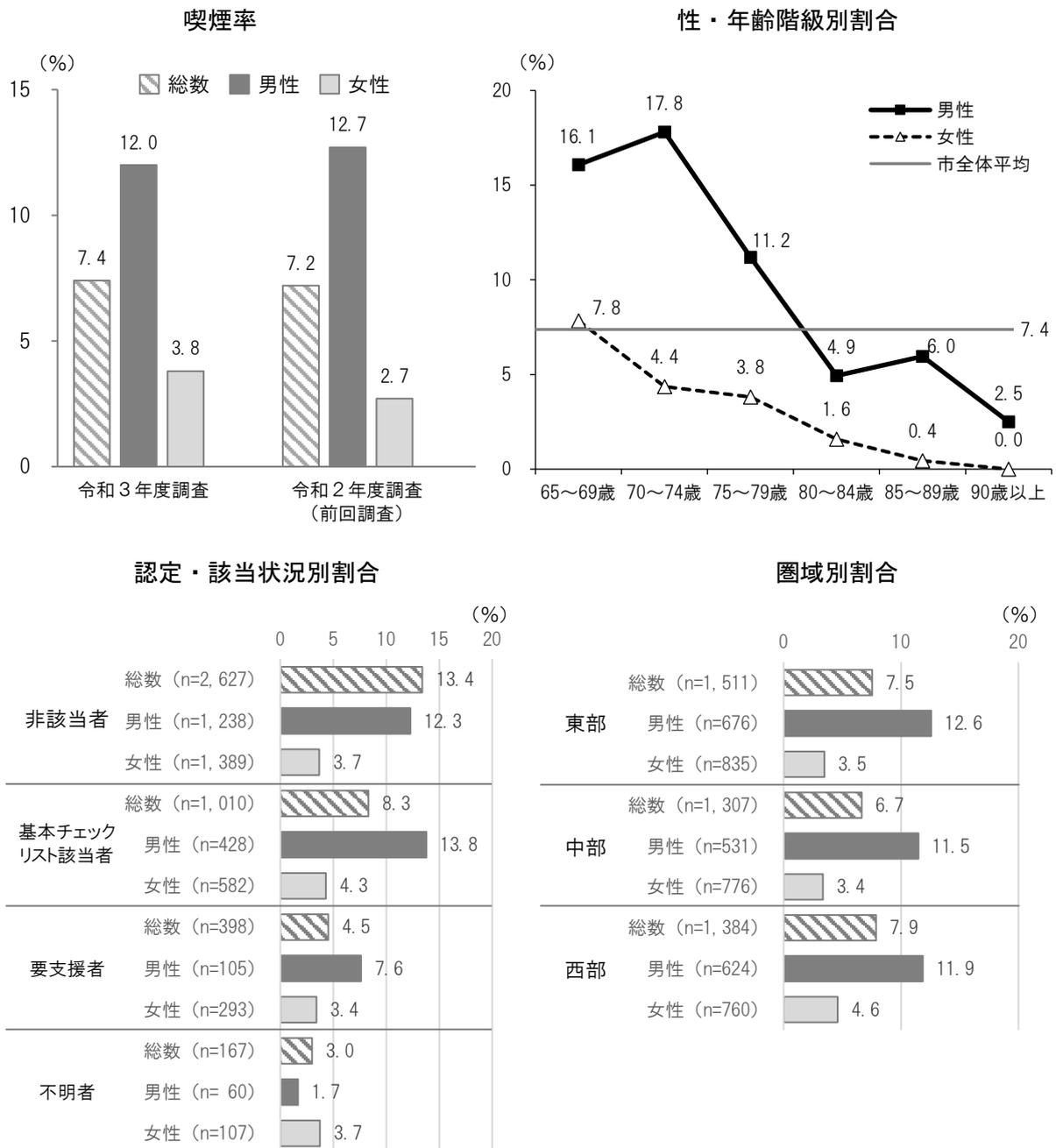
喫煙習慣についての質問（問6・Q11）では、「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」と回答した人を合わせた「吸っている」の割合（喫煙率）は、全体で7.4%：310人、男性12.0%：220人、女性3.8%：90人となっており、飲酒同様、性別による差が非常に大きくなっています。令和2年度調査（前回調査）と比較すると、全体で0.2ポイント高くなっています。

年齢階級別にみると、年齢が高いほど喫煙率は低くなる傾向となっています。

認定・該当状況別では、非該当者13.4%、基本チェックリスト該当者8.3%、要支援者4.5%と、非該当者の喫煙率が高くなっています。

圏域別にみると、東部圏域の男性で喫煙率が12.6%と高くなっています。

図表 喫煙習慣



(5) 喫煙

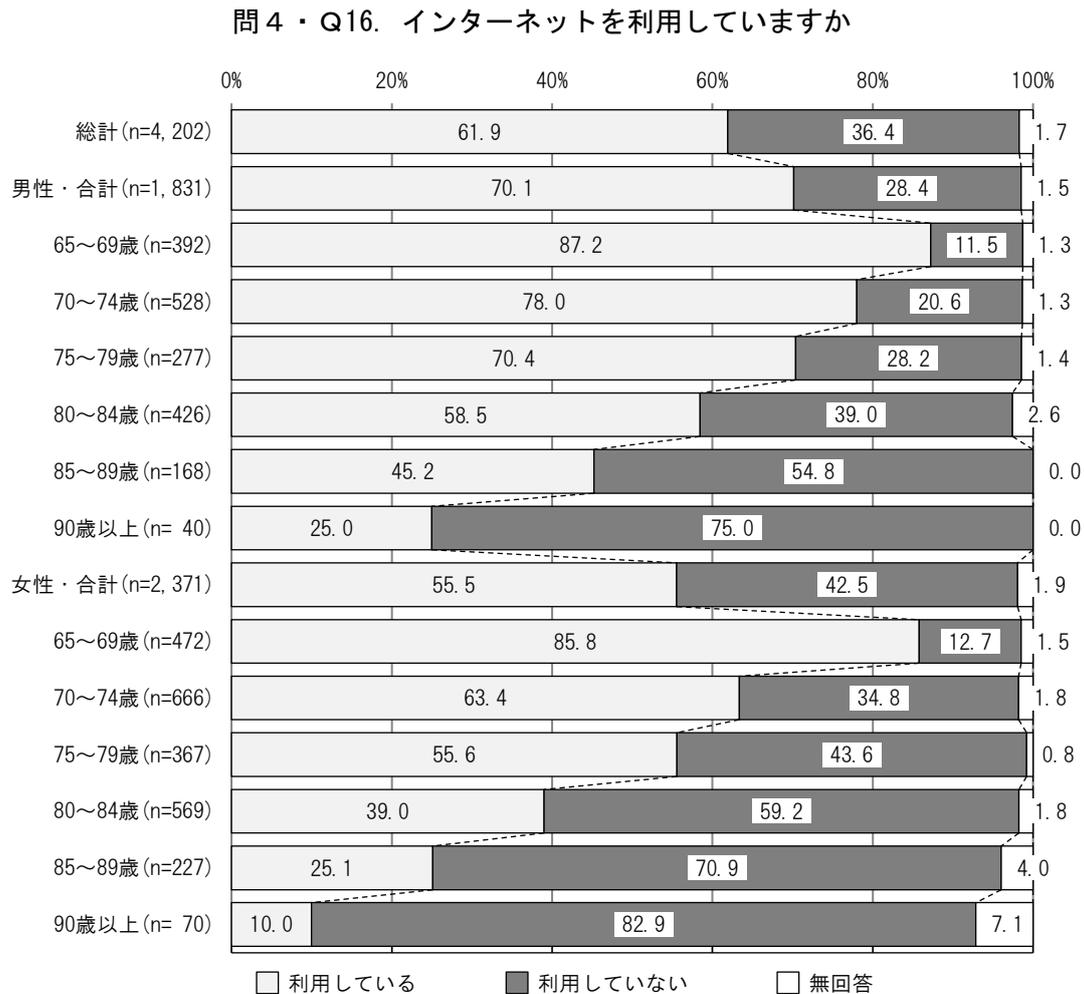
(6) インターネットの利用

インターネットの利用について、市全体で「利用している」の回答は61.9%、「利用していない」は36.4%となっています

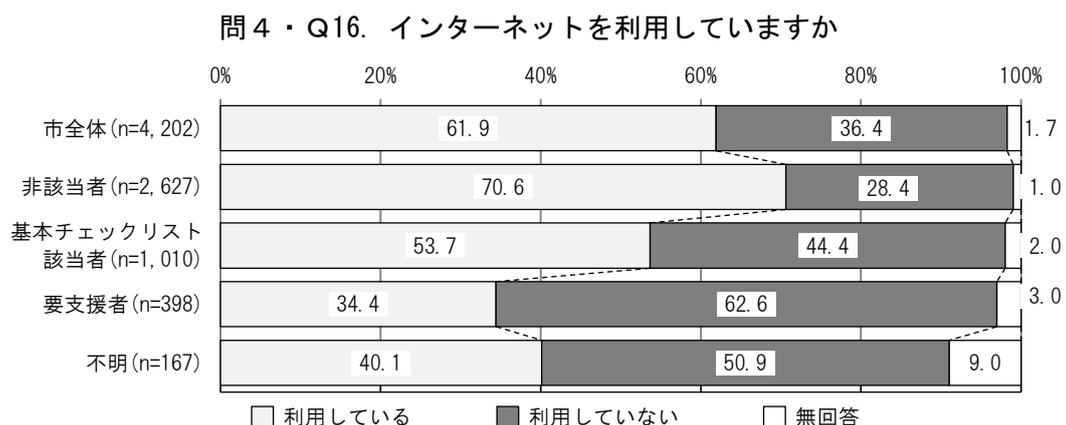
性・年齢階級別にみると、65～69歳では、男女とも8割以上がインターネットを利用していますが、年齢が高くなるにつれて利用率は低下しています。

認定・該当状況別にみると、要支援者はインターネットの利用率が低くなっています。

図表 インターネットの利用－性・年齢階級別



図表 インターネットの利用－認定・該当状況別



(6) インターネットの利用

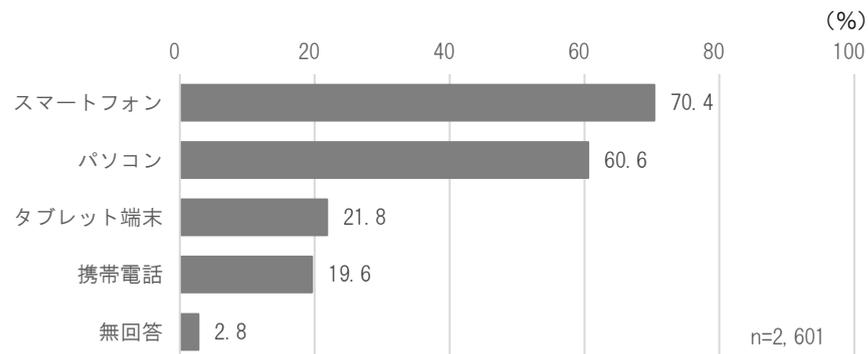
6 健康・生活習慣

インターネットを「利用している」と回答した人のうち、使用端末については、「スマートフォン」が70.4%と最も多く、次いで「パソコン」(60.6%)、「タブレット端末」(21.8%)、「携帯電話」(19.6%)となっています。

また、インターネットの利用目的としては、「SNS※」が91.2%と最も多く、次いで「メール」が82.8%、「検索(ニュースや情報・単語、地図、道案内など)」が82.5%などとなっています。

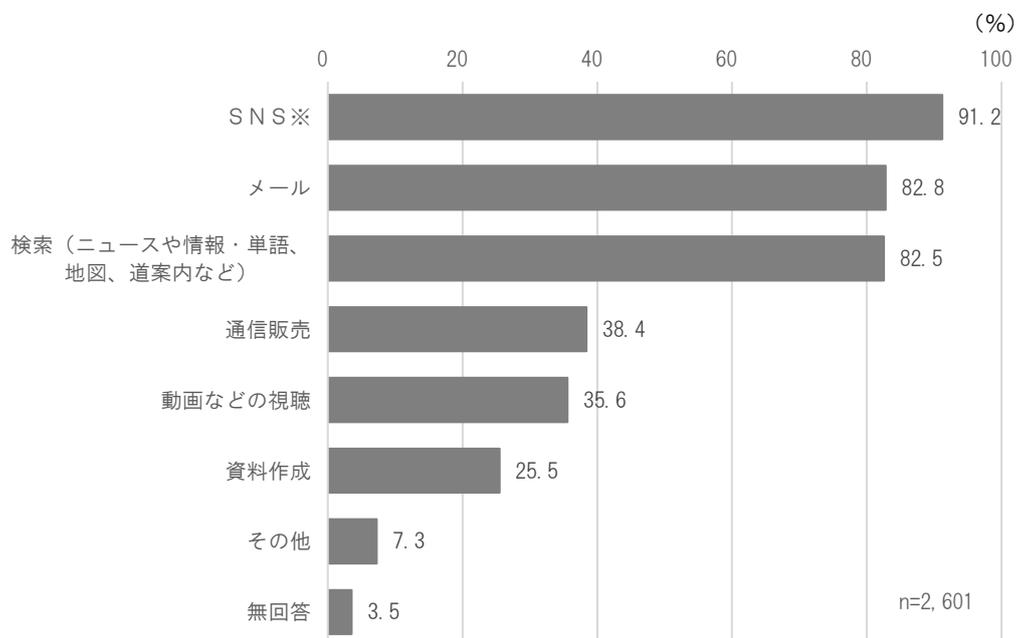
図表 インターネットの利用—使用端末

問4・Q16-1. 何を使用してインターネットを利用していますか(いくつでも)



図表 インターネットの利用—利用目的

問4・Q16-2. インターネットの利用目的は何ですか(いくつでも)



※調査票の選択肢ではLINE、Facebook、Instagram、Twitter、その他SNSと種類が別れており、本報告書ではその合計を「SNS」と表記

(7) 就労

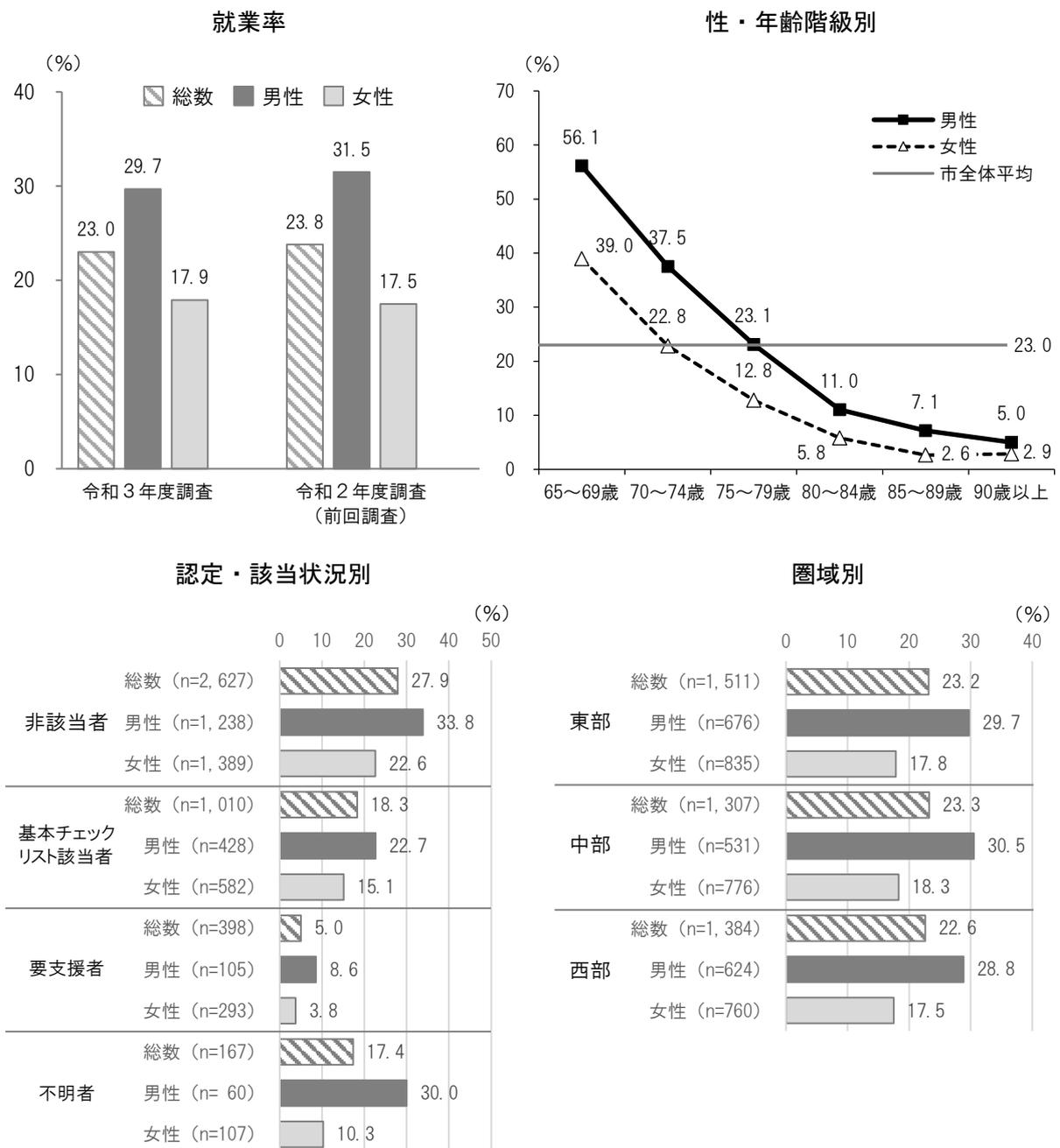
収入を伴う仕事の有無について、「収入のある仕事」(問5・Q1(8))を「週4回以上」～「年数回」と回答したのは、全体で23.0%：967人、男性29.7%：543人、女性17.9%：424人となっています。女性より男性で、収入のある仕事をしている割合が高くなっています。

性・年齢階級別にみると、65～69歳の男性で56.1%、女性で39.0%と最も高くなっていますが、年齢とともにその割合は低くなっています。

認定・該当状況別では、非該当者の27.9%、基本チェックリスト該当者の18.3%、要支援者の5.0%、不明者の17.4%が「収入のある仕事」をしていると回答しています。

圏域別にみると、中部圏域の男性が30.5%と高くなっています。

図表 就業率



7 介護の状況

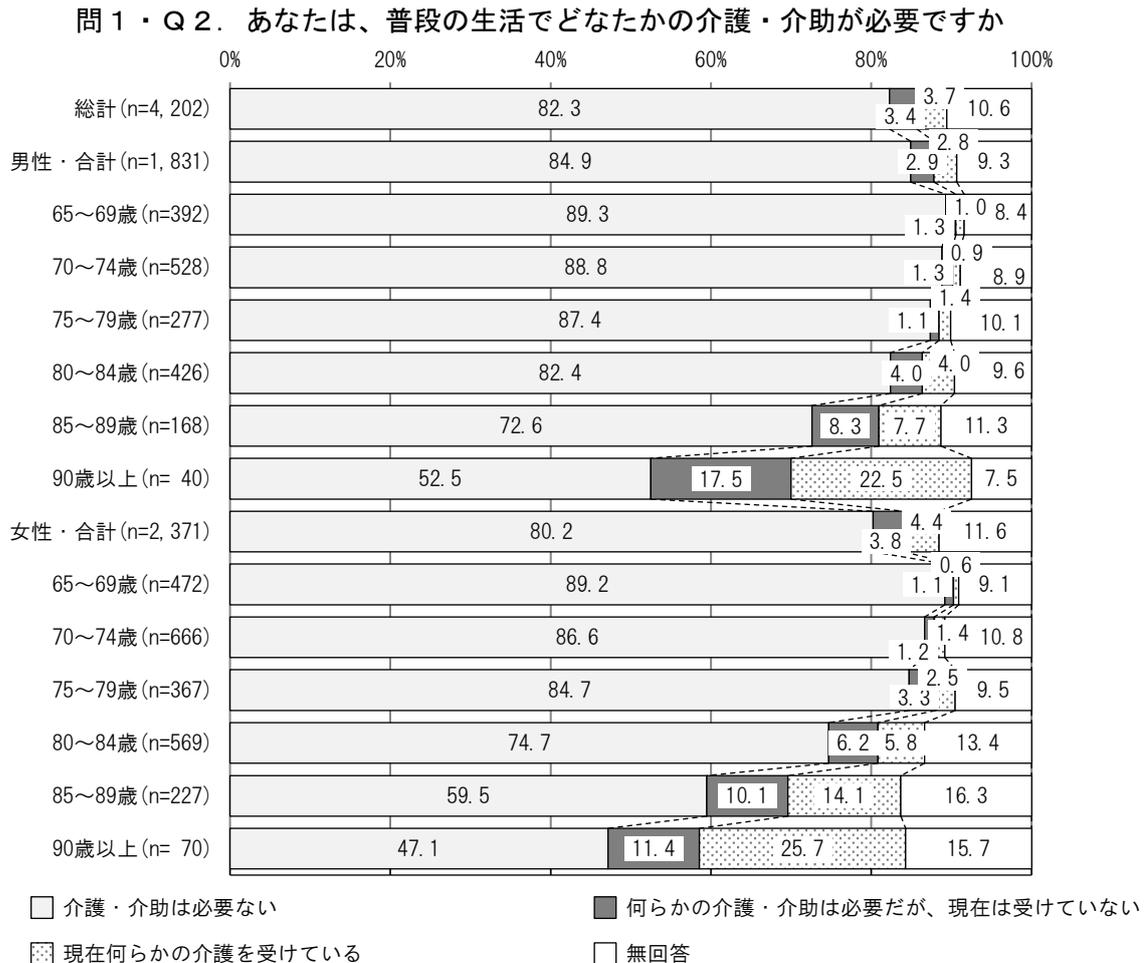
7 介護の状況

(1) 介護・介助の必要性

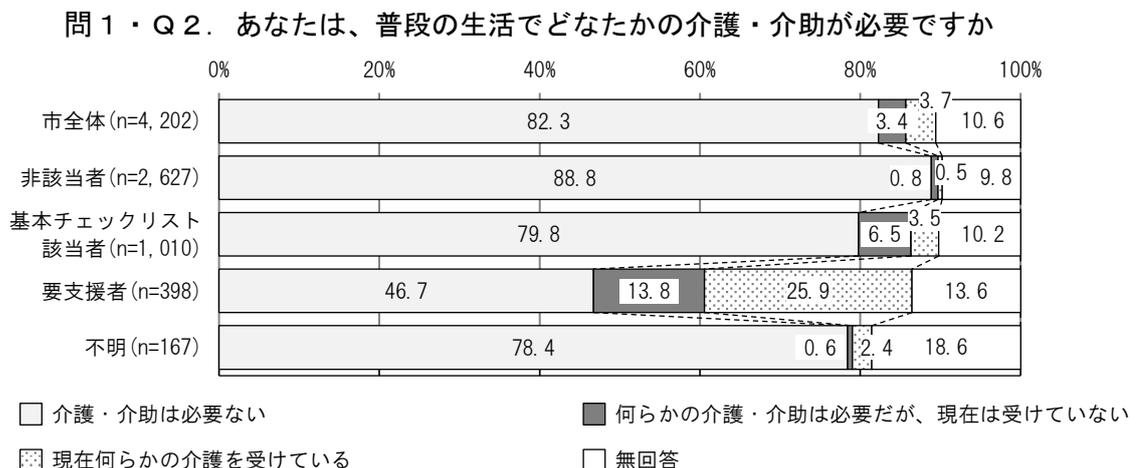
介護・介助（手助け）の必要性に関する設問（問1・Q2）に対する回答をみると、年齢が高いほど介護・介助を必要とする方の割合が高くなっています。

認定・該当状況別にみると、要支援者では「介護・介助は必要ない」が46.7%、「現在、何らかの介護を受けている」が25.9%、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が13.8%と回答しています。

図表 介護・介助の必要性－性・年齢階級別



図表 介護・介助の必要性－認定・該当状況別



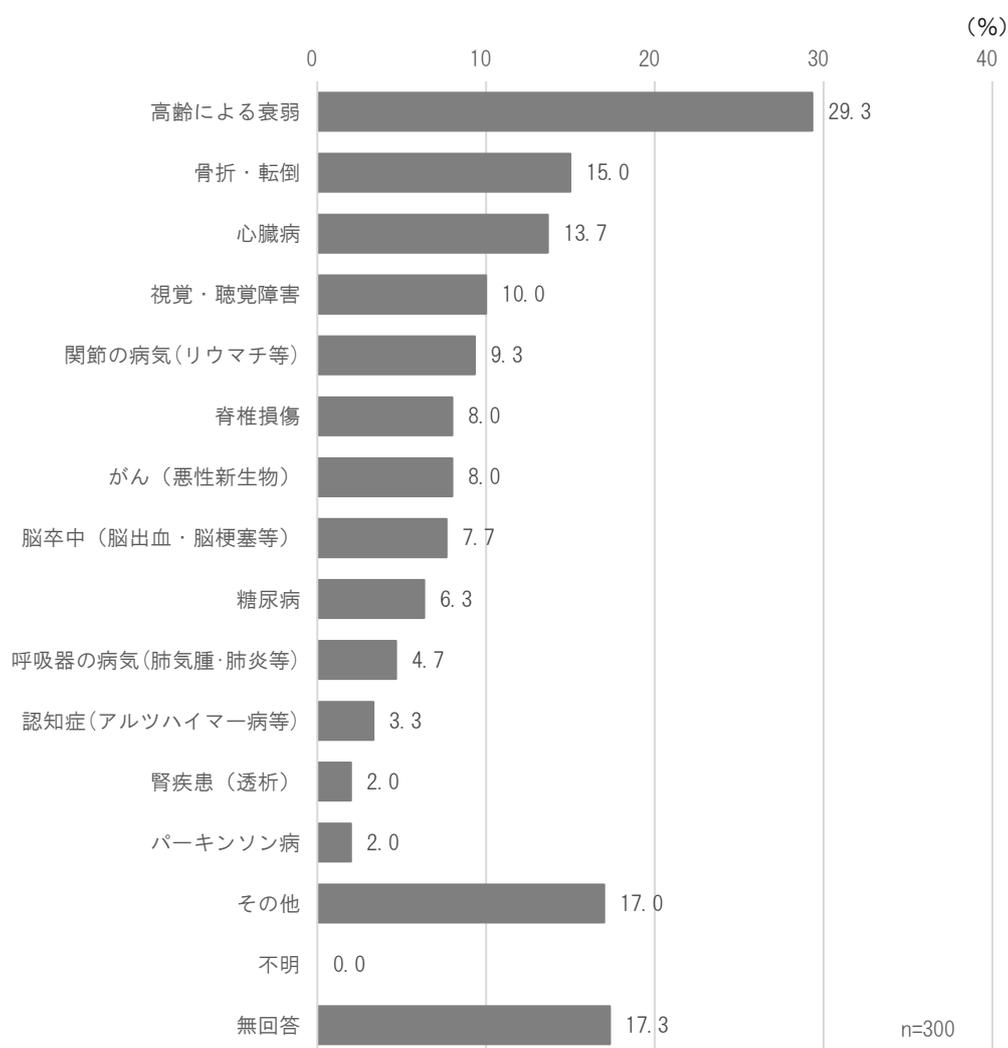
(1) 介護・介助の必要性

(2) 要介護・介助の原因

「介護・介助は必要」（「介護を受けている」を含む）と回答した方について、その主な原因をみると、「高齢による衰弱」が29.3%で最も多く、次いで「骨折・転倒」（15.0%）、「心臓病」（13.7%）、「視覚・聴覚障害」（10.0%）と続いています。

図表 介護・介助が必要になった原因

問1・Q2-1. 介護・介助が必要になった主な原因はなんですか（いくつでも）



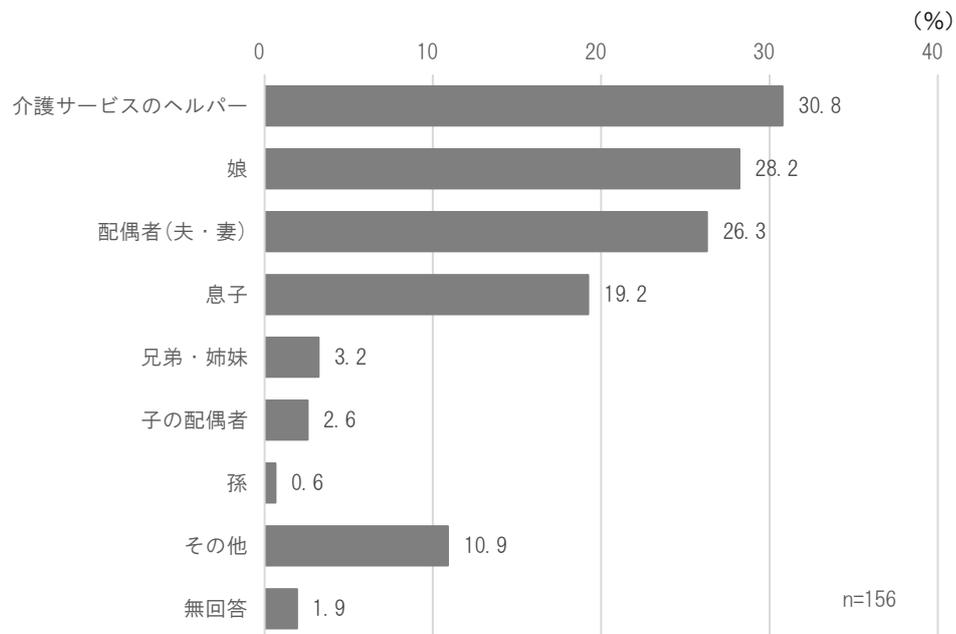
7 介護の状況

(3) 介護者

問1・Q2で「介護を受けている」と回答している方の介護者は、「介護サービスのヘルパー」が30.8%で最も多く、次いで「娘」(28.2%)、「配偶者(夫・妻)」(26.3%)、「息子」(19.2%)となっています。

図表 主な介護者

問1・Q2-2. 主にどなたの介護・介助を受けていますか(複数回答)



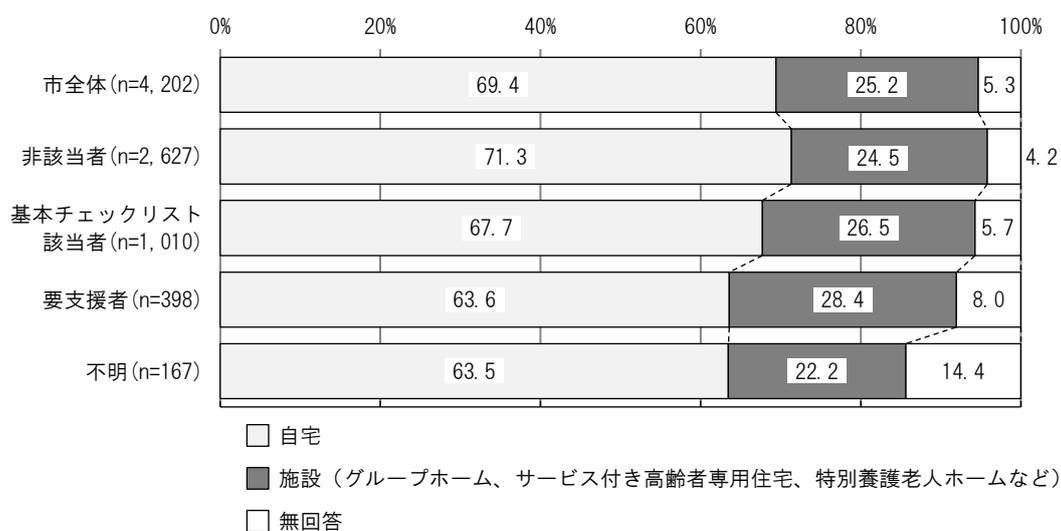
(4) 介護が必要な状態になった後の暮らし

介護が必要な状態になった場合にどこで暮らしたいかについては、「自宅」が69.4%と多く、「施設」は25.2%となっています。

自宅で暮らすにあたり、どのようなサービスを受けたいかについては、「介護保険のサービスを受けたい」が72.0%で最も多く、次いで「家族による介護を受けたい」(24.9%)、「民間事業者が提供する自費サービス」(4.8%)と続いています。

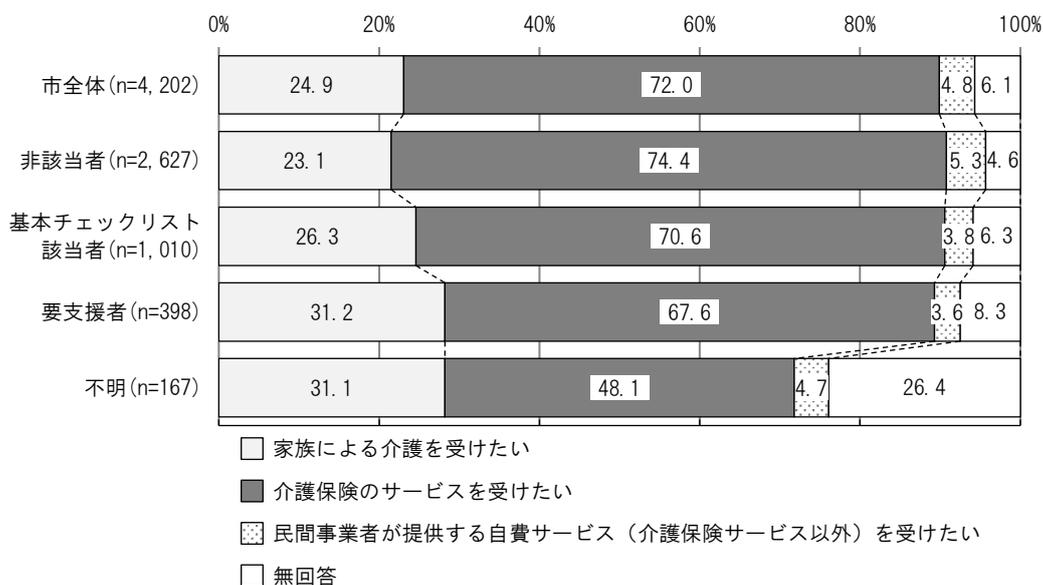
図表 暮らす場所

問1・Q5. 介護が必要な状態になったら（既に必要な状態の場合も含む）、自宅と施設のどちらで暮らしたいですか



図表 サービス（支援）

問1・Q5-1.（自宅で暮らしたい方のみ）自宅で暮らすにあたり、どのようなサービス（支援）を受けたいですか



(4) 介護が必要な状態になった後の暮らし

8 保健福祉サービス

8 保健福祉サービス

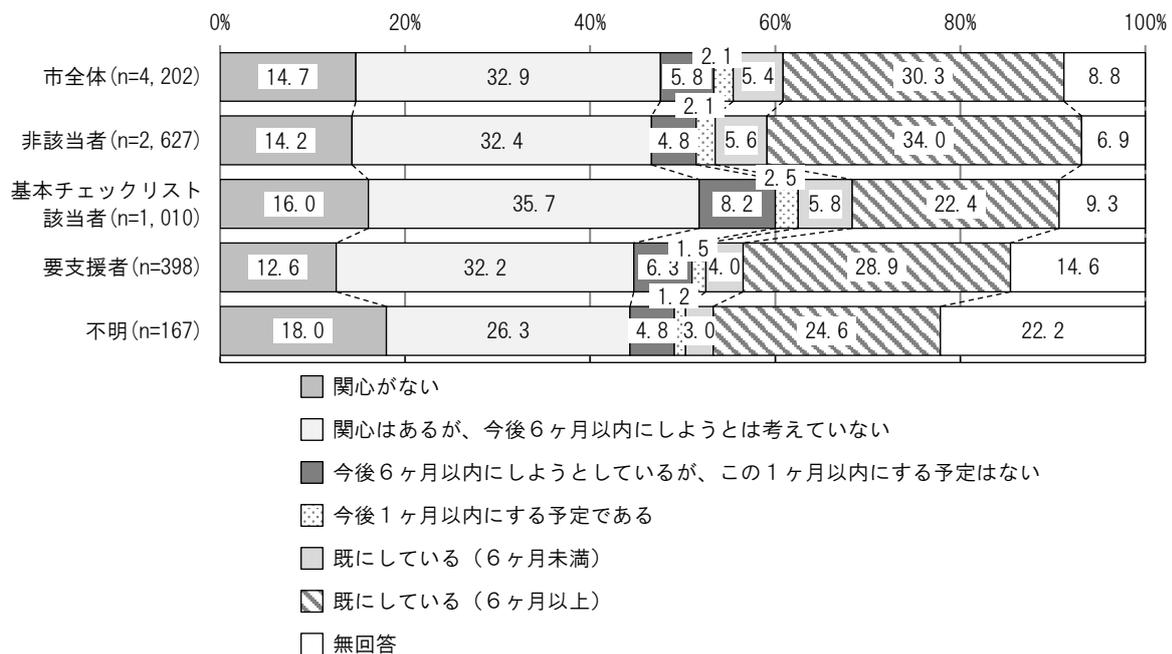
(1) 運動や栄養改善への関心度

介護予防事業への参加意向と関連する、運動・栄養改善への関心度についても質問しています。全体では、「関心はあるが、今後6ヶ月以内にしようとは考えていない」が32.9%「既にしてている（6ヶ月以上）」が30.3%、「関心がない」が14.7%と続いています。

基本チェックリスト該当者と非該当者を比較すると、「関心はあるが今後6ヶ月以内にしようとは考えていない」や「関心がない」といった消極的な回答の割合は、基本チェックリスト該当者で51.7%となっており、非該当者（46.6%）より高くなっています。

図表 運動・栄養改善への関心度

問8・Q1. あなたは、運動や栄養改善をすることにどのくらい関心がありますか

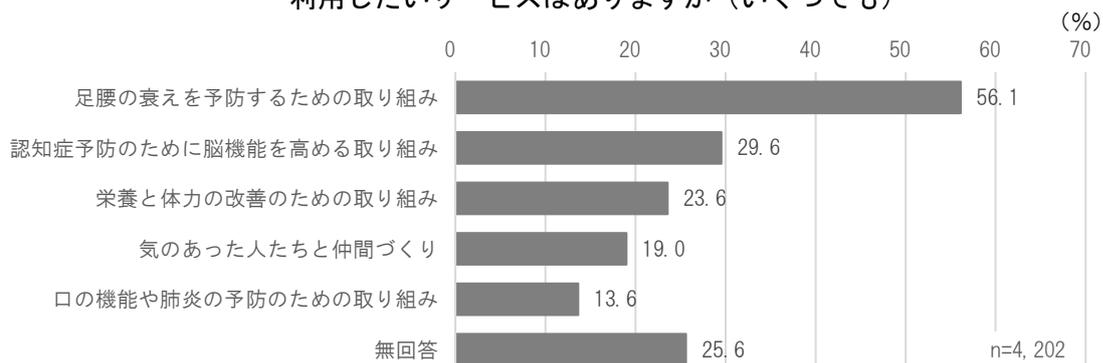


(2) 介護を必要とする状態にならないためのサービス

介護を必要とする状態にならないようにするために、利用したいサービスとしては、「足腰の衰えを予防するための取り組み」が56.1%と最も多く、次いで「認知症予防のために脳機能をも高める取り組み」(29.6%)、「栄養と体力の改善のための取り組み」(23.6%)、「気のあった人たちとの仲間づくり」(19.0%)などが続いています。

図表 介護状態にならないためのサービス

問8・Q2. 介護を必要とする状態にならないようにするために、利用したいサービスはありますか（いくつでも）



(1) 運動や栄養改善への関心度

(2) 介護を必要とする状態にならないためのサービス

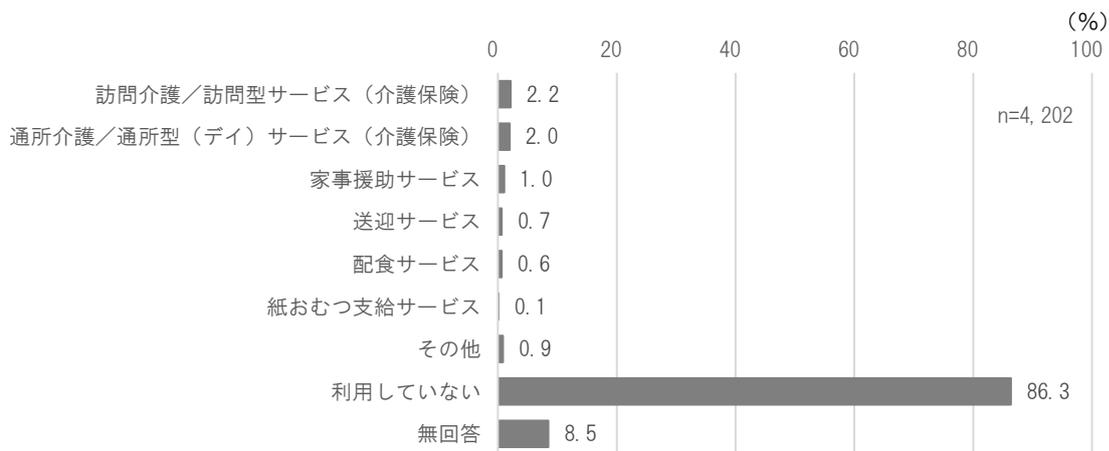
(3) 利用しているサービス

利用しているサービスは、「訪問介護／訪問型サービス（介護保険）」が2.2%で最も多く、次いで「通所介護／通所型（デイ）サービス（介護保険）」（2.0%）、などとなっています。「利用していない」は86.3%となっています。

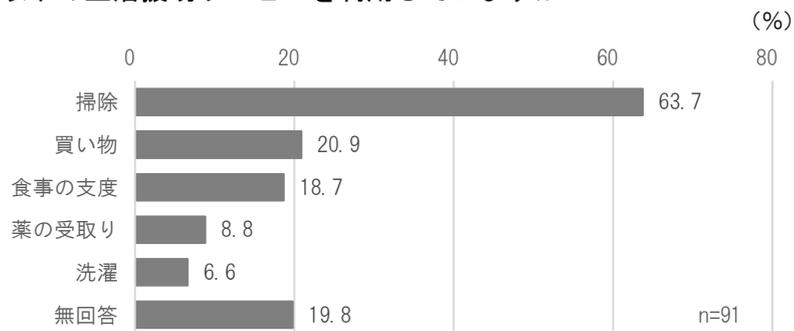
どの生活援助サービスを利用しているかについては、「掃除」が63.7%で最も多く、「買い物」が20.9%となっています。

図表 利用しているサービス

問8・Q3. 以下のサービスを利用していますか（いくつでも）



図表 生活援助サービスの利用状況

問8・Q3-1.（Q3で「訪問介護（介護保険）」と回答された方のみ）
以下の生活援助サービスを利用していますか

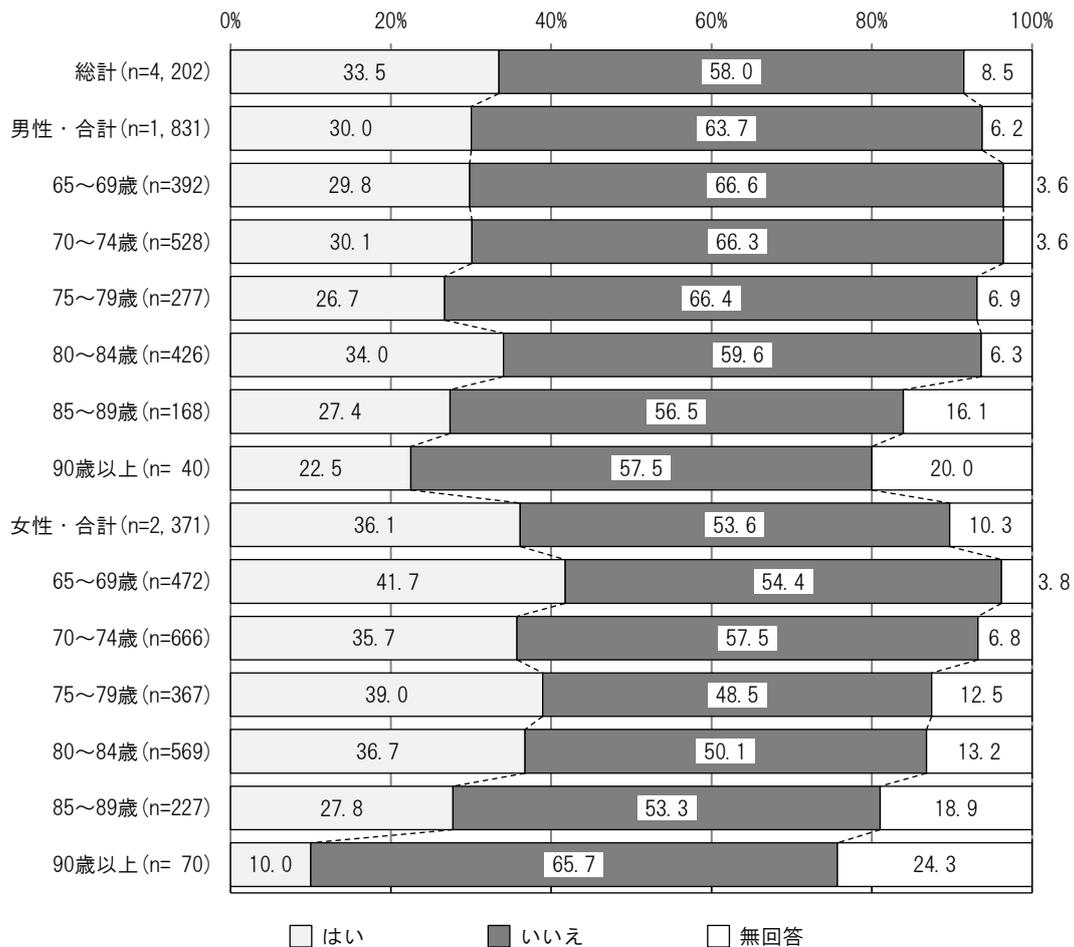
8 保健福祉サービス

(4) 介護予防教室への参加意向

逗子市で行う介護予防のための教室に参加したいかについては、「はい」(参加したい)が33.5%、「いいえ」が58.0%となっています。性別にみると、「はい」は90歳以上を除く全ての年齢階級で女性の方が高くなっています。

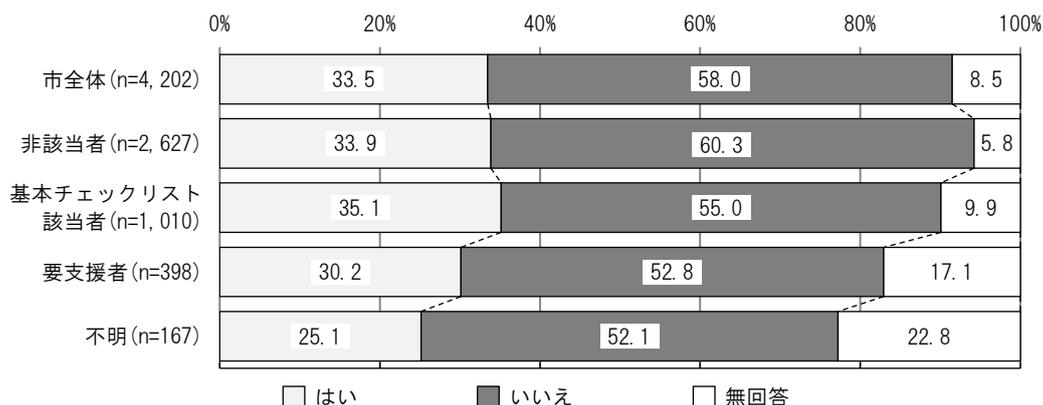
図表 介護予防教室への参加意向－性・年齢階級別

問8・Q4. この調査の結果、教室等への参加が望ましいとわかった場合、逗子市で行う次のような教室へ参加したいですか(介護予防機能向上トレーニング・シニアヘルスアップ運動教室)



図表 介護予防教室への参加意向－認定・該当状況別

問8・Q4. この調査の結果、教室等への参加が望ましいとわかった場合、逗子市で行う次のような教室へ参加したいですか(介護予防機能向上トレーニング・シニアヘルスアップ運動教室)



(4) 介護予防教室への参加意向

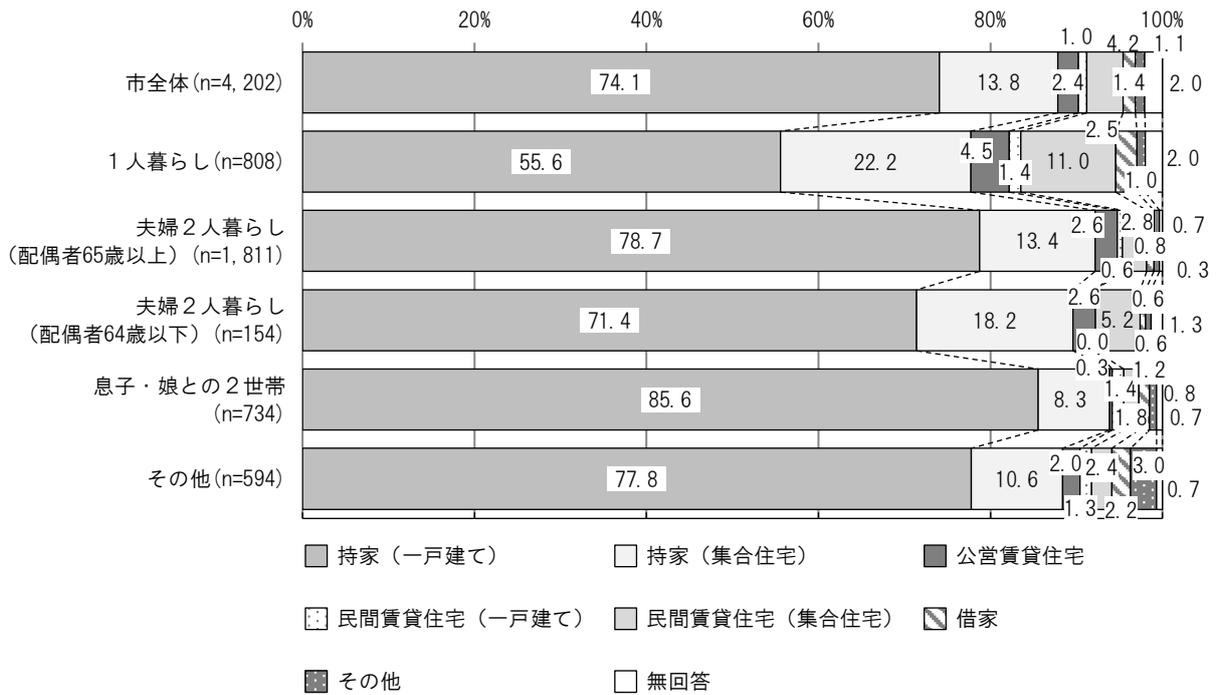
9 住宅・暮らし

(1) 住宅の所有関係

住宅の所有関係をみると、「持家（一戸建て）」が74.1%で最も多く、次いで「持家（集合住宅）」（13.8%）、「民間賃貸住宅（集合住宅）」（4.2%）の順となっています。

図表 住宅の所有関係

問1・Q4. お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらにあたりますか



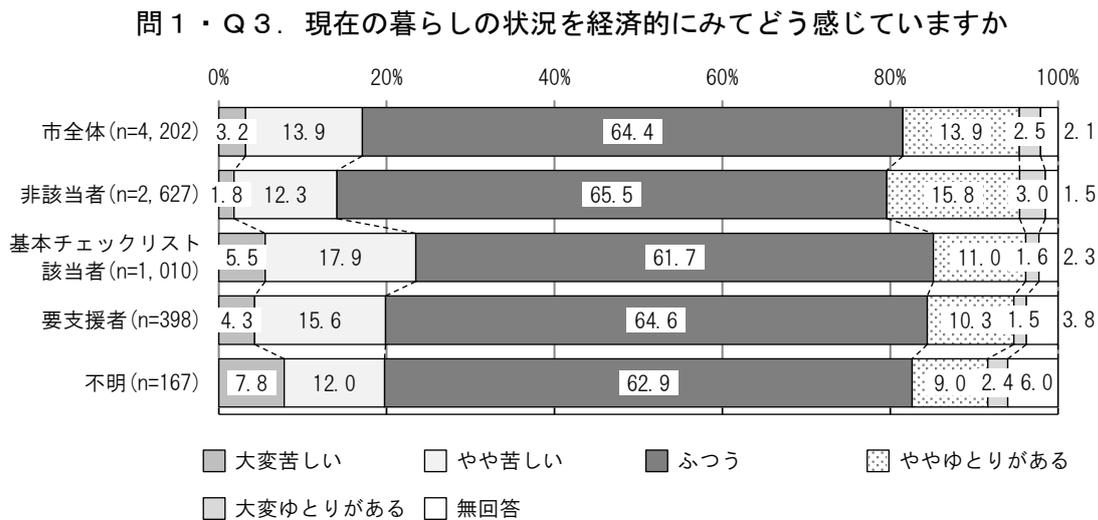
9 住宅・暮らし

(2) 現在の暮らしの状況

現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じているかについては、「ふつう」が64.4%で最も多く、次いで「やや苦しい」、「ややゆとりがある」(13.9%)、「大変苦しい」(3.2%)となっています。

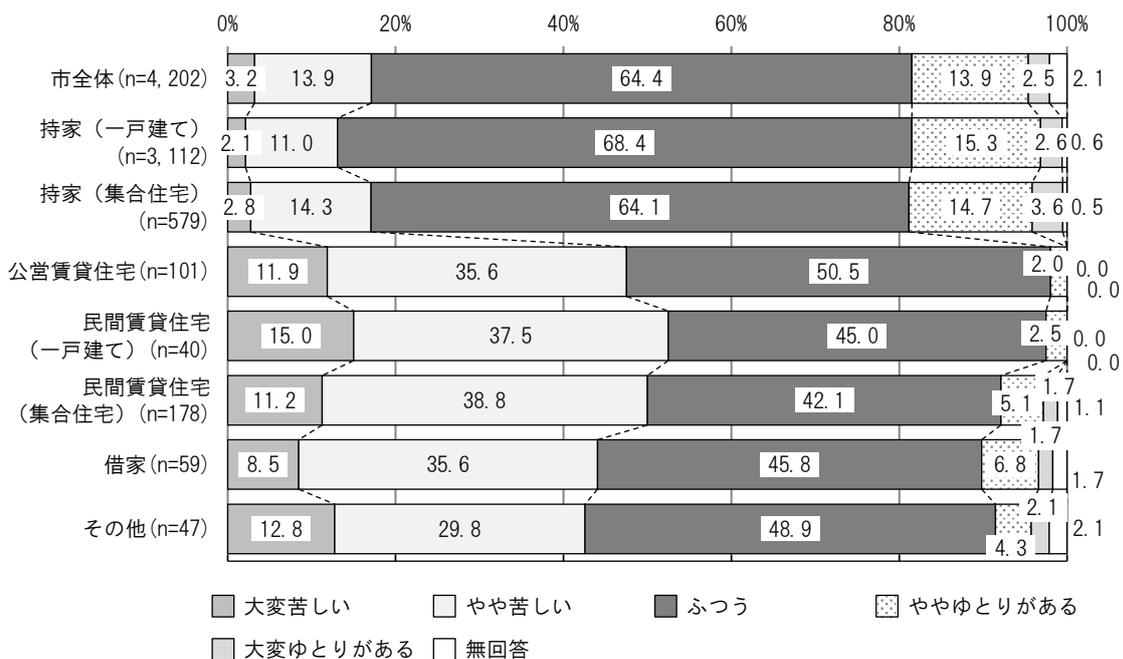
住宅の所有関係別にみると、持家と回答した者では「(大変・やや) 苦しい」との回答が2割以下となっている一方、公営賃貸住宅、民間賃貸住宅、借家と回答した者では4割以上と高くなっています。

図表 現在の暮らしの状況－認定・該当状況別



図表 現在の暮らしの状況－住宅所有関係別

問1・Q3. 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか（住宅所有関係別）

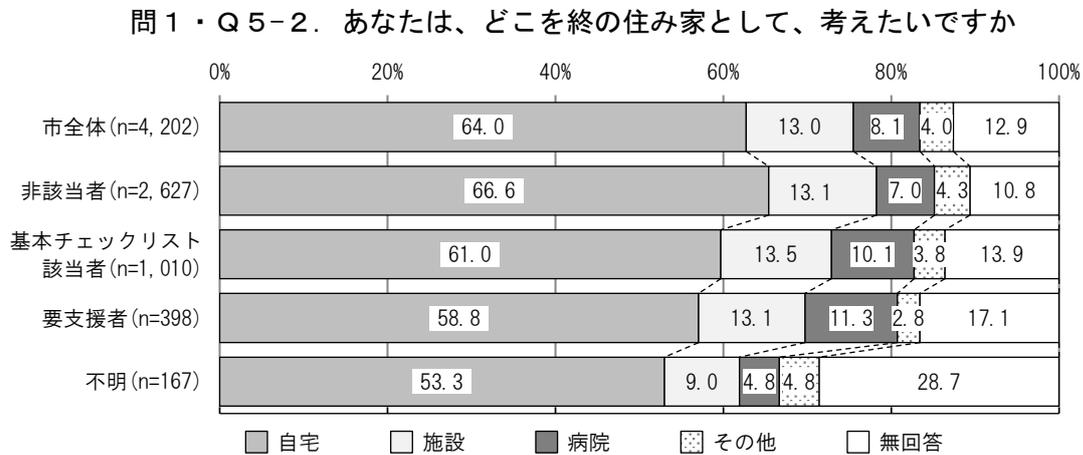


(2) 現在の暮らしの状況

(3) 終の住み家、エンディング

終の住み家として考えている場所については、「自宅」が64.0%で最も多く、次いで「施設」が13.0%、「病院」が8.1%となっています。

図表 終の住み家



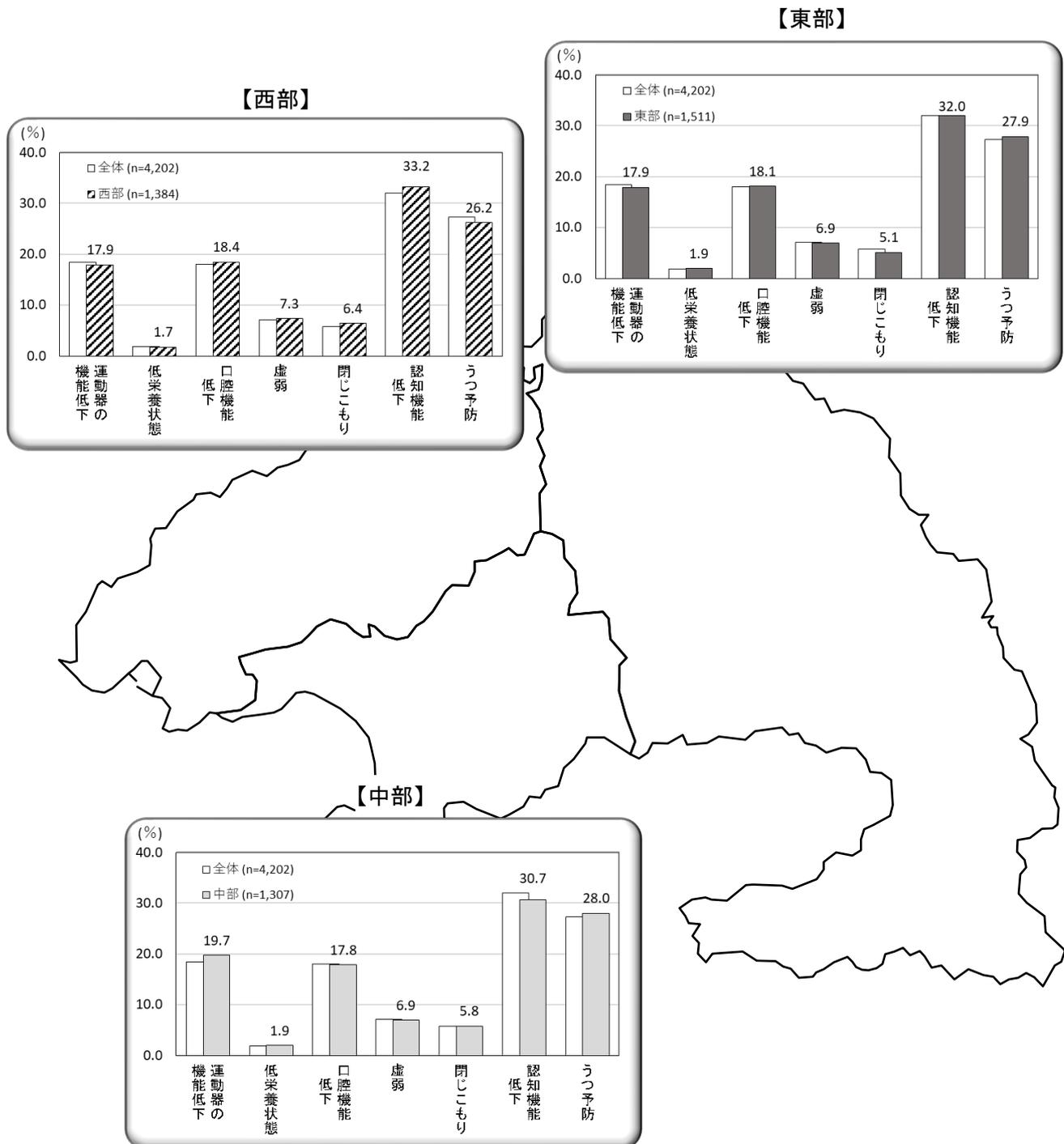
10 圏域別の概況

10 圏域別の概況

(1) 生活機能等リスク該当者

各圏域別に生活機能等リスク該当者状況についてまとめると、下図のとおりとなります。

図表 生活機能等リスク該当者（圏域別）

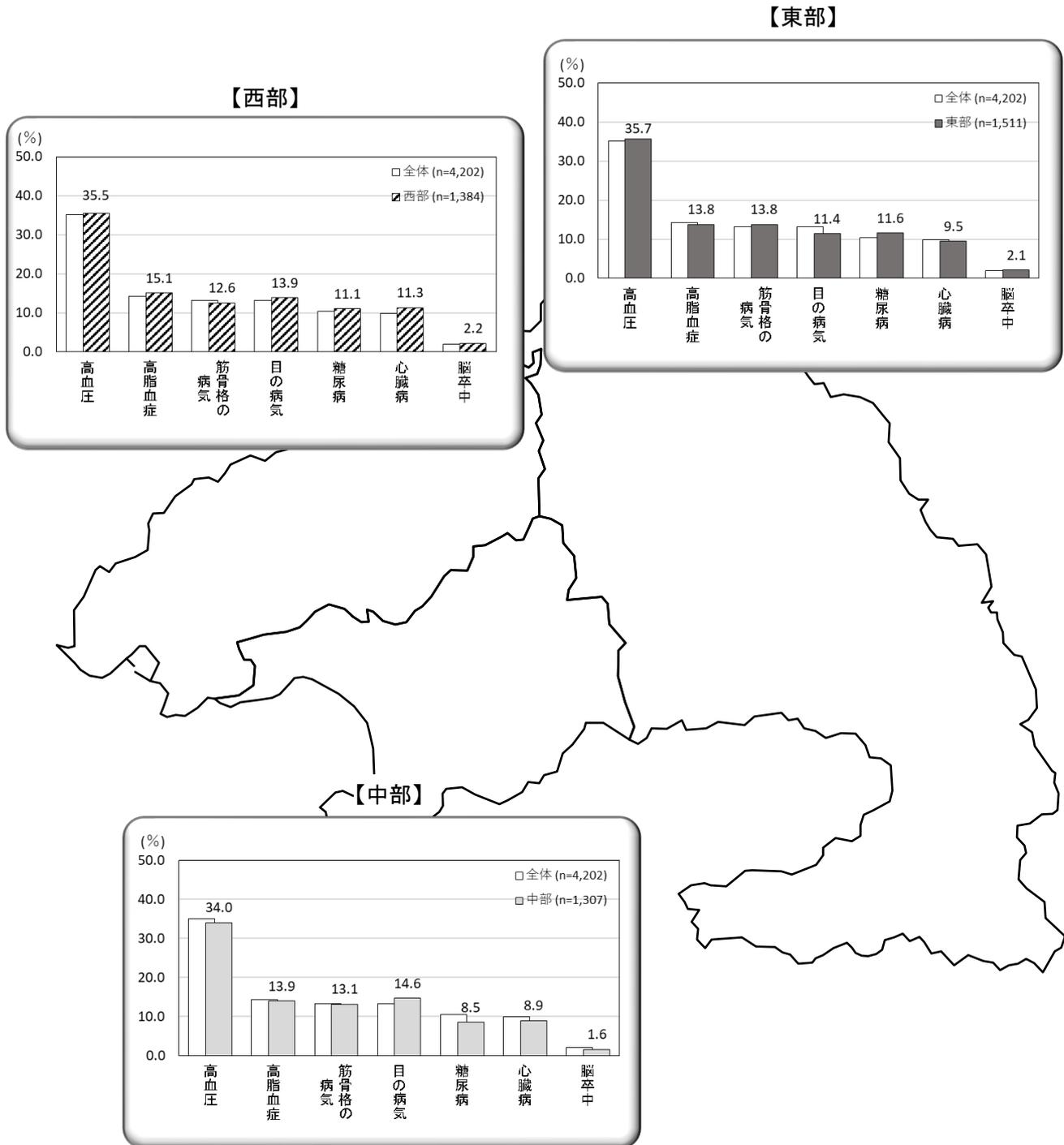


(1) 生活機能等リスク該当者

(2) 疾病

各圏域別に疾病の状況についてまとめると、下図のとおりとなります。

図表 有病率（圏域別）

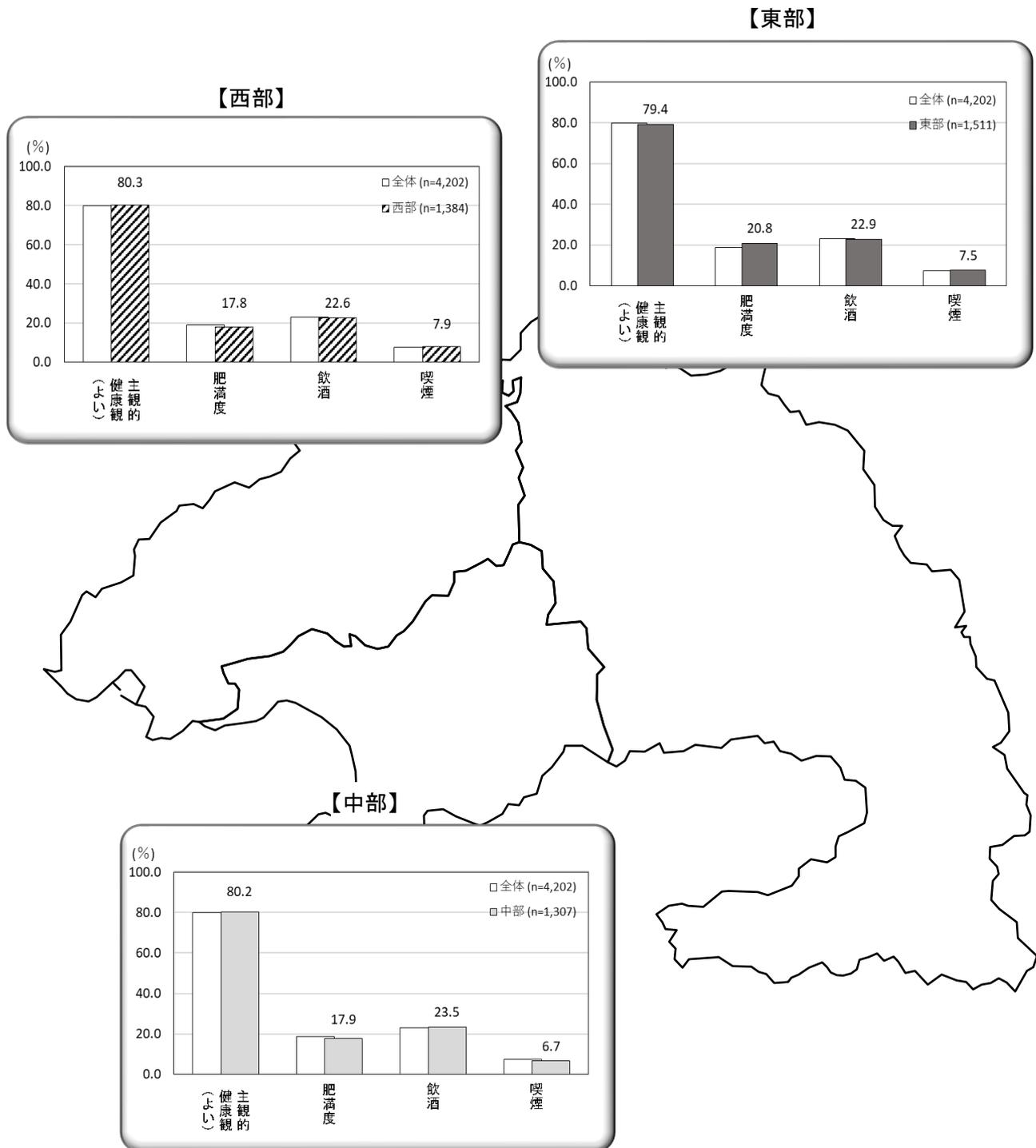


10 圏域別の概要

(3) 健康に関する事項

健康観及び健康に関する事項についての状況をまとめると、下図のとおりとなります。

図表 健康観及び健康に関する事項（圏域別）



(3) 健康に関する事項

参考資料（調査票）



介護予防・日常生活圏域二一ズ調査（健康寿命 100）

【調査票】

調査票を記入する際は、各項目で該当する数字に○を付けてください。

調査票記入後は、3つ折りにし同封の返信用封筒に入れて

9月15日(水)までに投函してください。

記 入 日	令和 3 年 月 日
<p>●調査票を記入されたのはどなたですか</p> <p>1. 宛名のご本人が記入 2. ご家族が記入(続柄_____) 3. その他()</p> <p>●ご回答のない質問があった場合、お電話でお聞きしてもよろしいですか</p> <p>1. はい 2. いいえ</p>	

※以下は**宛名のご本人の情報**を記入してください。

電 話 番 号	— —
年 齢 ・ 性 別	() 歳 男 ・ 女
生 年 月 日	大正 ・ 昭和 年 月 日

ご記入に際してのお願い

1. この調査の対象者は、令和3年6月1日現在、逗子市内にお住いの65歳以上の市民の方で3歳毎（65歳、68歳、71歳…）の年齢に該当し、要介護認定を受けていない方及び施設に入所していない方。（要支援認定を受けている方にはお送りしています。）
2. ご家族の方がご本人に代わって回答されたり、一緒に記入してもかまいません。
3. ご回答に当たっては質問をよくお読みいただき、該当する番号を○で囲み、数字を記入する欄は右詰め（例.

0	6	2
---	---	---

 kg ）でご記入ください。
4. 「あなたの～」と尋ねている質問項目がいくつかあります。
この場合「あなた」とは、宛名のご本人を指しますので、ご本人以外のご家族が回答された場合でも、宛名のご本人に関して回答してください。
5. 「～していますか」と尋ねている質問項目が多くあります。できる能力があっても、していない場合は「いいえ」と回答してください。
この質問は、ご本人の主観に基づき「している」、「していない」という「活動」や「参加」の状況をチェックすることを目的としており、「できる」「できない」という「能力」をチェックすることを目的としていません。
（例 問2・Q7 新聞を読んでいますか）
6. 調査票記入後は、3つ折りで同封の返信用封筒に入れてお送りください。
7. この調査についてのお問合せは以下までお願いいたします。

【お問い合わせ先】

調査票の記入方法など	0120-947-346	コールセンター ※委託先: アシスト(株)
調査全般（目的など）	046-873-1111（内線213）	逗子市福祉部社会福祉課地域共生係

【個人情報の取扱いについて】

個人情報の保護及び使用目的は、次のとおりですので、ご確認ください。なお、本調査票のご返送をもちまして、下記にご同意いただいたものとみなさせていただきます。

■個人情報の保護及び使用目的について

- ・ この調査は、効果的な介護予防政策の立案と効果評価のために行うものです。本調査で得られた情報につきましては、保健事業及び介護予防事業等の企画や運営、逗子市高齢者保健福祉計画策定・効果評価、地域包括支援センターによる支援活動に利用させていただきます（アンケート結果に応じて地域包括支援センターから連絡が入ることがあります）。

逗子市福祉部

Q5-1. (1.自宅で暮らしたい方のみ) 自宅で暮らすにあたり、どのようなサービス(支援)を受けたいですか

1. 家族による介護を受けたい
2. 介護保険のサービスを受けたい
3. 民間事業者が提供する自費サービス(介護保険サービス以外)を受けたい

Q5-2. あなたは、どこを終の住み家として、考えたいですか

1. 自宅
2. 施設
3. 病院
4. その他 ()

問2 からだを動かすことについて

Q1. 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか

1. できるし、している
2. できるけどしていない
3. できない

Q2. 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか

1. できるし、している
2. できるけどしていない
3. できない

Q3. 15分位続けて歩いていますか

1. できるし、している
2. できるけどしていない
3. できない

Q4. 過去1年間に転んだ経験がありますか

1. 何度もある
2. 1度ある
3. ない

Q5. 転倒に対する不安は大きいですか

1. とても不安である
2. やや不安である
3. あまり不安でない
4. 不安でない

Q6. 週に1回以上は外出していますか

1. ほとんど外出しない
2. 週1回
3. 週2~4回
4. 週5回以上

Q7. 昨年と比べて外出の回数が減っていますか

1. とても減っている
2. 減っている
3. あまり減っていない
4. 減っていない

Q8. 外出を控えていますか

1. はい
2. いいえ→ Q9へ

Q8-1. (外出を控えている方のみ) 外出を控えている理由は、次のどれですか(いくつでも)

1. 病気
2. 障害(脳卒中の後遺症など)
3. 足腰などの痛み
4. トイレの心配(失禁など)
5. 耳の障害(聴こえの問題など)
6. 目の障害
7. 外での楽しみがない
8. 経済的に出られない
9. 交通手段がない
10. 家の周辺に坂がある
11. 車の交通量が多い
12. その他 ()

問4 毎日の生活について

Q1. あなたの「聞こえ」として、当てはまる内容をご回答ください。（複数回答可）

（補聴器を使用されている方は、使用した状態についてご回答ください。）

1. テレビやラジオの音が大きいと言われることがある
2. 普段の会話の音が聞き取りづらい（人の話し声が小さいように感じる）
3. 電話の音が聞き取りにくいことがある
4. 大きな声で話をされても聞き取れないことがある
5. 1～4にあてはまる状態（「聞こえ」に困っていること）は無い→ Q2へ

1～4を
選んだ方は
Q1-1へ

【Q1の回答に1～4のいずれかを選んだ方へお尋ねします】 ←

Q1-1. 補聴器を使ってみたいと思いますか

- | | |
|------------|--------------------|
| 1. 思わない | 2. 使ってみたいが、使う予定はない |
| 3. 使う予定がある | 4. 普段、補聴器を使用している |

【Q1-1において、「1. 思わない」「2. 使ってみたいが、使う予定はない」を選んだ方】

Q1-2. 選択肢を選んだ理由は次のどれですか

- | | |
|-------------|----------------|
| 1. 必要性を感じない | 2. 経済的理由 |
| 3. 見た目が良くない | 4. 使ってみたら不便だった |

Q2. 物忘れが多いと感じますか

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

Q3. 周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあるとされますか

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

Q4. 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

Q5. 今日が何月何日かわからないときがありますか

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

Q6. バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）

- | | | |
|--------------|---------------|---------|
| 1. できるし、している | 2. できるけどしていない | 3. できない |
|--------------|---------------|---------|

Q7. 車の運転をしていますか

- | | | |
|---------|-----------------|------------------|
| 1. している | 2. 免許証はあるがしていない | 3. 免許証がない（返納を含む） |
|---------|-----------------|------------------|

Q8. 自分で食品・日用品の買物をしていますか

- | | | |
|--------------|---------------|---------|
| 1. できるし、している | 2. できるけどしていない | 3. できない |
|--------------|---------------|---------|

Q9. 自分で食事の用意をしていますか

- | | | |
|--------------|---------------|---------|
| 1. できるし、している | 2. できるけどしていない | 3. できない |
|--------------|---------------|---------|

Q10. 自分で請求書の支払いをしていますか
1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
Q11. 自分で預貯金の出し入れをしていますか
1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
Q12. 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか
1. はい 2. いいえ
Q13. 新聞を読んでいますか
1. はい 2. いいえ
Q14. 本や雑誌を読んでいますか
1. はい 2. いいえ
Q15. 健康についての記事や番組に関心がありますか
1. はい 2. いいえ
Q16. インターネットを利用していますか
1. 利用している 2. 利用していない → Q17へ
Q16-1. (インターネットを利用している方のみ) 何を使用してインターネットを利用していますか (いくつでも)
1. パソコン 2. タブレット端末 3. 携帯電話 4. スマートフォン
Q16-2. (インターネットを利用している方のみ) インターネットの利用目的は何ですか (いくつでも)
1. メール 2. LINE 3. Facebook 4. Instagram
5. Twitter 6. その他SNS () 7. 動画などの視聴
8. 通信販売 9. 検索 (ニュースや情報・単語、地図、道案内など)
10. 資料作成 11. その他 ()
Q17. 友人の家を訪ねていますか
1. はい 2. いいえ
Q18. 家族や友人の相談にのっていますか
1. はい 2. いいえ
Q19. 病人を見舞うことができますか
1. はい 2. いいえ
Q20. 若い人に自分から話しかけることがありますか
1. はい 2. いいえ

Q21. 趣味はありますか

1. 趣味あり 【具体的に】 ()

2. 思いつかない

Q22. 生きがいがありますか

1. 生きがいあり 【具体的に】 ()

2. 思いつかない

問5 地域での活動について

Q1. 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか

	週4回以上	週2~3回	週1回	月1~3回	年に数回	参加していない
(1) ボランティアのグループ	1	2	3	4	5	6
(2) スポーツ関係のグループやクラブ	1	2	3	4	5	6
(3) 趣味関係のグループ	1	2	3	4	5	6
(4) 学習・教養サークル	1	2	3	4	5	6
(5) 介護予防のための通いの場（サロンなど）	1	2	3	4	5	6
(6) 老人クラブ	1	2	3	4	5	6
(7) 町内会・自治会	1	2	3	4	5	6
(8) 収入のある仕事	1	2	3	4	5	6

Q2. 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか

1. 是非参加したい 2. 参加してもよい 3. 参加したくない

4. 既に参加している

Q3. 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか

1. 是非参加したい 2. 参加してもよい 3. 参加したくない

4. 既に参加している

Q4. あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします。
あてはまるすべてに○をしてください。あてはまる人がいない場合は「8. そのような人はいない」に○をつけてください。

(1) あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人(いくつでも)

1. 配偶者 2. 同居の子ども 3. 別居の子ども 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 5. 近隣
6. 友人 7. その他() 8. そのような人はいない

(2) 反対に、あなたが心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人(いくつでも)

1. 配偶者 2. 同居の子ども 3. 別居の子ども 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 5. 近隣
6. 友人 7. その他() 8. そのような人はいない

(3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人(いくつでも)

1. 配偶者 2. 同居の子ども 3. 別居の子ども 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 5. 近隣
6. 友人 7. その他() 8. そのような人はいない

(4) 反対に、看病や世話をしてあげる人(いくつでも)

1. 配偶者 2. 同居の子ども 3. 別居の子ども 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 5. 近隣
6. 友人 7. その他() 8. そのような人はいない

Q5. 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください(いくつでも)

1. 自治会・町内会・老人クラブ 2. 社会福祉協議会・民生委員 3. ケアマネジャー
4. 医師・歯科医師・看護師 5. 地域包括支援センター・市役所・役場 6. その他
7. そのような人はいない

Q6. 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか

1. 毎日ある 2. 週に何度かある 3. 月に何度かある
4. 年に何度かある 5. ほとんどない

Q7. この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか
(同じ人には何度会っても1人と数えることとします)

1. 0人(いない) 2. 1~2人 3. 3~5人 4. 6~9人 5. 10人以上

Q8. よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか(いくつでも)

1. 近所・同じ地域の人 2. 幼なじみ 3. 学生時代の友人 4. 仕事での同僚・元同僚
5. 趣味や関心が同じ友人 6. ボランティア等の活動での友人 7. その他 8. いない

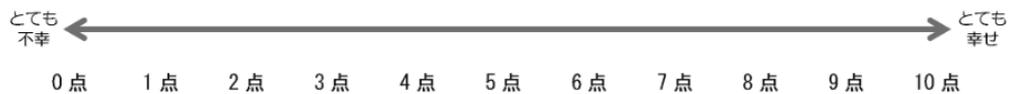
問6 健康について

Q1. 現在のあなたの健康状態はいかがですか

1. とてもよい 2. まあよい 3. あまりよくない 4. よくない

Q2. あなたは、現在どの程度幸せですか

(「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、点数を○で囲んでください)



Q3. この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか

1. はい 2. いいえ

Q4. この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか

1. はい 2. いいえ

Q5. (ここ2週間) 毎日の生活に充実感がない

1. はい 2. いいえ

Q6. (ここ2週間) これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった

1. はい 2. いいえ

Q7. (ここ2週間) 以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる

1. はい 2. いいえ

Q8. (ここ2週間) 自分が役に立つ人間だと思えない

1. はい 2. いいえ

Q9. (ここ2週間) わけもなく疲れたような感じがする

1. はい 2. いいえ

Q10. お酒は飲みますか

1. ほぼ毎日飲む 2. 時々飲む 3. ほとんど飲まない 4. もともと飲まない

Q11. タバコは吸っていますか

1. ほぼ毎日吸っている 2. 時々吸っている 3. 吸っていたがやめた
4. もともと吸っていない

Q12. 現在、病院や診療所に通院していますか

1. はい 2. いいえ → **Q13へ**

Q12-1. (通院している方のみ) 現在、医師の処方した薬を何種類飲んでありますか

1. 1種類 2. 2種類 3. 3種類
4. 4種類 5. 5種類以上 6. 飲んでいない

**令和3年度 日常生活圏域ニーズ調査
結果報告書**

逗子市 福祉部 社会福祉課 地域共生係 発行 令和4年2月

〒249-8686 神奈川県逗子市逗子5丁目2番16号

電話 : 046-873-1111 (内線 213) F A X : 046-873-4520